

平成17年度（第49回）
岩手県教育研究発表会発表資料

現代的教育課題

少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究

（第2年次）

共同研究校

花巻市立桜台小学校 花巻市立若葉小学校
花巻市立花巻北中学校

研究協力員

盛岡市立仙北小学校 教諭 遠藤 耕生
花巻市立若葉小学校 教諭 齊藤 ちかる
一関市立千厩中学校 教諭 青柳 清隆

平成18年1月13日
岩手県立総合教育センター
プロジェクト研究班
小原 昭徳
大倉 徹子
阿部 真由子
三浦 隆

目 次

研究目的	1
研究の全体構想	1
1 指導形態、指導方法の工夫改善による教育効果に関する研究	1
2 少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する調査研究	1
本年度の研究の内容と方法	1
1 研究の目標	1
2 研究の内容と方法	2
3 共同研究校	2
少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の工夫・留意点	2
1 今年度、授業実践を行う教科とその理由	2
2 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の工夫・留意点	3
算数 / 数学科における少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案の作成と授業実践及び実践結果の分析・考察	5
1 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案作成のための基本的考え方	5
2 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案	9
3 授業実践の概要と考察	12
4 実践結果の分析・考察	17
5 研究のまとめ	23
国語科における少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案の作成と授業実践及び実践結果の分析・考察	24
1 少人数指導を効果的に行うための指導形態と指導方法の試案作成のための基本的な考え方	24
2 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案	29
3 授業実践の概要と考察	30
4 実践結果の分析・考察	36
5 研究のまとめ	40
英語科における少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案の作成と授業実践及び実践結果の分析・考察	41
1 少人数指導を効果的に行うための指導形態と指導方法の試案作成に関する基本的な考え方	41
2 英語科における効果的な少人数指導の試案	44
3 授業実践及び実践結果の分析・考察	46
4 研究のまとめ	53
少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する調査研究	54
1 小学校の調査結果のまとめ	54
2 中学校の調査結果のまとめ	54
少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究のまとめ	55
1 研究の成果	55
2 今後の課題	56

おわりに

【引用文献】

【参考文献】

研究目的

この研究の目的は、少人数指導と少人数学級における学習指導のよさを検討し、発達段階に応じた効果的な取り入れ方を提案することにより、一人一人に「確かな学力」を育成しようとするものである。

今、学校教育には、「わかる授業」を行い、「確かな学力」をはぐくむことが求められている。そのために、文部科学省では、少人数指導や少人数学級など1学級の人数を弾力的に取り扱い、個に応じたきめ細かな指導を実現できるように推進している。また、本県でも少人数指導や少人数学級の実現のために、すこやかサポート推進事業や少人数指導の加配等で、その推進を図っている。

そこで、本研究においては、まず、少人数指導と少人数学級の実践校の現状を把握し、少人数指導と少人数学級における指導の特性とよさを整理する。次に、整理した特性やよさを基にして授業計画案を作成し、それに基づいた授業実践を行い、少人数指導と少人数学級の効果的な指導の在り方を提案する。

研究の全体構想

本研究は、平成16年度、17年度の2カ年を通じて、以下のような研究を行う。

1 指導形態、指導方法の工夫改善による教育効果に関する研究

(1) 指導形態の違いによる指導の効果の研究

本県の学力向上フロンティアスクールは、多くの学校で指導形態を工夫した授業を行っている。そこで、それらの学校に対して、昨年度指導形態を工夫した授業を行った単元やどのような指導形態を取り入れたか、また、学力面でどのような変容があったのかを調査し、どのような指導形態が効果的なのかを明らかにする。(平成16年度)

(2) 学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒にどのような影響を及ぼすのかを調べる研究

少人数での学習と通常規模の学級での学習は、学習する人数に違いが生じるが、その人数の違いが子ども一人一人の学び方や教師の指導の在り方にどのような影響を与えるのか、同様に学習集団の人数や編成の仕方の違いがどのような影響を与えるのかを明らかにすることをとおして、少人数指導の効果的な指導方法を見出す基礎資料とする。(平成16年度)

(3) 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法についての研究

上記(1)、(2)から、少人数指導における指導の特性とよさを整理し、その特性とよさを生かした効果的な指導形態や指導方法についての工夫・留意点をまとめ、試案として提案する。その試案を基に授業実践を行い、効果的な少人数指導の在り方についてまとめる。(平成17年度)

2 少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する調査研究(平成16年度、17年度)

少人数指導や少人数学級及びすこやかサポート制度に対する活用の状況や指導の効果に関する調査を行い、これからの本県の少人数教育(少人数学級や少人数指導等)の方向を探る基礎資料とする。

本年度の研究の内容と方法

1 研究の目標

昨年度の研究を基に、少人数指導における指導の特性とよさを整理し、その特性とよさを工夫・留意点としてまとめる。この工夫・留意点を基に、教科毎(国語科、算数/数学科、英語科の3教科)に、少人数指導の効果的な指導形態や指導方法についての試案をまとめ、授業実践を行い、その結果の分析と考察をとおして、教科の少人数指導についての試案の有効性を検

討する。

2 研究の内容と方法

- (1) 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の工夫・留意点（文献法、調査法、授業観察）
昨年の研究を基に、少人数指導の効果的な指導形態や指導方法について、工夫・留意点をまとめ、各教科の試案作成の基礎資料とする。
- (2) 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案の作成と授業実践及び実践結果の分析・考察（授業観察）
教科毎に、少人数指導の効果的な指導形態や指導方法の工夫・留意点を基に試案を作成する。それを基に授業計画案を作成し、授業実践を行い、その結果の分析と考察をとおして、試案の有効性を検討する。
- (3) 少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する調査研究（調査法）
少人数指導や少人数学級及びすこやかサポート制度に対する活用の状況や指導の効果に関する調査を行い、これからの本県の少人数教育（少人数学級や少人数指導等）の方向を探る基礎資料とする。
- (4) 少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究のまとめ
少人数指導と少人数学級の指導の効果について、授業実践や調査研究から明らかになったことをまとめる。

3 共同研究校

花巻市立桜台小学校 花巻市立若葉小学校 花巻市立花巻北中学校

少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の工夫・留意点

1 今年度、授業実践を行う教科とその理由

昨年度に実施した学力向上フロンティアスクールへの調査結果から、指導形態を工夫した授業は、小学校では算数科が一番多く取り組まれており、次いで国語科となっている。また、中学校では、数学科が一番多く取り組まれており、次いで英語科となっている。これらの指導形態を工夫した教科のテスト結果をみると、効果が現れているところと現れていないところがあり、学校教育現場では、どのような指導形態が効果的なのかを模索しながら授業を行っていることがうかがえる。

また、昨年度行った4県統一テストの結果は、【表1】のとおりである。4県の全調査者平均と本県の平均を比較すると、小学校第5学年では、国語科で、2.5%、社会科では、3.0%、算数科では、1.5%、理科では、4.0%上回っている。中学校第2学年では、国語科で、1.9%、社会科で、1.7%、理科で1.0%上回っているが、数学科で、1.4%、英語科で、1.7%下回っている。小学校では、全ての教科で平均を上回っているものの国語科、算数科は他の教科と比較すると大きく上回っているわけではない。また、中学校では、数学科、英語科で平均を

【表1】4県統一テストの正答率

小学第5学年

	国語	社会	算数	理科
全調査平均	70.4	75.7	72.7	65.0
岩手県	72.9	78.7	74.2	69.0
宮城県	68.8	74.4	71.0	63.8
和歌山県	70.2	74.5	74.4	63.2
福岡県	70.7	75.0	72.5	61.9

中学第2学年

	国語	社会	数学	理科	英語
全調査平均	73.6	52.1	57.1	51.6	69.3
岩手県	75.5	53.8	55.7	52.6	67.6
宮城県	73.0	51.0	56.2	50.6	69.1
和歌山県	72.2	52.4	61.1	53.3	72.2
福岡県	74.0	51.7	58.2	49.6	69.0

下回っている。

今年度の研究は、昨年度の研究を踏まえた上で、特定の教科で授業実践をとおして効果的な少人数指導の指導形態や指導方法を明らかにしたいと考える。実践する教科は、昨年度の研究や統一テストの結果から、小学校では国語科と算数科、中学校では数学科と英語科で実践することとする。

2 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の工夫・留意点

(1) 学習集団を少人数にしたときの児童生徒に及ぼす影響と工夫・留意点について

昨年度、少人数指導の効果的な指導方法を明らかにするために、学習集団の人数の違い（本研究では、36人の人数の時と単純に半分に分けた18人の人数の時と比較した）が児童生徒にどのような影響を及ぼすのかについて、実際の授業中の姿から分析した。その結果、次のようなまとめを得ることができた。（詳しくは本研究第1報を参照）

なお、学習集団を少人数にしたときの影響は、単純分割に分けた少人数でも習熟度別に分けた少人数でも同じ影響を及ぼすととらえる。また、本研究の少人数学級の効果的な指導の在り方については、単純分割少人数指導の研究をもってこれにかえることにする。

（児童生徒の姿）

少人数では、児童生徒が意欲的に学習に参加するようになる。

- ・発言や発表の機会が増える
- ・集中が持続する
- ・教師とのかかわりが密接になる
- ・発言や質問がしやすくなる

（教師側からみでの違い）

少人数の方が、一つの指導に要する時間が短くなる。

少人数では、教師が児童生徒一人一人に応じた指導が行いやすい。

- ・児童生徒一人一人の状況が把握しやすい
- ・個々のつづやきや質問、表情などに教師が対応しやすい。

上のように学習集団の人数の違いが児童生徒に及ぼす影響について明らかになったことから、次のような工夫・留意点を見い出すことができた。

ア 教師の「目が届く」利点を生かした工夫について

(ア) 形成的評価を効果的に取り入れた指導

指導の工夫・留意点等	指導のメリット
・児童生徒に学習内容について理解しているかどうかをチェックさせながら進める ・児童生徒に次に何を学習するのかを理解させながら進める	評価した結果をすぐに授業に生かすことができる 児童生徒一人一人に目的をもたせながら授業を進めることができる

(イ) 児童生徒のつづやきを大切に学習展開

指導の工夫・留意点等	指導のメリット
・意図的な発問に対する挙手だけでなく、授業中の児童生徒の疑問やつづやきを大切に受け止め、学習展開の中に生かしていく	児童生徒の視点に寄り添いながら理解を深めることができる

(ウ) 一人一人の状況に応じた指導

指導の工夫・留意点等	指導のメリット
・指示や指導だけでなく、児童生徒の反応に共感したり、考え方を認めたりするような機会を多くする	児童生徒一人一人に対して、意欲を引き出すようなかわり方ができる

イ 指導時間の短縮を利用した時間配分にかかわる工夫について

(ア) ドリルの練習とか発表の機会を組み込んだ指導過程

指導の工夫・留意点等	指導のメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・全員に発表の機会を与えることを前提に練習活動を行う ・ペア発表やグループ発表を授業の中に設定する ・ドリルの練習を授業の中に位置付ける ・スキルの練習を授業の中に位置付ける 	<p>全員が発表を行うので、練習への意欲や集中力が増し、習得につながりやすい</p> <p>全員発表が前提となることで、課題に主体的に取り組み、自分で考えたり、工夫しようとしたりする児童生徒が増える</p> <p>ドリルの練習を位置付けることで、練習する機会を増やし理解を確かなものとする</p>

(イ) 体験的な学習の積極的導入

指導の工夫・留意点等	指導のメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・作業的、体験的な活動を指導過程に積極的に取り上げる 	<p>一人一人の児童生徒がじっくりと体験しながら学習を進める時間を確保できる</p> <p>子ども達の実感を伴って理解できる</p>

ウ 思考を促す指導の工夫について

(ア) 集団思考場面を設定する

指導の工夫・留意点等	指導のメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、児童生徒同士で考えを練り合わせるような場面を設ける ・そのために、発問を工夫したり、グループ活動を取り入れたりする ・集団思考が促されるように、教師が支援を行う 	<p>普通サイズの場合よりも、「意見が言いやすい」「集中してできる」「教師が状況を見ながら、適時支援が可能」等のメリットがある</p> <p>教師主導で進めるのではなく、児童生徒同士の練り上げや学び合いを組織することで、「実感や納得を伴った主体的な学び」につながり、「確かな学力」の向上につなげることができる。</p>

以上の工夫・留意点を基に、各教科の特性にあわせて効果的な指導方法の在り方について考えることとする。なお、各教科毎の効果的な指導方法については、それぞれの教科毎の少人数指導の効果的な指導形態や指導方法の試案の作成や指導実践及び実践結果の分析・考察で述べることとする。

(2) 学習集団を意図的に分けた場合の児童生徒に及ぼす影響と工夫・留意点について

ア 学習集団を意図的に分けた場合の児童生徒に及ぼす影響について

本研究では昨年度、2つのコースに分けて習熟度別指導を行い、それぞれのコースの授業の進め方について比較した。小学校第3学年算数科のかけ算の単元で行ったが、基礎コースと発展コースでは、時間をかける箇所、授業の練り合い場面で違いがあった。

イ 学習集団を意図的に分けた場合の指導方法についての工夫・留意点

本研究では、教科の指導目標や学習内容にあわせて学習集団を意図的に編成する。そこで、意図的に分けた場合の指導方法についての工夫・留意点及び効果的な指導方法については、それぞれの教科毎に「少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案の作成と授業実践及び実践結果の分析・考察」で述べることとする。

算数 / 数学科における少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案の作成と授業実践及び実践結果の分析・考察

1 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案作成のための基本的な考え方

算数 / 数学科において効果的な少人数指導を行うため、教科の特性や領域の特性を明らかにし、その特性と昨年度の研究から少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法についてをまとめることとする。

(1) 教科の特性から

算数 / 数学科は、他の教科に比べて学習内容に強い系統性があり、既習した学習内容を基にして新しい学習内容が展開される教科である。このため、新しい学習内容に入る際には、つまずいているところを解消しない限り、新しい学習内容を学習しても理解できないものと考えられる。したがって、授業では一人一人の学習の状況を把握し、つまずいている場合には素早く指導することが大切である。

このような指導を可能にするためには、従前の通常規模の人数に対して行う一斉指導だけにとどまらず、個別に繰り返し学習を行う時間や補充的な学習や発展的な学習を行う時間を学習活動の中に位置付けなければならない。そのためには、少人数指導や教師同士の協力的な指導など、学習内容によって指導形態を工夫した授業づくりが求められる。

また、少人数指導を効果的に行うためには、今、学習している内容のどこまでが分かってどこからが分からないのか、今後学習したことがどのように次に生かされるのかを児童生徒に理解させながら授業を進めることが大切である。そのためには、教師も児童生徒も学習の実現状況を正確に把握できるように形成的評価を取り入れた指導を工夫する必要がある。

(2) 領域の特性から

小学校算数科は、「A 数と計算」「B 量と測定」「C 図形」「D 数量関係」の4領域から構成されている。学習指導要領に示された各領域のねらいは

【表2】のとおりである。

また、中学校数学科は、「A 数と式」「B 図形」「C 数量関係」の3領域

から構成されている。学習指導要領に示された各領域のねらいは【表3】のとおりである。

算数 / 数学科の学習内容は、各領域毎に深いかかわりがあるが、上の表からも分かるのとおり、

【表2】小学校算数科の各領域のねらい

「A 数と計算」	「B 量と測定」	「C 図形」	「D 数量関係」
整数、小数、分数などの数の意味と表し方について理解するとともに、数についての感覚を豊かにすること。また、それらの計算の仕方を考え適切に用いたり、数学的な考え方を高め数理的な処理のよさに気付いたりすることができること。	児童が実生活で会う様々な量について理解を図り、測定することができるようにするとともに、量の大きさについての感覚を育てること。	作業的・体験的な活動など算数的活動をとおして、基本的な平面図形や立体図形について理解できるようにし、図形についての豊かな感覚を育てるとともに様々な問題解決の場面で図形の定義や性質を活用して、適切に判断したり、的確に表現したり処理したりすること。	A B C の領域の内容を理解したり、活用したりする際に用いられる数学的な考え方や方法を身に付けたりすること。また、数量や図形について調べたり、表現したりする方法を身に付けること。

【表3】中学校数学科の各領域のねらい

「A 数と式」	「B 図形」	「C 数量関係」
数について ア数の拡張と数の概念を理解する。 イ新しく導入された数の四則計算の意味と方法を理解し、その計算ができる。 式について ア文字のもつ意味、特に変数の意味を理解する。 イ文字式に表現したり、文字式の意味をよみとったりする能力を育成する。 ウ文字式の計算や処理に関する能力を育成する。	図形概念形成と性質の理解 ア基本的な図形概念や性質を理解する。 イ図に表現したり、正しく作図したりする能力を身に付ける。 ウ図形についての知識や技能を活用する能力を伸ばす。 論理的な思考力の育成について ア図形に対する直観や洞察の能力を伸ばす。 イ数学的な推論の理解と論理的に表現する能力を伸ばす。	関数について ア関数についての基礎的な概念や性質を理解する。 イ関数を探求する能力を伸ばす。 ウ関数を利用する能力を伸ばす。 エ関数的な見方や考え方を活用する能力を養う。 確率について ア起こり得る場合を順序よく整理する能力を育てる。 イ確率の意味を理解し、確率的な見方や考え方の基礎を養う。

各領域毎に指導のねらいは別であり、それぞれの領域毎に特徴がある。例えば、中学校の「B図形」においては、特に論理的な思考力の育成を図ることが求められており、学習指導を行う際には、ただ単に繰り返し指導を行うだけでなく、演繹的に順序立てて証明する必要性やよさを理解させる指導が大切である。そのために、学習集団を少人数にして数学的活動を取り入れたり、証明の仕方を小グループで話し合わせたりしながら授業を展開することは、効果的であると思われる。また、小学校の「数と計算」においては、繰り返し指導を行うことが大切であり、個に応じて補充的な指導や発展的な指導を展開することが求められているので、習熟度別指導は効果的であると思われる。

(3) 昨年度の本研究の結果や先行研究から

ア 指導形態の違いによる指導の効果について

(ア) 調査結果の分析

平成16年、8月に行った本県の学力向上フロンティアスクールへの調査（詳しくは本研究第1報を参照）から、効果的な指導形態の取り入れ方についてについて、次のようなまとめを得ることができた。

小学校算数科（文中にある効果とは、定着状況の効果を示す）

「数と計算」領域

- ・理解や定着の程度に分け、一斉指導を基本として、単元（小単元）のまとめの段階で、少人数で学習する形態（以下「マスタリーラーニング」と示す）は、全学年で効果がみられる。
- ・T・Tは第3学年、第4学年では定着状況効果がみられるが、第5学年、第6学年ではそれほどの効果がみられない。
- ・理解や定着の程度に分け、単元をとおして少人数で学習する形態（以下「到達度別学習」と示す）は、高学年になると効果がみられる。
- ・単純分割で分けた少人数指導は、それほどの効果がみられない。

「量と測定」領域

- ・マスタリーラーニングは、全学年ともやや効果がみられる。
- ・単純分割で分けた少人数指導は、それほど効果がみられない。
- ・到達度別学習はそれほど効果がみられない。
- ・同一児童の比較ではT・Tに効果がみられる。

「図形」領域

- ・どの指導形態も全体ではそれほど効果がみられない。
- ・同一児童の比較では、T・Tはやや効果がみられる。
- ・マスタリーラーニングは、効果がみられない。

「数量関係」領域

- ・第5学年以外、マスタリーラーニングはやや効果がみられる。
- ・単純分割で分けた少人数指導は、それほど効果がみられない。到達度別学習もそれほど効果がみられない。

中学校数学科

- ・「数と式」領域は、到達度別学習、マスタリーラーニングともに効果がみられる。
- ・「図形」「数量関係」の領域では、T・Tによる指導が多い。

(イ) 指導形態の工夫・留意点

調査結果の分析から、各領域毎にこの指導形態がベストであるということを明確に示すことはできない。

傾向としては、「数と計算」領域は、学年が進むにつれて理解や定着の程度に差が出やすい領域であるので、それぞれの児童生徒の習熟の程度に応じた指導が効果的であると思われる。

その際に、学習課題や指導過程に違いをもたせ児童生徒の実態にあった指導をすることが大切である。しかし、「量と測定」や「図形」及び「数量関係」では、傾向を見出すことができなかつた。これは、「量と測定」で考えれば、量の大きさについての感覚を豊かにしたり、「図形」であれば、作業的・体験的な活動をとおして理解させたりすることから、学習内容によって、様々な指導方法がとられるからである。したがって、これらの領域では、学習内容によってそれに適した指導形態を工夫する必要がある。例えば、「量と測定」で量の感覚を育てるためには、習熟度別指導よりは、少人数にして実際に重さを図ったり、長さを測ったりするなど、多くの体験を授業の中で行えるような指導形態を考える必要がある。「図形」においても、図形の特徴について具体的に図形をかかせたり、ふれさせたりできるような指導形態を考える必要がある。また、「数量関係」では、表を作成したり、グラフを作成したりする場面で、一人一人の実現状況に応じた指導ができるような工夫が必要である。

領域毎の指導形態の工夫・留意点をまとめたものが【表4】である。

【表4】指導形態の工夫・留意点

領域	工夫・留意点
「数と計算」 「数と式」	<ul style="list-style-type: none"> 到達度別学習やマスタリーラーニングを積極的に取り入れ補充的学習、発展的学習を行う。 単元の最初に、基となる既習事項の定着を図る時間を確保する。
「量と測定」	<ul style="list-style-type: none"> 量の大きさを実感する時間では、単純分割の少人数指導かT・Tを行い、量を実感させる場を多く設定する。 単元のまとめの段階で、習熟度別指導を取り入れる。
「図形」	<ul style="list-style-type: none"> 作業的・体験的な算数的活動を行う場合には、単純分割の少人数指導かT・Tを行い、豊かな感覚を育てる場を設定する。 他の領域にもいえることであるが、特に、一人一人のつまずきにすぐに対応できるような、指導形態にする。定着に差がある場合には、習熟度別指導、差があまりない場合には、少人数指導かT・T指導を行う。
「数量関係」	<ul style="list-style-type: none"> 単元のまとめの段階で習熟度別指導を取り入れる。 定着に差がある場合には、習熟度別指導、差があまりない場合には、少人数指導かT・T指導を行う。

領域毎の指導形態の工夫・留意点をまとめたものが【表4】である。

イ 学習集団を習熟度別に分けた場合の授業の進め方の違い及び工夫・留意点

学習集団を単純に半分に分けた場合（単純分割少人数指導）については、3頁「イ 学習集団を少人数にしたときの指導方法の工夫・留意点」で述べているので、ここでは、学習集団を習熟度別に分けたときの進め方の違い及び工夫・留意点について述べることにする。なお、習熟度別指導の習熟度のとらえであるが、理解や定着の程度だけでなく、学習スタイルや興味・関心別等も考えられるが、本研究では、特に理解や定着の程度とおさえる。

(ア) 学習集団を習熟度別に分けた場合の授業の進め方の違いについて

学習集団の人数の違いが、児童生徒に及ぼす影響については3頁に記載しているので、ここでは算数/数学科において習熟度別指導を行った場合に、どのような影響を児童生徒に及ぼすのか、またそれが教師の授業の進め方にどのような影響を与えるのかについて述べることにする。

本研究では昨年度、単純分割少人数指導と理解や定着の程度に応じて編成した少人数指導との比較を行った。小学校第3学年算数科の「かけ算」の単元で行っ

【表5】基礎コースと発展コースの違い

観 点	基礎コース	発展コース
時間をかける箇所	導入段階で、既習事項の補充をするため、復習を丁寧に行っていた。	後半の習熟場面で、プリント学習に時間をかけ個別指導を行っていた。
授業の練り合い場面	<ul style="list-style-type: none"> 1つの解き方は気付いたが、他の解き方は、教師主導で説明していた。 思考の広がりや深まりを求められる場面では、教師の支援が必要であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 3とおりの解き方を児童が説明していた。 1つの発言に対して、それとかかわるような発言が多く、広がりがあった。

たが、基礎コースと発展コースでは、時間をかける箇所、授業の練り合い場面で前頁【表5】のような違いがあった。

また、重松、小嶋（2004）によると基礎コース、標準コース、発展コースに分けて習熟度別指導を行った際に、導入場面と集団解決場面で基礎コースと発展コースで【表6】のような特徴的な違いがあった。

【表6】導入場面と集団解決場面のコースによる違い

観 点	基礎コース	発展コース
導入場面	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を多くかけている。 ・児童の発言回数が多く、教師と児童が同じ割合で話している。 ・前時の学習の振り返りや既習事項の確認のための発問が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が短い。 ・教師の発言のみで、児童の発言はない。 ・教師の1つの指示で、本時の課題へと導いている。
集団解決場面	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童がほぼ同じ割合で発言している。 ・教師の発問が多く、ほぼ1問1答式の形で児童の理解を確認しながら進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と比べて児童の発言割合が多く、児童主体の話し合いが行われている。 ・教師は指示と確認が多く、発問はない。児童の発言に対して確認する発言が多い。

- (1) 習熟度別指導の工夫・留意点
これらのことから、学習集団を理解や定着に応じて分けた場合には、それぞれのコースの特徴から各段階で次のような指導の工夫・留意点が考えられる。

課題把握場面における工夫・留意点（導入場面）

基 礎 コ ー ス	発 展 コ ー ス
<ul style="list-style-type: none"> ・導入の場面に時間を十分とり、前時の振り返りや課題把握のための時間を多く確保する。 ・学習問題が理解できるよう数値や要素を簡単にしたり、絵や図等を挿入したりして、自分でも解決できそうだと思う課題作りにつとめる。 ・自力解決ができるような課題にするために、発展コースの課題とは別な課題を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題について、必要に応じて説明するが、基本的には多くの説明をしないで、児童生徒に提示する。 ・指示や発問を少なくし時間を多く取らない。

自力解決場面における工夫・留意点（展開場面）

基 礎 コ ー ス	発 展 コ ー ス
<ul style="list-style-type: none"> ・自力で解決できたという成就感をもたせるため、つまづきを早期に把握して補充するなどスモールステップで解決する。教師主導で行うが、解けたという成就感をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童生徒の自力解決の状況を把握しながら、できるだけ発問や説明を少なくして、自力解決できるように支援する。

集団解決場面における工夫・留意点（展開場面）

基 礎 コ ー ス	発 展 コ ー ス
<ul style="list-style-type: none"> ・教師が意図しながら児童生徒を指名し、その解決方法を発表させる。しかし、児童生徒の集中が続かない場合には、他の児童生徒とかかわらせお互いの学習状況を確認したりよさを見出ししたりする。教師が主導となって授業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的にお互いの考えを練り合うことができるよう、教師は調整役につとめ、児童生徒の発言に対して認めたり、賞賛したりする発言を多くする。また、十分に話し合わせるため時間を十分に確保する。

まとめの場面における工夫・留意点（まとめの場面）

基 礎 コ ー ス	発 展 コ ー ス
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標に基づき、教師とともにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標に基づき、児童生徒個々にまとめる。

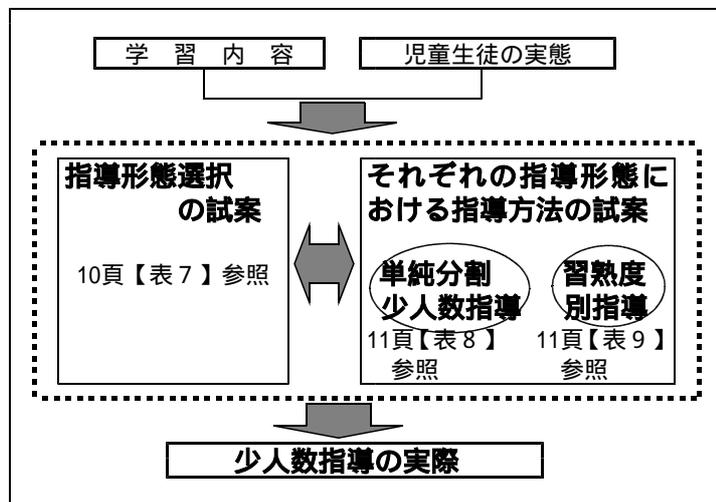
2 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案

(1) 少人数指導を効果的に行うための構想

少人数指導を行う際に、まず、最初にとらえるべきことはその単元の学習内容と児童生徒の実態である。これを把握した上で、どのような指導形態で指導するのか、そしてその指導形態にはどのような指導方法が適しているのかを考えなくてはいけない。学習内容と児童生徒の的確な把握があって、初めて少人数指導が効果的に行われるものとする。

少人数指導を行う際の構想について示したものが【図1】である。

この構想を受けて、前述した基本的な考え方から、算数/数学科において少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法について、どのような観点で指導形態を考えるのか、また、そのときにどのような指導方法を行うのかを試案としてまとめることとする。



【図1】少人数指導を行うための構想図

(2) 少人数指導を効果的に行うための指導形態選択にかかわる試案

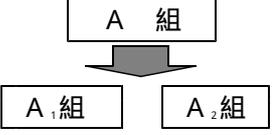
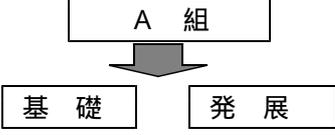
どのような指導形態が効果的かについては、様々な要素、特に児童生徒の実態がクラスによって異なるため、一概にこれが効果的だと示すことは難しいが、ここでは、領域の特性、学習内容、児童生徒の実態の3点から、単純分割少人数指導と習熟度別指導の2つの指導形態について、どういう場合にどの指導形態が効果的なのかを考えてみる。

単純分割少人数指導は、「量と測定」「図形」「数量関係」領域の数量や図形の概念や原理を学習する時間や量感を豊かにする時間において適している。このような時間は、実際に図をかいたり、具体的にさわったりするなど一人一人が算数的活動を行える時間を十分に保障して、理解を深めさせることが大切だからである。また、学習の定着状況に差があまりない小学校の低学年でも適していると考えられる。この場合、学習内容は同じ課題、同じ展開で進めることが望ましい。

習熟度別指導は、「数と計算」「数と式」領域に適している。また、他の領域でも、概念や原理を学習した後、それを使って、性質を導き出したり、活用したりする段階でも適している。具体物を使って更に理解を深めさせるとか、思考場面を多くして理解をさせるなど児童生徒の知識や技能の定着状況に応じた指導を行うことが大切だからである。さらに、単元のまとめの段階では、全ての領域で適している。習熟度別指導では、課題を変えたり、展開を変えたりして進めることが望ましい。

以上のことを試案としてまとめたものが次頁【表7】である。

【表7】少人数指導を効果的に行うための指導形態選択にかかわる試案

指導形態	<p style="text-align: center;">単純分割少人数指導</p>  <p style="text-align: center;">2クラス 3集団 / 1クラス 3集団 等いろいろなパターンはある。</p>	<p style="text-align: center;">習熟度別指導</p>  <p style="text-align: center;">2クラス 3集団 / 1クラス 3集団 等いろいろなパターンはある。</p>
領域の特性から	<ul style="list-style-type: none"> ・「量と測定」「図形」「数量関係」領域の、概念や原理を理解する段階 ・小学校低学年の「数と計算」領域 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」領域 ・「量と測定」「図形」「数量関係」の性質を導き出したり活用したりする段階 ・全ての領域のまとめの段階
学習内容から	<ul style="list-style-type: none"> ・同課題、同展開の場合 ・算数的活動や数学的な活動を行う場合 ・多様な考え方の交流を図る場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・同課題、異展開の場合 ・異展開、異課題の場合 ・習熟を図る場合
児童生徒の実態から	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解や定着、興味・関心、学習スタイルに差がない場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解や定着、興味・関心、学習スタイルに差がある場合

(3) 少人数指導を効果的に行うための指導方法にかかわる試案

少人数指導を効果的に行うためにどのような指導方法がいいのかについて、単純分割少人数指導と習熟度別指導で考えてみる。

単純分割少人数指導は、通常規模の人数の授業よりも、指導時間の短縮とか教師の目が行き届く等の利点がある。これらの利点から、通常規模の一斉指導でも行われていることではあるが、特に、どのようなことに配慮して授業を進めれば効果的なのかをまとめたものが次頁【表8】である。

また、習熟度別指導は、コースによって時間をかける箇所や教師の授業の進め方等に違いがあるので、授業を進める際に特に配慮してほしいこととしてまとめた試案が次頁【表9】である。ここでは、特に留意することとして、コースによってその時間、何を考えさせるのかということを確認にして授業を進める必要がある。

【表8】単純分割少人数指導を行う場合の試案

(印は、指導過程の上で配慮すること(余剰時間の使い方) 印は、児童生徒とのかかわりの上で配慮すること 印は、個々を指導する上で配慮することを表している。)

指 導 過 程	試 案(指導するに当たって、特に配慮する事項)
1 課題把握	作業的、体験的学習を積極的に取り入れる。
2 見通し	児童生徒のつばやきを積極的に拾い上げる。
3 課題解決	自力解決を図るための個に応じた指導の充実を図る。 算数的活動や数学的活動を意図的に取り入れる。 グループ学習を積極的に取り入れる。
4 比較・検討	児童生徒同士で考えを練り合わせる場を意識的に確保する。 多くの児童生徒に発表させる。
5 適用問題	適用問題を解く時間を多く確保する。
6 まとめ	個々の実現状況を把握する。

形 成 的 評 価 を し な が ら 進 め る
 共 感 し た り 、 認 め た り す る

【表9】習熟度別指導を行う場合の試案

基 礎 コ ー ス	指 導 過 程	発 展 コ ー ス
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて前時までの学習内容の補充を行う。 ・数値や要素を簡単にして問題を提示する。 ・場合によっては、具体物を用意する。 ・時間を十分に確保したい。 	1 課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と比較させながら自分で課題を設定させる。 ・時間を多くとらないで進めたい。
コースによって何を考えさせるかを明確にする		
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのコースの児童生徒の実態にあわせて課題を設定する。 (この場合の実態とは、定着状況の違いだけでなく数学的思考方や興味・関心等も含む) 		
<ul style="list-style-type: none"> ・結果や方法の見通しをたてる。特に、方法の見通しについては、必要に応じて全員で確認する。 	2 見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・結果の見通しをたてる。 ・方法の見通しについては、個々にもたせたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで課題を解決する。 ・具体物を用意し、操作活動を行う。 ・自分でも解けたという実感をもたせる。 	3 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の見通しに従って課題を解決する。 ・基本的に教師は質問されたら支援するが、個々の児童生徒の自力解決を基本とする。 ・十分に時間を確保したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・教師による意図的指名を多くし、課題の解決方法や友だちの考えのよさに気付かせる。 	4 比較・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒個々の考えを練り合うことができるよう教師は調整役に努める。 ・教師の発問は、児童生徒の発言を認めたり、賞賛したりするようなものとするが、時として、学習内容を深めたり、多様な考えに結び付けたりするような発問もする。 ・十分に時間を確保したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・問題数を絞り、本時の学習で必ず定着してほしい問題を精選し提示する。 ・児童生徒一人一人のつまずきを把握し、その解消に努める。 	5 適用問題	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容の定着を図る問題だけでなく、発展的な問題も提示する。
<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒にまとめる。 	6 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒個々のまとめを大切にする。 ・まとめたことを発表し合う。

3 授業実践の概要と考察

(1) 授業実践を行った単元及び指導形態

授業実践は、共同研究校の花巻市立桜台小学校、花巻市立若葉小学校、花巻市立花巻北中学校の他に、調査研究にご協力を頂いた少人数学級指定校23校のうち、授業実践に協力頂ける学校で行った。実践を行った単元及び実践協力校は【表10】のとおりである。

【表10】実践を行った単元及び実践協力校

学 年	単 元 名	領 域	実 践 協 力 校
小学校第3学年	「3けたの数の計算をかんがえよう」	数と計算	桜台小 若葉小 水沢南小 一関小 千徳小 福岡小
小学校第3学年	「長さをはかろう」	量と測定	桜台小 水沢南小 千徳小 福岡小
小学校第4学年	「記録を見やすく整理しよう」	数量関係	若葉小 水沢南小 一関小 千徳小 福岡小
小学校第5学年	「図形の角のひみつを調べよう」	図形	桜台小 南小(北上) 千厩小 福岡小
中学校第1学年	「方程式」	数と式	花巻北中 長内中
中学校第2学年	「一次関数」	数量関係	江釣子中 遠野中 福岡中
中学校第2学年	「合同な図形」	図形	遠野中

(2) 授業実践の計画

授業実践は、実践協力校に対して単元の指導計画案や指導形態を工夫した時間の学習指導案及び学習プリント等を提示し、これに基づいて実践して頂いた。

(3) 授業実践の概要

本研究では7単元で実践を行ったが、その中で小学校第5学年「図形の角のひみつを調べよう」(全5時間)の単元の概要を紹介することとする。

ア 指導計画案作成の意図

1時間目、2時間目は、三角形のしきつめを行う算数的活動を位置付けているので、1学級の人数を少なくするため単純分割の少人数指導を位置付けた。人数が少ないことのメリットを生かして、算数的活動を行っているときにつまづいている児童に対して個別に指導を行う。また、比較・検討(1時間目)や見通し(2時間目)の段階では、個々の児童のつづやき等ひろいあげながら、多様な考えを交流する

3時間目は、四角形の内角の和について、一人一人の考えを交流させたいので、一斉指導がT・Tで行う。単純分割の少人数指導も考えられる。

4時間目は、多角形の内角の和を求めたり、角の和のきまりについて考えたりする時間であるが、前時までの既習の学習内容の理解の状況に差が出ると考えられるので、習熟度別指導を位置付けた。理解の状況に差があるので、学習課題は基礎コースと発展コースで違っている。基礎コースの課題は、下位の児童でも取り組めるように具体的に提示し、発展コースの課題は、抽象的に提示している。また、余剰時間を利用して教科書の発展的な問題を扱う。

5時間目は、習熟を図る場面なので、それぞれのコース毎にプリントの内容を変えた習熟度別指導を行う。基礎コースは、確実に理解させるために、教師が個別指導に重点を置いた指導を行い、発展コースは、最後に発展的な問題を提示する。

イ 指導計画案(「図形の角のひみつを調べよう」小学校第5学年)

上記アの意図から、本単元の指導計画案を次頁【資料1】のように作成した。一人一人の実現状況を素早く把握し指導に生かすことや、児童生徒の振り返りを容易にするために、本研究では、自己評価カードを使用した。自己評価カードの項目は、次頁【資料1】の「4 自己評価カードの観点(具体化した目標)」で示しているとおりである。

【資料1】「図形の角のひみつを調べよう」(小学校第5学年)の指導計画面

1 単元名 「図形の角のひみつを調べよう」(小学校第5学年 東京書籍)							
2 単元の目標 三角形や多角形の内角の和について理解するとともに、それを用いて基本的な図形の性質を見いだしたり、調べたりすることができる。							
3 評価規準							
観点	評価規準						
関心・意欲・態度	・基本的な図形の性質を基に、多角形の角の大きさの性質を調べようとする。						
考え方	・三角形の内角の和を基にして、多角形の内角の和の求め方を考える。						
表現・処理	・三角形の内角の和が180度であることを用いて、多角形の内角の和を求めることができる。						
知識・理解	・三角形の内角の和が180度であることや、多角形の内角の和は三角形に分割することによって求められることを理解する。						
4 自己評価カードの観点(具体化した目標)							
具体化した目標							
図形の角のひみつを調べよう	しきつめられた三角形を基に、三角形の3つの角の和を予想することができる。 三角形の角の大きさの和が180であることを確かめ方を考えることができる。 三角形の3つの角の大きさの和が180であることを使って問題を解くことができる。 四角形の4つの角の大きさの和を、角の大きさを測らないで求める方法を考えることができる。 四角形の4つの角の大きさの和が360であることを理解できる。 多角形(五角形、六角形等)のそれぞれの角の大きさの和の求め方を考えることができる。 多角形(五角形、六角形等)のそれぞれの角の大きさの和を使って問題を解くことができる。 多角形の角のきまりについて理解できる。						
5 指導計画							
時	目 標	形 態	主 な 学 習 活 動				
1	しきつめられた三角形から、三角形の3つの角の和に何かきまりがあるのではないだろうかと考えることができる。	単 純 分 割 少 人 数 指 導	・問題の提示 しきつめられた三角形から気付くことは何でしょう ・三角形をしきつめる。 ・気付いたことを発表する。教師はつぶやき等を取り上げ気付いたことをまとめる。 ・気付いたことを一つ一つ児童と一緒にそうになっているかどうかを確かめる。 ・まとめ 気付いたことをそれぞれまとめる。				
2	三角形の内角の和が180になることをどのように調べればいいのかを考えるとともに、調べた結果から三角形の内角の和が180になることを理解することができる。	単 純 分 割 少 人 数 指 導	・問題の提示 三角形の3つの角の和が180になることを確かめよう ・見通し 方法の見通し(三角定規の角度をそれぞれ測ってみる。三角形を破いて角を1点に集めてみる。) ・自力解決 ・まとめ 三角形の3つの角の大きさの和は、180である。 ・適用問題を解く。(P4)				
3	四角形の内角の和は、三角形の内角の和を基にすれば求められることを理解する。	一 斉	・問題の提示 四角形の4つの角の大きさの和は、何度でしょう ・見通し 結果の見通し ・自力解決 ・角度を測らないで、和を求める方法を考える。 ・自力解決 ・比較・検討 ・まとめ 四角形の4つの角の大きさの和は、360になる。 ・適用問題を解く。(P5) ・小テストを行い、コースを選択する。				
4	多角形について知り、多角形の内角の和は三角形に分割すれば求められることを理解するとともに、多角形の内角の和のきまりについて考えることができる。	習 熟 度 別 指 導	<table border="1"> <tr> <th>基 礎</th> <th>発 展</th> </tr> <tr> <td> ・五角形、六角形、多角形の定義を知る。 ・問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう ・問題の解決 ・課題の確認 四角形、五角形、六角形と辺の数が増えると角の大きさの和はどのように変わるだろう ・課題の解決 ・比較・検討 ・本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の和は180ずつ増える。 </td> <td> ・五角形、六角形、多角形の定義を知る。 ・問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう ・問題の解決 ・課題の確認 多角形の角の和のきまりについて考えよう ・課題の解決 ・比較・検討 ・本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の和は180ずつ増える。 ・「身の回りの多角形」について学習する。 </td> </tr> </table>	基 礎	発 展	・五角形、六角形、多角形の定義を知る。 ・問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう ・問題の解決 ・課題の確認 四角形、五角形、六角形と辺の数が増えると角の大きさの和はどのように変わるだろう ・課題の解決 ・比較・検討 ・本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の和は180ずつ増える。	・五角形、六角形、多角形の定義を知る。 ・問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう ・問題の解決 ・課題の確認 多角形の角の和のきまりについて考えよう ・課題の解決 ・比較・検討 ・本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の和は180ずつ増える。 ・「身の回りの多角形」について学習する。
基 礎	発 展						
・五角形、六角形、多角形の定義を知る。 ・問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう ・問題の解決 ・課題の確認 四角形、五角形、六角形と辺の数が増えると角の大きさの和はどのように変わるだろう ・課題の解決 ・比較・検討 ・本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の和は180ずつ増える。	・五角形、六角形、多角形の定義を知る。 ・問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう ・問題の解決 ・課題の確認 多角形の角の和のきまりについて考えよう ・課題の解決 ・比較・検討 ・本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の和は180ずつ増える。 ・「身の回りの多角形」について学習する。						
5	練習問題に取り組み、学習内容の理解を深める。	習 熟 度 別 指 導	<table border="1"> <tr> <th>基 礎</th> <th>発 展</th> </tr> <tr> <td> ・教科書の問題を解く。 ・自己評価カードにチェックしながら進める。 ・教師は、具体物を提示しながらつまづいている児童に対して、指導する。 </td> <td> ・教科書の問題を解く。 ・自己評価カードにチェックしながら進める。 ・問題を作り、互いに解く。 </td> </tr> </table>	基 礎	発 展	・教科書の問題を解く。 ・自己評価カードにチェックしながら進める。 ・教師は、具体物を提示しながらつまづいている児童に対して、指導する。	・教科書の問題を解く。 ・自己評価カードにチェックしながら進める。 ・問題を作り、互いに解く。
基 礎	発 展						
・教科書の問題を解く。 ・自己評価カードにチェックしながら進める。 ・教師は、具体物を提示しながらつまづいている児童に対して、指導する。	・教科書の問題を解く。 ・自己評価カードにチェックしながら進める。 ・問題を作り、互いに解く。						

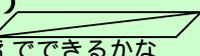
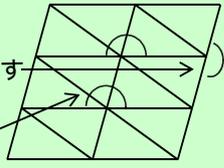
ウ 授業実践の概要

第5学年「図形の角のひみつを調べよう」の授業実践の概要から、少人数指導の効果的な指導形態や指導方法について考察する。

(ア) 単純分割少人数指導の授業実践の概要【資料2】

目標 しきつめられた三角形から、三角形の3つの角の和に何かきまりがあるのではないだろうかと考えることができる。(1/5時間)単純分割少人数指導(17人)

【資料2】単純分割少人数指導の実践の概要

学習内容	児童の学習状況	考察
<p>しきつめに関心をもつ</p>	<p>・教師が、「この図(教科書p2)は、三角形をしきつめたものです。この図を見て気付くことはありますか。」という発問から授業がスタートし、しきつめについてのイメージをもたせた。</p> <div style="border: 2px solid green; padding: 10px;"> <p>T : どんな三角形でも、さっきのようにしきつめられると思いますか 例えばとして  のような図を板書</p> <p>C1 : できないと思う C2 : できると思う C3 : 向きはどうでもいいのか? T : 向きはどうでもいいです T : では、しきつめできると思う人? C : 13名挙手 T : では、しきつめできないと思う人? C : 3名挙手 C4 : しきつめできるものもあり、できないものもあると思う C5 : 細長いのはできないのではないかと(の三角形を指さして) C6 : でも重ねればできるのではないかと C7 : 2つ、くっつけばできるよ T : どういうふうにはいくん C8 : (黒板にでて)  こういうふうに細長くすればできるよ</p> <p>T : 君の考えでできるかな C9 : できる C10 : 一つでも直角のある三角形はしきつめられるよ T : なんか、しきつめられるのは、角に秘密がありそうだね この後、しきつめの作業に入った。</p> </div>	<p>学習集団を少人数にし、教師の利点を「目が届く」子どもにかし、子どもが学習展開を大切にしたいと可能となった。教師の発問に対して、C4~C7のようにつに児童の問いから授業を展開し、Tで指名してC8の児童の説明を引き出し、他の児童も三角形を2つつくつけば平四辺形になり、しきつめできるのではないかという見通しをもつことができた。その後、C10の秘密と発言がありそうだとまとめ、本時の課題に</p>
<p>しきつめできるかどうかをどうかを考える</p>	<p>しきつめられた三角形から気付くことは何でしょう</p> <div style="border: 2px solid green; padding: 10px;"> <p>T : 三角形のしきつめをみて、気付いたことを発表してくださいよーく見てください 何か気付きますか</p> <p>C11 : 角の集まったところが丸となっている</p> <p>C : うーん(首をひねる児童多数)</p> <p>T : (黒板で説明しながら) どうですか</p> <p>C12 : 同じ角が向かい合わせになっている</p> <p>T : 中心はどうなっている</p> <p>C13 : さっき角が集まっているところが丸くなっている</p> <p>T : 丸いと何度?</p> <p>C : 360度</p> <p>T : そうですね あとないかな?</p> <p>C14 : できあがった形が平行四辺形になる</p> <p>T : そうですね あとないかな?</p> <p>C15 : 周りのところが、180度になっています</p> <p>C : うーん(首をひねる児童多数)</p> <p>C16 : (黒板に出て説明する)</p> <p>T : このようなところがまだありますか</p> <p>C17 : (黒板に出て説明する)</p> <p>C18 : 真ん中(平行四辺形の)でもそうになっている その後、3つの角が集まっているところが180度であることを確認しまとめに入った。</p>  </div>	<p>C11の発言をした児童は、今まで算数の授業において、発表したことがなかったが、本時では、しきつめの作業をしている時に、教師に気付いたこととして伝えた。これを聞いた教師は、後でみんなに気付いたことを発表させるので、そこで発表してみようと言ったところ、この児童は発表することができた。一人一人に個別に指導する時間を十分に確保できたことが、この発言につながったと思われる。</p>
<p>気付いたことを発表する</p>	<p>まとめ</p> <p>・それぞれ気付いたことをまとめる。</p>	<p>また、C15からC18の練り合いもスムーズにできていた</p>

(1) 習熟度別指導の授業実践の概要【資料3】

目標 多角形について知り、多角形の内角の和は、三角形を分割すれば求められることを理解するとともに、多角形の内角の和のきまりについて考えることができる。(4/5時間)

【資料3】習熟度別指導の実践の概要(授業の最初から課題把握までの部分を抜粋)

基礎コース(13人)	発展コース(21人)
<p>T : (三角形を黒板に提示) これは何という形ですか C 1 : 三角形 C 2 : 同じです (この後、四角形、五角形、六角形について提示し、同じように展開し、多角形の定義についてまとめる) T : 三角形の三つの角の和は何度ですか C : 180 T : 四角形の四つの角の和は何度ですか C : 360 T : 問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう T : まず、五角形の五つの角の和はいくらですか C 3 : 540 T : わけは? C 4 : 三角形が180 四角形が360 と180 ずつ増えているから C 5 : 三角形、四角形、五角形と180の段のようになっているから T : くん、 くん以外の求め方ができた人 (しばらく無言) T : (黒板の五角形の図を示しながら) この五角形を分けられないかな? C 6 : 五角形を3つの三角形に分けて $180 \times 3 = 540$ です T : なるほど? では、今の くん の考え分かった人? (その後、黒板の五角形に対角線をひいて確認する) T : では、六角形の六つの角の和はいくらですか C 7 : (不安げに) $360 + 360$ で720 かな? T : 図形として考えてみて (児童が分からない様子を見て、六角形の書いた紙を渡す) 三角形に分けてみて C 8 : 対角線はクロスしない方がいい? T : そうだね。真ん中の角ができるから好ましくない C 9 : 三角形が四個できた。 T : 式は? C 10 : 180×4 C 11 : 四角形と三角形2つができる T : 式は? C 12 : $360 + 180 \times 2$ C 13 : 四角形を2つできる C 14 : 式は、360×2 です T : すごいね (課題の確認となる) 四角形、五角形、六角形と辺の数が増えると角の大きさの和はどのように変わりますか 以下、自力解決に入る</p>	<p>T : (復習) 三角形の3つの角の和は何度ですか? C 1 : 180 T : 四角形の4つの角の和は何度ですか? C 2 : 360 (この後、五角形、六角形を黒板に提示して、多角形についてまとめる) T : 問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう (五角形について考える) T : どんな方法で求めますか C 3 : 三角形に分ける C 4 : 分度器ではかる C 5 : 四角形に分ける C 6 : 四角形と三角形に分ける T : これで皆さんできそうですか どれが一番早くできそうですか 早く終わった人は違う方法で考え見て下さい T : 誰か分けてくれますか 六角形やってくれる人 C 7 : 三角形の3つの角の和は180 なので、$180 + 180 + 180 = 540$ C 8 : もっと簡単に、$180 \times 3 = 540$ の方が簡単です C 9 : 違う方法もあるよ (五角形を三角形と四角形に分けて) $360 + 180 = 540$ となる (六角形について考える) T : 六角形の角の和は何度になりますか C 10 : 三角形に分けて $180 \times 4 = 720$ C 11 : 違う方法もある 四角形2つに分けて、$360 \times 2 = 360$ T : みんながやった方法で一番早いのはどんな方法 C 12 : 三角形に分ける方 C 13 : 四角形に分ける方 C 14 : 三角形の方が、倍すればいいので分かりやすい T : そうですね 三角形に分けた方が分かりやすいかもしれないね 多角形の角の和のきまりについて考えよう 以下、自力解決に入る</p>
<p>【考察】 基礎コース</p>	<p>【考察】 発展コース</p>
<p>基礎コースは、一問一答の授業展開となっており、教師は、一人一人の児童の実現状況を把握しながら授業を進めている。C 4 や C 5 の発言から、児童は180、360と増え方の規則性にだけ気付いて、なぜそうなるかについて考えようとしないう児童が多かったため、T のように五角形を三角形に分けることに気付かせようと誘導している様子をうかがうことができる。最後に、三角形の数によって五角形や六角形の角の和が求められることに気付いたため、課題の解決はスムーズに行うことができていた。</p>	<p>教師の発問に対して、多くの考えが出されており、C 7 に対する C 8 の発言や C 13 に対する C 14 の発言等、児童が中心となって練り合っている様子を伺うことができる。特に、C 14 の発言が、課題解決を図る上で重要なヒントとなり、一人一人に自力解決を促すことができた。教師が調整役になって、児童の発言を引き出すことによって、授業がスムーズに進んでいた。</p>

(4) 他の単元の指導計画案の概略

「図形の角のひみつを調べよう」の単元以外に、授業実践を行った単元の指導計画案の概略は、【資料4】のとおりである。

【資料4】指導計画案の概略 (内の数字は、何時間目を表す)

「3けたの数の計算を考えよう」 (数と計算) 全7時間		「長さをはかろう」 (量と測定) 全6時間		「記録をみやすく整理しよう」 (数量関係) 全5時間	
指導形態	学習内容	指導形態	学習内容	指導形態	学習内容
一斉	100を単位とした加減の仕方	単純分割少人数指導	巻尺の便利さの理解	習熟度別指導	資料の分類の仕方 や読み取り方
	3位数+3位数の筆算の仕方	単純分割少人数指導	巻尺の使い方の理解	習熟度別指導	資料を二つの観点から表にまとめる
	2回繰り上がりがある筆算	T・T(単純分割少人数指導も可)	kmの意味	習熟度別指導	二次元表の作成の仕方と読み取り方
	3位数-3位数の筆算の仕方	T・T(単純分割少人数指導も可)	1kmを歩き量感をもつ	一斉 (習熟度別指導も可)	まとめの問題
	2回繰り下がりがある筆算	単純分割少人数指導	巻尺を使って、ものを測る		
習熟度別指導	まとめの問題	習熟度別指導	まとめの問題		
習熟度別指導	まとめの問題				
「方程式」 (数と式) 全12時間		「一次関数」 (数量関係) 全11時間		「平行と合同」 (図形) 全8時間	
指導形態	学習内容	指導形態	学習内容	指導形態	学習内容
一斉	等式の性質の理解等	一斉	線香の実験から一次関数を理解する	一斉	合同の意味の理解と対応する辺や角を示す
	等式の性質を使って方程式を解く		具体的な事象から一次関数を見いだす	単純分割少人数指導かT・T	三角形の合同条件の理解
	移項の意味の理解		変化の割合	単純分割少人数指導かT・T	合同な三角形を見いだし、記号を使って表す
	()や小数のある方程式を解く	習熟度別指導	一次関数の式からグラフを作成、逆にグラフから式を求めることと傾き、切片の理解	単純分割少人数指導かT・T	簡単な図形の性質を合同条件を用いての証明
	習熟度別指導	まとめの問題	一斉	変域	習熟度別指導
一斉	応用問題を解く	習熟度別指導	まとめの問題	習熟度別指導	証明の仕組みの理解と図形の性質の証明
習熟度別指導	まとめの問題	習熟度別指導	与えられた条件から一次関数の式を求める	一斉	証明の根拠となる基本性質の理解
		習熟度別指導	まとめの問題	習熟度別指導	まとめの問題

4 実践結果の分析・考察

(1) 分析・考察の内容と方法

少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案に基づいて作成した

【表11】分析・考察の内容と方法

調査項目	対象	調査方法	処理・解釈の方法
算数 / 数学の学習内容の定着状況	児童生徒	・テスト法	・事後に平成16年度の本県の学習定着度状況調査と同問題のテストを行い、本県の正答率の平均と比較する。
少人数指導の効果的な取り入れ方や指導方法を工夫した授業についての意識	児童生徒 教師	・質問紙法 (多肢選択及び自由記述による調査問題)	・事後に調査し、分析・考察する。

児童生徒へのアンケートや教師へのアンケートは、実践した単位によって設問が多少異なるが、概ね【表12】の内容である。(ここでは、第5学年「図形の角のひみつを調べよう」のアンケートを使用)

指導計画案により指導実践を行う。その後、指導実践後に学習内容の定着状況や児童生徒、教師へのアンケートから【表11】で示した内容、方法で分析・考察を行う。

**【表12】「図形の角のひみつを調べよう」の単元の児童生徒、教師へのアンケートの内容
児童用アンケート**

設問1	1時間目と2時間目は、少ない人数にわかれて学習しました。少ない人数にわかれて、三角形をしきつめたり、分度器などを使ったりして三角形の3つの角の大きさの和を求める学習は、わかりやすかったですか。 ア わかりやすかった イ どちらかといえばわかりやすかった ウ どちらかといえばわかりにくかった エ わかりにくかった
設問2	4, 5時間目は、コースにわかれて学習しました。コースにわかれての学習は、わかりやすかったですか。 ア わかりやすかった イ どちらかといえばわかりやすかった ウ どちらかといえばわかりにくかった エ わかりにくかった
設問3	「自己評価カード」にしるしをつけるとき、次もがんばろうと思いましたが。 ア そう思った イ どちらかといえばそう思った ウ どちらかといえばそう思わなかった エ そう思わなかった オ どちらともいえない

教師用アンケート

設問1	1時間目と2時間目は、算数的活動を位置付けていたので、教師の支援をより多くするために、学級を単純に分けた少人数指導を行いました。このような指導方法は、従来の一斉指導(T・Tも含む)よりも一人一人の実現状況に応じた指導を行うのに効果があったと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかをいえばそう思わない エ そう思わない オ 変わらない
設問2	4時間目は、理解度に差が出てきたので課題の提示の仕方等を変えて習熟度別指導を行いました。このような指導方法は、従来の一斉指導(T・Tも含む)よりも一人一人の実現状況に応じた指導を行うのに効果があったと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかをいえばそう思わない エ そう思わない オ 変わらない
設問3	児童自身が自分自身の実現状況を理解しながら学習するために自己評価カードを使って授業を進めましたが(形成的評価を取り入れた授業)、自己評価カードは、児童の学習意欲を引き出すのに効果があったと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。また、それは、どんなことからそう思いましたか。その理由を下の欄にご記入願います。 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ どちらかをいえばそう思わない エ そう思わない オ 変わらない
設問4	算数的活動を行う1時間目と2時間目に少人数指導を取り入れた授業を行いました。このような指導形態や指導方法で効果的だと思ったこと、改善したほうが良かったことについてご記入願います。
設問5	個人の理解に差が出る4時間目に課題の提示等を変えて、習熟度別指導を取り入れた授業を行いました。この指導形態や指導方法で効果的だと思ったこと、改善したほうが良かったことについてご記入願います。
設問6	今回の授業実践にかかわり、どのようなことでも結構ですので、お気づきになった点をご記入ください。

(2) 実践結果の分析・考察

ア 学習内容の定着状況

平成16年度の本県の学習定着度状況調査と同問題のテストを行い、本県の正答率の平均と実践協力校との平均を比較した。結果は【表13】のとおりである。

学習終了後からテスト実施までの期間が違うため一概に比較はできないが、全体的な傾向としては、指導形態や指導方法を工夫したことにより、児童生徒の学習内容の定着が図られたと考えられる。ここでは、県の平均と比較して特に正答率が上回った単元と下回った単元について考察してみる。

(ア) 「記録をみやすく整理しよう」(小学校第4学年)の考察

この単元は、資料から表を作成し、表の見方を学習する内容である。そこで、表の作成の仕方等、個々の児童に差があると考え最初から習熟度別指導を行った。基礎コースは、表の作成の仕方とそれの読み取り方に多くの時間をかけ、発展コースは、どのような表を作成すればいいのかについて考える場面に多くの時間をかけた。それぞれのコース毎に児童の実態に即して学習課題を設定し指導過程にも変化をもたせたことが、理解を深めることにつながったと考えられる。

(イ) 「長さをはかろう」(小学校第3学年)の考察

この単元の、「10cmのものが何か」を選択する問題では、県よりも9%正答率が低くなった。この単元は、巻尺を使って様々なものの長さをはかる場面で、単純分割少人数指導を行い、巻尺の使い方の習熟を図ったが、逆にものさしで測る場面をそれほど確保しなかったため、正答率が低くなったと考えられる。

(ウ) 「一次関数」(中学校第2学年)の考察

この単元は、式からグラフをかいたり、グラフから式を求めたりする時間で習熟度別指導を行った。基礎コースは、式から表を作成し座標をとってグラフをかくことに多くの時間をかけ、発展コースは、グラフと式の関係について考えさせることに多くの時間をかけた。このことが各コースの実態に即しており、それぞれが傾きや切片の意味を深く理解できたのではないかと考えられる。

【表13】各単元毎の学習内容の定着状況 (正答率：%)

単元名	問題内容	本県	実践校	比較
3けたの数の計算を考えよう (544人)	800+600は をもとにすると 8+6(小4、6-(1))	91	89	-2
	378+564(小4、1-(1))	92	92	0
	607-269(小4、1-(2))	76	83	+7
長さのはかり方 (287人)	10cmのもの(長さの単位の 選択)(小4、11-(1))	83	74	-9
	道のりの測定(小4、12-(1))	72	74	+2
	道のりと距離の違い(1km= 1000mの活用)(小4、12-(2))	57	58	+1
記録を見やすく整理しよう (424人)	今週本を借りた人数(2つの 観点で分類整理された表の見方) (小4、17-(1))	70	80	+10
	今週だけ本を借りた人数(2 つの観点で分類整理された表の 見方)(小4、17-(2))	45	61	+16
図形の角のひみつを調べよう (198人)	二等辺三角形の2つの角の大きさが等しいことがわかる (小5、12-(1))	70.5	96.5	+26
方程式 (69人)	$5x - 6 = 3x - 2$ (中2、3-(1))	81.6	84.1	+2.5
一次関数 (339人)	一次関数の式を求めることができる (中3、7-(1))	45	71	+26
	一次関数のグラフの特徴をいえる(傾き(ア)と切片の意味(イ)) (中3、7-(2))	ア 78	ア 86	+8
		イ 66	イ 71	+5
平行と合同	図形の性質を説明するとともに、 根拠となることがらを見いだすことができる (1) 仮定 (2) 平行線の錯角 (3) 合同条件 (中3、15-(1)(2)(3))	(1) 53	94	+41
		(2) 23	44	+21
		(3) 49	61	+12

「注」1 「本県」は、本県の平成16年度の学習定着度状況調査の平均正答率、「実践校」は、本研究の実践校の平均正答率を表す。
2 「3けたの数の計算を考えよう」と「記録を見やすく整理しよう」は、1学期に実践を行い、2学期に入ってからテストを行った。他の単元は、実践後、期間をあげずにテストを行った。
3 単元名の下()内の数字は、対象人数を表す。
4 問題内容の()内は、平成16年度の本県の学習定着度状況調査の問題番号を表す。

イ 少人数指導の効果的な取り入れ方や指導方法を工夫した授業についての意識の状況

(ア) 児童生徒の意識の状況

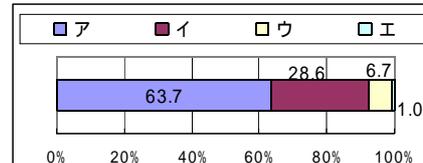
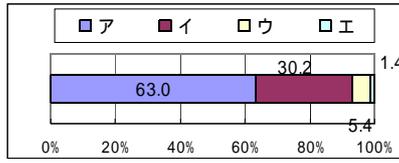
単純分割少人数指導や習熟度別指導に対する児童生徒の意識の状況について、各単元毎にまとめたのが【図2】である。調査紙(アンケート)の内容は、17頁【表12】で示したとおりである。

この結果、「習熟度別指導や単純分割少人数指導は、分かりやすかったですか」について小学校では、ア、イの+反応に回答した児童が全ての単元で90%を越えている。中学校では、習熟度別指導も単純分割少人数指導どちらも、+反応に回答した生徒は、80%を越えている。

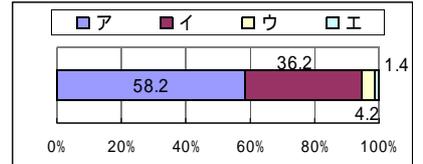
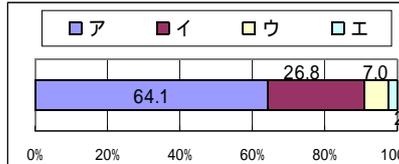
このことから、指導形態を工夫した指導は、児童生徒に「授業が分かった」と感じていることが分かる。

校種の特徴をみると、小学校では、習熟度別指導と単純分割少人数指導を比較した場合、習熟度別指導(「長さをはかろう」「図形の角のひみつを調べよう」)の方が強い+反応をする児童が多い。一方、中学校では、小単元の最後だけ習熟度別指導を行う形態(「方程式」)の方が、単元の途中から単純分割や習熟度別指導を行う形態(「一次関数」「平行と合同」)よりも、強い+反応をする生徒が多いことから、一斉指導を組み入れながら指導形態を工夫した授業を位置付けた方が、効果があると思われる。

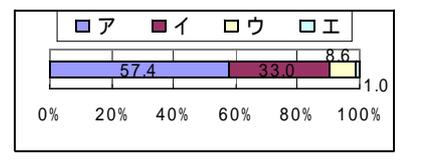
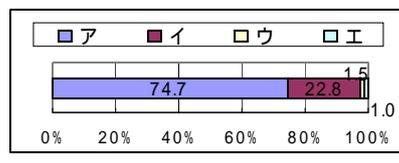
「3けたの数の計算を考えよう」 「記録を見やすく整理しよう」
(習熟度別指導の効果) N = 520 (習熟度別指導の効果) N = 424



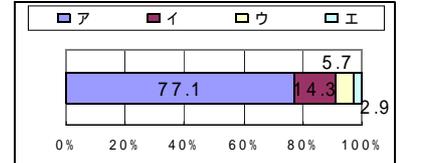
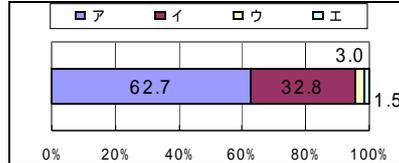
「長さをはかろう」
(習熟度別指導の効果) N = 287 (単純分割少人数指導の効果) N = 287



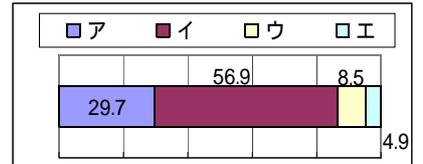
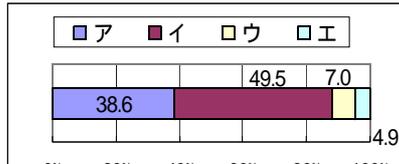
「図形の角のひみつを調べよう」
(習熟度別指導の効果) N = 197 (単純分割少人数指導) N = 197



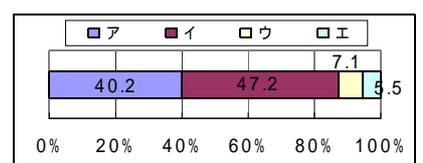
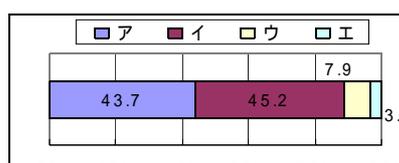
「方程式」
(習熟度別指導の効果) N = 67 (発展コースの習熟度別指導の効果) N = 35



「一次関数」
(単元の途中の習熟度別指導の効果) N = 285 (まとめ段階の習熟度別指導の効果) N = 283



「合同な図形」
(習熟度別指導の効果) N = 127 (単純分割少人数指導の効果) N = 126



「注」1 調査は、四肢選択で行った。ア、イは+反応、ウ、エは-反応とし、ア、エを各々強い反応とした。
2 調査は、授業実践終了後に行った。 3 Nは対象人数を表す。

【図2】児童生徒の意識の状況

(1) 教師の意識の状況

単純分割少人数指導や習熟度別指導に対する教師の意識の状況をまとめたものが【表14】である。調査紙（アンケート）の内容は、17頁【表12】で示したとおりである。

この結果、それぞれの単元でほとんどの教師が、習熟度別指導や単純分割少人数指導は効果があると回答している。特に、「記録を見やすく整理しよう」で行った習熟度別指導が効果的であったと回答している。理由としては、児童の実態や力に合わせた指導ができたから等、きめ細かな指導ができたことが挙げられている。このことは、本単元が資料を表に表す作業が1時間目からあったので、児童の定着の程度に差があると考え、学習課題も別にして1時間目から習熟度別指導を行ったためと考える。このことから、児童の実態によるが、単元の最初から差があると感じた時には、習熟度別指導が効果的であると感じている教師が多いことが分かる。

しかし、「3けたの数の計算を考えよう」「図形の角のひみつを調べよう」「一次関数」「平行と合同」で行った指導形態を工夫した授業については、- 反応があった。「3けたの数の計算を考えよう」の単元では、単元の最後だけ習熟度別指導を行ったが、- 反応の理由は、単元のはじめの段階からつまづいている児童がいるので、まとめの段階だけ習熟度別指導では対応できない等であった。よって、どの段階で習熟度別指導を行えばいいのか児童の実態をみながら検討する必要がある。「図形の角のひみつを調べよう」では、単元の最初に単純分割少人数指導を行い、最後に習熟度別指導を行った。- 反応の理由は、習熟度別指導における練り合いの仕方や学習プリントに系統性が感じられない等であった。よって指導過程の工夫や学習プリントに吟味が必要である。また、「一次関数」のまとめの段階での習熟度別指導で- 反応があったが、その理由は、まとめの段階でのプリントが生徒の実態に合っていなかったということであった。よって、プリントを作成するに当たっては、生徒の実態を考え、それに即した作成が求められていることが分かる。

なお、単純分割少人数指導や習熟度別指導の効果についての記述は、補充資料に掲載した。

【表14】教師の意識の状況

「3けたの数の計算を考えよう」 N = 21 (小単元の終わりの習熟度別指導の効果)				
ア	イ	ウ	エ	オ
7	12	2	0	0
「長さをはかるう」 N = 10 (単元の最初、途中までの単純分割少人数指導の効果)				
ア	イ	ウ	エ	オ
4	5	0	0	1
(単元の終わりの習熟度別指導の効果)				
ア	イ	ウ	エ	オ
4	6	0	0	0
「記録を見やすく整理しよう」 N = 17 (単元をとおして行った習熟度別指導の効果)				
ア	イ	ウ	エ	オ
11	6	0	0	0
「図形の角のひみつを調べよう」 N = 12 (単元の最初の単純分割少人数指導の効果)				
ア	イ	ウ	エ	オ
4	6	2	0	0
(単元の終わりの習熟度別指導の効果)				
ア	イ	ウ	エ	オ
4	7	1	0	0
「方程式」(小単元の終わりの習熟度別指導の効果)				
ア	イ	ウ	エ	オ
3	0	0	0	0
「一次関数」 N = 10 (単元の途中での習熟度別指導)				
ア	イ	ウ	エ	オ
5	4	0	0	1
(小単元のまとめの部分での習熟度別指導)				
ア	イ	ウ	エ	オ
1	7	1	0	1
「平行と合同」 N = 3 (単元の最初の単純分割少人数指導)				
ア	イ	ウ	エ	オ
2	1	0	0	0
(単元の最後の方の習熟度別指導)				
ア	イ	ウ	エ	オ
1	1	1	0	0
「注」1 調査は、五肢選択で行い、ア、イは+反応、ウ、エを-反応、オはどちらでもないこととし、ア、エを各々強い反応とする。 2 調査は、授業実践終了後に行った。 3 Nは対象人数を表す。				

ウ 児童生徒の意識と定着状況及び各コース毎のクロス集計の分析・考察

次の二つのクロス集計から分かったことをいくつかの単元でまとめてみた。

- ・児童生徒の意識調査と単元テストの結果から、上位群、中位群、下位群に分けた定着状況とのクロス集計
- ・児童生徒の意識調査と各コース毎の定着状況とのクロス集計

(ア) 「3けたの数の計算を考えよう」

本単元の結果をまとめたものが【図3】である。この結果、習熟度別指導が分かりやすかったと回答した児童の割合は下位群で一番高く、次いで、上位群、中位群となっている。コースで比較すると、基礎コースの児童よりも発展コースの児童の方が分かりやすかったと回答している割合が高い。

本単元は、単元の最後だけ習熟度別指導を行い、基礎コースでは、プリント学習を行った。このプリント学習によって、基礎コースを選択した児童の中でも特に、下位の児童に対して個別に指導する時間を多く確保したことが、下位の児童の理解につながったと考えられる。

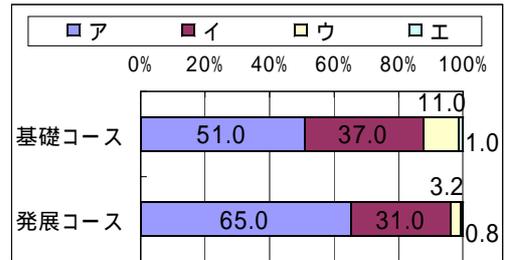
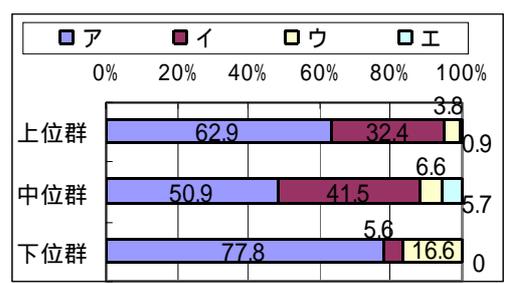
このことから、特に下位の児童に学習内容を理解させるために、個別に指導する時間を多く確保する指導形態を工夫することが大切であることが分かる。

(イ) 「記録をみやすく整理しよう」

本単元の結果をまとめたものが【図4】である。この結果、習熟度別指導が分かりやすかったと回答した児童の割合は上位群、中位群が高く、下位群はそれほど高くない。コースで比較すると、発展コースの児童よりも基礎コースの児童の方が分かりやすかったと回答している割合が高い。

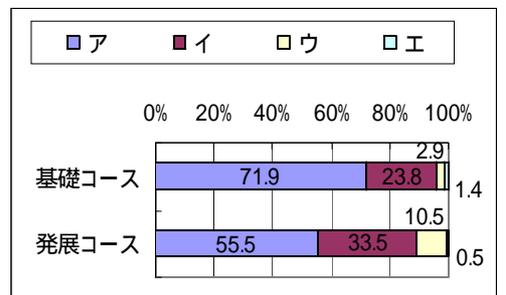
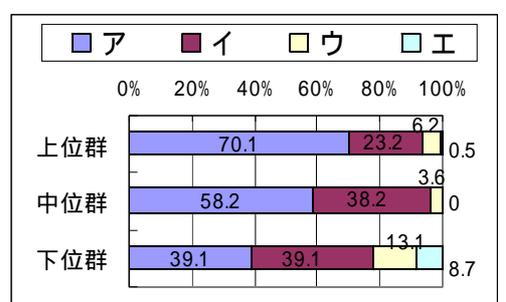
本単元は、習熟の程度に差があると考えたので、単元の最初から習熟度別指導を行った。コース別に分け、それぞれの児童の実態に即した指導を考えたが、それでも下位の児童には難しかったことがうかがえる。しかし、基礎コースの児童の方が分かりやすかったと回答した割合が高いことから、学習課題等を変え、より基礎コースの児童の実態に即した指導を行えば効果が上がることもうかがえる。

このことから、基礎コースを選択した児童でも自分にあったスピードや内容であれば理解しやすくなることにつながる事が分かる。しかし、それでも下位の児童に



注1 調査は、19頁【図2】と同様に、四肢選択で行った。ア、イは+反応、ウ、エは-反応とし、ア、エを各々強い反応とした。
 2 単元テストの点数で95~100を上位群、85~90を中位群、60以下を下位群とした。
 3 それぞれの人数は次のとおりである。
 上位群:213人 中位群:106人 下位群:18人
 基礎コース:155人 発展コース:251人

【図3】「3けたの数の計算を考えよう」



「注」1~2 【図3】に同じ
 3 それぞれの人数は次のとおりである。
 上位群:194人 中位群:113人
 下位群:24人
 基礎コース:214人
 発展コース:210人

【図4】「記録をみやすく整理しよう」

難しかったことから、基礎コースの中でもさらに、一人一人の状況を考えながら指導する必要がある。

(ウ) 「図形の角のひみつを調べよう」

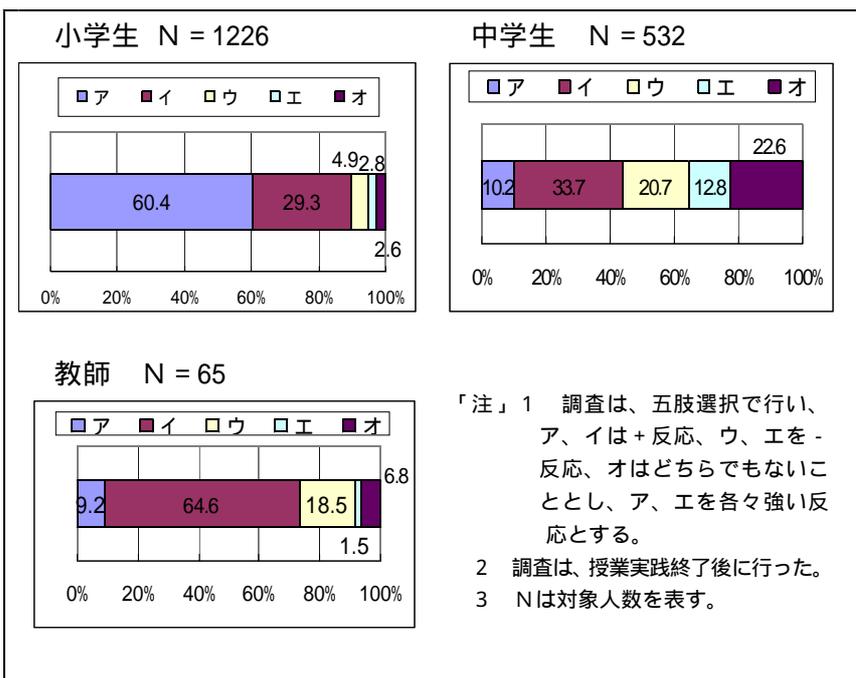
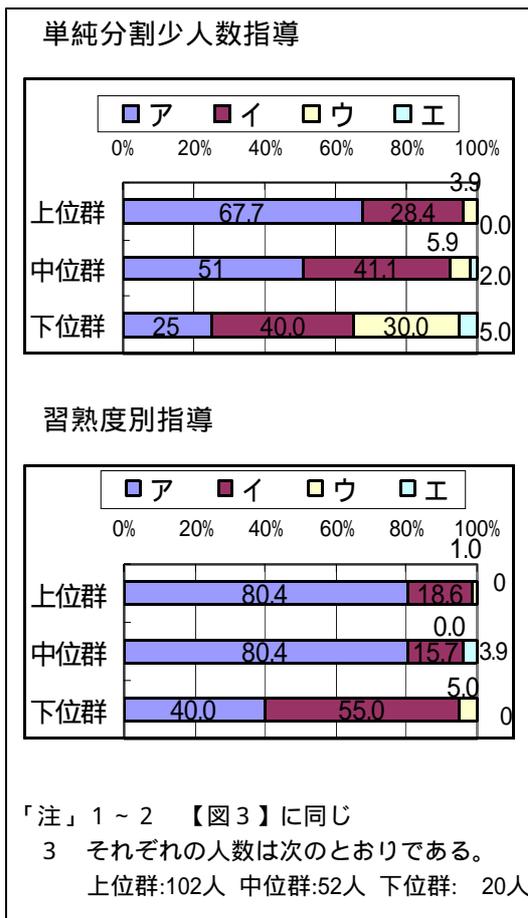
本単元の結果をまとめたものが【図5】である。本単元は、単純分割少人数指導と習熟度別指導を行ったが、その結果、どちらも分かりやすかったと回答した児童の割合は上位群で一番高く、次いで、中位群、下位群となっている。また、単純分割少人数指導と習熟度別指導を比較した場合、強い+反応した割合は、習熟度別指導の方が高い。

本単元は、単元の最初が三角形のしきつめ等の算数的活動を行う時間であったため、無理に習熟度別に分けるよりも、単純に人数を少なくした方が互いに教え合ったり、教師も個別に指導する人数が少ないことからきめ細かな指導ができたりすると考え単純分割少人数指導を位置付けた。また、単元の終わりは、習熟に差が出ると考え習熟度別指導を位置付けた。しかし、単純分割少人数指導は、習熟度別指導と比較すると分かりやすかったに強い+反応をする児童の割合が低い。特に、下位群の児童は、-反応に回答した割合が35%と高くなっている。

このことから、単純分割少人数指導を行う際には特【図5】「図形の角のひみつを調べよう」に下位群の児童に対してきめ細かな指導を行う場を意図的に位置付けることが大切であることが分かる。そのため、単純分割少人数指導だけでなく、T・Tの形態等も視野に入れながら指導形態を考えることが必要である。

エ 自己評価カードの有効性

自己評価カードが、児童生徒の意欲化につながっているかどうかを、児童生徒へのアンケートと教師へのアンケートからまとめたものが【図6】である。児童生徒のアンケートでは、小学校では約90%の児童が+反応を選択している。中学校では、約50%の生徒が+反応を選択している。また、教師のアンケートでは、約70%が+反応を選択している。この結果、小学生では自己評価カードは意欲化につながっているように見えるが、教師のアンケートの記



【図6】自己評価カードの有効性

述には、特に小学校の中学年では自己評価カードの設問が難しく、教師が説明しないと記入できなかったとか、自己評価カードの設問によっては、課題解決のヒントがあり思考力の育成につながらない等、意欲化につながるかには、否定的な記述が多かった。意欲化つながるといふ記述よりも、授業の振り返りには有効であるという記述が多かった。、中学校では、生徒のアンケートの回答からもそれほど意欲化につながっていないことがうかがえる。しかし、教師の記述からは、小学校同様生徒が自己評価カードから分からない所をチェックするようになった等、振り返りには良かったという記述が多かった。(教師のアンケートの記述内容については、補充資料を参照)

このことから、自己評価カードを有効に使うためには、設問内容を分かりやすく具体的に、しかも学習内容の答えが分からない内容にすることが大切である。また、小・中学校とも、教師の記述内容から学習の振り返りには有効ではないかと考えられる。

5 研究のまとめ

算数 / 数学科における少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法について分かったことは次のとおりである。

- (1) 単純分割少人数指導は、児童のつぶやきを拾い上げたり、余剰時間を生かして個々の学習状況を把握したりしながら授業を進めることができる点で有効であること
- (2) 単純分割少人数指導の配慮事項として、特に下位群の児童に対しては、意図的に、個別に指導する場の設定を位置付けた指導過程を組むことが大切であること
- (3) 習熟度別指導は、基礎コースは児童の実現状況を見ながらスモールステップの授業を展開できること、発展コースは自力解決場面や比較・検討の時間に十分に時間をかけることができることにより有効であること
- (4) 習熟度別指導の配慮事項として、それぞれのコースの実態に即した学習課題を提示し、解決させるための方法等に違いをもたせること
- (5) 小単元の最後のプリント学習は、特に下位の児童生徒にとって有効であること
- (6) 小学校では、既習事項に差がある場合、単元の最初から学習課題を工夫した習熟度別指導が特に基礎コースで有効であること
- (7) 自己評価カードは、学習内容の振り返りには有効であること

今回の授業実践は、各校でそれぞれ実践して頂くため、児童生徒の実態を踏まえることができなかったが、指導形態や指導方法を工夫することは、児童生徒の学力向上につながることでテスト結果や児童生徒の意識調査からうかがえる。各学校においては、児童生徒の実態を把握し、その実態に沿って指導形態や指導方法を工夫すれば、更に効果があがるのではないかとと思われる。本研究が各校の少人数指導の実践の一助になれば幸いである。

国語科における少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案の作成と授業実践及び実践結果の分析・考察

1 少人数指導を効果的に行うための指導形態と指導方法の試案作成のための基本的な考え方

国語科は「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」及び[言語事項]の3領域1事項で構成される。効果的な少人数指導を行うためには、領域の特性を把握し、どの領域でどんな言語活動を取り入れながら少人数指導を行うか考えていく必要がある。

(1) 小学校国語科における各領域の特性

「A話すこと・聞くこと」は、ア話すことに関する指導事項、イ聞くことに関する指導事項、ウ話し合うことに関する指導事項で構成され、相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて話したり、相手の話の中心や意図を聞き取ったりする能力の育成を重視した目標が示されている。各学年の目標は、【表15】に示すとおりである。この目標を達成するためには、国語科の学習の中で、相手や目的、意図を具体的に設定し、その相手や目的、意図に応じて話したり、聞いたりする言語活動を展開することが必要である。つまり、「A話すこと・聞くこと」の領域においては、相手を意識した指導が重要である。

【表15】学年の目標の一覧表「A話すこと・聞くこと」

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年および第6学年
相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話すことや大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに、	相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、	目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、
話し合おうとする態度を育てる。	進んで話し合おうとする態度を育てる。	計画的に話し合おうとする態度を育てる。

「B書くこと」は、ア目的意識・相手意識、自分の考えに関する指導事項、イ取材に関する指導事項、ウ構成に関する指導事項、エ記述に関する指導事項、オ推敲・評価に関する指導事項で構成され、相手や目的、意図に応じ、自分の考えや意図などが伝わるように語や文の続き方や段落などの構成を工夫して文章を書く能力や適切に表現しようとする態度の育成を重視した目標が示されている。各学年の目標は、【表16】に示すとおりである。「文章を書く」という表現活動は、一人一人の思いや願いに依るところが大きい。また、個々のそれまでの学習経験や知識の差によって、活動への関心や意欲、習熟の程度に差が出やすい。このことから、「B書くこと」の領域においては、すべての事項で、アの相手意識・目的意識と自分の考えをもつことを念頭におきながら指導することが大切である。

【表16】学年の目標の一覧表「B書くこと」

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年および第6学年
経験した事や想像した事などについて、順序が分かるように語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、	相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書くことができるようにするとともに、	目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、
楽しんで表現しようとする態度を育てる。	適切に表現しようとする態度を育てる。	効果的に表現しようとする態度を育てる。

「C読むこと」は、A読書的な読むことに関する指導事項、イ叙述内容に即した読むことに関する指導事項、ウ想像的な読むことに関する指導事項、工事象と感想、意見にかかわる読むことに関する指導事項、オ目的的な読むことに関する指導事項、カ声に出しての読むことに関する指導事項で構成され、目的に応じ、内容の中心、要旨をとらえながら読む能力や楽しんで読書しようとする態度の育成を重視した目標が示されている。各学年の目標は、【表17】に示すとおりである。

読む能力は、「言語の使い方を正確に理解する能力」と「言語で表現された内容や事柄を正確に理解する能力」の両面を含んだものとして育成されなければならない。教材文の内容からかけ離れた勝手な想像や思いつきが受け入れられるわけではない。そのためには、教材の構造的な把握と分析に基づいた、学習の到達点つまり読みのめあてを明確にした指導が重要となる。また、個々の読み方や読みとったことを、相互交流によってより深く豊かなものにしていく指導も大切である。

【表17】学年の目標の一覧表「C読むこと」

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年および第6学年
書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに	目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、
楽しんで読書しようとする態度を育てる。	幅広く読書しようとする態度を育てる。	読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

(2) 平成16年度学習定着度状況調査より（小学校第5学年を除く）

平成16年12月21日、岩手県教育委員会から出された学習定着度状況調査結果報告書及び結果報告は次のとおりである。

「話すこと・聞くこと」の領域において話の内容を的確に聞き取ることや、「言語事項」において漢字を正しく読む問題では、比較的高い正答率になっているが、「書くこと」及び「読むこと」の領域において、段落相互の関係をとらえて内容を表現・理解したり、文章を大きなまとまりに分けたりする問題など、全体の構想や展開をとらえながら中心的な部分と付加的な部分を区別して論理的に表現・理解することについては、十分に定着していない状況が見られる。

このことから、「読むこと」の領域においては、文章を詳細に読み取らせる指導だけではなく、目的に応じて総括的に読み取らせたり、必要な情報を選択して読み取らせたりする指導が必要である。その際、文章の構成や展開と主題や要旨との論理的な関連を踏まえて文章を理解させる指導が必要である。

また、「書くこと」の領域においては、目的や意図に応じて考えたことなどを筋道立てて文章を書くことができるよう、様々な意図や目的をもって書く場面を設定したり、より広い情報活用を通して様々な様式の文章の書き方を指導したりすることが必要である。

また、各学年、指導の工夫・改善を必要とする内容は次頁【表18】の示すとおりである。

【表18】各学年、指導の工夫・改善を必要とする内容

学年	第3学年		第4学年		第6学年	
領域等の正答率	A	87%	83%		82%	
	B	77%	60%		66%	
	C	64%	73%		61%	
	D	81%	81%		67%	
指導の工夫・改善を必要とする内容	「読むこと」特に説明的な文章について重点的な指導が必要。		「書くこと」について指導方法の改善が必要。 「読むこと」特に説明的な文章について重点的な指導が必要。		「読むこと」特に説明的な文章について重点的な指導が必要。	
	正答率		正答率		正答率	
	「指示語が指す段落を指摘する」	31%	「段落と段落の続き方に注意して書く」	25%	「文脈に沿った人物に心情を読み取る」	24%
	「適切な接続語を選択する」	21%	「事例の段落を指摘する」	51%	「文章の要旨をとらえる」	47%
	指示語の表す内容を適切にとらえたり、接続語の働きを理解させたりしながら段落相互の関係をとらえさせる。		相手意識や目的意識をもって、分かり易く書かせる。 段落相互の機能や働きを考えさせ、文章全体の構成を理解させる。		説明的文章の「読み方」を身に付けさせるとともに文章構成や語句の使い方、文末表現などの表現を手がかりに筆者の主張をまとめさせる。	

表中のAは「話すこと・聞くこと」、Bは「書くこと」、Cは「読むこと」、Dは「言語事項」を示す。

以上の結果より、小学校国語科において、全体的に正答率が芳しくなかった領域は「読むこと」であることが分かる。小学校4年生においては、「段落と段落の続き方に注意して書く」ことも落ち込んでいるが、これは、段落相互の機能や働きを考えさせ文章全体の構成を理解させる、といった説明的文章の指導に起因する内容である。

また、小学校の最高学年である第6学年の指導の工夫・改善を必要とする内容は、文章構成や語句の使い方、文末表現などである。これは第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標「内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む」ことが十分に達成されていなかったことを示す。第3学年及び第4学年では、文章の部分としての段落、段落と段落との関係、文章全体と段落との関係をとらえること、つまり文章がどのような構成になっているか、「中心語句」「中心文」「中心段落」はどこか考え、より正確に文章を読まなければならない。そのためには、段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しを付けたりするなど内容を整理する指導が大切になる。その際、意味内容だけを追うのではなく、接続語、文末、繰り返し語句などの言葉も押さえなければならない。この目標が実現されなければ、第5学年及び第6学年の内容である内容を的確に押さえながら要旨をとらえる学習には発展しない。第3学年及び第4学年までに学習した読むことの力が基になっていることは明白である。このことは、説明的文章の中学年における指導の工夫・改善の必要性を示唆する。

(3) 国語科における少人数指導

加藤明氏は、「少人数指導のねらいは、わかることやできること、考える楽しさを味わわせることによって学ぶ楽しさ、学ぶ手応えを味わわせることであり、それによって学ぶ意欲、つまり関心・意欲・態度といった情意を高めることである」と述べている。また、加藤幸次氏は、「指導の効率化である」と述べている。本研究では、その目的を「確かな学力」の育成としてきたが、国語科においては、少人数指導のねらいを「確かな学力」の育成だけに留めず「情意面をも含めた個に応じたきめ細かな指導の充実」として、以後研究を進めることとする。「情意面をも含めた個に応じたきめ細かな指導の充実」のために大事にされなければならないことは3つある。1つ目は、指導者と学習者の密で豊かな学習コミュニケーションである。教師と児童生徒との密な応答・対話、つまづきを感じたり、興味を失い欠けたりしたときにそれを意思表示できる教師と児童生徒との関係が成立することが大切である。2つ目は、個別化・個性化教育の尊重である。児童生徒の学習スピードに配慮した指導、つまり学習に要する時間の個人差を考慮した指導を行うことで、一人一人の学習を保障することが大切である。3つ目は、評価と学習活動の一体化である。学習成果を認めるとともに、成果が十分に上がらなかった場合には、何が原因なのか、どんな学習活動を行えばよいのかといった形成的な機能を生かすことが大切である。

このような少人数指導のねらい・特性と国語科の各領域の特性、学習定着度状況調査の結果から本研究においては、第3学年「読むこと」領域の指導に焦点を当て、少人数指導の在り方を探っていくこととする。

ア 「読むこと」における少人数指導の工夫・留意点

本研究の総論で述べた「学習集団の人数の違いに応じた指導方法についての工夫・留意点」を基に、国語科「読むこと」領域における少人数指導の工夫・留意点をまとめると、以下のようになる。

【形成的評価を効果的に取り入れる】

児童への声かけの機会を増やす

- ・児童の発言や音読に対しての賞賛や励ましなど適宜行い、意欲化を図る。

学習状況の把握を行う

- ・それぞれの作業進度を把握し指導する。
- ・児童の「つぶやき」を、全体の指導に生かす。
- ・児童の感想や読み取り状況を把握し、指名計画を立てる。

プリント記入やノート記入など一人学びの際には、机間指導を繰り返す

- ・短時間に何度も机間を回り、読み取り状況を把握しヒントを与えたり、発展的に考えてほしい内容にチェックを入れたりする。

【時間配分を工夫し、言語活動を充実させる】

漢字練習・音読練習などの時間をとる

- ・活動の種類やパターンに変化をもたせ、児童が常に新鮮に、意欲的に活動に取り組めるようにする。
- 音読等、児童の発表の機会を増やす（原則全員発表）
- ・声に出して本を読む、自分の考えを発表するなど言語活動の充実を図る。
 - ・一度発表した児童にも二度、三度と発表機会を与え、自分の考えが相手に伝わる満足感を味わわせる。

【集団思考場面を設定する】

発問やグループ活動を工夫し、多様な考えを引き出す

- ・具体的な叙述を踏まえ、根拠を明確にした読み取りができるように、個々の読みを基に全体での学び合いを仕組む。

- ・全体での学び合いの前に、グループでの学び合いなどとおして、児童一人一人の考えや意見を活性化させる。
- ・筆者の意図や願い・思いについても、深く味わうことのできる授業を構成する。
- ・形式的な読み取りにならないよう、説明されている内容のおもしろさにふれる学び合いを構成する。

【習熟度別の利点を生かす】

基礎コースでは、教師とともに一つ一つの事項を確認しながら読み取る

- ・内容や要旨、段落構成などをとらえるために、叙述の順序に即して丁寧に読んでいく。
- ・基礎的な言語事項や前学年の学習内容など掘り下げて指導していく。

発展コースでは、児童同士の学び合いを基に内容を読み取る

- ・全文とおして読む中で、内容や要旨・段落相互の関係をつかむことができるようにする。
- ・ワークシートの記入を基にしたグループでの学び合いの時間を設定する。
- ・基礎的な言語事項や前学年の学習内容などの指導は確認程度に留める。

また、学習環境や編成上の留意点には、次のようなものが挙げられる。

全員を教室の前方に座らせ、空き座席をつくらない。

習熟度別のクラス編成は固定的にとらえない。

イ 「読むこと」における少人数指導の集団編成の方法と取り入れる場面

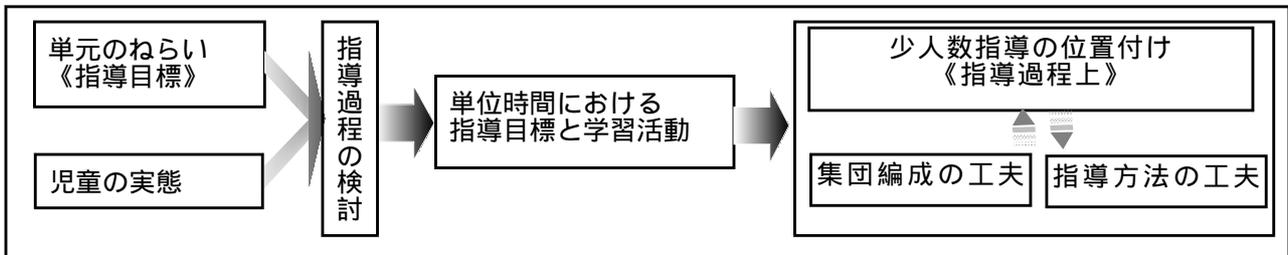
「読むこと」における集団編成の方法と取り入れる場面を【表19】のように考えた。

【表19】集団編成の方法と取り入れる場面

編 成 の 方 法	取り入れる場面
<p>【単純分割少人数】</p> <p>言語の教育は、多様な見方・考え方の児童がいることによって、互いに学び合うことができ、豊かな学びが成立するともいわれている。</p> <p>そこで、能力や態度等により学級を分割するのではなく、単純に学級を分けて、学習集団を普段の半分にする。但し、場合によっては、習熟の程度において同質になるように学級を分割することもある。</p>	<p>単元全体をとおして、または導入場面・終末場面など部分的に取り入れる。感想交流や、課題・読みのめあての確認など、児童一人一人の学習活動を保障したい場面や多様な見方・考え方にふれることで充実した言語活動が期待できる場面で取り入れるようにする。</p>
<p>【習熟度別少人数】</p> <p>文章を読み取る力は、価値ある言語活動を積み重ねることによって身に付いていく。しかし、経験や活動の質の違い、定着の違いから個人差は大きく広がっていく。</p> <p>そこで、習熟度別指導を意図した学習活動を提示し、これまでの自己の学びを振り返り、提示された学習活動を個々に選択させることで集団を編成する。学習活動を選択させる際には、教師も必要に応じて助言を行い、学習の定着の程度にあったコースを自己選択できるようにする。</p>	<p>単元全体をとおして、または展開場面など部分的に取り入れる。段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しを付けたりするなど内容を整理する場面や、接続語、文末表現、繰り返し語句などの表現の工夫に目を向け、筆者の意図を読み取ったりする場面など、学習定着度に応じた指導により児童一人一人の言語の力の伸長が期待できる場面で取り入れるようにする。</p>

2 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案

少人数指導を行う際に、まず、最初にとらえるべきことはその単元のねらいと児童の実態である。これを把握した上で、国語科においては、単位時間の指導目標に迫るためには、どの過程でどのような少人数指導を行うことが効果的かを考えていく。つまり、指導・学習活動の流れを考え、その指導の過程（プロセス）で最も効果的であると考えられる集団を編成し、その集団に適した指導方法で学習を進めていくことになる。この構想について【図7】に示す。



【図7】国語科における少人数指導の構想

これまでに述べてきたことを基に「読むこと」の説明文指導における少人数指導の試案としてまとめたものが【図8】である。

段階	目標	形態	主な学習活動	配慮事項
つかむ	作品を概観する。	単純分割少人数	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読して、初めて知ったことや驚いたこと、疑問に思ったことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 声に出して文章を読む、自分の感想を発表するなど言語活動の充実を図る。 児童の「つぶやき」を生かす。
求め	学習の見通しをもつ。	一斉 T・T	<ul style="list-style-type: none"> 形式段落に番号をつける。 説明文の読み方を考える。 読みのめあてをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に分かれても、同じ目標に向かって学習できるように読みのめあてを確認する。
深める	段落ごとに詳しく読む。	習熟度別少人数	<ul style="list-style-type: none"> 読みのめあてに沿って全文を読みとおす。 段落ごとに要点をまとめる。 小見出しを付ける。 段落のつながりを考え、文章の組み立てを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な叙述を踏まえ、根拠を明確にした読み取りができるように、個々の読みを基に全体での学び合いを仕組む。 習熟度別の利点を生かす。
まとめる	学習を振り返る。	一斉 T・T	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体を振り返り、学習したことを確かめたり、感想を発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数指導での学びを全体場で確認する。 読みのめあてに沿って、学習したことを確かめる。

時間配分を工夫しながら、言語活動を充実させる。

集団思考場面を設定する。

基礎コース
基礎的な言語事項や前学年の学習内容まで掘り下げて指導する。

発展コース
基礎的な言語事項や前学年の学習内容は確認程度に留めて指導する。

【図8】説明文指導における少人数指導の試案

3 授業実践の概要と考察

(1) 授業実践の計画

ア 対象 花巻市立桜台小学校（共同研究校）第3学年1組 37名

イ 指導計画 単元名「大事なことをたしかめよう」教材名「すがたをかえる大豆」7時間
教材名「すがたをかえる大豆」の指導計画を【資料5】のように作成した。

【資料5】教材名「すがたをかえる大豆」指導計画

時	学習活動	形態	教師の支援
1	題名を基に、大豆を使った食品について知っていることを発表する。 全文を読み、初発の感想を書く。 新出漢字や言葉の練習をする。	単純分割 少人数	・実物の大豆に触らせる。 ・大豆クイズを出題し、大豆を使った食品に関心をもつことができるようにする。 ・大豆について知っていることや大豆を使った食品を発表させる。 ・範読する。その際、段落番号をつけさせるとともに教科書に読み仮名をつけさせ、新出漢字と読替の漢字の読みの確認をする。 ・すごいと知って驚いたこと、すごいと思ったことなど、「すがたをかえる大豆」を読んだ感想を簡単にノートに書かせる。
2	初発の感想を基に、文章が幾つのまとまりに分かれているか考える。	単純分割 少人数	・児童に音読させ、読み方に間違いがないかどうか確かめる。 ・全員に感想を発表させる。 ・それぞれの感想がどの段落と関係があるか板書に示す。 ・感想を基に文章を大きく3つに分けるとしたらどこで分けるか考えさせる。 ・次の時間から本文を詳しく読んでいくが、最後にまたどこで分かれるか考えていくことを伝える。
3	「はじめ」の部分から、これから何について説明するのかとらえる。	一斉 1C2T	・個々のペースで微音読させる。 ・筆者が読者に問いかけている文、筆者の驚きが表現されている文等を手がかりに第1段落の要点をとらえさせる。 T1：授業の進行 T2：児童の学習状況の把握
4 5	大豆をおいしく食べる工夫について丁寧に読む。 音読する おいしく食べる工夫と食品にわけて整理する。 大豆に手を加えるときの言葉を書き出し、意味を確認する。	習熟度別 少人数	・習熟の程度や作業スピードに応じて、各自コースを選択させる。 T1：ぐんぐんコース T2：じっくりコース
6	それぞれの段落の小見出しを考え、文章の構成を確認する。	習熟度別 少人数	・ワークシートを利用して段落の小見出しを考えさせる。 ・小見出しを参考に文章を3つに分けることを確認する。 ・「このように」という言葉に着目させながら「終わり」の部分を見つけさせる。 ・「中」の部分は、おいしく食べる工夫について書かれていることを確認し、2段落と3段落のどちらで分けたらいいか考えさせる。
7	文章構成を確認するとともに学習感想を発表する。	一斉 1C2T	・「ありの行列」の仮説検証型の文章構成と比べることで、構造の違いを感覚的にとらえさせる。 ・自分が学んだことについて最初の感想と比べながらノートに書かせる。 ・感想を交流し、学習を振り返らせる。

第4・5時の習熟度別少人数指導

	学習活動	ぐんぐんコース	じっくりコース
4 5	1 本時の問題を確認し、音読する。 大豆をおいしく食べる工夫について調べよう。 2 おいしく食べる工夫と食品に分けてワークシートに書く。 3 大豆をおいしく食べる工夫が幾つ書かれてあったか確認する。	・自力でシートにまとめさせる。 ・「くふう」という言葉に着目させながら探させる。 ・大豆をおいしく食べる工夫について子ども同士で確認させる。 ・説明されている順序を基に、段落構成の工夫についてグループで話し合わせる。	・「くふう」と「なります」という言葉に着目させ、おいしく食べる工夫とできあがった食品を読み取らせる。 ・読み取った内容を全員で確認し、板書を基にワークシートに記入させる。 ・接続語、指示語から幾つの工夫が書かれていたのか確かめさせる。

ウ 授業実践の概要と考察

授業実践の概要と考察を【資料6】に示す。

【資料6】授業実践の概要と考察

第1時

《主な学習活動》題名を基に、大豆を使った食品について知っていることを発表する。
全文を読み、初発の感想を書く。
新出漢字や言葉の練習をする。

【指導形態】 単純分割少人数

単元への導入の時間は、児童一人一人に学習内容への興味・関心を抱かせることが大切である。本時は、学習内容である『大豆』に興味をもたせる必要がある。『大豆』に対する興味は、児童全員が大豆に触ったり、大豆を使った食品について知っていることを発表したり、クイズに答えたりという学習活動により高まると考える。
そこで、能力や習熟の程度による少人数指導ではなく、単純に学級の人数を分割し、普段の学習集団より小さな学習集団で学習することで、一人一人の発言そして体験を伴う学習活動の時間を確保する。また、子どもの実現状況を教師が今まで以上に見取りながら授業を展開する。

学習活動と子どもの反応	指導上の留意点
<p>実物の大豆を見せる。大豆クイズを出題し、大豆を使った食品に関心をもたせる。</p> <p>T:(大豆をみせながら)これが、なんだか分かるかな? C:豆...大豆 T:では、これは何でしょう?(枝豆を見せる) C:枝豆 T:ここでクイズです。この大豆は、もともと枝豆であった。 でしょうか xでしょうか? C:迷いながら かxで示す。 T:枝豆は大豆になる前に枝ごと取ったものです。 T:では、これはどうでしょう。もやしだね。もやしは大豆から芽が出たものである。 でしょうか?xでしょうか? C:(それぞれに答える) T:きなこです。おもちにつけて食べるとおいしいよね。このきなこは、もともと大豆です。 でしょうか?xでしょうか? C:(それぞれに答える) T:正解は、です。きなこは大豆を煎って粉にしたものです。</p>	<p>・実物の大豆と大豆から作られるその他の食品をできるだけ準備する。 ・全員が大豆やその他食品に触ったり、見たりできるように提示の仕方を工夫する。 ・大豆を見せても、反応のない場合や枝豆と答えた場合には、大豆だということを教える。</p> <p>単純分割少人数の感想 ・何かを発表するとき、人数が少なくて安心した。 ・いっぱい発言できてよかった。 ・静かで集中できた。 ・大豆をよく見ることができた。</p>

〔児童の様子と考察〕

児童は、社会科で「豆腐工場」を見学していたため、大豆自体に対する知識を十分もっていた。このような実態であっても、クイズをしたり、児童全員が大豆に触ったり、大豆を使った食品について知っていることを発表したり、という学習活動により、学習内容である『大豆』に興味をもたせることができた。これは、「大豆をよく見ることができた」という児童の感想からうかがえるように単純に学級の人数を分割し、普段の学習集団より小さな学習集団で学習したことで、大豆をじっくり手にとって見るという活動が可能になった成果であると考えられる。

また、普段、一言二言の発言しかできなかった児童や自分の思いや考えを十分に伝えるための時間の足りなかった児童が、授業中、何度も発言していた(担任教師より)。これは、「何かを発表するとき、人数が少なくて安心した」「静かで集中できた」という児童の感想からうかがえるように、少人数の集団で学習したことにより、児童が発言し始めるのを待っていられただけの時間の余裕を教師も周りの児童も見い出すことができたこと、発言する児童の抵抗感を軽減できたこと、によるものと考えられる。

第2時

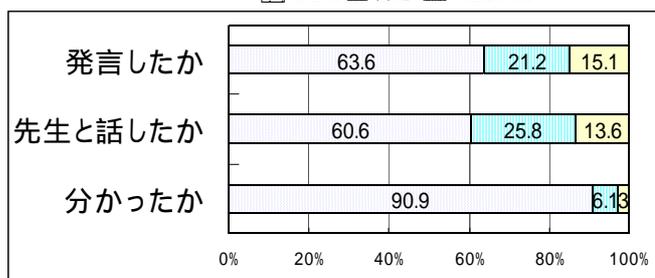
《主な学習活動》初発の感想を基に、文章が幾つのまとまりに分かれているか考える。

【学習形態】 単純分割少人数

第2時は、児童一人一人の初発の感想を位置付け、誰もが学習の主体者であることを自覚させることが大切である。そのためには、全員に初発の感想を発表させるとともに、それぞれの感想がどの段落と関係しているのか板書等で明確に示す必要がある。これは、初発の感想であっても文章とかけ離れたところで思いを巡らせるのではなく、思いの拠り所を常に文章に求め、根拠を明らかにしながら考えていくということを示すものである。このことは、論理的思考の素地を育てることにつながると考える。そこで、少人数指導においては、一人一人の発表時間の確保、多様な考えの交流を可能にするために、単純に学級の人数を分割する単純分割少人数指導を行う。

学習活動と子どもの反応	指導上の留意点
自分の感想は大きくどこに関係するか考える。 T：昨日は、みんなに「すがたをかえる大豆」の感想を書いてもらいました。自分の書いた感想は、どの段落に書かれている内容と関係があるか考えてみてください。たとえば、「大豆を実は毎日食べていたんだなあ」という感想の人は、第1段落と関係あるよね。というように考えてみてください。一つの段落とは限らないかもしれません。どうしても分からない人は、あとで発表したとき、みんなに考えてもらおうね。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感想がどの段落に関係するのか考えられない場合は、周りの友達に教えてもらってもいいことを伝える。 ・発表の際に、友達に教えてもらうこともできるので、そんなに時間をかけないで進める。
感想を発表する。 T：それでは、感想を発表してください。そして、関係している段落も教えてください。 C：感想発表	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感想を簡単にまとめながら、板書に位置付ける。

学習振り返りカードから できた 普通 できなかった N = 15



机間指導で個に応じる教師



〔児童の様子と考察〕

第1時で書いた感想がどの段落の内容と関係があるのか考えさせ、全員に発表をさせた。そして、教師は発表内容を板書で示した。感想が板書に位置付けられたことで、児童は、自分の感想は誰と一緒にあったのかという関心をもちながら「友達の感想を聞く」という学習に集中した。また、本時は、「意味段落をとらえる」という第3学年の児童にとって容易ではない学習内容であったが、ほぼ全員に近い児童が、この目標を実現することができた。このことは、学習振り返りカードの集計からも分かる。これは、普段は、集中が途切れやすい「感想を聞く」という行為にそれほど時間を要しなかったこと 教師が全員分の感想を板書できる時間的な余裕があったこと 板書を関連付けた初発の感想の分類を基に意味段落をとらえることができたこと、という単純分割少人数に因る成果と考える。

第3時

《主な学習活動》「はじめ」の部分から、これから何について説明するかとらえる。

【指導形態】 一斉（TT指導）

第3時は、「はじめ」の部分を読み取った。「はじめ」の部分は、本文が大豆の加工法を紹介した文章であることを示す大切な役割を果たしている。題名と関連付けながら、段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しをつけたりすることによって、これからの学習への目的意識や必要感をもたせることができる。

前時までは、単純分割の少人数指導を行ってきたが、グループ間の学習を交流するとともに学級全員の学習目標を一つにするために、一斉指導を行う。一人一人の学習状況を見取ることが難しいため、T1は学習の進行、T2は学習状況の把握と役割分担し、次の習熟度別少人数指導のコース選択に際して適切な助言ができるようにする。

コースべつ学習のしょうかい

次の国語の時間は、2つのコースにわかれて学習します。自分が学習したいコースをえらんで、でかこんでください。



名前

じゅくりコース
先生といっしょに、1段落ごとに書かれている内容を確認しながら、じっくり学習を進めます。しつもんしたいことはどんどん聞くことができます。
文章を読んだり、課題の答えを自分一人で探したりするのは、ちょっと苦手という人におすすめのコースです。

ぐんぐんコース
文章を読んで課題の答えを自分で探したり、グループで答えを確認したりしながら学習を進めます。先生もいますから、わからないことは聞くことができます。
自分のスピードで、ぐんぐんプリントを進めたいという人におすすめのコースです。

→ コース選択の結果

じゅくりコース 17名
ぐんぐんコース 20名



コースを選択する児童

第4・5・6時

《主な学習活動》大豆をおいしく食べる工夫について読み取る。

【学習形態】 習熟度別少人数指導

第4・5・6時は、「中」の部分を読み取った。「中」の部分は、大豆をおいしく食べる5つの工夫について、大豆のすがたが変わる度合いに従って順番に述べられている。これまでの学習を基に、大豆に手を加えるときの言葉とできあがった食品を結び付けさせ、大事なことを落とさず読み取らせたり、接続語、文末表現、繰り返し語句などの表現の工夫に目を向けさせ、筆者の意図を読み取らせたりする指導が大切である。

しかしながら、児童一人一人の学習状況や能力には差がある。既習事項を生かした第4時第5時、第6時の展開においては、学習の定着度や実現状況に応じた指導が必要である。そこで、児童一人一人の意思を尊重したコース別学習すなわち習熟度別少人数指導を行う。じっくりコースは、教師とともに叙述の順序に即し丁寧に読み進め、ぐんぐんコースは児童の一人学びを主にしながら進める。

〔児童の様子と考察〕

第3時は、一斉指導の中で「はじめ」の段落の読み取りを行った。その後、第4・5・6時の習熟度別少人数指導のためのコースを選択させた。一斉指導で読み取りを行い、次時からの学習内容を見通させたことで、児童は、自分の学習への実現状況を考慮しながら適切なコースを選択することができた。また、一斉指導の時間は、教師にとって、お互いの指導内容を確認し合ったり、単純分割で自分が受け持たなかった学習集団の実現状況を把握したりする上で有効であった。

第7時

《主な学習活動》・小見出しを確認する。

- ・「ありの行列」の文章構成と比べることをとおして、解説型の文章構成とはどんなものか感覚的にとらえる。
- ・「すがたをかえる大豆」の感想をノートに書く。
- ・感想を交流し、学習をふり返る。

【学習形態】 一斉（T・T）指導

読み取りの最後の時間であることから、本単元で押さえておきたい大事なことを全員で確認することが大切である。また、初発の感想と学習後の感想を比べ、自分の学びを実感するとともに、一人一人の学びを学級全員で共有することも必要である。

そこで、本時は、学習交流を主とした一斉（T・T）指導、を行う。T1は学習の進行を主に行い、T2は個別指導を主に行う。特に文章構成の把握や感想記述の際には、一人一人の学習状況を見取り、個に応じた支援ができるようにする。

学習活動と子どもの反応	指導上の留意点
<p>T：では、それぞれの段落がどんな役割をしていたのか、考えてみましょう？まず 段落は、何の役割をしているかな？</p> <p>C：こんな事の説明をするよということをお教えています。（つまり、話題を投げかけているということだね。）</p> <p>T：～ 段落は？</p> <p>C：おいしく食べる工夫です。（おいしく食べる工夫についての説明ですね。）</p> <p>T： 段落は？</p> <p>C：まとめです。</p> <p>T：「ありの行列」の文章構成とどんなところが違いますか？</p> <p>C：「ありの行列」は、問題があつてそれに実験したことを時間を追って書いていくけど、「すがたをかえる大豆」は、並べて説明しています。</p>	<p>・はじめ、中、終わりの大きな区切りで文章の構成を考えさせる。</p> <p>・検証型の説明文と解説型の説明文の違いを感覚としてとらえさせる。</p>

学習をふり返ったの児童の感想例（発表児童の感想）

大豆の良いところに気付いて、たくさんの工夫してきた昔の人々はすばらしいと思いました。これからも、大豆から作られている食品を毎日食べたいです。

大豆のことは、いろいろ知っていたけど、勉強してはじめて分かったこともありました。少ない人数で勉強してたくさん発言して楽しかったです。大豆にさわったことも楽しかったです。

ありの行列と違う文章の組み立てになっていることが分かりました。他にも、文章の組み立て方があるのか調べてみたいです。今度、自分で説明文を書くときには、「すがたをかえる大豆」の書き方を参考にしてみたいです。

〔児童の様子と考察〕

読み取りの最後の時間であることから、一斉（T・T）指導を行った。しかし、『「ありの行列」の文章構成と比べることをとおして、解説型の文章構成とはどんなものか感覚的にとらえる』という学習活動を行ったために、集中を欠く児童もいた。文章構成の学習は、児童一人一人の学習状況や能力に差が出やすいことから、習熟度別少人数指導で行った方が、児童の実態に即した学習展開が可能となり、指導目標に迫ることができると考える。

しかし、感想交流は、発表児童の例のとおり、いろいろな視点から学習をふり返ったり、学びを共有したりできるため、一斉指導が効果的と考える。その際、発表できる児童数が限られることについては、今後、検討していかなければならない。

4 実践結果の分析・考察

(1) 分析・考察の内容と方法

少人数指導の効果について、【表20】に示した内容・方法で分析・考察を行った。

【表20】分析・考察の内容と方法

調査項目	対象	調査方法	処理・解釈の方法
指導事項の定着状況	児童	テスト法	・ t 検定により事前事後の結果を比較し、分析・考察する。 ・ 正答率を事前事後で比較し、分析・考察する。
少人数指導を取り入れた授業についての意識	児童 教師	質問紙法	・ 事後に調査し、分析・考察する。

(2) 実践結果の分析・考察

ア 指導事項の定着状況

研究担当者作成のテストにより、指導事項の定着状況を事前と事後で調査した。

結果は【表21】【図9】のとおりである。

事前事後の比較により有意差が認められるのは、学級全体とじっくりコースである。ぐんぐんコースでは、有意差が認められなかった。しかし、【図9】から分かるように、全体での正答率が70%を超えること、じっくりコースでは、22.5%の伸びが認められること、ぐんぐんコースでは、事前で73.5%という高い正答率を示しているにもかかわらず、事後において8.1%伸びていることから、少人数指導の結果、指導事項の定着は図られたとらえる。

これは、単元全体の流れを見通し、その指導過程の中で、指導形態と指導方法を工夫することで確かな学力の向上が図られると考えられる時間に、単純分割少人数指導や習熟度別少人数指導を位置付けたことで、それぞれの集団の学習の実現状況に即した指導や個に応じたきめ細やかな指導が可能となった成果と考える。また、特に、じっくりコースの伸びが大きいことから、指導形態と指導方法の工夫は、確かな学力の向上に大きく影響を及ぼすものであることを示唆していると考ええる。

【表21】指導事項の定着状況

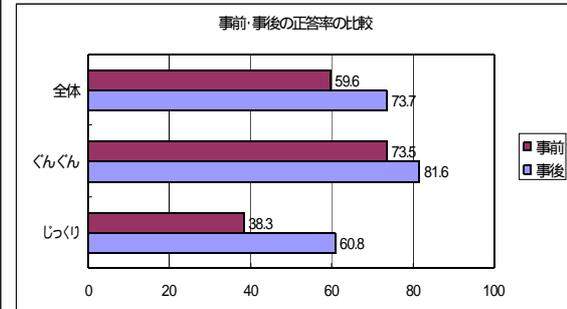
	事前テスト		事後テスト		相関係数	t 値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
全体	5.97	3.34	7.37	2.82	0.76	3.50	*
じっくり	3.83	3.07	6.08	3.68	0.79	3.30	*
ぐんぐん	7.39	2.75	8.22	1.70	0.69	1.71	-

「注」1 事前テスト10月、事後テストは11月に実施した
2 設問は10問で、10点満点とした
3 有意差の欄にある*は、t 検定において有意水準5%で有意差があることを示す
4 N = 総数を示す
5 t 検定（平均点の差の検定）に用いた公式は次のとおりである。

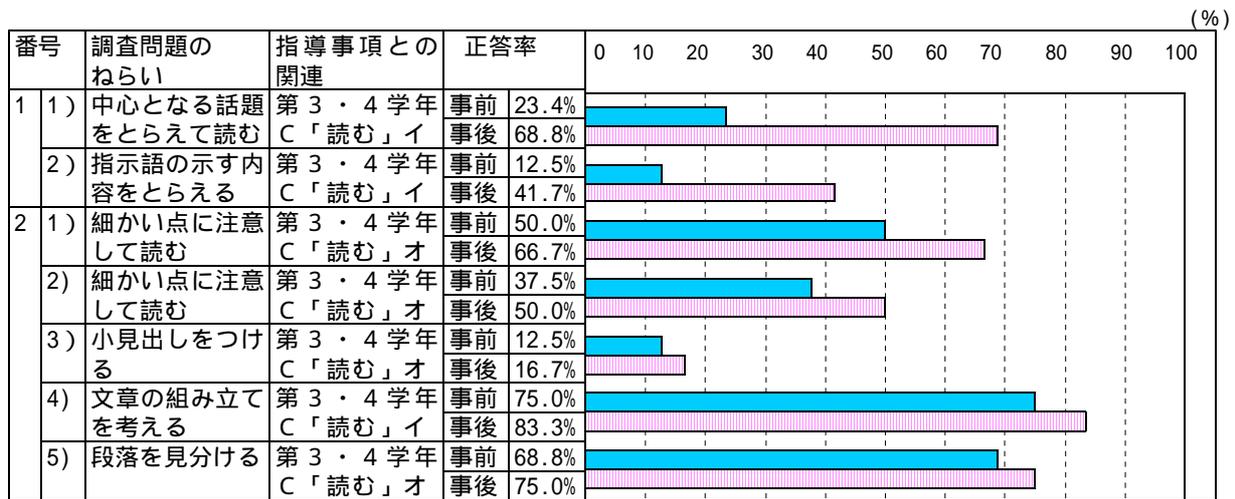
$$t = \frac{\bar{X}_2 - \bar{X}_1}{\sqrt{\frac{S_1^2 + S_2^2 - 2rS_1S_2}{n - 1}}}$$

なお、X1とX2は事前と事後テストの平均点、S1とS2は事前と事後テストの標準偏差、rは相関係数、nは人数を表す

	事前の正答率	事後の正答率
全体	59.7%	73.7%
じっくりコース	38.3%	60.8%
ぐんぐんコース	73.5%	81.6%



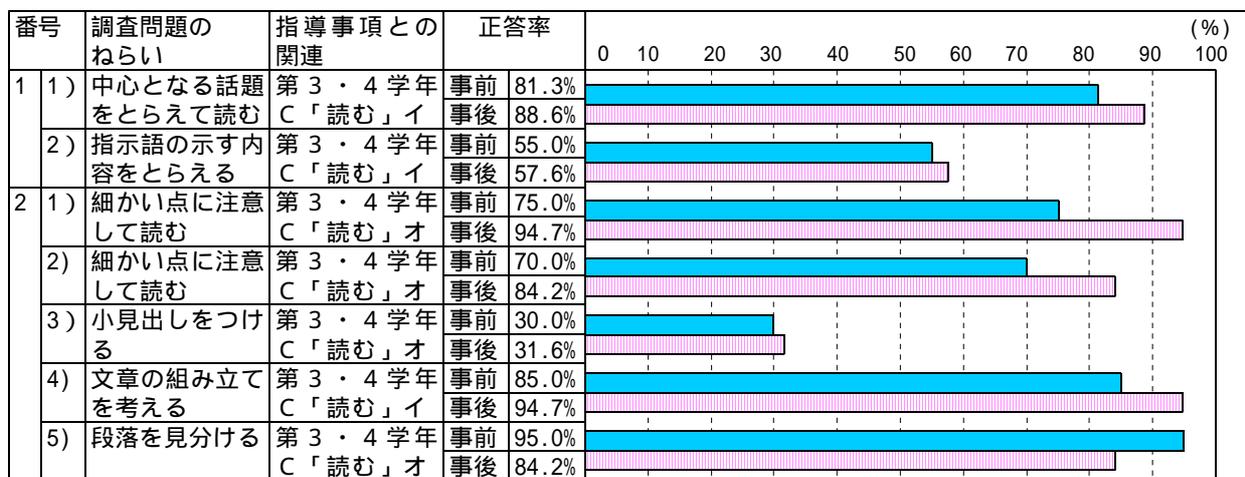
【図9】事前・事後の正答率の比較



【図10】じっくりコースにおける小問分析

【図10】は、じっくりコースにおける小問分析の結果である。すべての項目で伸びがみられる。特に、「中心となる話題をとらえて読む」「指示語の示す内容をとらえる」といった指導事項の伸びが著しいことが分かる。

じっくりコースでは、「書かれている事柄の順序を押さえる」「接続語の使い方に注意する」「事例の配列の仕方に注意する」といった第1・2学年の指導内容にもふれながら、一文一文丁寧に読み取る指導を行った。その結果、「内容の中心をとらえて読む」といった最も基本的な指導内容が定着したと考える。



【図11】ぐんぐんコースにおける小問分析

【図11】は、ぐんぐんコースにおける小問分析の結果である。段落を見分ける項目以外で伸びが見られる。じっくりコースに比較すると、伸びは小さいが、正答率は高くなっている。伸びが大きい項目は「細かい点に注意して読む」ことである。

ぐんぐんコースでは、ワークシートを用い、グループの話し合いにより内容の読み取りをさせた。話し合いをする際には、必ず文中から理由を見つけ出すという課題を課した。このことにより文章の細かい点に気をつけて読む力が身に付いたものとする。

しかし、段落を見分ける項目の正答率は、事前より低くなっている。この問題の解答は「段落を見分けるためには、一字下がりのところに目をつけよう」とあり、説明的文章を読むための基礎的な事項である。ぐんぐんコースでは、基礎的な事項の指導を取り上げなかったが、ぐんぐんコースで

あっても必要な事項は確認しながら進めなければならないことを示唆している。

単元をとおして習熟度別少人数指導を行ったわけではないので、一概に習熟度に分けたことによって効果があったとは言い難い。が、じっくりコースぐんぐんコースともに小問分析において伸びがみられるのは、指導事項である「中心となる話題をとらえて読む」「段落を分ける」「要点を見つける」「小見出しを付ける」といった内容を児童の定着状況に応じて繰り返し指導したり、取り上げて指導する時間に幅をもたせたりした結果と考える。

イ 少人数指導を取り入れた意識の状況

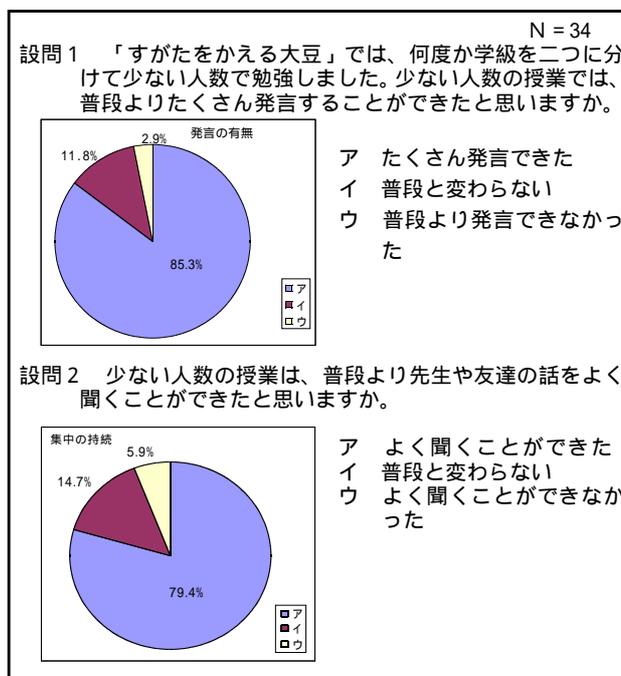
(ア) 児童の意識の状況

少人数指導に対する、児童の意識の状況をまとめたものが【図12】である。

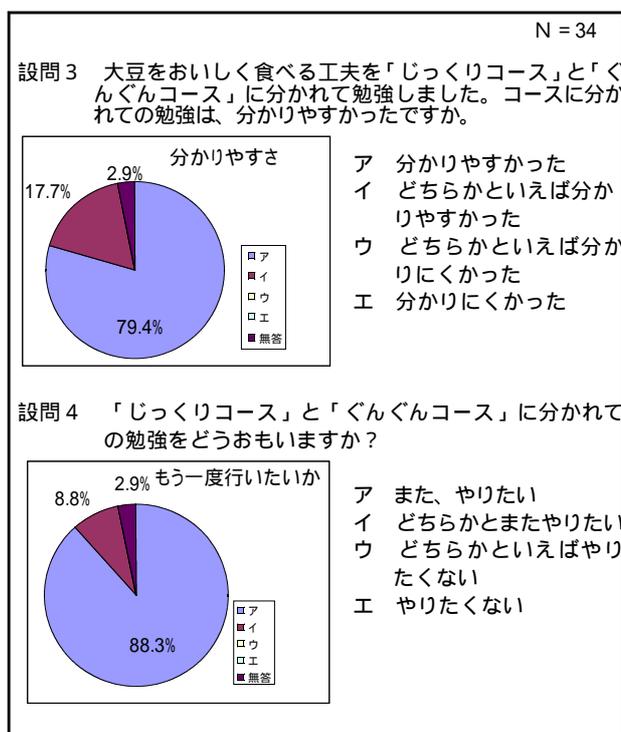
少人数指導における発言の有無について、85.3%の児童がたくさん発言できたと答えている。話を聞くことについては、79.4%の児童がよく聞くことができたと答えている。このことから、児童自身が少人数指導の効果を実感していることがうかがえる。

【図13】は習熟度少人数指導に対する児童の意識の状況をまとめたものである。コースに分かれての勉強は、分かりやすかったかという設問に対して「分かりやすかった」「どちらかといえば分かりやすかった」と答えた児童は、合わせるとほぼ100%である。また、コースに分かれての勉強をまたやりたいかという設問に対してもほぼ100%の児童がまたやりたいと答えている。自由記述には、「たくさん発言できた」「勉強が進んで楽しかった」「スピードがあってやりやすかった」「みんな真剣だった」「黒板が見やすかった」「安心して発言できた」等の肯定的な意見が多々書かれていた。

このことから、コースに分かれての学習は、児童の「分かった」「またやりたい」という満足感、充実感を喚起する上で効果があることが分かった。



【図12】少人数指導に対する児童の意識の状況



【図13】習熟度別少人数指導に対する児童の意識の状況

(1) 教師の意識の状況

【表22】は、少人数指導に対する教師の意識の状況を示したものである。

【表22】教師の意識の状況

(～ は、少人数指導の効果に関する記述)

設 問	回 答
<p>1 単元の導入で学級を単純に二つに分けて授業を行いました。普通どおりの人数で学習するのに比べて少ない人数での学習は、学習内容への興味・関心を高める上で効果があったと思いますか。</p>	<p>あったと思う。 理由：人数が多いと発言の機会が少ない上、機会を増やそうとすると児童には聞く時間の延長という努力が強いられる。そのため、集中力がもたず、気持ちが学習内容から離れてしまう子が出てくる。少人数の授業では、<u>余員の初発の感想を取り上げることが可能になり、それが面倒ととらえられがちな段落分けに直接結び付いたことで、充実感を味わえる授業展開になった。</u></p>
<p>2 今回の学習では、読み取りの際に習熟度別のコースに分かれて学習しました。コース別の学習は、学習内容の理解を深めるのに効果があったと思いますか。</p>	<p>あったと思う。 理由：学習の傾向が似通った児童同士が集まっているので、<u>読み書きに要する時間の差が通常より少なくなり、一人一人が安心して学習できていた。</u>下位の子にとっては、<u>くどいくらいの発問や指示、説明をしながらゆっくり進めることができたので、挙手や発言、つぶやきが多かった。</u>これこそが学習内容を理解している姿と言える。また、<u>教師が一人一人の教科書やノートに目をとおし助言する時間も充分確保することができた。</u></p>
<p>3 今回のように、少人数で行った授業は、通常的人数で行う授業と比べて、児童の学習姿勢、態度、意欲や学習方法等について違いを感じることはありませんでしたか。違いを感じた面について内容を書いてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示や発問の聞き返しが減った。 ・ 普段発言したことの無い子が、自ら挙手し立って発言することができた。 ・ 学習場所へ移動する黒板や用具を運ぶなどの準備作業が素早くできた。(意欲の表れ) ・ 人数が多いと“聞き流し”を避けるために音読と書く作業を多く取り入れないとどの子にも学習を保障することが難しいのだが、話し合うという形でも学習に集中していられる子どもが多かった。
<p>その他(感想・意見)</p>	<p>ある程度、力の差がないと理解の深まりや広がり期待できないのではないかと考えていたが、その前にまず、学習意欲を引き出してやるのが不可欠なので、<u>国語科においても少人数指導が効果的であると実感した。</u> コースを分けることによって、個々の力に添った形での学習が期待できる。 それぞれのコースの実態により内容や進度が異なるので、指導内容についての教師間の確認が必要である。 自分が担当していないコースでは、どの程度の力がついたのか分からない。 基礎コースの子たちには、学習の積み重ねを自分で実感できるような方法の工夫も必要である。</p>

教師の意識の状況から、少人数指導における、児童の学習に対する興味・関心を高める上での効果、内容の理解を深める上での効果、学習姿勢・態度・意欲面での効果等を感じていることがうかがえる。反面、コースに分かれた際の教師間の指導内容及び進捗の確認、児童の学習定着度及び能力育成状況の把握等で実施に少人数指導に踏み切る際の不安もうかがえる。

5 研究のまとめ

4の実践結果の分析と考察から、小学校国語科における少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法について分かったことは次のとおりである。

- (1) 国語科においては、単位時間毎に少人数指導を計画するのではなく、単元全体の流れを見通し、その指導の過程（プロセス）で最も効果的であると考えられる単位時間に、最も効果的であると考えられる学習集団を編成し、その集団に適した指導方法で学習を進めていく少人数指導が効果的であること
- (2) 単純分割少人数指導、習熟度別少人数指導ともに、児童の学習の実現状況に応じて、発言を促す、既習事項の確認をするなどでき、個に応じたきめ細やかな指導を行う上で有効であること
- (3) 少人数指導、特に習熟度別少人数指導は、児童の学習意欲の向上につながる情意面、確かな学力の向上につながる能力面に効果をもたらす指導の一方策であるという見通しをもてたこと
- (4) 習熟度別少人数指導のコース選択の際の配慮事項として、それぞれのコースの実態に即した学習活動と学習進度を提示し、その違いを明確にして児童に示す必要があること
- (5) 単元の全時間で少人数指導を実施するのではなく、指導過程の途中で何時間か一斉指導（T・T）を行うことにより、教師間の連携を図ることが可能となること

今回示した試案では、習熟度別少人数指導の設定を3時間とした。これは、国語科「読むこと」領域における習熟度別少人数指導は、児童の意識の面から取り組みにくいものと考えていたためであるが、意識調査の結果、抵抗感がないことが分かった。また、事前事後テストの結果、指導事項の定着に効果があることも分かった。このことから、他学年、単元によっては指導方法を工夫することで、もっと多くの時間で実施できるものとする。

英語科における少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案の作成と授業実践及び実践結果の分析・考察

1 少人数指導を効果的に行うための指導形態と指導方法の試案作成に関する基本的な考え方

(1) 中学校英語科の特性から見た少人数指導のねらい

ア 学習指導要領「外国語」の目標の三つの柱から

学習指導要領に示された外国語科の目標は、次の三つの柱にまとめることができる。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る 聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う

この三つの関係は、**聞く** や **話す** の実現を視野に入れながら、**読む** の実現を図ろうとするものである。言い換えると、コミュニケーションへの関心・意欲・態度や、言語や文化についての知識・理解を基盤にしながら、実際に聞いたり話したりといったコミュニケーションを目的として外国語を運用する能力の獲得を目指したものである。従来の学習指導においては、**読む** にあたる言語材料の習得に終始しがちで、言語活動が十分に行われていない傾向が見られた。しかし、実際の言語運用の能力の習得が最終目標であることから、授業においても、生徒が実際に英語を使用して活動する機会を十分に保障し、言語活動をとおして言語材料の定着を図る必要がある。一般に「語学は少人数で学習する方が効果的である」と言われているのも、この「活動の機会の十分な保障」ということがその背景にあると考えられる。

イ 英語科の特性から

英語は繰り返し練習を積み重ねていく教科であり、生徒の「学力」は連続的に発達していくものである。そのため、内容のまとまり毎に学習する「単元」という考え方は必ずしもなじまない。しかし実際には、英語の学習指導は、教科書や教材をどのように用い、どのようなことに重点をおいて指導を展開するかということと不可分に結び付いている。したがって、コミュニケーション能力を支える「言語や文化の知識・理解」については、教科書の教材配列に即して学習を積み重ねていく。すなわち、語彙や文法事項等を中心とした言語材料の習得においては「単元」を単位として学習することになる。

しかしながら、実践的コミュニケーション能力を具体的に示す、聞く、話す、読む、書くといった四つの技能は、身に付いた言語要素を用いながら総合的に積み重ねられていくものである。そのため、単位時間や単元で達成目標を設定するよりも、さらに長い学期や学年の単位で、「ALTに挨拶ができ、自分の体調について説明ができる」「ペアで道案内ができる」「クラスメートの前で、自分の将来の夢について発表することができる」のように設定することが必要である。このような目標は、総合的な言語活動として計画的に実施することが望ましいと考える。

これらのことから、英語科の授業を進めるに当たっては、日々の授業で言語材料の定着を図るための言語活動を多く取り入れること、また単元の最後にはその単元に身に付けるべき言語材料を整理して学習すること、さらに、学期や学年に数回、これまで身に付けた言語材料を総合的に駆使するような言語活動を計画的に設定することが求められている。

(2) 少人数指導の効果

英語科における少人数指導の効果について、昨年度の研究及び先行研究（広島市教育センター、2002、他）を基に、次頁【資料7】のようにまとめた。

【資料7】英語科における少人数指導の効果

【メリット】

一人一人が授業に参加できるようになる

- ・発言や質問がしやすくなる、集中が持続する、発表の機会が増える
- ・そのため、通常規模では授業をリードする一部の生徒の陰に埋もれてひっそりと学習していた生徒が、主体的に学習に参加するようになる

一人一人の達成度や学習状況を教師が短時間に確認することができる

- ・机間指導が何度もできる、全員に音読や単語の発音をさせても時間がかからない
- ・生徒のつぶやきや疑問を取り上げて、授業を展開できるようになる

習熟度別に分けた場合、それぞれに応じた指導が可能となる

- ・英語が得意な生徒は、力を十分に伸ばすことができる
- ・英語が苦手な生徒は、安心して質問したり、分かるまでじっくり取り組んだりすることができる

【デメリット】

少人数に応じた指導法や教材の開発が不十分である

学習進度や学習内容に差が生じることがある

音読の声が小さいなど、不活発でおとなしくなる場合があり、授業が行いにくい

習熟度別に分けた場合、下位の生徒が集まるクラスで生徒指導上の問題が起こりやすい

これらは「少人数指導」自体のデメリットではないが、検討していかなければならない課題ととらえる。

英語科における効果的な少人数指導の方法を考える場合、先行研究等から明らかになったこれらの効果について、メリットを活かし、デメリットを補うための具体的工夫や配慮事項について、十分に検討する必要がある。

(3) 中学校英語科における少人数指導の工夫・留意点

本研究の総論で述べた「学習集団の人数の違いに応じた指導方法についての工夫・留意点」を基に、英語科における少人数指導の工夫・留意点について、次の【資料8】のようにまとめた。

【資料8】英語科における少人数指導の工夫・留意点

【形成的評価を効果的に取り入れる】

生徒とのインタラクションを増やす

- ・Warm Up やオーラル・イントロダクション、内容理解のQ & A等、教師と生徒の英語によるやりとりを意識的に多く取り入れる。
- ・一人一人の英語による応答内容にふさわしい反応やコメント、賞賛と励ましを挟みながら、適宜、文法や発音等のチェックも入れていく。

言語活動中に生徒の中に入り、細かな注意やチェックを行う

- ・人数が多いと全体を大まかに把握するだけの指導になりがちだが、20人弱であれば、全体をコントロールしながらそれぞれのペアやグループに指導することが可能である。
- ・言語活動中に必ず教師のところに来てチェックを受ける等のルールを作っておく。
- ・言語活動中の生徒の「つぶやき」を拾って、全体の指導に生かす。

ワークシート等による作業では、机間指導を繰り返し、採点・訂正をこまめに行う

- ・短時間に何度もまわりながら、進んだところまでマル付けをしたり、見直してほしい部分にチェックを入れたりする。
- ・発展課題を準備したり、ペア同士の教え合いを仕組んだりする。

【時間配分を工夫し、言語活動を充実させる】

音読等、生徒の発表の機会を増やす（原則全員発表）

- ・全員が発表するという前提から、課題に主体的に取り組むようになったり、練習への意欲や集中が増したりして、習得につながりやすい。
- ・一度発表した生徒にも、二度、三度と発表機会を与えることで、「失敗しても次」と失敗への抵抗感を弱めたり、「今度はもっと上手に」と考えて発表後も集中が持続したりするようにさせる。
- ・人前で発表することに慣れさせることで、コミュニケーションへの意欲を高める。
一つの活動を繰り返すのではなく、活動のバリエーションを増やす
- ・ドリルを多く行うことで、言語材料の確かな定着を目指す。
- ・同じ活動ばかりでは単調になってしまうので、活動の種類やパターンに変化をもたせ、生徒が常に新鮮に、意欲的に活動に取り組めるようにする。
- ・簡単な課題ばかりではなく、「難しそうだがちょっと頑張ればできそう」な課題を設定することで、生徒の集中力・意欲を高める。

【集団思考場面を設定する】

発問やグループ活動を工夫し、生徒の生活経験から得た知識を引き出す

- ・新出語彙、未習表現等について、カタカナ英語等の知識から類推させる。
- ・類似表現のニュアンスの違いについて、使用される場面状況を与えることで、生徒に考えさせる。
- ・教科書本文等の英文について、文脈や背景知識等を生かしながら、そこに込められた意図や願い・思いについて、深く味わうような授業を構成する。
- ・表現活動の前に、グループでの意見交換等をとおして、生徒一人一人の考えや意見を活性化させ、「何を伝えるのか」「言いたいことは何か」をそれぞれがもって英文を考えられるように指導する。（グループで一つの解答を作ろうとすると、主導権を握る一部の生徒のみの活動になってしまいがちなので、注意する。）

【習熟度別に分かれた利点を生かす】

基礎コースでこそ、口頭でのドリル練習を十分行う

- ・耳（音声）をとおして覚えたことと、目（文字）をとおして理解したことを、口頭で発表させることで、確かな定着へとつなげていく。

それぞれのコースに適した教材を用いる

- ・基礎コースでは、文法事項等の言語材料を繰り返し使用する活動を組む。
- ・「教え込み」ではなく、自分で「分かった！」と納得できることを大切に指導する。
- ・発展コースでは、オープンエンドな課題、自由度の多い表現活動を目指す。

また、学習環境や編成上の留意点には、次のようなものが挙げられる。

全員を教室の前方に座らせ、空き座席をつくらない。

習熟度別のクラス編成は固定的にとらえない。

2 英語科における効果的な少人数指導の試案

(1) 英語科における学習のねらいに応じた少人数指導モデルの試案

これまで述べてきたことを基に、少人数指導の利点を生かした英語科の指導モデルを、授業のねらいに応じて、【表23】に示す、型（教師による意図的均等分割）、型（言語材料の習熟度別）と考えた。

通常の授業は、繰り返し言語活動を行って生徒の実践的コミュニケーション能力を育成することをねらい、できるだけ型で行うこととする。ただし、県内の中学校の実態をみると、指導者等の関係で毎時間少人数指導を行うのは難しい状況も考えられる。この場合には適宜通常学級で一斉授業と組み合わせながら、単元の中の数時間で部分的に実施することも可能である。

一方、単元の最後等のまとめの段階では型を実施する。言語材料の定着を図る指導においては、マスタリーラーニングが効果的であるということは、様々なデータ（国立教育政策研究所調査2004等）からも実証されている。また、複数単元毎に実施する総合的な言語活動の準備段階でも、型が望ましい。これまで学習してきた言語材料を活用して言語活動に取り組むため、その習熟度に応じた教材や指導方法が工夫できるからである。ただし、発表段階では、少人数ではなく通常学級に戻して授業を行うのがよいと考える。

【表23】英語科における少人数指導のモデル

型	学習の主なねらい	少人数編成の観点	学習指導の形態等
	言語活動を主体にした実践的コミュニケーション能力の育成	教師による意図的均等分割（ペア活動、グループ活動を重視）	単元全体をとおして、または部分的に実施 言語活動を多く取り入れる
	語彙や文法等の言語材料の定着 総合的な言語活動の準備段階	語彙や文法事項等の言語材料の習熟度を基に、生徒の希望で編成（基礎コースをできるだけ少ない人数で編成するとよい）	単元の最後、または複数単元終了後に実施（マスタリーラーニング） 総合的な言語活動では、基礎コースと応用コースは同じ課題（タスク）に挑戦するが、教材や指導方法をコースに合わせて工夫する

型の教師による意図的均等分割とは、学級を単に出席番号順のように機械的に単純分割するのではなく、それぞれのクラスに授業の雰囲気をよくするリーダー的生徒を配したり、ペア活動やグループ活動が効果的に行えるように人間関係等にも配慮したりするなど、学習集団・生活集団としてうまく機能するように、クラス編成を行うことを意味する。簡便な方法としては、学級の生活班を単位にしながらクラス分けする方法が考えられる。また、コミュニケーション活動の最小単位であるペアの編成を基本としながらクラス編成を行う実践も見られる。（富山県総合教育センター, 2004）いずれにしてもペアが効果的に機能するように配慮することが大切である。お互いに励まし合いながら学習に取り組むことで、意欲が高まる。ペアで教え合う場合に、答えを教えるのではなく、ヒントを与えながら分かる過程を二人で共有し合うことが効果的と考える。

型の言語材料の習熟度によるコースの編成は、生徒の希望を基に行うが、生徒が参考とすべきチェック問題を準備するなどして、コース選択が適切に行われるよう配慮する。また、基礎コースをできるだけ少人数で編成できるよう調整を図ることで、効果が高まると考える。

なお、この少人数指導の編成は1クラス2分割を原則とする。コミュニケーションが人間関係を基盤とするという観点から、2クラス3分割等クラスをまたぐ展開は、避けた方が望ましい。

(2) 中学校英語科における少人数指導の試案

42頁 1 (3) で述べた工夫・留意点を基に、型、型の指導試案をそれぞれ【表24】【表25】のように作成した。

【表24】英語科における少人数指導の試案 型（言語活動中心）

	学習内容	留意点
前 半	1. ウォーム・アップ	・毎時間継続した取り組みとする ・全員が参加する内容であること【 】
	2. 目標文法項目の導入	・教師とのインタラクションを多くする【 】
	3. 文型練習	・ペアワークを中心に繰り返し練習を行う【 】
	4. 疑似コミュニケーション活動	・短い活動でバリエーションを多くする【 】 ・教師のチェックする場面を活動に盛り込む【 】
後 半	(ウォーム・アップ) (前時の復習)	
	5. 新出語句の導入	・例文や発音から意味を類推させる【 】
	6. 教科書本文の内容理解	・背景知識を生かし、生徒同士で考えさせる【 】 ・音読に生かせる英文の意図・思いを考えさせる【 】
	7. 音読練習	・全員に音読の発表機会を与える【 】 ・音読の目標レベルを自己決定させる【 】
	8. 学習のまとめ	・ワークシート等で生徒個々の定着状況を把握する【 】

「注」1 留意点の【 】内の数字は、42頁【資料8】「英語科における少人数指導の工夫・留意点」に対応する。
2 題材内容によっては、2時間扱いで行うことも考えられるので、前半・後半とした。

【表25】英語科における少人数指導の試案 型

(習熟度別による言語材料の定着 総合的な言語活動をととした言語材料の活用)

	学習内容	留意点
定 着	1. ウォーム・アップ	・毎時間継続した取り組みとする ・これから行う活動と関連付けた内容を工夫する
	2. 文法のまとめ	・基礎：音と結び付けながら形態の定着を図る【 】 ・発展：場面をとらえさせながら、その文法・表現の本質を理解させる【 】
活 用	3. 機能的コミュニケーション活動	・基礎：最小限のモデルを与えて活動させる【 】 ・発展：表現の自由度が大きくなるよう活動を工夫する【 】
	(4. Writing)	・3の活動内容と結び付けた Writing 活動をさせる ・個々の生徒のチェックをこまめに行う【 】
	5. 学習のまとめ	・学習の結果、何ができるようになったか具体的に示す ・内容によっては、学級全体で発表の機会をもつ

「注」1 留意点の【 】内の数字は、42頁【資料8】「英語科における少人数指導の工夫・留意点」に対応する。
2 言語材料を整理して定着を図る段階と、総合的な言語活動をととして言語材料を活用する段階に分けた。

3 授業実践及び実践結果の分析・考察

(1) 授業実践の計画

作成した少人数指導の工夫・留意点及び試案を基に、共同研究校に依頼して授業実践を行った。実践単元と指導計画は以下のとおりである。ただし、各校の指導体制の実態に合わせて、単元の中で部分的に少人数指導を実施した学校もある。

実践に際しては、参考指導案と指導用学習シートを提示したが、必ずしもその指導案どおりの授業とはせず、各学校の実態に応じて、工夫・留意点及び試案を基に授業を実施することとした。

各学年の実践単元の指導計画

1年 Unit 6 南半球からのメール

実践校：花巻北中（1学級 32名）、水沢中（6学級 188名）

時	学習内容	指導形態	各校の実際の指導形態	
	He <u>likes</u> tennis. の語尾変化	少人数	花巻北中：一斉指導	水沢中：少人数
	人について紹介しよう	少人数	一斉指導	少人数
	does を使った疑問文、否定文	少人数	一斉指導	少人数
	メールを見て(p.52)	少人数	少人数	少人数
	メールを見て(p.53)	少人数	一斉指導	少人数
	まとめの練習	少人数	少人数	少人数
	まとめの練習 Listening Plus	少人数	一斉指導	少人数

2年 Unit 4 Homestay in the United States

実践校：千厩中（4学級 131名）、遠野中（1学級 34名）

時	学習内容	指導形態	各校の実際の指導形態	
	have to ~、don't have to ~ の導入	少人数	千厩中は、どのク	遠野中：T T
	Starting Out ホームステイについて	少人数	ラスも単元の半	少人数
	Dialog ~ will の導入	少人数	分が少人数指導	少人数
	must、must not の導入	少人数	になるように、	少人数
	Reading for Communication	少人数	指導者がローテ	少人数
	文法事項のまとめ	少人数	ーションを組ん	T T
	Your Turn	少人数	で実施した。他	T T
	Listening Plus 4 健のホームステイ	一斉指導	は一斉指導。	T T

(2) 授業実践の概要

ここでは、第1学年を対象に行った授業実践の一部を紹介する。本単元で扱う中心的な言語材料は、三人称単数主語における一般動詞現在形の語尾変化（いわゆる三単現のs）である。そこで、指導目標の実現状況を明確にするために、単元の目標として「英語で家族を紹介しよう」を掲げ、単元の最後に家族紹介の言語活動を設定した。そして、毎時間の言語活動や学習内容に、家族紹介にかかわるリハーサル的内容を取り込むことで、生徒が繰り返して練習できるように配慮した。また、一人称、二人称の表現と三人称の表現、be 動詞の表現と一般動詞の表現を意識的に使い分けられるように、各言語活動の内容を工夫している。（補充資料の指導案を参照）

ア 少人数指導（意図的均等分割）の試案を基にした授業について

次頁【資料9】は、第1時の学習指導案の一部を示したものである。この授業において、どのように少人数指導の利点が活かされているか、三つの場面を例に紹介する。

【資料9】少人数指導 の試案を基にした学習指導案（抜粋）

段階	学 習 活 動	指導上の留意点、評価、等
新出表現の導入	3. 新出表現の導入 Teacher: This is my son He is 10. He likes baseball. (Do you like baseball?) He likes the Tigers very much. (I like the Giants.) He plays baseball every day.	例のように、写真などを示しながら、教師が自分の家族（等）の紹介を英語で行う（単元の目標のモデルを最初に示し、この単元をとおしてこういう事が言えるようになると動機付けする） （ ）内に示したように、生徒に尋ねたり自分の事を話したりすることで、既習の I, You が主語の時の違いに気付かせる
	4. 学習課題の設定 人について紹介する言い方を覚えよう	
文型練習	5. 文型練習 ・学習プリントを使って、likes~, plays~, wants ~の表現がすらすら言えるよう練習する ・教師が人名と絵を指示し、生徒が英語で言う（クリス・クロスで発表させる） 6. ペア練習（ビンゴゲーム） ・5のプリントを使ってペアでインタビューする ・ビンゴになったペアが発表する	練習の際には、拡大した絵を黒板に提示して行う 全員の生徒に発表を行わせる 時々、I や You, Becky & Jiro のように三単現の s が付かないものも織り交ぜる スムーズに言えないものは全体で繰り返し練習を行う インタビューは Do you ~? となる 発表の際に I like ~. と(人名)likes ~. を使い分けて発表する 教師が正しく言えているかどうかチェックする。
疑似コミュニケーション活動	7. 推理ゲーム ・プリントにある絵を見ながら、この部屋の人物がどういう人物かをペアで考え、英語で表現する ・報告した英語表現を、プリントに書き込む ・進める生徒は、さらに答えがないか考える ・どんな答えがでたか全体で確認する	二つ言えるようになったら、教師のところに来て、それぞれ英語で報告し、チェックを受ける（すべてのペアが報告に来るようにする） 生徒によっては、Why? 等と切り返して尋ねる 挑戦問題は発展的に取り扱う

(7) 教師とのインタラクションを増やすオーラル・イントロダクション

新出語句の導入や、教科書本文の導入の際には、オーラル・イントロダクションを行った。生徒の表情や反応を見たり、留意点にあるように教師が生徒に語りかけることで、一人一人の理解の状況を把握しながら進めることができるからである。

授業実践の結果、教師から一人一人に語りかけられることで、生徒の集中力も高まり、「理解しよう」という意欲が出てきたことが、生徒や教師の事後アンケートから分かった。

(1) 全員が何度も繰り返して取り組む文型練習

発表の機会を増やすのには、音読や言語活動などの場面もあるが、特に文型練習の場面では、一人一人の発表が短く、速いテンポで何度も繰り返して取り組むことができ、効果的である。

普段の一斉指導では全員での復唱が多くなりがちだが、今回の授業実践では一人一人に繰り返し取り組ませる場面が設定され、生徒の定着練習への意識が高まる様子がうかがえた。

(ウ) 理解の定着を図るペア学習と教師の支援

言語活動や音読練習の際にペア学習を組むことは、活動の意識付けに非常に効果的であった。

相手がある取り組みなので、理解や定着が不十分な部分を曖昧にして進めることができない。自

然と真剣に取り組まざるを得ないし、お互いに協力しようという雰囲気も生まれてきた。

ペア学習は、一斉指導の際にも十分効果があるが、少人数指導の際には教師のきめ細かな支援がその効果を高めることができたと考える。ペアは多くても10組なので、活動の様子を把握しやすく、つまずきの見られるペアに支援に入りやすかった。また、活動の最後に教師への報告・チェックを位置付けることで、より一層理解の定着を図ることができた。チェックが終了したペアには発展課題を用意しておくことで、生徒の学習速度の差にも対応した。

下は、今回の実践でペア学習を取り入れた教師の感想である。

・ペアをつくって互いに音読し合う活動は、相手の発音を聞こうという意思の見える活動となり、自分だけでなく相手と一緒にであるということから手を抜くということがない。この活動はこれからの授業にも取り入れていきたい。また、その練習の成果やペア活動の成果を、ペアで教師にチェック、報告しにくるという流れも大変参考になった。

イ 少人数指導（習熟度別）の試案を基にした授業について

本研究における習熟度別指導のねらいは、単元のまとめ段階における語彙や文法等の言語材料の定着と、その後に行う総合的な言語活動の準備のための活動である。

(ア) 習熟度別コースによるまとめの学習

単元のまとめとして、教科書の基本文を厳選してまとめ、それを「読める」「意味が分かる」「口頭で言える」「書ける」ように段階的に指導した。基本文にはいわゆる三単現の形のものだけでなく、be 動詞の文も同時にまとめて整理した。（指導用プリントは補充資料参照）コースによって扱う基本文の内容や量に差はないが、基礎コースは

【資料10】基礎コースにおける基本文の指導場面

T：意味を確認しましょう。am どんな意味だっけ？
C：です。
T：です。そうだね。いいよ。じゃあ are は？
C：あなたは。
T：あなたは、だっけ？
C：（気付いて）your じゃなかった。
T：確かに、あなたは、の時使うな。でも意味は何だっけ？
C（別の生徒）：（小さく）です。
T：です。これも、です。じゃあ、is。これも、ですだね。同じ「です」でも、どういう時にどう使い分けるか、分かる？
C：たぶん。
T：じゃあ、それをあとから聞くからね。

一人一人に対して一語ずつ発音を確認するようにていねいに指導していくのに対し、発展コースは一斉指導でテンポよく練習した後、個人で基本文の暗記、暗写に取り組ませた。【資料10】は共同研究校で行われた授業の一場面である。普段はなかなか授業にかかわれない生徒が、教師のていねいな指導と共感的な姿勢に支えられ、意欲的に授業に参加している様子が見ええた。

(イ) 同一課題に対するコース別のアプローチ

本単元末に「家族紹介」を総合的な言語活動として実施した。家族の中の一人を選び、写真などを示しながら英語で紹介するのだが、事前に原稿を英作文するのではなく、紹介したい内容をメモさせ、口頭で取り組ませた。基礎コースでは、紹介する内容や英文の出だしの例を学習プリントに示したが、発展コースでは、例示は行わず自由に考えさせた。

また、発表は3人程度のグループ内で行ったが、基礎コースは「自分の発表を行う」と「相手の発表を聞いて理解する」ことを重点的に指導したが、発展コースでは、「相手の発表内容に対して質問をする」と「グループ内で聞き合った内容を他のグループに対して英語で報告する」ことに積極的に挑戦させた。

このように、どちらのコースも取り組む課題は同じだが、課題を達成する過程をコースによって工夫したり、生徒によって発展的な取り組みが可能となるよう活動を組むことで、どの生徒も充実した取り組みができるようにした。

(3) 事後アンケート結果の分析・考察

ア 生徒の事後アンケートの結果から

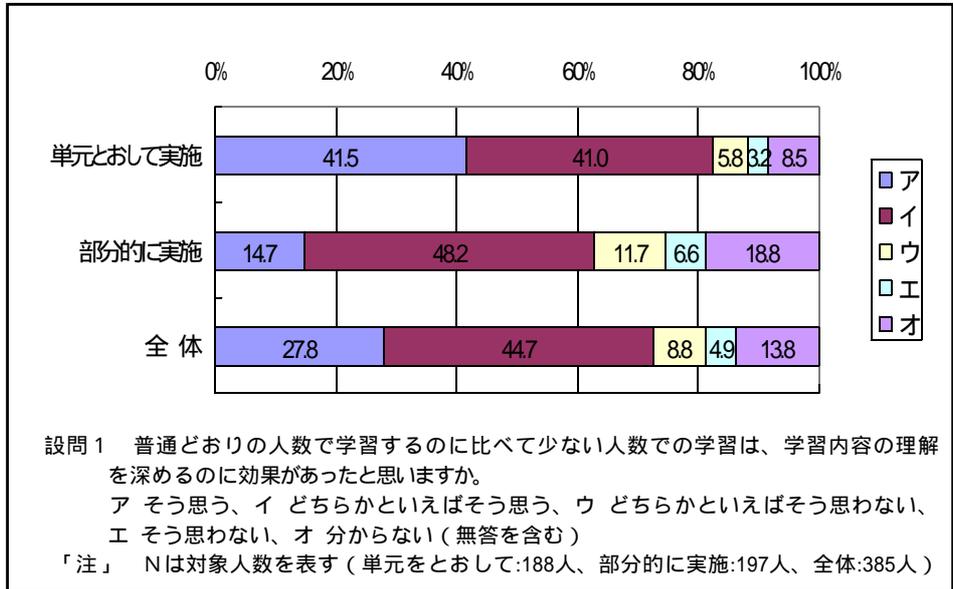
実践単元終了後に、少人数指導の効果について生徒に意識調査を実施した。その結果をまとめたものが【図14】【図15】である。

少人数指導（意図的均等分割）について、72.5%の生徒が学習内容の理解を深めるのに効果があったと回答した。特に、単元をとおして実施した学級の生徒は肯定的な回答が80%を超え、部分的に実施した学級を約20%上回っている。

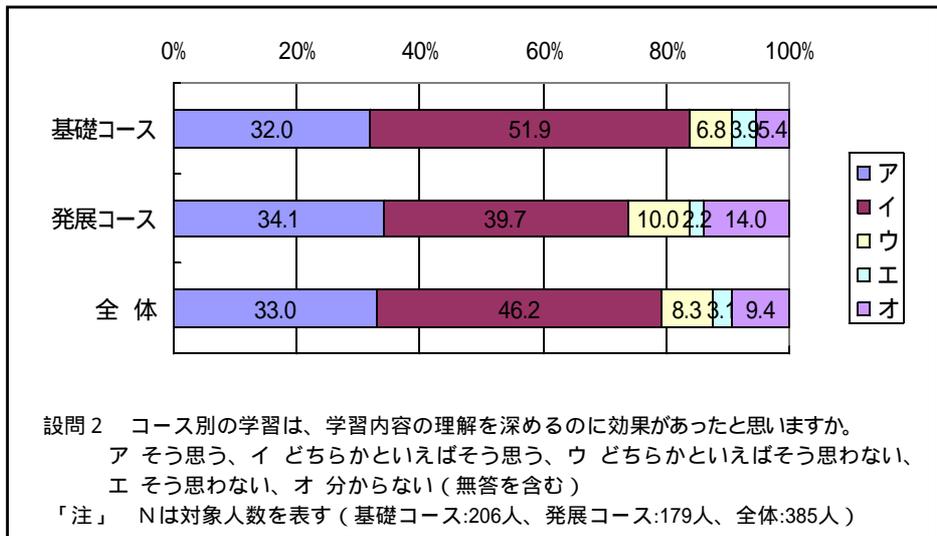
少人数指導（習熟度別）についても、79.2%と80%近い生徒が学習内容の理解を深めるのに効果があったと回答した。特に基礎コースを選んだ生徒は肯定的な回答が80%を超えた。

自由記述の内容を見ると、「静かで集中できた」「意欲が高まった」「発言がしやすい」「分からないところを先生に質問しやすい」「いつもは発表し

ない人も発表していた」「自分のペースでできる」など、肯定的な感想が多かった。その理由について次頁【資料11】に示した個々の記述内容から分析すると、教師とのインタラクションが増えたこと（英語科における少人数指導の工夫・留意点）や発表機会が増えたこと（同）によってやる気が出たり、自分で考えようとしたりするなど、学習への主体性が高まっているのが分かる。また、言語活動中やワークシート等への取り組みの際に教師が身近にいること（同）で、質問もしやすく、分からないところをすぐに教えてもらえることから、理解が深まったり、活動への意欲がとぎれずに集中して取り組めたりしていることが分かる。さらに、コース別の学習を工夫すること（同）によって、それぞれに自分のペースに合った学習がで



【図14】少人数指導（意図的均等分割）に対する生徒の意識の状況



【図15】少人数指導（習熟度別）に対する生徒の意識の状況

きたと感じていることもうかがえる。この他、少人数という学習環境が生徒に与える精神的な影響として、発言や間違いへの抵抗感が少なくなるだけでなく、教え合いなど協力しようという態度が強くなることが分かった。また、教師の精神的ゆとりが授業に与える影響を感じている生徒もいた。

一方、少人数指導について否定的にとらえている生徒の記述を見ると、「落ち着かない」「寂しい」のように形態の不慣れからくる問題点、教師の指導方法の違いや学習進度のズレに対する不安をあげる生徒が多かった。また、コースや座席の組み方によって私語が増えてしまうという問題点も一部に見られた。この他、「少人数もよいが、みんなの発表や意見も聞いてみたい」という意見も多かった。

これらのことから、教師間による指導方法の交流など、いくつか検討すべき課題はあるものの、英語科における少人数指導の工夫・留意点を取り入れた指導が、生徒が学習内容の理解を深める上で効果があると実感していることが分かった。

【資料11】少人数指導についての生徒の自由記述内容（抜粋）

【肯定的な意見】

- ・分からなかつたところを分かるようにしようという気持ちもてた。
- ・少人数なのでもっと声を出そうと思った（人数が少ないので普段の声だけじゃ足りないから）。
- ・一人一人が必ずあてられるのでやる気が出る。
- ・コース別だと一人の発言の回数が多くなるので、自分の考えを深めることができた。
- ・発表する機会がたくさんあるから困らないようにしっかり集中して理解できるように努力した。
- ・少人数の時は、ささいなことでも分からないところは積極的に質問できた。
- ・多い人数でやると『分かった』という人が多く、分からない人は分からないまま次に進んでしまうけど、少人数だと気軽に『分かりません』と言えるのでいい。
- ・人数が多いと間違えるのがいやになるけど、少ないと少しは間違えてもいやにならない。
- ・普通のクラスだと騒いだりだらけたりしてしまうけど、少人数だと分からなくてもすぐに教えてもらうことができるので、授業が楽しくでき、やる気も出た。
- ・先生が何度もまわってくるので、質問しやすい。
- ・少人数だと手を挙げやすく、間違ってもすぐまわりの人が教えてくれる。
- ・普通の授業では教え合うことはなかったけど、コースに分かれてからは教え合うことが多くなった。
- ・復習しなくても進める人はどんどん先に進めてよい。
- ・授業を速く進められるようになった。
- ・分からないところを何回も繰り返しているうちに、少しずつ分かってきたような感じがした。
- ・少人数になって先生の教え方が親切になった気がする。
- ・先生が早口にならなくていい。
- ・授業の雰囲気暖かくていい雰囲気。

【否定的な意見】

- ・いつもと違って落ち着かなかつた。
- ・教室の移動がいや。
- ・寂しいような感じであまりいいと思わない。
- ・先生によって教え方が違って覚えにくい所があつた。
- ・いつもの先生じゃない時は、慣れていないのでちょっとやりづらかつた。
- ・授業の進む速さがずれてしまう。
- ・友達同士で固まってしまう、うるさくなる。
- ・もっと大勢の人の意見が聞いてみたかつた。
- ・自分が知らないことでもまわりの人達が知っていることもあつて参考になる。
- ・特に違いを感じない。
- ・みんなで勉強した方が楽しい。

イ 教師の事後アンケート結果から

(ア) 少人数指導に対する教師の意識の状況について

生徒と同様、実践単元終了後に、少人数指導の効果について教師に意識調査を実施した。その結果をまとめ

たものが【表26】である。少人数指導、のど

【表26】少人数指導に対する教師の意識の状況 (N=8)

英語科における少人数指導のモデル	ア	イ	ウ	エ	オ
少人数指導（意図的均等分割）について	4	4	0	0	0
少人数指導（言語材料の習熟度別）について	1	7	0	0	0

ちらについても、全ての教師が生徒の学習内容の理解を深めるのに効果があると肯定的な回答をした。

設問 少人数指導は学習内容の理解を深めるのに効果があったと思いますか。
ア そう思う、イ どちらかといえばそう思う、ウ どちらかといえばそう思わない
エ そう思わない、オ 変わらない

「注」Nは対象人数を表す

少人数指導が効果があったと考える理由を【資料12】の自由記述から分析すると、「一人一人に目が行き届きやすい」「発表の機会が多くなるなどして、生徒の意欲や責任感が高まる」という効果をあげる教師が多かった。また、少人数指導で、習熟度に応じたコース分けの利点も感じていることがうかがえた。

【資料12】少人数指導が効果があったと考える理由

<p>【少人数指導 について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般に言われるとおり、生徒の人数が少なくなる分だけ、生徒一人一人に目が届きやすくなり、より手厚いケアや指導が可能となった。生徒も適度な緊張感を保ちながら学習に臨んでいた。 ・人数が少ない分、生徒に目をかけやすくなったので効果はあると思う。 ・一人一人の生徒に目が行き届きやすいので、個別指導を行いやすい。 ・一人一人の理解度を把握しやすい。 ・教師の立場から見て、少人数の方が確実に生徒一人一人の英文や言語活動等に目が行き届く。 ・生徒の人数が少ない分、理解できていない生徒や戸惑っている生徒を発見しやすく、普段の授業に比べてそのような生徒の支援を行いやすかった。机間指導も普段より内容的、回数的に細やかに行うことができた。 ・個に応じた指導ができた。 ・とにかく、一人一人の生徒を指導する時間が長くとれる。 ・少人数指導だと、発言や質問をする機会が増えるので、生徒の学習に対する意欲が高まる。 ・人数が少ないので、生徒自身にも責任感が出てくる。 <p>【少人数指導 について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の力に応じて指導できた。(基礎コース担当) ・個に応じた指導ができた。(基礎コース担当) ・一人一人の生徒へのチェックや支援を細やかに、時間をかけて行うことができる。さらに、コース別学習においては授業内容の理解や進度の差があまり大きくならなくてすむ。(基礎コース担当) ・生徒自身が自分のペースに合わせて学習することで、理解できるところと理解できていないところを明確に分けることができた。(基礎コース、発展コースをそれぞれ担当) ・一人一人の生徒に目が行き届きやすい。そのために個別指導を行いやすい。個々の理解度をチェックすることができる(発展コース担当) ・生徒自身の意思を尊重したコース分けだったので、モチベーションは高かった。(発展コース担当) ・全体的にスムーズに進めることができたので、活動が多く要求できたと思う。(発展コース担当) ・生徒の学習欲求に応えることがより可能になったと考える。生徒の感想も概ね好意的なものであった。(発展コース担当)
--

さらに、少人数指導における生徒の学習姿勢、態度、意欲や学習方法についての自由記述からは、「実際に、一斉指導に比べて、発言や質問が増えた」「意欲的に発言したり、質問に来たりする生徒が増えた」「教師の話がよくとおり、集中できる」など、少人数指導の効果に触れた内容が多くあり、生徒が授業をとおして感じていることを、教師自身も実感していることが分かった。

(1) 英語科における少人数指導の工夫・留意点にかかわる意識の状況について

本実践では、42頁【資料8】に示した ~ の少人数指導の工夫・留意点を基に、試案を作成し、各校に実践を依頼した。この工夫・留意点が効果的であったかどうかについて、実際に指導を担当した教師を対象に実施した意識調査の結果をまとめたのが【表27】である。また、それぞれの理由についての自由記述の内容を、次の【資料13】に示した。

【表27】英語科における少人数指導で効果的と思われる工夫・留意点 (N=8)

少人数指導の留意点	英語科における少人数指導の工夫・留意点	効果的	要改善
形成的評価を効果的に取り入れる	生徒とのインタラクションを増やす	6	0
	言語活動中に生徒の中に入り、細かな注意やチェックを行う	5	0
	机間指導を繰り返し、採点・訂正をこまめに行う	6	0
時間配分を工夫し言語活動を充実させる	音読等、生徒の発表の機会を増やす(原則全員発表)	3	1
	一つの活動を繰り返すのではなく、活動のバリエーションを増やす	1	3
集団思考場面を設定する	発問やグループ活動を工夫し、生徒の生活経験から得た知識を引き出す	0	5
習熟度別に分かれた利点を活かす	基礎コースでこそ、口頭でのドリル練習を十分に行う	4	1
	それぞれのコースに適した教材を用いる	5	1

「注」1 Nは対象人数を表す。

2 「効果的」「要改善」は、それぞれ当てはまると考える工夫・留意点を全て選んでもらった結果の合計である。

【資料13】少人数指導が効果があった・改善が必要と考える理由

【効果的であったと考える理由】

- ・一斉の授業では教師側にも「全員とのインタラクションは不可能・・・」とあきらめがちであるが、少人数ではそのモチベーションも上がる。
- ・(通常は)人数が36人と多いので、全ての生徒とインタラクションを行ったりワークシートのチェックを行うこと等に難しさを感じるが、少人数指導では生徒とのインタラクションを増やし、口頭練習等も増やせる。
- ・言語活動中、生徒が知りたい単語を教師に積極的に聞くようになった。
- ・教師に余裕ができたので、質問してくる生徒の声にすぐ反応できた。
- ・少人数であれば、一人一人の生徒が「話す」「聞く」「読む」「書く」時間が多くとれる。
- ・全員発表をすることで、学習に対する意欲が高められた。
- ・人数が少なくなる分だけ、生徒一人一人の活動分量が増すことになった。
- ・ドリル練習の時間を十分に保障したことで、生徒は自信をもってその後の活動に進むことができた。
- ・習熟度別の授業で、コースによってプリントが別々にあり、それぞれ取り組む課題が違うことは、下位の生徒には無理が生じず、上位の生徒も時間をもてあますことが少なくてよかったのではないかと。
- ・発展コースはスムーズに学びを進めることができ、教材にもスラスラ取り組んでいた。

【改善が必要と考える理由】

- ・まわりの声を聞いて発音の仕方を覚えることが、少人数だと難しかった。声を出す雰囲気作りにも苦労した。() について)
- ・1時間の中でいろいろな活動をさせたいと思ってプランを組むと、時間が足りなくなってしまう。() について)
- ・正直、活動のバリエーションを増やすことは、人数が少ない中でも時間的に難しかった。特に、コース別の授業で、自分は基礎コースを担当していたが、生徒へのチェックや支援に時間を割いてしまい、なかなかスムーズに活動が進まなかった。() について)
- ・ハイレベルな活動なので、本校の生徒の実態にそぐわない。() について)
- ・生徒の生活経験が予想外に乏しく、特にホームステイのアドバイス作文時に深まりのある情報交換ができなかった。() について)
- ・自分の授業展開の仕方が悪いというのは反省としてあるが、生徒の意見を聞くときや発表の際に、発言が出ないことがあり、工夫が必要だと感じた。() について)
- ・生活経験から得た知識を引き出すのは難しい。() について)
- ・いずれも教師側の準備不足が原因である。もっと教材を研究すべきであった。() について)

「形成的評価を効果的に取り入れる」という視点からの工夫・留意点 ～ と、「習熟度別に分かれた利点を生かす」という視点からの工夫・留意点 ～ については、半数以上の教師から効果があったという支持を得ることができた。また、「時間配分を工夫し言語活動を充実させる」という視点については、の発表の機会を増やすことについては効果の実感がある程度得られたものの、の活動のバリエーションを増やすことについては、少人数で指導時間の短縮が図られたとはいえ、時間が足りず難しいと感じる教師が多かった。

「集団思考場面を設定する」という視点からの工夫・留意点 については、ほとんどの教師が発問や指導に難しさを感じており、十分な効果をあげることはできなかつたととらえていることがわかる。英語科において生徒が「思考する」場面をどのように工夫していくかについては、これまであまり検討されてこなかった。今後検討していくべき課題ととらえる。

(ウ) 授業実践の感想から

【資料14】は、教師の授業実践の感想の一部である。習熟度別だけではなく意図的均等分割による指導の効果や、ペア学習の有効性を実感した記述が見られる一方、継続した指導の必要性や、個々の教員の指導力向上など、少人数指導に取り組む上での指導体制にかかわる課題にも言及されている。

【資料14】今回の授業実践で感じたこと（抜粋）

- ・生徒はみんなで学習した方がよいという意見が結構多かった。これは、学級の雰囲気や教師によっても変化すると思われる。ただ考え方としては、学力向上のためには、レベルに応じた少人数指導ではなく、少人数指導（上位生徒から下位生徒まで含めた）の方がよいと思う。
- ・ペアを作り、そのペアを有効に使った学習過程は非常に参考になった。これからの授業にもどんどん取り入れ、活用していきたい。
- ・やはり少人数指導をするにしても、継続して行うことで効果が出るのだと思う。生徒だけでなく、自分も慣れていなくて、うまく少人数を活かした授業をすることができなかった。
- ・本校では、少人数指導加配教員を得て、従前より少人数指導を展開してきているが、少人数指導が生徒の学習に非常に効果的であることを実感している。今回の指導実践は、これまでの実感をさらに補強するものとなった。一方で、クラスを少人数グループに分けた時、生徒はそれぞれのグループを比較し合うことがあり、不公平感を抱くことも少なくない。教師一人一人の指導力の向上がさらに求められる。

4 研究のまとめ

授業実践とその結果の分析・考察から、英語科における少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法について分かったことは次のとおりである。

- (1) 言語活動を中心とした指導過程においては、意図的均等分割少人数指導を行い、生徒とのインタラクションを増やしたり、教師が細やかにチェックを行ったり、生徒の発表機会を増やしたりすることが、生徒の学習意欲を喚起し、学習内容の理解につながる
- (2) 単元のおわりに言語材料を整理して定着を図る段階や、言語材料の活用を目指した総合的な言語活動の準備段階においては、習熟度別少人数指導を行い、課題を達成する過程をコースによって工夫したり、生徒によって発展的な取り組みが可能となるよう活動を組んだりすることによって、生徒の活動への取り組みが充実し、学習内容の理解が深まる
- (3) 少人数指導においてペア学習を効果的に組み入れることが特に有効である
- (4) 少人数の学習環境が生徒同士に協力的な雰囲気を生み、学習効果を高める
- (5) 生徒の思考場面の設定については、試案を基にさらなる工夫が必要である

また、少人数指導を継続して行うことができるような教員の確保や、教師によって指導の格差が生じないような力量形成など、指導体制の充実に向けた取り組みが必要である。

少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する調査研究

本県の少人数学級の指定校（平成16年度、17年度指定校 小学校10校、中学校13校、合計23校）に対して、平成17年2月下旬から3月中旬に、少人数指導と少人数学級の指導の効果に関して調査した結果、次のようなまとめを得ることができた。（詳しくは「少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する調査（第2報）平成17年9月21日を参照）

1 小学校の調査結果のまとめ

(1) 少人数学級の学習指導面における効果について

少人数学級の学習指導面の効果については、ほとんどの学校長や担当教員が「個別に教える時間が増えた」「授業に集中するようになった」等、効果を認める回答をしている。また、児童からは、「じっくり考えたり、作業したりする時間が増えた」「わからないところを聞きやすくなった」等、授業が変わってきている様子をあらわす回答が多かった。今後、この効果を基礎的・基本的事項の確実な定着につなげていく工夫が求められる。

(2) 少人数学級の生活指導面における効果について

少人数学級の生活指導面の効果について、学校長、担当教員の9割が「効果がある」と回答している。その理由として、早期に児童理解ができ、その子に合った指導ができることや家庭との連絡が取りやすいことを挙げている。また、「少人数の活動のため責任感が増してきた」「何でも言い合えるようになってきた」等、責任感の育成や良好な人間関係の構築に効果が現れている。

(3) 少人数学級の保護者や地域からの好感度について

少人数学級による指導は、保護者や地域から好意的に受け止められているとすべての学校長が回答している。

(4) 少人数学級と少人数指導の学習面における効果について

学校長や担当教員は、低学年では、少人数学級の方が効果的であり、中学年以降は、教科の特性によって指導形態を変えることのできる少人数指導が効果的ではないかと考えている。その理由は、低学年では生活面とかかわっての個別指導ができることに對し、高学年では個人差に對したきめ細かな指導ができることによる。

(5) 少人数指導の学習定着度状況調査による比較

算数科の少人数指導の実践を学習定着度状況調査で経年で比較すると、4、5、6年全ての学年で前年度のポイント（県の平均正答率を100としたときの指数）を上回っている。

2 中学校の調査結果のまとめ

(1) 少人数学級の学習指導面における効果について

少人数学級の学習指導面の効果については、全ての学校長が効果があると回答している。この理由として、「個別に指導をする時間が多くなってきた」等、個々を生かす場面を多く設定できることをあげている学校長や担当教員が多い。生徒の意識としては、「先生や友だちに分からないところを聞きやすくなった」と回答する生徒が多かった。しかし、学習定着度状況調査の結果に必ずしも反映しているとはいえず、今後、この効果を基礎的・基本的事項の確実な定着につなげていく工夫が求められる。

(2) 少人数学級の生活指導面における効果について

少人数学級の生活指導面の効果について、全ての学校長、ほとんどの担当教員が効果があると回答している。その理由は、生徒の責任感や所属感が高められたことや生徒指導上、一人一人に接する時間が増え、その対応が適切に機能した等の理由による。

- (3) 少人数学級の保護者や地域からの好感度について
少人数学級による指導は、保護者や地域から好意的に受け止められていると、ほとんどの学校長が回答している。
- (4) 少人数学級と少人数指導の学習面における効果について
学校長、担当教員共に半数以上が少人数指導の方が効果的であると回答しているところが、小学校とは異なる結果になっている。その理由は、補充的、発展的学習の必要な教科には個別に指導できることが挙げられ、生徒の実態に即した指導や個人差に対応する場面が小学校よりも多くあることが推察される。ただ、生徒指導面からは少人数学級の効果も評価されており、学習効果との関わりについて検討を重ねる必要がある。
- (5) 少人数指導の学習定着度状況調査による比較
少人数指導は、国語、数学、英語で実施している。これらの教科を学習定着度状況調査で経年で比較すると、国語、数学で1ポイント(県の平均正答率を100としたときの指数)上回り、英語は前年度と同じであった。
今後、さらに効果的な少人数指導についての研究を進めていく必要がある。

少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究のまとめ

1 研究の成果

この研究は2年間にわたり少人数指導と少人数学級における学習指導のよさを検討し、発達段階に応じた効果的な取り入れ方を提案することにより、一人一人に「確かな学力」を育成することをねらいに研究を進めてきたものである。

1年次には研究の基本的な考え方を基に、調査や授業実践を行い、次のような成果が得られた。

少人数指導と少人数学級の効果に関する研究についての基本的な考え方
少人数指導に関する先行研究や他県の実践例を参考にしながら、その現状や課題について把握することができた。また、研究の方向性として、学習効果を上げる指導形態と指導方法の工夫について進めることを確認した。

指導形態の違いによる指導の効果についての調査及び分析・考察
学力向上フロンティアスクールを対象に、指導形態を工夫した授業の実施状況やテスト結果等を調査し、効果的な指導形態について見通しをもつことができた。

学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響についての分析・考察
共同研究校の授業観察より、少人数での学習が通常規模の学習に比べて、指導過程の時間配分や指導上の留意点にどのような違いがあるかまとめることができた。

指導形態、指導方法の工夫・改善による教育効果に関する分析・考察のまとめ
指導形態の違いによる指導の効果及び学習集団の人数や編成の違いが児童生徒に及ぼす影響についてまとめることができた。

2年次にあたる本年度は、少人数指導における指導の特性とよさを整理し、その工夫・留意点を基に教科毎(国語科、算数/数学科、英語科の3教科)に、少人数指導の効果的な指導形態や指導方法について試案をまとめ、授業実践を行った。その分析・考察と研究のまとめを行い、次のような成果が得られた。

- (1) 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の工夫・留意点のまとめ
少人数指導の効果的な指導形態や指導方法について、文献法、調査法、授業観察をとおり、工夫・留意点をまとめ、教科の試案作成の基礎資料とすることができた。
- (2) 少人数指導を効果的に行うための指導形態や指導方法の試案の作成と授業実践及び実践結果の分析・考察
各教科毎に、少人数指導の効果的な指導形態や指導方法の工夫・留意点を基に試案を作成することができた。そしてそれを基に授業計画案を作成し、授業実践を行い、その結果の分析・考察

をとおして、試案の有効性を明らかにすることができた。

(3) 少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する調査研究

少人数指導や少人数学級に対する活用の状況や指導の効果に関する調査を行い、本県の少人数教育（少人数学級や少人数指導等）の指針とすることができた。

(4) 少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究のまとめ

少人数指導と少人数学級の指導の効果について、授業実践や調査研究から明らかになったことをまとめた。

なお、少人数学級の特性については、単純分割少人数指導の特性と同様に考え、授業の分析結果からそのよさを明らかにし、工夫・留意点を見出した。これを基に試案を作成し、授業実践をとおして効果的な指導の在り方についての見通しをもつことができた。

2 今後の課題

少人数学級における指導の特性とよさについては、人数が単純に少なくなった単純分割少人数指導の特性と同様に考えたが、さらにそのよさについて検討し、少人数学級の望ましい指導の在り方について吟味する必要がある。また、本研究では国語、算数/数学、英語科についてまとめたが、他教科でも少人数指導や少人数学級の効果的な取り入れ方について検討し、体系化を試みていきたい。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました共同研究校や少人数学級指定校の先生方、児童生徒の皆さんに心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力をいただきました先生方に感謝申し上げます。

【引用文献】

加藤明(2003),『少人数学級の生かし方・進め方』,「少人数、習熟度、チーム・ティーチング実践事例集」,ぎょうせい, pp. 246

【参考文献】

秋田県教育センター(2003),『楽しい授業、分かる授業を創る少人数指導の研究』

尾形慎治・森下幸子・藤村和彦(2002),「少人数授業における指導の工夫改善に関する研究 - 授業観察と生徒への意識調査等を通して - 」,『平成14年度広島市教育センター研究紀要第22号』,広島市教育センター

加藤幸次(2004),『少人数指導 習熟度別指導』,ヴィヴル

加藤幸次(2004),「習熟度別学習・少人数指導の類型と課題 - 話し合い活動を軽視していないか - 」,『指導と評価』2004年6月号,図書文化

加納博志(2004),「習熟度別指導・少人数指導の実践」,『指導と評価』2004年6月号,図書文化
国立教育政策研究所(2004),「指導方法の工夫改善による教育効果に関する比較調査研究 - 授業法の違いが児童生徒の学力、興味・関心・意欲及び学習態度の形成に及ぼす教育効果について(第二次・最終報告書) - 」

重松敬一・小嶋康弘(2004),「算数・数学教育に問題解決学習の研究(9) - 小学校算数科における少人数習熟度別指導のコース別授業のあり方 - 」,『教育実践総合センター研究紀要 vol.13』,奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター

富山県総合教育センター(2004),「効果的な少人数授業の在り方の研究 - 小学校理科・中学校英語における個に応じた学習指導 - 」

山口満・重松敬一・綾部市立中筋小学校(2004),『習熟度別指導でほんものの算数の学力をつける』,黎明書房

1 小学校第3学年「3けたの数の計算を考えよう」の指導計画及び習熟度別指導を行った時間の発展コースの学習指導案

「3けたの数の計算をしよう」の単元の指導計画

1 単元名 「3けたの数の計算を考えよう」(小学校第3学年 東京書籍)			
2 単元の目標 筆算形式による3位数の加減計算の仕方について理解し、それをを用いる能力を高める。			
3 評価規準			
観 点	評 価 規 準		
算数への関心・意欲・態度	・3位数の加法及び減法の計算の仕方を考えたり、計算を活用したりすることのよさに気づき、それらを進んで日常生活に生かそうとする。		
数学的な考え方	・3位数の加法及び減法の計算の仕方を、2位数の場合の計算の仕方や、整数の加法や減法に関して成り立つ性質を基にして考える。		
表現・処理	・3位数の加法及び減法の計算が確実にでき、それらを用いることができる。		
知識・理解	・3位数の加法及び減法について、計算の仕方を理解している。 ・整数の加法及び減法に関して成り立つ性質について理解している。		
4 自己評価カードの観点(具体化した目標)			
	具 体 化 し た 到 達 目 標		
3けたの数の計算を考えよう	<p>300 + 400の計算の仕方考えることができ、計算することができる。</p> <p>300 - 200の計算の仕方考えることができ、計算することができる。</p> <p>243 + 526を筆算で計算することができる。(繰り上がりなし)</p> <p>365 + 472を筆算で計算することができる。(1回繰り上がり)</p> <p>347 + 178の計算の仕方を既習事項を基に考えることができる。(2回繰り上がり)</p> <p>347 + 178を筆算で計算することができる。(2回繰り上がり)</p> <p>475 + 781を筆算で計算することができる。(2回繰り上がり、百の位で繰り上がりがあり)</p> <p>178 + 225を筆算で計算することができる。(十の位で波及的に繰り上がる)</p> <p>765 - 413を筆算で計算することができる。(繰り下がりなし)</p> <p>315 - 194を筆算で計算することができる。(1回繰り下がり)</p> <p>402 - 175の計算の仕方を既習事項を基に考えることができる。(2回繰り下がり)</p> <p>402 - 175を筆算で計算することができる。(2回繰り下がり)</p> <p>503 - 76を筆算で計算することができる。</p> <p>日常の問題を式に表すことができる。</p>		
指導計画			
単元	目 標	課 題	主 な 学 習 活 動
1	100を単位とする加減計算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	一	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 学校で集めるあきかんの目ひょうの数は、先月が300こで、今月が400こです。目ひょうの数は、あわせて何こになりますか ・課題の把握 何百 + 何百の計算の仕方考えよう ・なぜそうなるのか自力解決する。 ・自力解決を基に比較・検討する。 ・何百 - 何百の計算の仕方考える。
		斉	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 300 + 400や300 - 200の計算は、100の束で考えて計算する。
2	3位数 + 3位数の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	一	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 あきかんの、先月は365こ、今月は472こ集めました。あきかんは、あわせて何こになりますか。 ・立式する。 ・課題の把握 3けたと3けたのたし算の筆算の仕方考えよう
		斉	<ul style="list-style-type: none"> ・答えの見直しをもつ。 ・筆算の計算の仕方考える。

		<ul style="list-style-type: none"> ・比較・検討する。 ・まとめ たし算の筆算は、けた数が多くなっても、くらいをそろえて、一のくらいからじゅんに計算する。 ・適用問題を解く。 						
3	2回以上繰り上がる3位数 + 3位数の筆算の仕方を既習事項を基に考え、その計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $\begin{array}{r} (1) \quad 347 \\ + 178 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} (2) \quad 475 \\ + 781 \\ \hline \end{array}$ </div> <p style="text-align: center;">の筆算の仕方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の筆算の仕方と違うところがどうかを考える。 ・自力解決をする。 ・比較・検討する。(短時間で) ・まとめ 繰り上がりが2回以上ある筆算では、何の位の繰り上がりかを確認しながら計算する。 ・適用問題を解く。 						
4	3位数 - 3位数の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>牛にゅうバックを先月は、194こ、今月は315こ集めました。今月は、先月より何こ多く集めましたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・立式する。 ・課題の把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>3けたと3けたのひき算の筆算の仕方を考えよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・答えの見直しをもつ。 ・筆算の計算の仕方を考える。 ・比較・検討をする。(短時間で) ・まとめ ひき算の筆算は、けた数が多くなっても、くらいをそろえて、一の位からじゅんに計算する。 ・適用問題を解く。 ・たしかめ算について説明する。 ・小テストを行い、コースを選択する。 						
5	2回繰り下がる3位数 - 3位数(2位数や1位数の場合もある)の筆算の仕方を既習事項を基に考え、その計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $\begin{array}{r} 402 \\ - 175 \\ \hline \end{array}$ </div> <p style="text-align: center;">の筆算の仕方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決する。 ・比較・検討する。(短時間で) ・まとめ すぐ上のくらいから繰り下げられないときは、もう一つ上のくらいから繰り下げる。 ・適用問題を解く。 						
6 7	<p>(基礎)</p> <p>具体化した到達目標に従った問題を提示し、それに沿った問題を解きながら理解を深めることができる。</p> <p>(発展)</p> <p>具体化した到達目標の問題を確実に理解するとともに、間違いやすい問題について自分たちで考え、間違わないようにするための方法を考える。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 40%; text-align: center;">基 礎</th> <th style="width: 40%; text-align: center;">発 展</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">少 人 数 指 導</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。児童は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進めさせる。つまずきが明らかになった児童に対しては、個別に指導するが、児童の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。2時間一通り、具体化した到達目標を終えるようにするが、終わらない場合には、授業後も追指導を行う。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行い、自分自身の実現状況を確認しながら進める。その後、間違いやすい問題について、間違わないようにするための方法について自分たちで話し合わせる。また、教科書にある1000 - 126の問題の解き方について考える。 </td> </tr> </tbody> </table>		基 礎	発 展	少 人 数 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。児童は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進めさせる。つまずきが明らかになった児童に対しては、個別に指導するが、児童の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。2時間一通り、具体化した到達目標を終えるようにするが、終わらない場合には、授業後も追指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行い、自分自身の実現状況を確認しながら進める。その後、間違いやすい問題について、間違わないようにするための方法について自分たちで話し合わせる。また、教科書にある1000 - 126の問題の解き方について考える。
	基 礎	発 展						
少 人 数 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。児童は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進めさせる。つまずきが明らかになった児童に対しては、個別に指導するが、児童の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。2時間一通り、具体化した到達目標を終えるようにするが、終わらない場合には、授業後も追指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行い、自分自身の実現状況を確認しながら進める。その後、間違いやすい問題について、間違わないようにするための方法について自分たちで話し合わせる。また、教科書にある1000 - 126の問題の解き方について考える。 						

「3けたの数の計算をしよう」の7時間目の発展コースの指導案

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入	1 問題の提示		<ul style="list-style-type: none"> ・問題を板書し、ノートに筆算で解かせる。 ・つまずきそうな問題について、机間指導で支援する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 次の問題を筆算で解きましょう $243 + 526$ $702 + 60$ $327 + 246$ $196 + 739$ $943 + 57$ $765 - 413$ $793 - 365$ $432 - 17$ $634 - 287$ $408 - 279$ $300 - 187$ </div>	
15分	2 課題の把握		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 上の問題で間違いやすい問題はどれでしょう。その理由も考えよう </div>	
展 開	3 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3けたと2けたのたし算だから桁をそろえないでしまう ・ 繰り上がりを忘れるから ・ 繰り上がりが2回あるから ・ 2回繰り上がって十の位が0になるから ・ 繰り下がりを忘れるから ・ 繰り下がりが1回と桁が違うから ・ 繰り下がりが2回あるから ・ 繰り下がるときに百の位からかりてくるから ・ 一の位、十の位が0なので、百の位からかりてくるから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての項目について考える必要はない。間違いやすい問題として出た問題を中心に考えさせる。 ・ それぞれについて、理由も発表させる。 ・ 一人一人の考えを大切にす。 ・ 間違いやすい他の理由があれば、それについても発表させる。 ・ どうすれば間違わないのかについても考えさせる。
	4 間違わないようにするための方法を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桁の間違いをなくすために、きちんとますめをそろえる ・ 繰り上がりがあるときには、繰り上がった数をきちんとかく ・ 繰り下がりがあるときには、繰り下がった後の数をきちんとかく ・ 必ずたしかめ算をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人で考えるのが難しい場合には、グループで考えさせる。
	5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間違わない方法についてまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が使用した言葉でまとめる。
28分	6 適用問題をとく	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントの問題を解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 速くなくても間違わないように気を付けさせながら解かせる。
ま と め	7 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめをする 	
	8 次の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次単元の学習内容を知らせる 	

2 小学校第3学年「長さをはかろう」の指導計画及び学習指導案

「長さをはかろう」の単元の指導計画

算数科指導計画

1 単元名 「長いものの長さのはかり方」(小学校第3学年 東京書籍)			
2 単元の目標 長いものの長さの測定をとおして、長さの概念について理解を深めるとともに、目的に応じて単位や計器を適切に選択して測定する能力を身に付ける。			
3 評価規準			
観 点	評 価 規 準		
算数への関心・意欲・態度	・目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定しようとする。 ・測定して得られた数値を、適切な単位を選択することにより、扱いやすい大きさにすることのよさに気付く。		
数学的な考え方	・目的に応じて測定のための適切な単位を選んだり判断したりする。		
表現・処理	・およその大きさの見当をつけたり、目的に応じて単位や計器を適切に選んで、測定したりすることができる。		
知識・理解	・およその大きさの見当をつけ、測定に用いる単位や計器を適切に選択することをおして、単位の大きさについての豊かな感覚をもっている。		
4 自己評価カードの観点(具体化した目標)			
	具 体 化 し た 到 達 目 標		
長いものの長さをはかり方	長いものの長さをはかるには、巻尺を使うと便利であることが分かる。 走りはばとびの長さやかびんの周りの長さを巻尺を使って測ることができる。 教室や黒板のたての長さや横の長さを測ることができる。 10mがだいたいどれくらいか実感としてわかる。 絵地図を見て、道のりを求めることができる。 1km=1000mであることが分かる。 道のりと距離の違いが分かる。 絵地図を見て、学校からゆきの家までの道のりと距離が何m違うか求めることができる。 1kmを歩いてかかった時間や歩いた歩数がどれくらい分かる。 ()にあてはまる長さの単位が分かる。(教科書P61 1) 巻尺のめもりをよむことができる。(教科書P61 2) 絵地図から距離と道のりを求めることができる。(教科書P61 3)		
5 指導計画			
順	目 標	課 数	主 な 学 習 活 動
1	巻尺の便利さに気付き、その使い方が分かる。	少 人 数 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 次の3つの長さを測りましょう。 ・教科書の縦の長さ ・ さんの走り幅跳びの長さ ・ 花瓶の周りの長さ ・何で測ればいいかを考える。(定規?) ・課題の提示 巻尺の測り方を学習しよう ・教科書を使って巻尺の使い方を説明する。 ・プリントを使って測り方を理解する。 ・まとめ 長い長さや丸いものを測るときには、巻尺が便利である。 ・適用問題を解く。
2	巻尺を使っているいろいろなものの長さを測り、巻尺の使い方を理解する。	少 人 数 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・生活班で少人数に分ける。 ・前時の復習 巻尺の使い方について確認する。 ・問題の提示 いろいろなものの長さを測りましょう ・小グループでいろいろなものの長さを測る。(教室の縦と横の長さ 黒板の縦と横の長さ 10mと思うところ)

			<ul style="list-style-type: none"> ・測ったものをノートに記入し、友達の測った長さと比較する。 ・プリントの問題を解く。 ・実際に測る、プリント学習、実際に測る、プリント学習を繰り返す。 	
3	<p>長さを表す単位「キロメートル (km)」及び道のりや距離の意味を理解する。</p>	T T	<ul style="list-style-type: none"> ・道のりの意味を知る。 ・絵地図を見て、学校から駅やゆきの家や図書館までの道のりを調べる。また、マラソンコースの長さについても求める。 ・長い道のりや距離を表す単位「キロメートル (km)」を知る。 ・距離の意味を知る。 ・適用問題を解く。 	
4	<p>1 kmを実際に歩き、かかった時間や歩数を測り、1 kmの長さを体感することとおして、長さに対する感覚を豊かにする。</p>	T T	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習 ・課題の把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">1 kmを歩いたときの、時間と歩数を調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・結果の見通し ・課題の解決 ・学校からの距離を予測する。 ・本時のまとめ 	
5	<p>巻尺を使って、様々なものを測るとともに道のりと距離について理解を深める。</p>	少 人 数 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑で調べた長さを実際に測るグループとプリントを解くグループに分けて取り組む。 ・図鑑で調べた長さを実際に測るグループは、ノートに記入させながら取り組ませる。 ・プリントに取り組むグループは、特に、道のりと距離の関係の問題に取り組む。 ・プリントの実現状況から、コースを選択する。 	
6	(基礎)	少 人 数 指 導	基 礎	発 展
	<p>具体化した到達目標に沿った問題を提示し、その問題を解きながら理解を深める。</p> <p>(発展)</p> <p>具体化した到達目標の問題を確実に理解するとともに、絵地図の問題を作成し解き合うことで、興味・関心を高める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の問題を解く。児童は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこからが分からないのかを確認しながら進めさせる。つまり、まずきが明らかになった児童に対しては、個別に指導するが、児童の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。終わった児童は、プリントに取り組む。 ・教科書の問題とプリントに取り組み、自分自身の実現状況を確認しながら進める。その後、絵地図を見せ、自分たちで問題を作り、それを解き合う。 	

「長さをはかろう」の指導案（1時間 / 6時間）

目 標 巻尺の便利さに気付き、その使い方を知る。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 10 分	1 今までに既習した長さについて想起する	・ 1 cm、10cm、50cm、1 mについて確認する。	・ 動作化させながらだいたいの量感に気付かせる。 ・ ペアで確認させてもいい。 ・ 実際の長さを教師は説明する。
	2 どれくらいの長さかを予想する	・ 教科書の写真を見せながら、それぞれどれくらいかを予想する。 ・ それぞれについて、どれくらいの長さであるかを確認する。	・ 教師は事前に、教室内で 2 m 9 cm の高さ、教室の床を使って、8 m 95 cm の長さ、84 m 86 cm、1500 m が教室または、学校からどれくらいの距離にあるのかを押さえておく。
	3 問題の提示 次の長さを測りましょう。 ・ 教科書の縦の長さ ・ さんの走り幅跳びでとんだ長さ ・ 花瓶の周りの長さ		・ さんの走り幅跳びでとんだ長さは、模造紙に踏切板と足跡をきいておきそれを教室の真ん中に広げて測らせる。 ・ 各自定規を用意するとともに、できるだけ 1 m ものさしを準備しておく。
展 開 30 分	・ 何で測ればいいのかを考える ・ 実際に測る	・ 何で測ればいいのかを考える。 ・ 幅跳びの長さや花瓶が測りづらいことに気付く。	・ あまり時間をかけないで実際に測らせる。このとき、3人（2人）組で取り組ませる。
	4 課題の提示 巻尺の測り方を学習しよう		
	5 巻尺の測り方を知る。	・ 教科書を見ながら巻尺の測り方を理解する。 ・ 0 にあわせる ・ 目盛りをきちんと読む。	・ 教科書を使って巻尺の使い方を教師が説明する。
6 適用問題を解く	・ 教科書 P 56 の問題を解く。 ・ れんしゅうプリントを使って測り方を理解する。 ・ 実際に巻尺を使って長さを測る。	・ 巻尺の長さを測る最初の問題であるので、児童の実現状況を把握する。1 目盛りが 1 cm であることを確認する。 ・ このとき、2 つのグループに分け、巻尺を使うグループ（できれば 1 組 2 ~ 3 人が望ましい）は実際に幅跳びのとんだ長さ、花瓶の周りの長さを巻尺を使って測る。3 人全員が測るようにする。 ・ 1 つのグループの児童は、プリントを使って測り方を理解する。 ・ 答え合わせは組毎に行い、分からないところは、組毎に教え合わせる。教師も個別に指導する。	
ま と め 5 分	7 まとめ 長い長さや丸い形のものを測るときには、巻尺が便利である		
	8 次時の予告	・ 次時の学習内容を知る。	

「長さをはかろう」の指導案（2時間 / 6時間）

目 標 巻尺を使っているいろいろなものの長さを測り、巻尺の使い方を理解する。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導入	1 前時の復習	・巻尺の使い方を想起する。	・教師がもう一度、巻尺の使い方を説明する。 ・問題の提示までは一斉指導を行うが、その後は、組（3人グループ）毎に、実際に測り、その後、プリントに取り組み、また、実際に測るということを繰り返し学習させる。組毎に進む進度に差が出ると思われるが、そのまま取り組ませる。教師は、実際に測る所につき、個別に指導する。
	5分 2 問題の提示 巻尺を使っているいろいろなものの長さを測りましょう		
展開	3 実際に測る活動	・教室の縦の長さ ・黒板の縦と横の長さ	・実際に測るグループは巻尺の数にもよるが、1組の人数が2～3人が望ましい。この際、目盛りを読む人は、交代して取り組むように指示する。 ・3人それぞれ測ったならば、3人で答合わせをして、教師に確認して進ませる。 ・巻尺で長さを測れない児童には、プリントで再度指導し、実際に測らせることを何度も繰り返す。
	4 プリントを解く	・れんしゅうプリントの、 に取り組む	・プリントは、3人で答を確認した後に、答を教室に貼っておき、その丸付けをしながら進ませる。 ・プリントの と の間の線で切って、それぞれの場面で配布する。
	5 実際に測る活動	・廊下に印を付けてそこから、10mと思うところに小石をおいてみる。そしてその長さを測り、誰が一番近いかを競争する。	・プリントの問題のように一般化したものと、具体的なものを測らせながら定着を図りたい。
	38分 6 プリントを解く	・れんしゅうプリント、 に取り組む	・終わった組は、巻尺を使って教室、廊下にあるものを自由に測らせる。3人がきちんと測ってから進ませる。
まとめ 2分	4 まとめ		

「長さをはかろう」の指導案（3時間 / 6時間）

目 標 長さを表す単位「キロメートル（km）」及び道のりや距離の意味を理解する。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 10 分	1 教科書 P58の 絵地図を見て気 付くことを発表 する。	・建物がたくさんあって、その間 の長さが書いてある。 ・道に沿った長さやまっすぐな長 さが書いている。	・あまり深入りしないで進める。 ・TTの形態をとる。
	2 問題の提示 次の道のりを求めよう ・消防署から図書館 ・学校からゆきの家 ・マラソンコースの長さ	・それぞれの長さについて答を求 める。	・道に沿った長さのことを「道のり」 ということを確認する。 ・2人の教師は、長さを測れない児童 に対して、個別に指導する。
	3 課題の把握 新しい長さの単位を知ろう		
展 開 30 分	4 課題の解決	・長さの単位でしているものを発 表する。 m cm mm ・1 km = 1000mを理解する。 ・マラソンコースの長さ1200mを kmの単位を使ったときの表し方 を理解する。 ・駅から市役所、駅からゆきの家 までの道のりをkmを使って表そ う。	・それほど深入りしないで、教師が説 明する。 ・書き方、読み方について説明する。 ・簡単にどれくらいの長さかを確認す る。 ・単位換算が理解できない児童に対し ては、kmからmに直す場合には、0 を3つ付けること、逆にmからkmに 直す場合には、千の位の数字がkmを 表すことを繰り返し説明する。 ・理解できない児童に対して個別に指 導する。単位換算でつまづいている 児童に対しては、上のことを繰り返 し指導する。
	5 ゆきの家と学 校との距離を求 めよう	・600m	・まっすぐ測った長さを、「きょり」 ということを確認する。
	6 適用問題を解 く	・ゆきの家から学校までの距離と 道のりを調べどちらがどれくら い長いかが比べましょう。 ・問題 ・駅から図書館の道のり ・消防署からゆきの家までの道 のり ・駅から市役所までの距離 ・図書館からゆきの家までの道 のりと距離の違い ・駅から消防署までの道のりと 距離の違い	・個別指導に取り組む。答を求めた児 童に対しては、黒板に問題を記入し その問題を解かせる。 ・適用問題を解いた児童に対しては、 距離や道のりの問題を作り互いに解 かせる。理解できない児童を中心に 個別に指導する。 ・「-----」の中の問題は、時間があつた ら取り組ませる。
ま と め 5 分	7 本時のまとめ 8 次時の予告	・1 km = 1000mを確認する。また、 道のりと距離の違いをまとめる。 ・次時は、1 kmがどれくらいかを 学習することを伝える。	

「長さをはかろう」の指導案（４時間／６時間）

目 標 1 kmを実際に歩き、かかった時間や歩数を測り、1 kmの長さを体感することとおして、長さに対する感覚を豊かにする。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 5 分	1 前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 km = 1000mであることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T Tで授業を行う。 ・ 最初から校庭で始めてもいいし、見通しまで教室で行って、その後歩く場面で校庭にいてもどちらでも構わない。
	2 課題の把握		
展 開	3 結果の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩けば、30分くらい ・ 歩数は、 歩 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果の見通しについては、ノートにかかせるなどして、全員に見通しをもたせる。 ・ 歩数については、100m歩かせて、その時点での歩数を記入させ、あとで10倍する。
	4 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に1 km歩かせ、時間と歩数を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校庭で1 km歩かせる。 ・ 児童には、紙と鉛筆をもたせ、100m歩いたときの歩数を記録させる。 ・ 教師が先頭となり、教師のペースで歩く。
	5 学校からどれくらいの距離にあるかを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が、 までの距離はどれくらいだと思いますかと質問し、それを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が事前に問題を考えて（調べておき）2 km、5 km、10km、20km・・・の距離にあることを建物等をおさえておき、そこまでの距離を考えさせる。
ま と め 5 分	6 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 kmは、歩けば 分くらいで歩数はおよそ 歩である。 ・ 学習感想を書く 	
	7 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の学習内容を知る。 	

「長さをはかろう」の指導案（5時間 / 6時間）

目 標 巻尺を使って、様々なものを測るとともに道のりと距離について理解を深める。

階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 3 分	1 前時の復習	・ 1 km = 1000mであることを確認する。	・ 図鑑 プリント、プリント 図鑑の2つのグループを編成し、それぞれに教師がつく少人数指導とする。 ・ 取り組む時間は、それぞれ20分とし、20分すぎたら交換する。 ・ 図鑑で調べた長さを実際に測るグループは、巻尺があれば1組2人～3人程度とする。無い場合には、適宜人数編成をするが、同じ人が何回も測ることのないように指示する。
展 開 40 分	2 図鑑で調べた長さを実際に測るグループ 3 小テストを解くグループ	・ 図鑑から様々な動物等の長さを調べ、その長さを巻尺で調べてその長さを体感する。 ・ 小テストを解く。	・ ノートに、調べた動物等とその長さを記入し、最後に感想を記入する。 ・ できるだけ、多くのものを調べる。 ・ できるだけ大きい動物の長さを測らせたい。
	4 コース選択をする	・ プリントを解きながら、自分の実現状況によってコースを選択する。	
ま と め 2 分	5 まとめ 6 次時の予告	・ 次時は、コースに分かれて学習することを知らせる。	

「長さをはかろう」の指導案（6時間 / 6時間）

目 標 基礎コース

具体化した到達目標に従った問題を提示し、それに沿った問題を解きながら理解を深めることができる。

発展コース

具体化した到達目標の問題を確実に理解するとともに、道のりや距離の問題を作成し互いに解きあう。

1 基礎コース（第6時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の問題を解かせる。できたならばカードに自己評価を記入させ自分の実現状況を確認しながら進めさせる。 ・教師は、授業後の自己評価から一人一人のつまづきを把握し、つまづいているところを重点的に指導する。 ・理解できない児童に対しては、教科書を復習させながら、説明する。 ・教科書の問題については、だいたいの児童ができた段階で、答えを言う。（できるだけ個別指導に取り組む）教科書の問題を終えた児童には、学習プリント1, 2を提示し、どんどん進ませる。その際、解答を廊下にも貼り、自分で自己採点しながら進ませる。 ・理解できない児童を中心に個別指導に取り組む。その際、巻尺や1mものさしをもって歩き、具体物をすぐに提示できるようにする。

2 発展コース（第6時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリントに取り組む (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の問題と学習プリント1, 2を解かせる。できたならばカードに自己評価を記入させ自分の実現状況を確認しながら進めさせる。 ・理解できない児童に対しては、教科書を復習させながら、説明する。 ・教科書と学習プリントの問題は、25分たったところで教師が解答する。
2 道のりと距離の問題を図を基に作成し、互いに作成した問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> ・道のりと距離の問題を図を基に作成し、互いに作成した問題を解く。

最初の25分（発展コースの児童が教科書とプリントの問題を解いている時間）は、基礎コースに2人の教師がついて個別に指導する。その後は、発展コースにいるが、児童だけでできそうなときは、基礎コースで指導する。

3 小学校第4学年「記録を見やすく整理しよう」の指導計画及び学習指導案 「記録を見やすく整理しよう」の単元の指導計画

1 単元名 「整理のしかた」(小学校第4学年 東京書籍)			
2 単元の目標 2つの観点から資料を分類整理して表にまとめたり、その特徴を調べたりする能力を高める。			
3 評価規準			
観 点	評 価 規 準		
算数への関心・意欲・態度	・資料を集め分類整理したり、特徴を調べたりするために、目的に応じた適切な方法を用いようとする。		
数学的な考え方	・表にまとめた記録を見やすく整理する方法を工夫して考える。		
表現・処理	・二つの観点から、物事を分類整理して二次元表に表したり、その表から資料の特徴を読み取ったりすることができる。		
知識・理解	・資料を2つの観点から分類整理して、それらをまとめた二次元表の表し方や読み取り方を理解する。		
4 自己評価カードの観点(具体化した目標)			
	具 体 化 し た 到 達 目 標		
整理のしかた	<p>「けが調べ」から、けがの種類やけがをした場所について表に表すことができる。</p> <p>「けが調べ」の資料を、けがの種類と場所の二つの観点で表を作成することができる。</p> <p>「けが調べ」のけがの種類と場所の二つの観点から作った表を読み取ることができる。</p> <p>二つの表を、たてじくとよこじくにまとめて一つの表にまとめることができる。</p> <p>「図書館の本の利用のようす」の資料を、先週と今週でそれぞれ本を借りた人と借りなかった人の人数のようすが分かるように表に表すか考えることができる。</p> <p>「図書館の本の利用のようす」の表から、4つの項目が何を表しているかが分かる。</p> <p>「図書館の本の利用のようす」の表から、数値を読み取ることができる。</p>		
5 指導計画			
順	目 標	時 数	主 な 学 習 活 動
			基 礎 発 展
1 2	資料を2つの観点から分類する方法を理解するとともに、二次元表の表し方や読み取り方を理解する。	少 人 数 指 導	<p>・問題の提示</p> <p>けがの種類とけがをした場所の人数を調べて表を作成しよう</p> <p>けがの種類で分ける。</p> <p>けがの場所で分ける。</p> <p>けがをした時間で分ける。</p> <p>・それぞれの項目で整理する。</p> <p>・適用問題を解く。</p> <p>・課題の把握</p> <p>けがの種類と場所の二つの観点で表を作成しよう</p> <p>・話し合いの中で表の形を決める。</p> <p>・表の作り方について説明する。</p> <p>・表を作成する。</p> <p>・表の読み取り方を考える。</p>
3	前時のけが調べの資料を、異なる観点から二次元表に表す活動をおとして、二次元表についての理解を深める。	少 人 数 指 導	<p>・課題の把握</p> <p>けがをした学年とけがの種類など二つの観点で表を作成しよう</p> <p>・表の読み取り方を考える。</p> <p>・適用問題を解く。</p> <p>(他の観点についても二次元表を作成する)</p>

		基 礎	発 展
4	2つの分類項目をもつ資料を2つの観点から、分類整理する方法を理解し、読み取り方についても理解する。	少 人 数 指 導 <ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> あきさんの組の先週と今週の、図書室の本の利用人数を表に表しましょう </div> ・この資料は何を表しているかを考える。 ・表を作成し、気付いたことを発表する。 ・二次元表について教師が提示する。 ・課題の把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 二次元表の4つの項目にどのような数字が入るのかを考えよう。 </div> ・話し合いの中で確認するが、教師主導で考える。 ・適用問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> あきさんの組の先週と今週の、図書室の本の利用人数を表に表しましょう </div> ・表を作成する。 ・この表で分からないことが何かを考える。 ・先週と今週の本の利用の状況が分かるようにするには、どのような表の表し方があるのかを考える。 ・課題の把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> これらの人数を表に表すためには、どのような表がいいのかを考えよう </div> ・自力解決をする。 ・話し合いの中でどのような表が適しているのかを考える。 ・表の読み取り方を理解する。 ・適用問題を解く。
5	適用問題を解きながら学習内容の理解する。	一 斉 <ul style="list-style-type: none"> ・「たしかめよう」の問題を解く。 ・教師は、つまづきをすぐに把握し個別指導に努める。 ・終わった生徒は、類似した問題を解く。 	

「記録を見やすく整理しよう」の指導案

基礎コース（1，2時間目 / 5時間）

目標 資料を二つの観点から分類する方法を理解するとともに、二次元表の表し方や読み取り方を理解する。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導入 10分	1 「けが調べ」の資料から分かることを考える ・この資料から分かることは何ですか 2 問題の提示 けがの種類とけがをした場所の人数を調べて表を作成しよう	・けがの種類 ・場所 ・けがをした時間	・教科書の「けが調べ」の表を見せながら気付いたことを挙手、または指名しながら答えさせる。児童が答えられないときには、教師からヒントを与える。
展開 35分	3 自力解決する 4 それぞれの表について人数を確認する 5 気付いたことを発表する 6 課題の把握 けがの種類とけがをした場所の二つの観点で表を作成しよう	・正の字を書きながら、見落としや重なりがないように表にまとめる。 ・表の人数が間違っていないかどうかを確認する。 ・すり傷が多い ・校庭でのけがが多い ・教室でのけがが多い ・ねんざが少ない ・ろうかでのけがが少ない	・表の作成の仕方については第3学年で既習しているが、間違いや取り組めない児童が多いときには、一斉に指導する。 ・正の字を書きながら、数えることを確認する。 ・机間指導をしながら、間違っている児童に支援する。 ・教科書P51の表に直接書かせる。 ・人数を確認するが、算数が苦手な児童に指名したい。（正解であれば） ・どんなことでもいいので、指名しながら発表させる。 ・二つの表から気付いたことを発表した児童がいたならば、それを大きく取り上げ、課題にもっていく。 ・二つの表から気付いたことがでないときには、教師が提示する。
展開	7 課題解決をする。 ・二つの表をまとめて、一つの表に表すには、どうすればよいだらう	・二つの表をたてに並べる。 ・二つの表を横にまとめる。 ・縦軸と横軸にまとめる。	・教師とのやりとりの中で課題解決にもっていきたいが、でないときには、二次元表について教師が提示する。（時間を多くとらない）

「記録を見やすく整理しよう」の指導案

基礎コース（3時間目 / 5時間）

目 標 前時のけが調べの資料を、異なる観点から二次元表に表す活動をとおして、二次元表についての理解を深める。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 3	1 問題の提示 けがをした学年とけがの種類二つの観点で表を作成しよう		・前時の学習内容を簡単に確認した後に問題を提示する。
展 開	2 表の形をノートに記入する。 ・表の形を作るために最初に、何から考えるか	・たて軸と横軸が何かを考える。 ・たて軸に学年、横軸にけがの種類にする。	・たて軸と横軸が何かを考えることが最初に考えることであることを確認し、表の形を記入させる。 ・ 自力で表をノートに記入させたいが、時間がない場合には、プリントを配布し、プリントに記入させる。 ・表の作成のポイント (ノートに記入させたいが、時間がない場合にはプリントで配布) たて軸とよこ軸を決める。 項目の個数を調べる 表を作成し項目と合計を記入する。 数を記入する。(正の字で) 表題をかく
	3 表を完成する	・表を完成する。	・机間指導をしながら、個別に支援する。 ・終わった児童には、表から気付くことをノートに記入させる。
	4 表の人数を確認する	・表の人数が間違っていないかどうかを確認する。	・人数を確認するが、特に、算数が苦手な児童に指名したい。 ・表の人数が間違っていないことを確認するために合計欄があることを再度ふれる。
	5 表から気付いたことを発表する	・第1学年は、すりきずや打撲が多い。 ・高学年はねんざが多い。	・本当にそうなのか、一つ一つ確認しながら進める。
	6 けがの種類とけがをした時間について表を作成する	・けがの種類とけがをした時間について表を作成する。	・ 時間が少ないので、あらかじめプリントを用意し、2人組で取り組ませる。速く終えたグループは、気付いたことをプリントに記入させる。
	37分		
ま と め 5 分	7 表の人数を確認する	・表の人数を確認する。	・時間があれば、気付いたことを2, 3人に発表させ、まとめとする。
	8 次時の予告	・次時の学習内容を知る。	

「記録を見やすく整理しよう」の指導案

基礎コース（4時間目 / 5時間）

目 標 2つの分類項目をもつ資料を2つの観点から、分類整理する方法を理解し、読み取り方についても理解する。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入	1 問題の提示 あきらさんの組の先週と今週の、図書室の本の利用人数を表に表しましょう。 ・この資料は何を表していますか ・教科書 P 53の上の表に人数を記入し、気付いたことを発表する	・今週かりた人（の人数）が分かる。 ・先週かりた人（の人数）が分かる。 ・今週かりて先週かりなかった人（の人数）が分かる。 ・今週かりないで先週かりた人（の人数）が分かる等。 ・今週かりた人数やかりなかった人数は分かるが、先週かりて今週かりなかった人数は分からない。	・教科書の53 Pの右側の資料を見せながら考えさせる。 ・教科書 P 53の上の表を使う。教師が指示を出して取り組ませる。 ・気付いたことが出ないときには、教師主導で気付かせる。
	2 課題の把握 表の4つの項目にどのような数字が入るのかを考えよう		・教科書 P 53の下の表を教師が提示する。 ・課題も教師が提示する。
展 開	3 課題を解決する	・4つの項目が、何を表しているかを言葉でまとめる。	・言葉でまとめることができない場合には、誰がどこにはいるかを確認しながら進める。
	4 資料から人数を記入する 5 表の人数を確認する	・4つの項目に人数を記入する。 ・表の人数が間違っていないかどうか確認する。	・教科書の P 53の表に正の字をかきながら、もれがないように数えさせ、記入させる。 ・人数を確認するが、算数が苦手な児童に指名したい。（正解であれば）
25分	6 表の読み取り方を確認する ・二次元表の一つの欄をさして、ここは何を表しているところかを確認する	・表の読み取り方を確認する ・教師がさした欄が何を表しているかを考える。	・4カ所全ての欄について何を表しているかを丁寧に指導する。 ・「先週だけかりた人」や「先週かりた人」などの言葉の意味について丁寧に扱う。 ・いろいろな表現方法で、教師が質問し、それについて児童が答える。
ま と め 5 分	7 本時のまとめ 8 次時の予告	・二次元表のよさについて発表する（ノートにまとめる） ・まとめを行うことを知る。	・ノートにまとめた場合には、学習感想として「関心・意欲・態度」の評価に生かす。

「記録を見やすく整理しよう」の指導案

発展コース（1，2時間目 / 5時間）

目標 資料を二つの観点から分類する方法を理解するとともに、二次元表の表し方や読み取り方を理解する。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導入 5分	<p>1 「けが調べ」の資料から分かることを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> この資料から分かることは何ですか <p>2 問題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんなけがが多く、どんな場所でけがをしているかを調べよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> けがの種類 場所 けがをした時間 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の「けが調べ」の資料を見せながら気付いたことを発表させる。短時間で進める。
展 開	<p>3 見通す</p> <ul style="list-style-type: none"> 結果の見通し 方法の見通し <p>4 自力解決する</p> <p>5 それぞれの表について人数を確認する</p> <p>6 二つの表から気付いたことを発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> どんなけがについては、すり傷が多いのではないか。 どんな場所では、校庭が多いのではないか。 正の字を書きながら、見落としや重なりがないように表にまとめる。 表の人数が間違っていないかどうかを確認する。 すり傷が多い。 校庭でのけがが多い。 教室でのけがが多い。 ねんざが少ない。 ろうかでのけがが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童は、結果を見通しながら、表を作成しようとしている児童が多いものと思われるので、方法の見通しについては、ふれず（または確認する程度）にすぐに表を作成させる。P51の教科書に記入しながら取り組んでいいことを確認する。 正の字をかかないで表を作成する児童がいるものと思われるので、間違いを減らすためにも正の字を書いた方がいいことを指導する。 机間指導をしながら、間違っている児童に支援する。 指名しながら人数を確認する。時間を多く取らない。 最初は、一つの表から気付いたことを発表するものと思われるが、教師はうなずきながら聞き、二つの表の関連から気付いたことを発表させるように辛抱強く待ちたい。 時間が多くかかる場合には、教師がすり傷の多い場所はどこかな等補助発問をしながら気付かせたい。 二つの表の関連を気付いたこと

展 開	7 課題の把握		を、本時の課題へもっていく。(二つの表だと関連がみづらいな等)
	どの場所でどんなけがが多いかをすぐに分かる表を作成しよう		
40分	8 課題解決をする。 ・二つの表をまとめて、一つの表に表すには、どうすればよいだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの表をたてに並べる。 ・二つの表を横にまとめる。 ・縦軸と横軸にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は児童の調整薬に徹する。 ・たてに並べたり、横に並べると同じ項目を何度もかかなければならない不便さに気付かせたい。 (気付かない時には、教師から提示する) ・欠席黒板や九九の表を想起させ、二次元表のイメージをもたせたいが、これも児童の話し合いの中から気付かせたい。
展 開	9 表を作成する	<ul style="list-style-type: none"> ・表をノートにかき、それに正の字を記入する。見落としや重なりがないように表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をしながら児童一人一人の実現状況を確認する。間違いがあまりいないときには、多くの時間をかけない。
	10 表の人数を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作成した表の人数が間違いがないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数を確認する。教師が解答してもよし。時間の短縮を図る。
	11 表の合計がなぜあるかを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・表の合計欄がなぜあるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違いをなくするためということが児童からでないときには、教師がわざと間違えた答をかいて、この間違いを防止する方法はという形で気付かせる。
	12 表から気付いたことを発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭でのすりきずが多い。 ・教室での切り傷が多い。 ・ろうかでのすり傷がだれもいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、校庭でのすり傷が多く、ろうかでのすり傷が少ないのか等、その理由も意識して話し合わせたい。 ・全員に発表させるような気持ちで授業を進める。
40分			
ま と め	12 まとめ		
	二つの観点で表を作成するときには、たてと横に項目をかいてまとめると見やすくなる。		
5分	13 次時の予告		

「記録を見やすく整理しよう」の指導案

発展コース（3時間目 / 5時間）

目標 前時のけが調べの資料を、異なる観点から二次元表に表す活動をとおして、二次元表についての理解を深める。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導入 5分	1 前時の確認		<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を簡単に確認する。 ・二次元表が前時以外の組み合わせが5つできることを確認する。
	2 けが調べの資料から、前時の二つ以外で、どのような組み合わせがあるかを確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・学年と種類 ・学年と場所 ・学年と時間 ・種類と時間 ・場所と時間 	
	3 課題の把握		
	残りの組み合わせについて、表をできるだけ作成しよう		
展開 35分	4 間違わないようにするには何が大切ですか	<ul style="list-style-type: none"> ・人数を間違わないためには、合計欄が合わなければならないことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違わないためには、合計欄の人数が合わなければならないことは児童から出させたい。 ・2人グループで取り組ませる。 ・たくさんの二次元表を作成させ、気付いたことをまとめさせる。 ・プリントに記入した、二次元表を作成し、配布する。時間の短縮を図る。記入後はノートにはらせる。 ・2人グループであるので分担をかえながら取り組ませる。
	5 二次元表を作成し、気付いたことをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが選択した二つの観点で表を作成し、気付いたことをまとめる。 	
	6 5つの二次元表の人数を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・答を確認する。 	
	7 気付いたことを各グループに発表させる	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを発表するとともに、他のグループの発表を、間違いがないかどうか確認しながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の二次元表から、気付いたことを発表した場合には、賞賛する。
まとめ 5分	8 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元表の作成の仕方などについて感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表させて（学習感想として記入させてもいい）本時のまとめとする。
	9 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習内容を知る。 	

「記録を見やすく整理しよう」の指導案

発展コース（4時間目 / 5時間）

少人数指導（算数科）

単元名 「整理の仕方」（記録を見やすく整理しよう）第4学年（4 / 5）**発展コース**

目標 2つの分類項目をもつ資料を2つの観点から、分類整理する方法を理解し、読み取り方についても理解する。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 10 分	1 問題の提示 あきらさんの組の先週と今週の図書室の本の利用人数を表に表しましょう。		<ul style="list-style-type: none"> ・本の利用のようすの資料と教科書P53の上の表を記入したプリントを配布する。 ・人数を確認する。 ・分からないことが、児童から出ない場合には、分かることを確認する。確認する中で分からないことを発表させる。
	2 表に人数を記入し、この表では、分からないことは何かを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・人数を記入する。 ・先週本を借りた人数は分かるが、先週本を借りて今週借りなかった人などは分からない。 ・今週も先週も借りた人 ・どとらの週も借りなかった人 ・今週借りて先週借りなかった人 	
展 開 30 分	3 課題の把握 これらの人数を表に表すためには、どのような表がいいのかを考えよう		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容2の児童の発言から、課題につなげる。 ・どちらも借りた人、どちらも借りなかった人、今週借りて先週借りなかった人、今週借りないで先週借りた人の人数を記入することを確認しながら、既習事項を想起させながら考えさせる。 ・教師は、児童の話し合いの調整役となるが、意見が出ないときには、上のことを確認しながら児童の考えを引き出す。 ・正の字をかきながら、もれがないようにする。 ・4カ所全ての欄について何を表しているかを丁寧に指導する。 ・「先週だけかりた人」や「先週かりた人」などの言葉の意味について丁寧に扱う。 ・いろいろな表現方法で、教師が質問し、それについて児童が答える。
	4 課題を解決する	<ul style="list-style-type: none"> ・縦の軸に今週、横の軸に先週の項目を入れる。 	
	5 表に人数を記入する 6 表の見方を確認する ・二次元表の一つの欄をさして、ここは何を表しているところかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から表に人数を記入する。 ・表の見方を確認する。 ・教師がさした欄が何を表しているかを考える。 	
ま と め 5	7 本時のまとめ 8 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元表のよさについて発表する(ノートにまとめる)。 ・まとめを行うことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートにまとめた場合には、学習感想として「関心・意欲・態度」の評価に生かす。

4 小学校第5学年「図形の角のひみつを調べよう」の指導計画案及び学習指導案

「図形の角のひみつを調べよう」の単元の指導計画

1 単元名 「図形の角のひみつを調べよう」(小学校第5学年 東京書籍)	
2 単元の目標 三角形や多角形の内角の和について理解するとともに、それを用いて基本的な図形の性質を見いだしたり、調べたりすることができる。	
3 評価規準	
観 点	評 価 規 準
算数への関心・意欲・態度	・基本的な図形の性質を基に、多角形の角の大きさの性質を調べようとする。
数学的な考え方	・三角形の内角の和を基にして、多角形の内角の和の求め方を考える。
表現・処理	・三角形の内角の和が180度であることを用いて、多角形の内角の和を求めることができる。
知識・理解	・三角形の内角の和が180度であることや、多角形の内角の和は三角形に分割することによって求められることを理解する。
4 自己評価カードの観点(具体化した目標)	
具 体 化 し た 到 達 目 標	
図形の角のひみつを調べよう	しきつめられた三角形を基に、三角形の3つの角の和の大きさを予想することができる。 三角形の角の大きさの和が180であることの確かめ方を考えることができる。 三角形の3つの角の大きさの和が180であることを使って問題を解くことができる。 四角形の4つの角の大きさの和を、角の大きさを測らないで求める方法を考えることができる。 四角形の4つの角の大きさの和が360であることを理解できる。 多角形(五角形、六角形等)のそれぞれの角の大きさの和の求め方を考えることができる。 多角形(五角形、六角形等)のそれぞれの角の大きさの和を使って問題を解くことができる。 多角形の角のきまりについて理解できる。
5 指導計画	
単 元 目 標	主 な 学 習 活 動
1 しきつめられた三角形から、三角形の3つの角の和に何かきまりがあるのではないだろうかと考えることができる。	少人数指導 ・問題の提示 しきつめられた三角形から気付くことは何でしょう ・三角形をしきつめる。 ・気付いたことを発表する。教師はつばやき等を取り上げ気付いたことをまとめる。 ・気付いたことを一つ一つ児童と一緒にそうになっているかどうかを確かめる。 ・まとめ 気付いたことをそれぞれまとめる
2 三角形の内角の和が180になることをどのように調べればよいかを考えるとともに、調べた結果から三角形の内角の和が180になることを理解することができる。	少人数指導 ・問題の提示 三角形の3つの角の和が180になることを確かめよう ・見通し 方法の見通し(三角定規の角度をそれぞれ測ってみる。三角形を破いて角を1点に集めてみる。) ・自力解決 ・まとめ 三角形の3つの角の大きさの和は、180度である 適用問題を解く。(P4)
3 四角形の内角の和は、三角形の内角の和を基にすれば求められることを理解する。	一斉 ・問題の提示 四角形の4つの角の大きさの和は、何度でしょう ・見通し 結果の見通し ・自力解決 ・角度を測らないで、和を求める方法を考える。 ・自力解決 ・比較・検討 ・まとめ 四角形の4つの角の大きさの和は、360度になる 適用問題を解く。(P5) ・小テストを行い、コースを選択する。
4 多角形について知り、多角形の内角の和は三角形に分割すれば求められることを理解するとともに、多角形の内角の和のきまりについて考えることができる。	習熟度別指導 基 礎 ・五角形、六角形、多角形の定義を知る。 ・問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう ・問題の解決 ・課題の確認 四角形、五角形、六角形と辺の数が増えると角の大きさの和はどのように変わるだろう ・課題の解決 ・比較・検討 ・本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の和は180ずつ増える 発 展 ・五角形、六角形、多角形の定義を知る。 ・問題の提示 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう ・問題の解決 ・課題の確認 多角形の角の和のきまりについて考えよう ・課題の解決 ・比較・検討 ・本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の和は180ずつ増える 「身の回りの多角形」について学習する。
5 練習問題に取り組み、学習内容の理解を深める。	習熟度別指導 基 礎 ・教科書の問題を解く。 ・自己評価カードにチェックしながら進める。 ・教師は、具体物を提示しながらつまづいている児童に対して、指導する。 発 展 ・教科書の問題を解く。 ・自己評価カードにチェックしながら進める。 ・問題を作り、互いに解く。

「図形の角のひみつを調べよう」の指導案（1 / 5 時間）単純分割少人数指導かTT

目標 しきつめられた三角形から、三角形の3つの角の和に何かきまりがあるのではないだろうか
と気付くことができる。
この時間は、単純分割の少人数（TT）に分けて授業を進める。本時は、しきつめを行ってそ
こから気付いたことを発表しながら、三角形の3つの角の和のきまりに気付かせることを目標
としているので、しきつめ等の算数的活動に差が出そうな場面で人数が少ないことによるメリッ
トを生かしたいと考えている。また、気付いたことの発表場面では、等質に分けないことによ
り、多面的な考えが出されるのではないかと考える。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 20 分	1 しきつめに関 心をもつ	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の2pの写真を見て、気付いたことを発表する。 三角形がしきつめられている。 どんな三角形でもしきつめられるのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書2pの写真を見せて、気付いたことを何でも発表させ、そこから、しきつめに着目した考えを拾い上げしきつめに興味を抱かせる。 しきつめとは、あいたスペースがなく、ぴったりとしきつめられている状態を表していること説明する。
	2 しきつめでき るかどうかを考 える	<ul style="list-style-type: none"> 全ての三角形が敷きつめられるかどうかを考える。 全てしきつめできる。 しきつめできない三角形があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 敷き詰められないと予想した児童には、例えばどのような三角形かと問い、考えさせる。 しきつめできない三角形があると答えた児童には、その理由やどのような三角形がしきつめできないかを発表させる。
	3 しきつめする	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のp90の三角形を切り取り、しきつめできるかどうかを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 結構時間がかかるものと思われる。家庭で切り取ってくることを宿題にしてもいいのではないか。 しきつめできない生徒には、同じ辺をくっつけばいいことを指示する。
	4 本時の課題 三角形のしきつめをみて、気付いたことを考えよう		
展 開 20 分	5 気付いたこと の発表	<ul style="list-style-type: none"> 三角形のしきつめらを見ながら、気付いたことを発表する。 長さの等しい辺がくっついて 1つの点に、三角形の3つの角が全て集まっている。 3つの角が集まっている。 3つの角の和が180になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の発表を共感的に取り上げる。 特に、角の関係について気付いた発表を丁寧に扱いたい。3つの角の和が180であることが、しきつめができる要因であることを理解させたい。
	6 3つの角の大 きさについて考 える	<ul style="list-style-type: none"> 3つの角の大きさは、180 になるのではないか。 三角定規の3つの角の大きさをはかって、180 になることを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> しきつめから3つの角の和が、180 になっていることをきちんと確かめさせる。 教科書3pの三角定規の図から、それぞれの角度をはかり、180 になることを確かめさせる。
	7 本時のまとめ それぞれの考えで気付いたことをまとめる		<ul style="list-style-type: none"> それぞれの考えをまとめる。教師が無理に三角形の3つの角の和が180 であるというようにはまとめない。あくまでも一人一人の考えでまとめさせる。
ま と め 5分	8 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> 次は、三角形の3つの角の和について学習することを知らせる。 	

「図形の角のひみつを調べよう」の指導案（2 / 5 時間）単純分割少人数指導かTT

目標 三角形の内角の和が 180 になることをどのように調べればいいのかを考えるとともに、調べた結果から三角形の内角の和が 180 になることを理解することができる。

この時間も、単純分割の少人数（TT）に分けて授業を進める。本時も課題解決の場面で、角度を測ったり、三角形の3つの角を1点に集めるなどの算数的活動を行うので、少人数のメリットである教師の支援の充実を図りたい。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 5 分	1 前時の復習	・ 三角形のしきつめから、三角形の3つの角の和が 180 であることを確認する。	
	2 本時の課題 三角形の3つの角の和が 180 になることを確かめよう		
展 開 35 分	3 見通し	・ 3つの角の和が 180 になるかを、どのように確かめればいいのかを考える。 3つの角を切って集める 三角形をかき、分度器で角をはかりそれらをたす。	・ 見通しを考えることが本時の目標でもあるので、十分に考えさせたい。
	4 課題の解決	・ 上の について、それぞれ算数的活動をとおして、三角形の3つの角の和が 180 になることを確かめる。	・ とも自分で三角形を作図し、それぞれについて作業させる。 (紙を2枚渡して、それぞれに自分なりの三角形を書かせて取り組ませる)
	5 比較・検討	・ 友だちの発表から、どんな三角形でも3つの角の和が 180 になることを理解する。	・ それぞれについて2～3人に発表させる。あまり多くの時間をとらないようにする。
	6 本時のまとめ 三角形の3つの角の大きさの和は、180 になる		
	7 適用問題	・ 教科書 p 4 の問題を解く。	・ 3つの角の和が 180 であることより、計算させる。教師は、つまりいている児童への支援に努める。
ま と め 5 分	8 次時の予告	・ 次時は、四角形の4つの角の和について学習することを知らせる。	

「図形の角のひみつを調べよう」の指導案

基礎コース（4 / 5時間）習熟度別指導

目標 多角形について知り、多角形の内角の和は三角形に分割すれば求められることを理解するとともに、多角形の内角の和のきまりについて考えることができる。

基礎コースの児童は、多角形の角のきまりについて既習事項を確認しながら、特に、「5 課題の解決」場面を丁寧に扱う。実態によっては、表をすぐに提示して考えさせる。課題解決のために、その前段部分を時間をかけて丁寧に扱う。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 10 分	1 多角形の定義を知る	<ul style="list-style-type: none"> 多角形とは、直線だけで囲まれた図形のことであることを理解する。 五角形、六角形を教師が示し、それを見てイメージをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 五角形、六角形を紙板書で提示してイメージをもたせる。
	2 本時の問題 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう		
展 開 35 分	3 問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの見通しをもって問題を解決する。 五角形、六角形をかいて分度器ではかる。 前時のように、三角形に分割して求める。 四角形と三角形、四角形と四角形に分割して求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えに沿って問題を解決させるが、そのような考え方が考えやすいことに気付かせる。
	4 課題の確認 四角形、五角形、六角形と辺の数が増えると角の大きさの和はどのように変わるのだろう。		
	5 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 四角形、五角形、六角形と辺の数が増えていくと角の和は、180 ずつ増えていくことに気付く。 七角形、八角形についても考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 1～2分しても気がつかない児童には、表を作成させて、角の和の増え方に着目させて考えさせる。もしも、気がつかない児童が多い場合には、全員に表を作らせて、それから考えさせる。
6 比較・検討	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの考えを聞き、自分の考えと比較する。 		
7 本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の大きさの和は180 ずつ増える 時間がある場合には、教科書 p 7 について説明する			<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人にまとめさせるが、最終的に教師もまとめ、確認する。
ま と め 5分	8 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、練習問題に取り組むことを知る。 	

「図形の角のひみつを調べよう」の指導案

発展コース（4 / 5 時間）習熟度別指導

目標 多角形について知り、多角形の内角の和は三角形に分割すれば求められることを理解するとともに、多角形の内角の和のきまりについて考えることができる。

発展コースの児童は、多角形の角のきまりについて既習事項を確認しながら、特に、「5 課題の解決」場面を丁寧に扱う。ここでは、児童のつばやきを拾い上げながら授業を進める。すぐに問題や課題が解決できた場合には、速やかにすすめ、教科書 p 7 の問題を取り上げる。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入 10 分	1 多角形の定義を知る	<ul style="list-style-type: none"> 多角形とは、直線だけで囲まれた図形のことであることを理解する。 五角形、六角形を教師が示し、それを見てイメージをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 五角形、六角形を紙板書で提示してイメージをもたせる。
	2 本時の問題 五角形、六角形のそれぞれの角の大きさの和を求めよう		
展 開	3 問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの見通しをもって問題を解決する。 五角形、六角形をかいて分度器ではかる。 前時のように、三角形に分割して求める。 四角形と三角形、四角形と四角形に分割して求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えに沿って問題を解決させるが、そのような考え方が考えやすいことに気付かせる。
	4 課題の確認 多角形の角の和のきまりについて考えよう		
開 35 分	5 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 四角形、五角形、六角形と辺の数が増えていくと角の和はがどうなるかを考える。 ・180 ずつ増える。 ・三角形に分割した数が1 ずつ増えるので、180 ずつ増える。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ自力解決をさせたい。しかし、どうしても気がつかない児童には、ヒントカードとして表を記入したカードを渡す。
	6 比較・検討	<ul style="list-style-type: none"> きまりについて発表するとともに、その理由についても発表する。 友だちの考えや自分で考えたきまりについてノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの理由を聞きながら、自分の考えと比較する。 角形の和は、$180 \times (n - 2)$ で表されることに気付いた児童がいれば取り上げて紹介する。
	7 本時のまとめ 四角形、五角形と辺の数が増えると角の大きさの和は180 ずつ増える。		<ul style="list-style-type: none"> 各自がかいたきまりを、そのまま本時のまとめとする。
	8 教科書 p 7「身の回りの多角形」について学習する	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの多角形について説明を受ける。 正六角形や正八角形になることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 正多角形については、説明で終わりにするが、正六角形になる理由や正八角形になる理由は時間があれば考えさせたい。
ま と め 5 分	8 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、練習問題に取り組むことを知る。 	

「図形の角のひみつを調べよう」の指導案（5 / 5 時間） 習熟度別指導

- 目 標
- 基礎コース
具体化した到達目標に従った問題に取り組み、理解を深める。
 - 発展コース
具体化した到達目標に従った問題に取り組み、理解を深めるとともに、発展的な問題に取り組む。

1 基礎コース（第5時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 具体化した到達目標に沿った問題に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 p 8 の問題を解かせる。自己評価カードに記入させ自分の実現状況を確認しながら進めさせる。 ・教師は、授業後の自己評価から一人一人のつまづきを把握し、つまづいているところを重点的に指導する。 ・理解できない児童に対しては、教科書を復習させながら、説明する。 ・教科書の問題については、だいたいの児童ができた段階で、解答する。（できるだけ個別指導に取り組む）（目安として20分経過したならば） ・教科書の問題を終えた児童には、共通学習プリントを提示し、どんどん進ませる。残り5分くらいのところで解答する。 ・求角ができない児童は、たし算、ひき算でつまづいているのか、角の求め方でつまづいているのかを見極めながら指導する。 ・共通学習プリントを終えた児童には、挑戦学習プリントに取り組ませる。

2 発展コース（第5時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 具体化した到達目標に沿った問題に取り組む (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 p 8 の問題を解かせる。自己評価カードに記入させ自分の実現状況を確認しながら進めさせる。 ・教科書の問題を終えた児童には、共通学習プリントを提示し、どんどん進ませる。 ・だいたいの児童が終わったならば、解答する。（目安として20分くらい。解答は実態を見てからだが、ほとんどの児童ができている場合には答えだけいう。説明はしない。分からない児童が1～2名ならば解答の後に個別に指導する。）
2 挑戦学習プリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・挑戦学習プリントに取り組む。 ・挑戦学習プリント1は、六角形の角の大きさの求め方を問う問題である。求め方を振り返らせる。できない児童が多い場合には、全体に説明する。 ・挑戦学習プリントは、多角形の外角の和を求める発展的な問題である。時間が無い場合には、このプリントに取り組まなくてもいい。挑戦学習プリント1が終わってまだ、時間が十分にある児童に取り組ませたい。なぜ、外角の和が360になるかの質問があった場合には、外角を切って貼り付ければちょうど1回転することからそうなるという説明をする。このことを児童に考えさせてもいい。

最初の20分（発展コースの児童が教科書とプリントの問題を解いている時間）は、基礎コースに2人の教師がついて個別に指導する。その後は、発展コースにいるが、児童だけでできそうなときは、基礎コースで指導する。

5 中学校第1学年「方程式」の指導計画及び学習指導案

「方程式」の単元の指導計画

1 単元名 「方程式 1 方程式」(中学校第1学年 東京書籍)		
2 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・方程式について理解するとともに等式の性質を見だし、それに基づいて方程式を変形して解くことができる。 ・簡単な一元一次方程式を解き方を理解する。 		
3 評価規準		
観 点	評 価 規 準	
算数への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・一元一次方程式及びその解の意味に関心をもち、さまざまな数を代入するなどして、自分なりの方法で解を求めようとする。 ・等式の性質と意向に関心をもち、一元一次方程式を解こうとする。 	
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事象には、文字を用いる簡単な等式に表せるものがあることに気付き、文字に当てはまる数について考えることができる。 ・等式の性質と移項の関係について考えることができる。 ・等式の性質を基に一元一次方程式の解き方を考えることができる。 	
数量や図形についての表現・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・一元一次方程式をつくることができる。 ・一元一次方程式に値を代入して、その数が解であるかどうか確かめることができる。 ・簡単な一辺一次方程式を解くことができる。 ・一元一次方程式を解くとき、どの等式の性質が使われているのか説明することができる。 	
数量や図形についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・一元一次方程式及びその中の文字や解の意味について理解している。 ・等式の性質と移項の関係を理解している。 ・一元一次方程式の解き方を理解している。 	
4 自己評価カードの観点(具体化した目標)		
	具 体 化 し た 到 達 目 標	
方程式	<p>等式、左辺、右辺の言葉の意味が分かる。</p> <p>数量の間の関係を等式で表すことができる。</p> <p>方程式、解、解くという言葉の意味が分かる。</p> <p>方程式の解を、代入する方法で求めることができる。</p> <p>等式の性質について理解できる。</p> <p>等式の性質を使って $x + 9 = 4$ を解くことができる。</p> <p>等式の性質を使って $4x = 6$ を解くことができる。</p> <p>等式の性質を使って $1/4x = 5$ を解くことができる。</p> <p>移項の意味を理解できる。</p> <p>移項を使って $x - 3 = 11$ を解くことができる。</p> <p>$4x = 18 - 2x$ を解くことができる。</p> <p>$9x - 5 = 2x + 23$ を解くことができる。</p> <p>() のある方程式を解くことができる。</p> <p>小数のある方程式を解くことができる。</p> <p>分数のある方程式を解くことができる。</p> <p>方程式を使って問題を解くことができる。(求めるものが1つ p 79 のような問題)</p> <p>方程式を使って問題を解くことができる。(オレンジとリンゴの問題 求めるものが2つ p 80 のような問題)</p> <p>方程式を使って問題を解くことができる。(子どもの人数と折り紙の問題 p 81 のような問題)</p> <p>方程式を使って問題を解くことができる。(速さの問題 p 82 のような問題)</p>	
5 指導計画		
期 間	目 標	主 な 学 習 活 動
1	<p>数量の間の関係を等式に表すとともに、等式に数を代入して方程式を解くことができる。また、てんびんを使って等式の性質を予想し、理解する。</p> <p>(p 73 まで2時間で進む予定で計画をたてましたが、生徒の実態に応じて3時間にしても構いません。2時間で扱う場合でも、等式の性質を第2時に回しても差し支えありません。実態に応じて進めていきます。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・等式、左辺、右辺の用語について説明する。 ・数量の間の関係を等式で表す。(適用問題を解く) ・ $2x + 1 = 9$ の式で、x の値が1~6のときの左辺の値を求める。 ・ $x = 4$ のとき左辺と右辺が等しいことを知る。 ・適用問題を解く。 ・まとめ ・等式、左辺、右辺、方程式、解、解くの用語についてまとめる
		<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 ・ $2x + 1 = 9$ を数を代入して調べる以外で解けないだろうか ・てんびんの図を見ながら考える。 ・てんびんで両辺から1を引いて2でわればいいのではないかと気付く。 ・課題の提示 ・等式では両辺から同じ数をたしたり、引いたり、かけたり、わったりすることができるだろうか ・てんびんから性質を考える。 ・まとめ ・等式の性質についてまとめる ・適用問題を解く。
2	<p>等式の性質を使って方程式を解くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 ・ $x + 9 = 4$ を等式の性質を使って解いてみよう ・等式の性質を確認する。 ・自力解決する。 ・比較・検討する。 ・たしかめ算を行う。 ・適用問題を解く。 ・ $4x = 6$ を等式の性質を使って解いてみよう

		<ul style="list-style-type: none"> ・適用問題を解く ・少し複雑な方程式を等式の性質を使って解く。($2/3x = 8$ 等の問題) ・まとめ ・等式の性質を使えば方程式を解くことができる 				
3	<p>移項の意味を理解するとともに、移項を使って一次方程式を解くことができる。</p>	一斉 <ul style="list-style-type: none"> ・移項の意味を知る。 ・移項を使って $x - 3 = 11$ の解き方を知る。 ・適用問題を解く ・ $4x = 18 - 2x$ の解き方を知る。 ・適用問題を解く。 ・ $9x - 5 = 2x + 23$ の解き方を考える。 ・適用問題を解く。 				
4	<p>() や小数のある方程式を解くことができる。</p>	一斉 <ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 $3x - 2(x - 1) = 8$ を解こう ・() をはずせば解けることに気付く。 ・() をはずして解く。 ・適用問題を解く。 ・問題の提示 $2.5x - 0.4 = 4.6$ を解こう ・整数に直せば解けることに気付く。 ・整数に直して解く。 ・適用問題を解く。 ・まとめ ・() がある方程式は、() をはずしてから解く。小数が含まれている方程式は整数に直してから解く 				
5	<p>分数のある方程式を解くことができる。</p>	一斉 <ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 $1/3x - 4 = 1/5x$ を解こう ・整数に直せば解けることに気付く。 ・整数に直して解く。 ・適用問題を解く。 ・一次方程式について理解する。 ・まとめ ・分数が含まれている方程式は整数に直してから解く ・次時に向けてコースを選択するためのチェックテスト(具体化した到達目標に沿った問題)を行う。 ・答えを確かめる。 				
6	<p>(基礎) 具体化した到達目標に従った問題を提示し、それに沿った問題を解きながら理解を深めることができる。(発展) 具体化した到達目標の問題を確実に理解するとともに、問題を作って解きあう。</p>	少人数 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">基 礎</th> <th style="width: 50%;">発 展</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。生徒は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進める。つまずきが明らかになった生徒に対しては、個別に指導するが、生徒の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。プリントを中心に進める。</td> <td>・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う(基礎コースの問題と同じ)。終わったならば、その後、解が整数となる問題を作り、互いに解き合う。</td> </tr> </tbody> </table>	基 礎	発 展	・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。生徒は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進める。つまずきが明らかになった生徒に対しては、個別に指導するが、生徒の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。プリントを中心に進める。	・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う(基礎コースの問題と同じ)。終わったならば、その後、解が整数となる問題を作り、互いに解き合う。
基 礎	発 展					
・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。生徒は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進める。つまずきが明らかになった生徒に対しては、個別に指導するが、生徒の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。プリントを中心に進める。	・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う(基礎コースの問題と同じ)。終わったならば、その後、解が整数となる問題を作り、互いに解き合う。					
7 ~ 10	<p>問題の解決のために方程式を使うことのよさが分かるとともに、方程式を使って問題を解くことができる。</p>	一斉 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って、例題を解き、基本の問題(P84)まで進める。 				
11	<p>(基礎) 具体化した到達目標に従った問題を提示し、それに沿った問題を解きながら理解を深めることができる。(発展) 具体化した到達目標の問題を確実に理解するとともに、問題を作って解きあう。</p>	少人数 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">基 礎</th> <th style="width: 50%;">発 展</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。生徒は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進める。つまずきが明らかになった生徒に対しては、個別に指導するが、生徒の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。プリントを中心に進める。</td> <td>・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習(基礎コースプリントNo1)を行う。終わったならば、発展コースプリントに取り組み、それも終わったならば基礎コースプリントNo2に取り組む。</td> </tr> </tbody> </table>	基 礎	発 展	・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。生徒は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進める。つまずきが明らかになった生徒に対しては、個別に指導するが、生徒の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。プリントを中心に進める。	・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習(基礎コースプリントNo1)を行う。終わったならば、発展コースプリントに取り組み、それも終わったならば基礎コースプリントNo2に取り組む。
基 礎	発 展					
・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。生徒は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進める。つまずきが明らかになった生徒に対しては、個別に指導するが、生徒の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。プリントを中心に進める。	・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習(基礎コースプリントNo1)を行う。終わったならば、発展コースプリントに取り組み、それも終わったならば基礎コースプリントNo2に取り組む。					
12	<p>(基礎) 前時に引き続き、具体化した到達目標に従った問題を提示し、それに沿った問題を解きながら理解を深めることができる。(発展) 間違いやすい問題について自分たちで考え、間違わないようにするための方法を考える。</p>	少人数 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">基 礎</th> <th style="width: 50%;">発 展</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・前時に引き続き、具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。生徒は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進める。つまずきが明らかになった生徒に対しては、個別に指導するが、生徒の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。プリントを中心に進める。</td> <td>・間違いやすい問題について考え、みんなから出された問題を解く。その後、間違わないようにするための方法について自分たちで話し合う。</td> </tr> </tbody> </table>	基 礎	発 展	・前時に引き続き、具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。生徒は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進める。つまずきが明らかになった生徒に対しては、個別に指導するが、生徒の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。プリントを中心に進める。	・間違いやすい問題について考え、みんなから出された問題を解く。その後、間違わないようにするための方法について自分たちで話し合う。
基 礎	発 展					
・前時に引き続き、具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。生徒は、自分自身の実現状況をチェックしながら、どこまで分かりどこから分からないのかを確認しながら進める。つまずきが明らかになった生徒に対しては、個別に指導するが、生徒の実現状況によって一斉指導を組み込みながら進める。プリントを中心に進める。	・間違いやすい問題について考え、みんなから出された問題を解く。その後、間違わないようにするための方法について自分たちで話し合う。					

「方程式」の指導案（第6時 / 12時間）

目 標 基礎コース

具体化した到達目標に従った問題を提示し、それに沿った問題を解きながら理解を深めることができる。

発展コース

具体化した到達目標の問題を確実に理解するとともに、問題を作って解きあう。

1 基礎コース（第6時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードに沿って問題を配列しているので、プリントに沿って問題を解かせる。できたならばカードに自己評価を記入させ自分の実現状況を確認しながら進めさせる。 ・教師は、授業後の自己評価から一人一人のつまずきを把握し、つまずいているところを重点的に指導する。 ・解答は、ある程度の生徒が終わった段階で教師が行う。間違いが多い問題については、教師が補足する。 ・理解できない生徒に対しては、教科書を復習させながら、説明する。 ・プリント1を終えた生徒には、プリント2を提示し、どんどん進ませる。解答は、授業の最後に教師が行う。 ・前時に、プリント1を終えなかった生徒には、引き続きそのプリントに取り組ませる（家庭学習等で無理な場合には、その後の授業等において指導する）。「自己評価カード」で明らかになっているつまずきを放課後学習や家庭学習等で継続的に取り組ませる。

2 発展コース（第6時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 プリント1、2に取り組む (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント1、2を配布し、問題を解かせる。 ・「自己評価カード」に沿って問題を配列しているので、プリントに沿って問題を解かせる。できたならばカードに自己評価を記入させ自分の実現状況を確認しながら進めさせる。 ・解答は、ある程度の生徒が終わった段階で教師が行う。間違いが多い問題については、教師が補足する。
2 ()のついた方程式、小数を含んだ方程式、分数を含んだ方程式で、解が整数になる問題をそれぞれ2問ずつ作る。 (全部で6問) ・問題作り(12分) ・互いに解きあう(8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を作った後、互いに解き合うので、できるだけややこしい問題を作るように指示する。 ・問題を作ったならば、隣同士(グループ毎でも)で問題を交換し、解き合う。その際、解が整数になっているかどうかを確認する。 ・時間はおおよその目安であるので、実態に応じて、変えても構わない。

「方程式」の指導案（第11時、第12時 / 12時間）

- 目 標
- 基礎コース
具体化した到達目標に従った問題を提示し、それに沿った問題を解きながら理解を深めることができる。
 - 発展コース
具体化した到達目標の問題を確実に理解するとともに、間違いやすい問題について自分たちで考え、間違わないようにするための方法を考える。

1 基礎コース（第11時、第12時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 具体化した到達目標に沿った問題(基礎コースのプリント1,2)を記入したプリントに取り組む(第11時)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードに沿って問題を配列しているので、プリントに沿って問題を解かせる(P85の問題を中心に作題)。できたならばカードに自己評価を記入させ自分の実現状況を確認しながら進めさせる。 ・教師は、授業後の自己評価から一人一人のつまづきを把握し、つまづいているところを重点的に指導する。 ・解答は、ある程度の生徒が終わった段階で教師が行う。間違いが多い問題については、教師が補足する。 ・理解できない生徒に対しては、教科書を復習させながら、説明する。 ・基礎コースプリント1を終えた生徒には、基礎コースプリント2を提示し、どんどん進ませる。解答は、授業の最後に教師が行う。(特に、説明はしない)
2 発展コースのプリントに取り組む(第12時)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に、基礎コースのプリント1,2が終わらなかった生徒には、引き続きそのプリントに取り組ませる。 ・前時に、基礎コースプリント1,2の問題を終えた生徒には、発展コースの問題に取り組ませる。 ・「自己評価カード」で明らかになっているつまづきを放課後学習や家庭学習等で継続的に取り組ませる。 ・発展コースのプリントを終えた生徒は、問題集等を解かせるか、状況によっては、つまづいている生徒に対して、支援する。

2 発展コース（第11時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 基礎コースプリント1に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己評価カード」に沿って問題を配列しているので、プリントに沿って問題を解かせる。できたならばカードに自己評価を記入させ自分の実現状況を確認しながら進めさせる。 ・解答は、ある程度の生徒が終わった段階で教師が行う。間違いが多い問題については、教師が補足する。
2 発展コースプリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎コースプリント1を終えた生徒には、発展コースの問題を提示し、どんどん進ませる。解答は、終わった生徒に解答を渡し、自己採点させる。間違ったところは、もう一度取り組ませる。解答は丸付けをしたならば回収する。 ・発展コースのプリントを終えた生徒には、基礎コースプリント2に取り組ませる。 ・全て終わった生徒には、問題集を解かせる。

「方程式」の指導案
発展コース(第12時/12時間)

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 評価
導入 15分	1 問題の提示 次の問題を解きましょう $4x + 5 = 2x - 3$ $\frac{2}{3}x = 2$ $-\frac{2}{3}x = -\frac{4}{9}$ $3x - 5 = 4x + 2$ $3(x + 4) = 5x - 6$ $2x - (x - 9) = 8$ $0.4x + 1.5 = -1.3$ $0.8x - 2 = 0.6x + 3$ $x + \frac{1}{2} = \frac{1}{2}x - 1$ $x - \frac{2x + 1}{5} = 4$		<ul style="list-style-type: none"> 問題を板書し、ノートに筆算で解かせる。 つまずきそうな問題について、机間指導で支援する。
	2 課題の把握 上の問題で間違いやすい問題はどれでしょう。その理由も考えよう		
展開 33分	3 課題解決	例えば <ul style="list-style-type: none"> xの係数が分数になっているから xの係数も右辺も分数になっているから xの係数がマイナス1になるから ()の前の係数が-1になるから 小数と整数がまじっているから 分数だし、分数と小数がまじっているから 分数と小数がまじっているし、$2x + 1$の前の-を忘れそうだから 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての項目について考える必要はない。間違いやすい問題として出た問題を中心に考えさせる。 それぞれについて、理由も発表させる。 一人一人の考えを大切にする。 間違いやすい他の理由があれば、それについても発表させる。 どうすれば間違わないのかについても考えさせる。
	4 間違わないようにするための方法を考える	例えば <ul style="list-style-type: none"> については、xの係数でわるか、分母を処理してから進めるかの2とおりあると思うが、各自のやりやすい方で は、1が省略されていることを気を付ける は、倍するとき整数にもきちんとかけることを気を付ける は、$2x + 1$にマイナス1を 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人で考えるのが難しい場合には、グループで考えさせる。 生徒が使用した言葉でまとめる。
	5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 間違わない方法についてまとめる 	
	6 適用問題をとく	<ul style="list-style-type: none"> 間違いやすい問題を各自作り、互いに解きあう。 	<ul style="list-style-type: none"> 速くなくても間違わないように気を付けさせながら解かせる。
まとめ 2分	7 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする 	
	8 次の予告	<ul style="list-style-type: none"> 次単元の学習内容を知らせる 	

6 中学校第2学年「一次関数」の指導計画及び習熟度別指導を行った時間の学習指導案

1 単元名「一次関数」					
2 単元の目標					
(1) 具体例から一次関数を見つけ出し、一次関数の定義を理解させるとともにそれを広く用いる能力を伸ばす。 (2) 一次関数のグラフの特徴を理解させ、グラフをかけるようにする。 (3) 一次関数の変化の割合を理解させるとともに、それがグラフの傾きに相当することを理解する。 (4) どのような条件が含まれると、一次関数が決まるかを理解する。					
3 評価規準					
観 点	評 価 規 準				
数学への関心・意欲・態度	・具体的な事象の中にある二つの数量の関係に関心を持ち、観察、実験などをとって一次関数について調べようとする。				
数学的な見方や考え方	・一次関数に関心を持ち、式、表、グラフなどを用いて、その特徴を調べようとする。 ・具体的な事象の中にある二つの数量を取り出し、それらの関係に着目して調べ考察し、一次関数によってとらえられるものがあることに気付く。 ・一次関数の特徴を表す式、グラフなどを用いて考察することができる。				
数学的な表現・処理	・一次関数の関係を式で表すことができる。 ・一次関数の関係を表、式、グラフなどで表現したり、その特徴をよみとったりすることができる。 ・一次関数の変化の割合を求めることができる。 ・一次関数のグラフを用いてxの変域に対応するyの変域を求めることができる。				
数量・図形などについての知識・理解	・関数や関数関係、一次関数の意味を理解している。 ・変化の様子、グラフの形、 $y = ax + b$ のa、bの意味、変化の割合の意味など一次関数の特徴を理解している。				
4 自己評価カードの観点(具体化した目標)					
1 一次関数	線香が燃え尽きるまでの時間を予測することができる。 線香の燃えている時間をx、残りの長さをyとしてyをxの式で表すことができる。 一次関数の意味を理解することができる。 一次関数の式の形を理解することができる。 P52の問2の問題を解くことができる。 変化の割合の意味を理解することができる。 $y = -3x + 5$ の変化の割合とxが2増加したときのyの増加量に分かる。 $y = 2x + 3$ を表を作成して、グラフをかくことができる。 切片の意味が分かる。 変化の割合が傾きを表していることが分かる。 一次関数のグラフの特徴が分かる。 $y = -\frac{1}{2}x + 3$ のグラフ傾きと切片の値からグラフをかくことができる。 $y = 2x + 3$ のグラフから一次関数の式を求めることができる。 $y = 2x - 1$ でxの変域が3、5のときのyの変域を求めることができる。 変化の割合が-2で、x=3のときy=2となる一次関数の式を求めることができる。 点(2, 0)を通り、直線 $y = 2x + 5$ に平行な一次関数の式を求めることができる。 y がxの一次関数で、そのグラフが2点(2, 3)、(5, 9)を通るとき、一次関数の式を求めることができる。				
5 指導計画(形態の「一斉」は、通常規模の一斉指導、「少人数指導」は理解や定着の程度に応じた少人数指導を示す)					
課 目	主 な 学 習 活 動				
1	問題の提示 「線香の実験から、線香が燃え尽きるまでの時間を予測しよう」 ・燃え尽きる時間を予測するのに、1分間に燃える線香の長さから予測したり、グラフをかいて予測したりするなど、燃え尽きるまでの時間を予測する。 ・どのように予測したのかを話し合う。 ・時間x分と残りの線香の長さy cmの関係からyをxの式で表すことができることに気付く。 ・まとめ 「2つの変数x、yについて、yがxの式で表されるとき、yはxの一次関数であるという」 ・適用問題を解く。				
2	問題の提示 「前時の線香の実験で、時間をx分、残りの線香の長さをy cmとしてyをxの式で表そう」 ・最初の長さ、1分間で燃える線香の長さからyをxの式で表そう。 ・ $y = ax + b$ のaとbについて説明する。 ・中間まとめ 「2つの変数x、yについて、yがxの二次式で表されるとき、yはxの二次関数であるという」 ・適用問題を解く。 ・コース別学習希望調査を行う。				
3	問題の提示 「 $y = 2x + 3$ で、xの値が1ずつ増加すると、yの値はいくらずつ増加するでしょう」 ・問題(例1)に取り組みせ、説明する。 ・適用問題を解く。問1問2 ・まとめ 「一次関数 $y = ax + b$ では、 $\frac{(y \text{ の増加量})}{(x \text{ の増加量})} = a$ となり、aを変化の割合という」 ・適用問題を解く。				
4	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">基 礎</td> <td style="text-align: center;">発 展</td> </tr> <tr> <td> ・問題の提示 「$y = 2x + 3$の表を作成し、グラフにかいてみよう」 ・グラフからxに対応するyの値、yの値からxの値を求める。 「$y = 2x$のグラフをかいてみよう」 ・$y = 2x + 3$と$y = 2x$のグラフを比べてbだけ平行に移動していることに気付かせ。 ・適用問題を解く。 ・まとめ 「$y = ax + b$のグラフは$y = ax$のグラフをbだけ平行に移動したグラフであり、bのことを切片という」 </td> <td> ・問題の提示 「$y = 2x + 3$、$y = 2x$の表を作成し、グラフをかいてみよう」 ・bだけ平行に移動している。 ・aが等しいので平行である。 ・問題の提示 「$y = 2x + 3$、$y = -2x + 5$のグラフをかいて、気付いたことを考えよう」 ・aの値が分かると、傾き具合が分かる。 ・まとめ 「$y = ax + b$のグラフは$y = ax$のグラフをbだけ平行に移動したグラフでありbのことを切片という」 ・$y = ax + b$のグラフの傾きぐあいは、aによって決まる。このaをグラフの傾きといい、変化の割合を表している。 ・$y = ax + b$でaを傾き、bを切片という。 </td> </tr> </table>	基 礎	発 展	・問題の提示 「 $y = 2x + 3$ の表を作成し、グラフにかいてみよう」 ・グラフからxに対応するyの値、yの値からxの値を求める。 「 $y = 2x$ のグラフをかいてみよう」 ・ $y = 2x + 3$ と $y = 2x$ のグラフを比べてbだけ平行に移動していることに気付かせ。 ・適用問題を解く。 ・まとめ 「 $y = ax + b$ のグラフは $y = ax$ のグラフをbだけ平行に移動したグラフであり、bのことを切片という」	・問題の提示 「 $y = 2x + 3$ 、 $y = 2x$ の表を作成し、グラフをかいてみよう」 ・bだけ平行に移動している。 ・aが等しいので平行である。 ・問題の提示 「 $y = 2x + 3$ 、 $y = -2x + 5$ のグラフをかいて、気付いたことを考えよう」 ・aの値が分かると、傾き具合が分かる。 ・まとめ 「 $y = ax + b$ のグラフは $y = ax$ のグラフをbだけ平行に移動したグラフでありbのことを切片という」 ・ $y = ax + b$ のグラフの傾きぐあいは、aによって決まる。このaをグラフの傾きといい、変化の割合を表している。 ・ $y = ax + b$ でaを傾き、bを切片という。
基 礎	発 展				
・問題の提示 「 $y = 2x + 3$ の表を作成し、グラフにかいてみよう」 ・グラフからxに対応するyの値、yの値からxの値を求める。 「 $y = 2x$ のグラフをかいてみよう」 ・ $y = 2x + 3$ と $y = 2x$ のグラフを比べてbだけ平行に移動していることに気付かせ。 ・適用問題を解く。 ・まとめ 「 $y = ax + b$ のグラフは $y = ax$ のグラフをbだけ平行に移動したグラフであり、bのことを切片という」	・問題の提示 「 $y = 2x + 3$ 、 $y = 2x$ の表を作成し、グラフをかいてみよう」 ・bだけ平行に移動している。 ・aが等しいので平行である。 ・問題の提示 「 $y = 2x + 3$ 、 $y = -2x + 5$ のグラフをかいて、気付いたことを考えよう」 ・aの値が分かると、傾き具合が分かる。 ・まとめ 「 $y = ax + b$ のグラフは $y = ax$ のグラフをbだけ平行に移動したグラフでありbのことを切片という」 ・ $y = ax + b$ のグラフの傾きぐあいは、aによって決まる。このaをグラフの傾きといい、変化の割合を表している。 ・ $y = ax + b$ でaを傾き、bを切片という。				
	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">基 礎</td> <td style="text-align: center;">発 展</td> </tr> <tr> <td> ・問題の提示 「$y = 2x + 3$と$y = -2x + 5$のグラフをかいてみよう」 </td> <td> ・問題の提示 「$y = -\frac{1}{2}x + 3$のグラフをかいてみよう」 </td> </tr> </table>	基 礎	発 展	・問題の提示 「 $y = 2x + 3$ と $y = -2x + 5$ のグラフをかいてみよう」	・問題の提示 「 $y = -\frac{1}{2}x + 3$ のグラフをかいてみよう」
基 礎	発 展				
・問題の提示 「 $y = 2x + 3$ と $y = -2x + 5$ のグラフをかいてみよう」	・問題の提示 「 $y = -\frac{1}{2}x + 3$ のグラフをかいてみよう」				

5	片、傾きを式から指摘することができる。 (発展) 傾きと切片の値から一次関数のグラフをかくことができる。	人数指導	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの一次関数の変化の割合を確認し、その特徴を考えさせる。 適用問題を解く まとめ <ul style="list-style-type: none"> $y = ax + b$ のグラフの傾きぐあいは a によって決まる。この a をグラフの傾きといい、変化の割合を表している $y = ax + b$ で a を傾き、b を切片という 次時の学習内容を教え、課題設定まで行う 	<ul style="list-style-type: none"> 適用問題を解く。 まとめ <ul style="list-style-type: none"> $y = ax + b$ のグラフの特徴をまとめる。 適用問題を解く。
6	(基礎) 傾きと切片の値から一次関数のグラフをかくことができる。また、グラフから一次関数の式を求めることができる。 (発展) グラフから一次関数の式を求めることができる。	少人数指導	<p style="text-align: center;">基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の提示 <ul style="list-style-type: none"> 一次関数の式から座標上に2点を定める方法を考えよう 傾きと切片からグラフをかけることに気付かせる。 適用問題を解く。 まとめ <ul style="list-style-type: none"> $y = ax + b$ のグラフの特徴をまとめる。 グラフから一次関数の式の求め方を説明する。 適用問題を解く。 	<p style="text-align: center;">発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の提示 <ul style="list-style-type: none"> 直線のグラフから一次関数の式を求めよう 複数の直線が示されているグラフから、一次関数の式を求める方法について考える。 どのように考えて式を求めたのかを、生徒同士の練り合いからまとめる。 まとめ <ul style="list-style-type: none"> 適用問題を解く。 課題の提示 <ul style="list-style-type: none"> 変化の割合は、一次関数では、常に一定だが、他の関数ではどうだろうか 反比例に焦点をあて、数値を代入したり、グラフの形を考えたりしながら一定でないグラフがあることを確認する。
7	一次関数のグラフを用いて、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 問題の提示 <ul style="list-style-type: none"> 一次関数 $y = 2x - 1$ で、x の変域が $3 < x < 5$ のとき、y の変域を求めよう $y = 2x - 1$ のグラフをかかせて考えさせる。 $x = 3$、$x = 5$ を $y = 2x - 1$ に代入してそれぞれの y の値を求めさせる。 適用問題を解く 小テスト(コース選択をする) まとめ <ul style="list-style-type: none"> x の変域から y の変域を求めるときには、グラフをかいて x の値を式に代入し、それぞれの y の値を求めて、y の変域を求める 	
8	習熟度別コース毎に自分にあったコースの問題を解きながら具体化した到達目標に到達することができる。	少人数指導	<p style="text-align: center;">基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。理解できない生徒に対しては、再度、教科書の例題の解き方を指導する。個別指導を主とするが生徒の実態に応じて一斉指導も行う。 	<p style="text-align: center;">発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎コースの問題と習熟の強化を図る問題、発展的な問題を記入したプリントによる生徒学び合い学習を行う。発展的な問題の解答は、教師が行う。他は、生徒同士が答えを確認して進める。
9	変化の割合と1組の x 、 y の値から一次関数の式を求めることができる。	少人数指導	<p style="text-align: center;">基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の提示 <ul style="list-style-type: none"> 変化の割合が -2 で、$x = 3$ のとき $y = 2$ となる一次関数の式を求めよう 上の問題の一次関数をグラフに表して式を求めさせる。 上の問題と類似した問題を提示しグラフを使って式の表させる。 式 ($y = ax + b$) に変化の割合と x、y の値を代入して求める方法を説明する。 適用問題を解く。 まとめ <ul style="list-style-type: none"> 変化の割合と1組の x、y の値が分かっているときには、$y = ax + b$ に数を代入して b を求めて式を表す 	<p style="text-align: center;">発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の提示 <ul style="list-style-type: none"> グラフから一次関数の式を求めるには、何が分かればいっだらう 傾きと切片 2組の点 変化の割合と1組の点 理由を話し合わせる 問題の提示 <ul style="list-style-type: none"> 変化の割合が -2 で、$x = 3$ のとき $y = 2$ となる一次関数の式を求めよう 考えを発表させる。(見通しをもたせる) <ul style="list-style-type: none"> $y = ax + b$ に代入して求める グラフにかいて求める 考えを比較・検討する。 適用問題を解く まとめ <ul style="list-style-type: none"> 変化の割合と1組の x、y の値が分かっているときには、$y = ax + b$ に数を代入して b を求めて式を表す
10	2組の x 、 y の値から一次関数の式を求めることができる。	少人数指導	<p style="text-align: center;">基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の提示 <ul style="list-style-type: none"> y が x の一次関数で、そのグラフが2点 $(2, 3)$ $(5, 9)$ をとおるときこの一次関数を求めなさい 考えを発表させる。(見通しをもたせる) <ul style="list-style-type: none"> 2組の点を $y = ax + b$ に代入して求める。 2組の点から変化の割合を求め、1組の点を $y = ax + b$ に代入して求める。 考えを比較・検討する。 適用問題を解く。 まとめ <ul style="list-style-type: none"> 2点から一次関数の式を求めるときには2点から傾きを求めて、$y = ax + b$ に代入して求める方法と、2点を $y = ax + b$ に代入して求める方法の2とおりがある 	<p style="text-align: center;">発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の提示 <ul style="list-style-type: none"> y が x の一次関数で、そのグラフが2点 $(2, 3)$ $(5, 9)$ をとおるとき、この一次関数を求めなさい 自力解決に取り組む。 考えを比較・検討しながら理解を深めさせる。求め方の観点は、以下のように考えるとされる。 <ul style="list-style-type: none"> 2組の点を $y = ax + b$ に代入して求める。 2組の点から変化の割合を求め、1組の点を $y = ax + b$ に代入して求める。 適用問題を解く。 まとめ <ul style="list-style-type: none"> 2点から一次関数の式を求めるときには2点から傾きを求めて、$y = ax + b$ に代入して求める方法と、2点を $y = ax + b$ に代入して求める方法の2とおりがある
11	習熟度別コース毎に自分にあったコースの問題を解きながら具体化した到達目標に到達することができる。	少人数指導	<p style="text-align: center;">基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。理解できない生徒に対しては、再度、教科書の例題の解き方を指導する。個別指導を主とするが生徒の実態に応じて一斉指導も行う。 	<p style="text-align: center;">発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎コースの問題と習熟の強化を図る問題、発展的な問題を記入したプリントによる生徒学び合い学習を行う。発展的な問題の解答は、教師が行う。他は、生徒同士が答えを確認して進める。

「一次関数」の指導案

一斉指導（1時間目 / 11時間）

目標 準備テストを行い、習熟の程度を把握するとともにブラックボックスを使ってともなってかわる2つの量の関係を考えることができる。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入	1 準備テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・準備テストを行う。 内容は、既習事項の到達目標に沿った問題とする。 R 比例の意味が分かり、式に表すことができる。 R 座標を用いて、平面上に表すことができる R 比例のグラフがかける R 連立方程式を解くことができる。 <p>（つまづきを把握するため一次方程式についても調べる）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備テストであるが、つまづいている生徒に対しては、補充指導に努める。
展 開	2 課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">ブラックボックスを使ってともなってかわる量について調べよう</div> 3 ブラックボックスを使ってともなってかわる量を調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラックボックスを使ってともなってかわる量を調べる。 ・xの値とyの値からxが決まるとyがただ一つ決まるf（一定の決まり）について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントを使う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>「関心・意欲・態度」 具体的な事象のなかにある二つの数量の関係に関心をもち、一次関数について調べようとする。（学習感想）</p> </div>
	4 まとめ <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">xの値を決めるとそれにつれてyの値もただ一つ決まるとき、yはxの関数という</div>		
終 末	5 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、二つのグループに分かれて実験をとおして一次関数の理解を深めることを学習する。 	

「一次関数」の指導案

一斉指導（2時間目 / 11時間）

目 標 具体的な事象のなかから一次関数を見だし、式に表そうとする。また、具体的な問題を解決するのに、一次関数であることを利用することができる。

階	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 評 価
導 入	1 問題の設定 線香の実験から、線香が燃え尽きるまでの時間を予測しよう		<ul style="list-style-type: none"> ・少人数に分け線香の実験を行う。 ・4人グループを作り、一人がタイマー、一人が記録、二人が実験者に分けて、実験を行う。 ・手順は、線香に火を付け、2分ごとにその長さを測って記録に取る。20分までの記録をとって実験を終える。 ・実験を終えるが線香は消さないでおく。
展 開	2 課題の解決 3 比較・検討 4 中間まとめ 5 適用問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から4人グループ毎に予測する。 線香の長さで2分間に短くなる長さから予測する。 燃えている時間をx、線香の長さをyとして式を作り、そこから予測する。 ・比較・検討する。 各グループ毎に予測した理由を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に話し合わせる。 <p>「数学的な見方や考え方」 線香の実験から二つの数量を取りだし、それらの関係に着目して、燃え尽きる時間を予測するなど考察することができる（ノート 発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・xが1増えたときのyの増えた量がaであること、$x = 0$のときのyの値がbであることを繰り返し指導し問題を解かせる。
終 末	6 まとめ 7 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・適用問題を解く。 教科書P52 問2を解く。 	

「一次関数」の指導案

基礎コース（4時間目 / 11時間）

目標 一次関数の式から表を作成し、グラフをかくことをとおして切片の意味について理解する。

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 評価
導入	1 問題の提示 一次関数 $y = 2x + 3$ の表を作成し、グラフにかいてみよう		<ul style="list-style-type: none"> ・指導に当たって本時の時間は、式から表、表から座標を取ってグラフをかかせる。作業を何度も繰り返しながら、グラフのかきかたを理解させる。その際、$y = ax + b$ の b が y と変わった値であること、変化の割合が傾き具合であることを意識させながら授業を進める。 ・代入ができなくて表の作成ができない生徒、座標の表し方が分からなくてグラフをかけない生徒がいるものと考えられる。生徒一人一人のつまづきを把握し、個に応じた補充指導を行い式からグラフにかかせる技能を高める。 ・二つのグラフの関係を考えさせる。
	2 表を作成し、グラフをかく	<ul style="list-style-type: none"> ・表を作成する。 ・グラフをかく。 ・P55問1を解く。 	
	3 問題の提示 一次関数 $y = 2x$ の表を作成し、グラフにかいてみよう		
	4 表を作成し、グラフをかく		
展開	5 課題の設定 $y = 2x + 3$ $y = 2x$ の二つのグラフは、平行であるがどれくらいずれているのかを考えよう		<ul style="list-style-type: none"> ・2つのグラフの違いについて視点を与えて、次の適用問題をグラフにかかせる活動をとおして課題を解決させる。
	6 課題解決するための問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> ・ $y = -2x$、$y = -2x + 5$ $y = \frac{1}{2}x$、$y = -\frac{1}{2}x - 4$ のグラフをかく。 	
	7 課題の解決とまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・適用問題を解きながら、$y = ax + b$ の b だけずれているところに気付き、まとめをする。 	
	8 適用問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> ・ $y = ax + b$ のグラフは、$y = ax$ のグラフを b だけ平行に移動したグラフである ・ b のことを切片という 教科書 P57 問2を解く ・式からグラフにかく問題を解く 	
終末	9 本時のまとめ		
	10 次時の予告		

「一次関数」の指導案
 発展コース（4時間目 / 11時間）

目標 一次関数の式から表を作成し、傾きと切片の意味を理解できる。

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 評価	
導入	1 問題の提示 $y = 2x + 3$ 、 $y = 2x$ のグラフを表を作成してグラフをかいてみよう		<ul style="list-style-type: none"> 式から表、表からグラフをかく時間を短縮して（生徒ができない場合は別として）4、7の課題の解決の時間に十分に時間を確保する。教師は調整役に心がける。 ほとんどの生徒は、表の作成と座標に点を取ることはできるものと考えるが、机間指導を行ってつまずいている生徒に対しては、個別に指導する。 かき終えた生徒には、二つのグラフを比べて、気付いたことを考えさせる。 	
	2 表を作成し、グラフをかく	<ul style="list-style-type: none"> 表を作成する グラフをかく 		
	3 課題の設定 二つのグラフを比べて、気付いたことをまとめよう			
展開	4 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 二つのグラフを比べて気付いたことをまとめる。二つのグラフは、平行である。3ずつずれている。式で+3だから、グラフも+3ずつ増えている。(0, 3)を通っている。x = 0のときy = 3だからではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことを、生徒にグラフを使って説明させる。 必要に応じて補充説明を教師が行う。 <p>「知識・理解」 bがy切片であること（x = 0のときのyの値）をグラフから読みとることができる（ノートへの記述の観察）</p>	
	5 中間まとめ $y = ax + b$ のグラフは、 $y = ax$ のグラフをbだけ平行に移動したグラフである ・bのことを切片という			
	6 課題の設定 $y = -2x + 3$ $y = -\frac{1}{2}x + 2$ のグラフをかいて、xの係数-2、 $-\frac{1}{2}$ とグラフの関係を考えよう			<ul style="list-style-type: none"> 教師の側から課題を設定する。
	7 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> xの係数-2、$-\frac{1}{2}$とグラフの傾き具合について考える。xの係数は変化の割合を表しており、変化の割合 $\frac{(xの増加量)}{(yの増加量)}$ より、グラフの傾き具合が決まるのではないか。 		<p>「知識・理解」 $y = ax + b$でa、つまり変化の割合が傾きを表していることを理解できる。（ノートへの記述の観察）</p>
8 中間まとめ	<ul style="list-style-type: none"> $y = ax + b$のグラフの傾き具合は、aによって決まる。このaをグラフの傾きといい、変化の割合を表している $y = ax + b$でaを傾き、bを切片という 			
終末	9 本時のまとめ			
	10 次時の予告			

「一次関数」の指導案

基礎コース（5時間目 / 11時間）

目標 一次関数の変化の割合が、グラフの傾きを表していることを理解する。

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 評価
導入	1 問題の提示 $y = 2x + 3$ 、 $y = -2x + 5$ のグラフをかいてみよう		<ul style="list-style-type: none"> ・本時も前時と同様、式から表、表からグラフのかきかたを繰り返し指導する。課題の解決の際には、教師主導でヒントを与えながら解決させる。次時の課題の確認の場面に、10分くらい時間を確保する。 ・生徒一人一人のつまづきを把握し、個に応じた補充指導を行い式からグラフにかかせる技能を高める。
	2 表を作成し、グラフをかく	<ul style="list-style-type: none"> ・表を作成する。 ・グラフをかく。 	
	3 問題の提示 $y = -\frac{1}{2}x + 3$ の一次関数の表を作成し、グラフをかいてみよう		
	4 表を作成し、グラフをかく		
展開	5 課題の設定 aの値とグラフの傾きには、どのような関係があるか考えよう		<ul style="list-style-type: none"> ・aを分数に表し、グラフの傾きとの関係を考えさせる。
	6 $y = \frac{1}{2}x + 3$ のグラフの傾きを予想する	<ul style="list-style-type: none"> ・座標上でxが2増えるとyが1増えることを予想し、実際のグラフをかいて確かめる。 	
	7 中間まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・$y = ax + b$のグラフの傾きぐあいは、aによって決まる。このaをグラフの傾きといい、変化の割合を表している ・$y = ax + b$でaを傾き、bを切片という 		
	8 適用問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P59の問6を解く。 	
終末	9 本時のまとめ		<p>「知識・理解」 $y = ax + b$でaつまり変化の割合が傾きを表していることを理解している。(ノートへの記述の観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかるものと思われるが、時間を十分に確保して、取り組ませる。 ・直線は、2点が決まればかけることを確認して、次時に学習することを知らせる
	10 次時の課題の設定 $y = -\frac{1}{2}x + 3$ のグラフをかきましょう 課題の設定 表を作成しないで、グラフをかく方法はないだろうか	<ul style="list-style-type: none"> ・表を作成して、グラフをかく(または、かこうとする)。 	

「一次関数」の指導案

基礎コース（6時間目 / 11時間）

- 目標 (1) 切片や傾きから一次関数のグラフをかくことができる。また、グラフから一次関数の式を求めることができる。
 (2) 一次関数のグラフの特徴を見いだすことができる。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入	1 課題の設定 一次関数の式から、座標上に2点を決める方法を考えよう		・課題を教師から提示し、すぐに授業に入る
展 開	2 課題の解決	・課題を解決する。 切片と傾きの値から2点が決まるのではないか。 切片で1点を決め、式に $x = 1$ を代入して1点を決めると2点が決まるのでかくことができる。	「数学的な見方や考え方」 一次関数を式からグラフにかくときに、傾きと切片の性質を使って考察することができる。(ノート 発言) ・課題解決から比較・検討までの時は、生徒のやりとりから、切片の値で1点を決め、傾きの値から1点を決めてかくことを教師主導で気付かせる。
	3 比較・検討	・代表的な考え方を発表する。 ・切片と傾きから2点を決めてグラフをかくことの良さに気付く。	
	4 適用問題を解く	・適用問題を解く。 教科書 P60問7、問8を解く。	「表現・処理」 式から一次関数のグラフをかくことができる。(ノートへの記述の観察)
	5 中間まとめ	・ $y = ax + b$ で a と b の値が分かると2点が決まりグラフをかくことができる ・ $y = ax + b$ では、 $a > 0$ のとき右上がりの直線、 $a < 0$ のとき右下がりの直線となる	・教師主導で行う。
	6 グラフから一次関数の式を求める	・グラフから一次関数の式の求め方について考え、理解する。	
7 適用問題を解く	・適用問題を解く。 教科書 P61問9を解く。	「表現・処理」 グラフから一次関数の式を求めることができる。(ノートへの記述の観察)	
終	8 まとめ	・	
末	9 次時の予告		

「一次関数」の指導案

発展コース（6時間目 / 11時間）

- 目 標 (1) 直線のグラフから一次関数の式を求めることができる。
 (2) 反比例のグラフの変化の割合を求めることによって、変化の割合の意味を理解する。

階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価	
導 入	1 前時の復習	・一次関数の式からグラフのかきかたを確認する。	・プリントの問題を解く。	
	2 課題の提示 直線のグラフから一次関数の式を求めよう		・比較・検討場面では、十分に時間を確保し、生徒の話し合いから課題を解決させる。	
展 開	3 課題の解決	・グラフの切片と傾き具合から式を求める。	・プリントの問題に取り組みせながら解決方法を考えさせる。 ・3分くらいの時間で終わらせる。	
	4 比較・検討	・式を求めた理由を発表する。	・多くの生徒の考え方を発表させたいが、多くの意見がでないかもしれない。その時は、2, 3人でOKとする。	
	5 適用問題を解く	・P61の問9を解く。		
	6 中間まとめ 直線のグラフから一次関数の式を求める場合には、切片に着目し次に傾きを求めて式に表す			
	7 課題の提示 変化の割合は、一次関数では常に一定だが、他の関数ではどうだろうか		・一次関数は傾き（変化の割合）が常に一定であることを確認する。 ・今まで習った関数を想起させる。	
	8 課題の解決	・既習した比例、反比例から考える。	・比例、反比例で比例は、常に一定であると予想されるが、反比例については、変化の割合が変わるのではないか、分からないという意見がでるものと予想されるので、ここから、意見を出させながら練り合わせたい。時間を十分かけたい。	
	9 比較・検討	・反比例は、曲線より変化の割合は変わるはずだ。 （グラフから考える） ・実際に数値を代入して、変化の割合を求めて違いに気付く。	・数値で考える場合には、 $y = \frac{6}{x}$ で、xの値が1から2、2から3に増えたときの変化の割合を求めさせる。	
	10 中間まとめ ・反比例のグラフは、曲線であるので変化の割合は、xの値の変化によって変わる 一定ではない ・一次関数は、直線であるので、常に変化の割合は一定である 逆に変化の割合が一定であるので直線になる		・自分の言葉でたくさん気付いたことをノートにまとめさせる。級友の考えを聞かせることにより、変化の割合に対する理解を深める。	
	終 末	7 次時の予告	・次時にxの変域からyの変域を求めることを知る。	

「一次関数」の指導案

一斉指導（7時間目 / 11時間）

目 標 一次関数のグラフを用いて、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価	
導 入	1 変域についての復習	・お風呂に水を入れる問題について、表を作成し、 x の変域と y の変域について求める。	・変域は、技術的に求めることは難しい問題であるが、意味が分かって求めることができる生徒は少ないものと考えられるので、その意味について再度復習する。	
	2 課題の提示 一次関数 $y = 2x - 1$ で、 x の変域が $3 \leq x \leq 5$ のとき、 y の変域を求めよう。			
展 開	3 解決の見通し	・解決の見通しを立てる。 グラフから考える。 $x = 3$ 、 $x = 5$ を代入して考える。	・式からグラフをかくこと、 $x = 3$ 、 $x = 5$ のときの値の求め方等、一人一人のつまずきの箇所は、様々であると考えるのでそのつまずきに応じて個別に指導する。	
	4 課題の解決	・一次関数 $y = 2x - 1$ で、 x の変域が $3 \leq x \leq 5$ のとき、 y の変域を求める。 $y = 2x - 1$ のグラフをかく。 $x = 3$ 、 $x = 5$ のときの y の値を求める。		
	5 比較・検討	・比較・検討を行う グラフと関連付けながら説明する。		
	6 中間まとめ xの変域からyの変域を求めるときには、グラフをかいてxの値を式に代入し、それぞれのyの値を求めて、yの変域を求める	・まとめをする		
	7 適用問題を解く	・適用問題を解く。 教科書 P62 問2を解く。		「表現・処理」 一次関数のグラフを用いて、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる。(ノートへの記述の観察)
	8 小テスト	・小テストを行う。 小テストの結果から、コースを選択する。		・その場で丸付けを行い、その結果を見ながら、コースを選択させる。コースを選ぶ視点について説明し、自分にあったコース選択をさせる。著しくコース選択が教師が誤っていると判断したときには、学習カウンセリングを行うが、最終的な判断は、本人に任せる。
終 末	9 次時の予告	・次時にコース別学習を行うことを知る。		

「一次関数」の指導案

コース別学習（8時間目 / 11時間）

目 標 習熟度別コース毎に自分にあったコースの問題を解きながら具体化した到達目標に到達することができる。

基礎コース、発展コースともに自己評価カードに沿って、具体化した到達目標を実現できるように進める。完全習得学習の形態をとる。教師は、机間指導を行いながら個に応じた指導を行うが、分からない生徒が多い場合には、一斉に指導することもある。

自己評価カードに記入させながら進める。

1 基礎コース

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習の進め方について確認し、共通プリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通プリントに取り組む。忘れていた生徒が多い場合には、取り上げて教師が説明する。 ・ 教師の説明を聞きながら、類似問題を解き進める。 ・ 事項評価カードに記入させながら進める。 ・ 自由進度学習の形態をとるが、答は、その都度確認しながら進める。
2 基礎（じっくり）コースプリント1に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントには、解き方のヒントを書き、自力で解決させるが分からないときや不安なときには教師に質問するように指示する。
3 基礎（じっくり）コースプリント2に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒のつまづきを把握しておき、個に応じた指導を行う。 ・ プリントを終えた生徒には、発展コースのプリントを用意し取り組ませる。
4 発展（チャレンジ）コースのプリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答え合わせは、教師が作成した解答を受け取り、自分で採点する。自分の分からないところを自分で確認しながら進める。

2 発展コース

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習の進め方について確認し、共通プリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを自力で解き進める。分からないところや不安な所は友達に聞いて解き進めることを確認する。 ・ 自由進度学習とするが、共通プリントの解答だけは、一斉に行い、間違いが多い場合には、説明する。
2 発展（チャレンジ）コースのプリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答えあわせは、教師が作成した解答を受け取り、自分で採点する。自分の分からないところを自分で確認しながら進める。
3 基礎（じっくり）コースプリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発展コースのプリントを終えた生徒は、基礎コースのプリントに取り組む。 ・ 分からないところは、教師に質問したり友達に聞いたりさせる。

「一次関数」の指導案

基礎コース（9時間目 / 11時間）

目 標 変化の割合と1組のx、yの値から一次関数の式を求めることができる。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入	1 既習事項の確認 2 問題の提示 変化の割合が - 2 で、 $x = 3$ のとき $y = 2$ となる一次関数の式を求めよう	・グラフの傾きが2、切片が3となる一次関数の式を求める。 $y = 2x + 3$	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 問題の解決のグラフにかいて式を求める場面では時間を十分に確保し、式を求めさせたい。 ・ 6 の課題解決の場面で、生徒からあまり出ない場合には、教師主導で進める。時間を多く取らない。 ・ 8 の適用問題を解く場面では時間を多く確保したい。 ・ イメージをつかめない生徒に対して、グラフに表して、傾き、切片について説明する。
展 開	3 問題の解決 4 類似問題を解く 5 課題の設定 グラフに表さないで式を求める方法を考えよう 6 課題の解決 7 中間まとめ 変化の割合と1組のx、yの値が分かっているときには、 $y = ax + b$ に数を代入してbを求めて式に表す 8 適用問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決するための見通しを考える。 グラフにかいて考える。 について、実際にグラフをかいて式を求める。 ・類似問題を解きながら、変化の割合と1点分かっているときの式の求め方を視覚的に理解する。 ・課題を解決する。 $y = ax + b$ の a、x、y に数を代入して b を求めて、式に表す。 ・適用問題を解く。 教科書 P 63 問 1 の問題については、グラフをかかせそこから式を求める。 教科書 P 63 問 1、問 2 の問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から出ないときには、教師主導で見通しをたてる ・グラフにかけない生徒に対しては、$(3, 2)$ の点をもとにして、その点から変化の割合が - 2 の所の位置にある点に印を付けて書くことを指導する。 ・グラフに表して式を求める方法については、確実に定着させる。 ・変化の割合 a と x と y の値が分かっていることから解き方を考えさせる。 ・意味が分からない生徒には、グラフから求める方法を再度指導し習熟を図る。 ・時間短縮を図るため教師主導で進める。 ・ の問題については、全員にグラフに表してから解かせる。代数的な解き方だけではなく、グラフに表して求めることができるようにする。
終 末	9 まとめ 10 次時の予告		

「一次関数」の指導案

発展コース（9時間目 / 11時間）

目標 変化の割合と1組のx、yの値から一次関数の式を求めることができる。

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 評価
導入	1 既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの傾きが2、切片が3となる一次関数の式を求める。 $y = 2x + 3$ 	<ul style="list-style-type: none"> ・3の予想する場面では、多様な考えを出させたい。 ・6の課題の解決から7の比較・検討場面は生徒のやりとりで多様な考えを引き出したい。教師は調整役に努める。時間を十分に確保する。
	2 課題の設定		
	3 予想する	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">一次関数の式を求めるには、何が分かればいいたるうか</div> <ul style="list-style-type: none"> 傾きと切片。 2組の点。 変化の割合と1組の点理由を話し合わせる。 	
展開	4 問題の提示	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">変化の割合が-2で、$x = 3$のとき$y = 2$となる一次関数の式を求めよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフに表して考える方法は、全員に取り組みさせる。 ・グラフに表して求める方法と代入して解く方法、2通り取り組みさせる。 ・生徒に発表させる。
	5 解決の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の見通しを考える。グラフに表して考える。 $y = ax + b$の式から求める。 	
	6 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決する。グラフに表して式を求める。 $y = ax + b$のa、x、yに数を代入してbを求めて、式に表す。 	
	7 比較・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・解き方を比較・検討する。 	
	8 中間まとめ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">変化の割合と1組のx、yの値が分かっているときには、$y = ax + b$に数を代入してbを求めて式に表す</div>	
	9 適用問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> ・適用問題を解く 教科書P63問1の問題については、グラフをかかせそこから式を求める。 教科書P63問1 問2の問題を解く。 	
終末	10 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の2つの解決方法についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・の問題については、全員にグラフに表して解かせる。代数的な解き方だけではなく、グラフに表してから求めることができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">「表現・処理」 変化の割合と1組のx、yの値から一次関数の式を求めることができる。 (ノートへの記述の観察)</div>
	11 次時の予告		

「一次関数」の指導案

基礎コース（10時間目 / 11時間）

目 標 2組のx、yの値から一次関数の式を求めることができる。

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導 入	1 前時の確認	<ul style="list-style-type: none"> 変化の割合と1組のx、yの値が分かっているときの一次関数の式を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の内容を教師主導で解く。 解決の見通し場面では、生徒からでない場合、教師から解き方を説明する。課題の解決場面でも分からない生徒が多い場合には、教師主導で課題を解決させる。教師主導で課題を解決した場合は、5比較・検討はカットする。
	2 課題の設定		
展 開	3 解決の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の見通しを考える。グラフに表す。2点から変化の割合を求めて、前時のようにして解く。連立方程式で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフをかいて求める方法については、できるだけ全員に定着させる。 の方法で求める生徒は少ないものと考えられる。上位の生徒にヒントを与えながらの考え方で解かせる。 ~の考え方について生徒に発表させたい。ない場合には、教師主導で指導する。 の方法による解き方が簡単であることを実感させる。
	4 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決する。グラフに表して式を求める。変化の割合を求めてa、x、yに代入して求める。2組のx、yの値を代入して、連立方程式にして求める。 	
	5 比較・検討	<ul style="list-style-type: none"> 解き方を比較・検討する。 	
	6 まとめ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 2点のx、yの値から一次関数の式を求めるときには2点から傾きを求めて、$y = ax + b$に代入して求める方法と、2点を$y = ax + b$に代入して求める方法の2とおりある </div>	
	7 適用問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> 適用問題を解く。教科書P64問3、問4の問題を解く。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 「表現・処理」 2組x、yの値から一次関数の式を求めることができる。 （ノートへの記述の観察） </div>
終	8 まとめ		
末	9 次時の予告		

「一次関数」の指導案

発展コース（10時間目 / 11時間）

目 標 2組のx、yの値から一次関数の式を求めることができる。また、別の方法での式の求め方を知り、数学の美しさを感じさせる。

階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点 評価
導	1 課題の設定 yがxの一次関数で、そのグラフが2点(2, 3) (5, 9)をとるとき、この一次関数を求めなさい		<ul style="list-style-type: none"> 3の解決の見通し場面では、どのように解いたかを生徒の話し合いから見通しをもたせたい。次の、4課題の解決から、5比較・検討場面では生徒のつぶやきを拾い上げながら生徒自身で解決できるように進める。時間はできるだけ確保する。
展 開	3 解決の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の見通しを考える。グラフに表す 2点から変化の割合を求めて、前時のようにして解く 連立方程式で考える 	<ul style="list-style-type: none"> 2点をとってグラフによって求める方法については、全員に取り組みさせる。 、については、生徒に気付かせる。については、生徒から出ない場合にはここでは深入りしない。
	4 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決する グラフに表して式を求める 変化の割合を求めてa、x、yに代入して求める。 2組のx、yの値を代入して、連立方程式にして求める。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフをかいて求める方法については、確実に定着させる。 の方法についても生徒に気付かせたい。
	5 比較・検討	<ul style="list-style-type: none"> 解き方を比較・検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ～の考え方について生徒に発表させる。 の方法による解き方が簡単であることを実感させる。
	6 まとめ 2点のx、yの値から一次関数の式を求めるときには2点から傾きを求めて、 $y = ax + b$ に代入して求める方法と、2点を $y = ax + b$ に代入して求める方法の2とおりある		
7 適用問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> 適用問題を解く。 教科書P64問3、問4の問題を解く。 	<p>「表現・処理」 2組x、yの値から一次関数の式を求めることができる。 (ノートへの記述の観察)</p>	
終	8 まとめ		
末	9 次時の予告		

「一次関数」の指導案

コース別学習（11時間目 / 11時間）

目標 習熟度別コース毎に自分にあったコースの問題を解きながら具体化した到達目標に到達することができる。

基礎コース、発展コースともに自己評価カードに沿って、具体化した到達目標を実現できるように進める。完全習得学習の形態をとる。教師は、机間指導を行いながら個に応じた指導を行うが、分からない生徒が多い場合には、一斉に指導することもある。

自己評価カードに記入させながら進める。

1 基礎コース

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習の進め方について確認し、共通プリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通プリントに取り組む。忘れていた生徒が多い場合には、取り上げて教師が説明する。 ・ 教師の説明を聞きながら、類似問題を解き進める。 ・ 事項評価カードに記入させながら進める。 ・ 自由進度学習の形態をとるが、答は、その都度確認しながら進める。
2 基礎（じっくり）コースプリント1に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントには、解き方のヒントを書き、自力で解決させるが分からないときや不安なときには教師に質問するように指示する。
3 基礎（じっくり）コースプリント2に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒のつまづきを把握しておき、個に応じた指導を行う。 ・ プリントを終えた生徒には、発展コースのプリントを用意しそれに取り組ませる。
4 発展（チャレンジ）コースのプリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答えあわせは、教師が作成した解答を受け取り、自分で採点する。自分の分からないところを自分で確認しながら進める。

2 発展コース

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習の進め方について確認し、共通プリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを自力で解き進める。分からないところや不安な所は友達に聞いて解き進めることを確認する。 ・ 自由進度学習とするが、共通プリントの解答だけは、一斉に行い間違いが多い場合には、説明する。
2 発展（チャレンジ）コースのプリントに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答えあわせは、教師が作成した解答を受け取り、自分で採点する。自分の分からないところを自分で確認しながら進める。
3 基礎（じっくり）コースプリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発展コースのプリントを終えた生徒は、基礎コースのプリントに取り組む。 ・ 分からないところは、教師に質問したり友達に聞いたりさせる。

7 中学校第2学年「平行と合同」の指導計画及び学習指導案

「平行と合同」の単元の指導計画

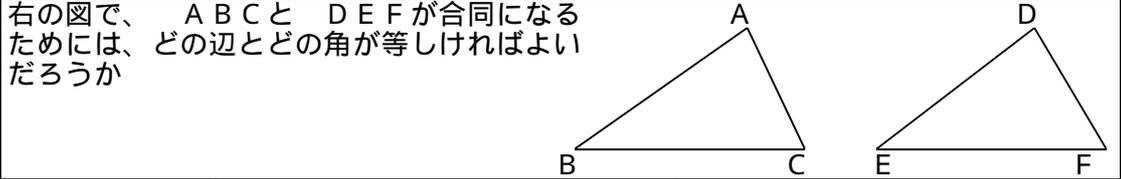
1 単元名 「平行と合同 2 合同な図形」(中学校第2学年 東京書籍)		
2 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> 図形の合同の意味を理解し、三角形の合同条件を見いだすことができる。 証明の根拠としての基本性質を理解し、合同条件を用いて簡単な図形の性質を証明することができる。 		
3 評価規準		
観 点	評 価 規 準	
算数への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の決定条件を基に二つの三角形の合同となるための条件に関心をもち、考察しようとする。 角を移す作図、角を二等分する作図などの正しいことを三角形の合同条件を用いて考察しようとする。 	
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の決定条件を基に、二つの三角形が合同になるための条件を考察することができる。 角を移す作図、角を二等分する作図などの正しいことを三角形の合同条件を用いて考察し証明することができる。 	
表現・処理	<ul style="list-style-type: none"> 二つの三角形が合同であることや、三角形の合同条件について言葉や式などを用いて表したりよみとったりすることができる。 角を移す作図、角を二等分する作図などの証明をよみとったり表したりすることができる。 	
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の合同条件について理解している。 三角形の三つの辺、三つの角の6要素のうち3要素で合同かどうかを判断できる判断できるという三角形の合同条件の意義を理解している。 	
4 自己評価カードの観点(具体化した目標)		
具 体 化 し た 到 達 目 標		
合同な図形	<p>合同な図形では、対応する辺や角がそれぞれ等しいことが理解できる。</p> <p>合同の意味と記号「\cong」を用いて表すことができる。</p> <p>二つの三角形で、辺や角の6要素のうちいくつかの要素が等しければ合同になるか考えることができる。</p> <p>三角形の合同条件を進んで見いだそうとする。</p> <p>三角形の合同条件を理解できる。</p> <p>合同な三角形を見だし、記号を使って表すことができる。また、そのときの合同条件が理解できる。</p> <p>作図の確かめや簡単な図形の性質を合同条件を用いて証明することができる。(角の二等分線の作図の方法を証明することができる)</p> <p>仮定と結論の意味が理解できる。</p> <p>証明の進め方を理解し、証明の根拠となることがらを明らかにしながら証明することができる。</p> <p>(教科書 p102の問題を証明することができる)</p> <p>結論が平行であること証明する問題を、証明することができる。(教科書 p103の問題を証明することができる)</p>	
5 指導計画		
単元	目 標	主 な 学 習 活 動
1	図形の合同の意味が分かり、対応する辺や角を示すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にある模様(P94)を提示し、基になっている図形を考えさせる。 合同について理解する。 問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>合同な三角形を見つけ、対応する辺や角を調べよう。(P94の問1を解く)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> まとめ 合同な図形では、対応する線分や角は等しい 合同な図形は「\cong」を使って表す 適用問題を解く。
2	二つの三角形で、辺や角の6要素のうち、何要素が等しければ合同になるのかを予想でき、それを基に合同条件を見だし、理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>右の図で、ABCとDEFが合同になるためには、どの辺とどの角が等しいか</p> <div style="text-align: center;"> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 6要素のうち何要素が等しければ合同になるかを考えさせる。 $BC = EF$として、合同になるための他の2つの要素を考えさせる。(実際に作図させながら考えさせる) 比較・検討 一つ一つ検証していく。 まとめ 三角形の合同条件をまとめる

3	少 人 数 指 導 or TT	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習 ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 合同な三角形を探して、記号 を使って表そう (P 98問 1 を解く) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・合同条件にあうような二つの三角形を探す。 ・分からない生徒に対しては、切った三角形を提示して考えさせる。 ・適用問題を解く。 				
4	少 人 数 指 導 or TT	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 角の二等分線の作図について、その方法が正しいかどうかを確かめよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・角の二等分線のかきかたを確かめる。 ・角の二等分線の作図から、何と何が等しいことをいえばいいのかを考える。 ・その角が等しいことを説明するのに、どの三角形どの三角形に着目すればいいのかを考える。 ・合同の証明の仕方を考える。 ・小テスト行い、次時のコースを選択する。 <p>・まとめ</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 二つの三角形が合同であるかどうかを証明するためには、等しい辺や角を3組みつけてそれにあう合同条件を使う </div>				
5	習 熟 度 別 指 導	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">基 礎</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">発 展</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・仮定と結論について理解する。 ・適用問題を解く。 ・証明の根拠となることからの問題を先生と一緒に解く。 仮定、結論の確認をする。 (どこが等しいかを黒板の図で確認しながら進める) ・証明する際には、うめする。 ・証明の仕方を最後にまとめる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・仮定と結論について理解する。 ・適用問題を解く。 ・証明の根拠となることからの問題を自力解決させる。 証明の手順も説明なしで解かせる。 三角形の合同条件を使えばいいことに気付かせる。 ・生徒の発表を軸に証明の仕方を説明する。 ・証明の仕方を最後にまとめる。 </td> </tr> </tbody> </table>	基 礎	発 展	<ul style="list-style-type: none"> ・仮定と結論について理解する。 ・適用問題を解く。 ・証明の根拠となることからの問題を先生と一緒に解く。 仮定、結論の確認をする。 (どこが等しいかを黒板の図で確認しながら進める) ・証明する際には、うめする。 ・証明の仕方を最後にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮定と結論について理解する。 ・適用問題を解く。 ・証明の根拠となることからの問題を自力解決させる。 証明の手順も説明なしで解かせる。 三角形の合同条件を使えばいいことに気付かせる。 ・生徒の発表を軸に証明の仕方を説明する。 ・証明の仕方を最後にまとめる。
基 礎	発 展					
<ul style="list-style-type: none"> ・仮定と結論について理解する。 ・適用問題を解く。 ・証明の根拠となることからの問題を先生と一緒に解く。 仮定、結論の確認をする。 (どこが等しいかを黒板の図で確認しながら進める) ・証明する際には、うめする。 ・証明の仕方を最後にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮定と結論について理解する。 ・適用問題を解く。 ・証明の根拠となることからの問題を自力解決させる。 証明の手順も説明なしで解かせる。 三角形の合同条件を使えばいいことに気付かせる。 ・生徒の発表を軸に証明の仕方を説明する。 ・証明の仕方を最後にまとめる。 					
6	習 熟 度 別 指 導	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">基 礎</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">発 展</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・証明の手順を確認する。 ・証明の流れを反復させる。 ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 教科書 p103問 3 の問題 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・解き方になれさせる。 ・問 3 の問題を うめしきで提示し、解かせる。 ・解き方を再度確認する。 ・本時のまとめをする。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 前時と同じような問題と問 3 を提示する </div> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 結論が、平行であることを証明するような問題の証明の仕方を考えよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決する。 ・生徒とやりとりをしながら解答する。 ・問 4 の練習問題に取り組みさせる。 ・本時のまとめをする。 ・時間があれば、更に問題を解かせる。 </td> </tr> </tbody> </table>	基 礎	発 展	<ul style="list-style-type: none"> ・証明の手順を確認する。 ・証明の流れを反復させる。 ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 教科書 p103問 3 の問題 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・解き方になれさせる。 ・問 3 の問題を うめしきで提示し、解かせる。 ・解き方を再度確認する。 ・本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 前時と同じような問題と問 3 を提示する </div> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 結論が、平行であることを証明するような問題の証明の仕方を考えよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決する。 ・生徒とやりとりをしながら解答する。 ・問 4 の練習問題に取り組みさせる。 ・本時のまとめをする。 ・時間があれば、更に問題を解かせる。
基 礎	発 展					
<ul style="list-style-type: none"> ・証明の手順を確認する。 ・証明の流れを反復させる。 ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 教科書 p103問 3 の問題 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・解き方になれさせる。 ・問 3 の問題を うめしきで提示し、解かせる。 ・解き方を再度確認する。 ・本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 前時と同じような問題と問 3 を提示する </div> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 結論が、平行であることを証明するような問題の証明の仕方を考えよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決する。 ・生徒とやりとりをしながら解答する。 ・問 4 の練習問題に取り組みさせる。 ・本時のまとめをする。 ・時間があれば、更に問題を解かせる。 					
7	一 斉 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・証明の根拠となることからの理解する。 ・適用問題を解く。 ・プリントに取り組む。 (基礎コースプリントと発展コースプリントを用意し、コースによってプリントを選択させる。ただし、教室は一つのクラスで行う) 				
8	習 熟 度 別 指 導	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">基 礎</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">発 展</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。理解できない生徒に対しては、再度、教科書の例題の解き方を指導する。個別指導を主とするが生徒の実態に応じて一斉指導も行う。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎コースの問題と習熟の強化を図る問題、発展的な問題を記入したプリントによる生徒学び合い学習を行う。 </td> </tr> </tbody> </table>	基 礎	発 展	<ul style="list-style-type: none"> ・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。理解できない生徒に対しては、再度、教科書の例題の解き方を指導する。個別指導を主とするが生徒の実態に応じて一斉指導も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎コースの問題と習熟の強化を図る問題、発展的な問題を記入したプリントによる生徒学び合い学習を行う。
基 礎	発 展					
<ul style="list-style-type: none"> ・具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリント学習を行う。理解できない生徒に対しては、再度、教科書の例題の解き方を指導する。個別指導を主とするが生徒の実態に応じて一斉指導も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎コースの問題と習熟の強化を図る問題、発展的な問題を記入したプリントによる生徒学び合い学習を行う。 					

「平行と合同」 2 合同な図形 の指導案 (2時間目 / 8時間 単純分割少人数指導)

目標 二つの三角形で、辺や角の6要素のうち、何の要素が等しければ合同になるのかを予想でき、それを基に合同条件を見だし、理解することができる。

(この学習は、グループ毎の活動が主となるので、人数を少なくした分、活動の時間や発表の時間を十分に確保する。また、教師は、各グループの指導に積極的にかかわりながら指導する。)

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導 入 10分	1 問題の提示	右の図で、ABCとDEFが合同になるためには、どの辺とどの角が等しければよいだろうか	
	2 見通す	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人予想を立てる。 AB = DE、BC = EF、CA = FD 等 6要素のうち、いくつの要素が等しくなれば合同になるかを予想する。 3つの要素 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの考えを発表させるが、多くの時間はとらない。本当かなという確認程度にとどめる。 3つの要素が等しくなれば、合同になることをきちんと確認する。その理由についても簡単に触れる。
	3 課題の確認	BC = EFとしたとき、あと2つの要素、何と何が等しければ二つの三角形は合同になるだろう	
展 開 35分	4 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 後、どの角や辺が等しければ合同になるかを、グループ毎に考える。 $\begin{array}{ll} AB = AC & CA = FD \\ B = E & AB = DE \\ C = F & CA = FD \\ B = E & CA = FD \\ C = F & AB = DE \\ B = E & C = F \\ B = E & A = D \\ A = D & C = F \end{array}$	<ul style="list-style-type: none"> 4～5人グループを作り、グループ毎に考えさせる。定規、コンパス、分度器を使わせながら考えさせる。 等しいと思う条件を紙に書いていく。 予想されるのは、左にかいた8条件ぐらいと考えられるが、各グループ毎に考えた条件を黒板に貼る。
	5 比較・検討	<ul style="list-style-type: none"> 各グループから出された考えをそれぞれ一つ一つ検証する。 (1) は合同になりそうだ。 (2) は合同にならないのでは。 (3) は、確かに合同になりそうだ。が、作図をするのは大変そうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループ毎に順番に、自分たちの考えた条件について発表させ、それについて、本当に合同になるかどうかを考えさせる。発表が終わったならばそれについて、すぐに考えさせる。教師が答えを導くのではなく、生徒に合同になるかどうかを判断させたい。しかし、間違っている場合には、当然教師はヒントを与えながら考えさせる。 (2)については、生徒に気付かせたい。合同にならない場合については、時間があれば、生徒に説明させる。
まとめ 5分	6 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の合同条件をまとめる。 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が考えた言葉を使うがまとめるときには、教師がきちんとした用語でまとめる。

5 比較・検討の段階の途中で50分かかると予想される。時間がかった場合には、5 比較・検討の途中で授業を終え、次の時間この次から授業に入る。その場合、次の時間(第3時)だけで、帳尻を合わせようとするのではなく、第4時まで帳尻を合わせる気持ちで取り組む。(第3時の学習内容も大切に扱いたい内容であるので)

「平行と合同」 2 合同な図形 の指導案（3時間目 / 8時間 単純分割少人数指導かTT）

目標 三角形の合同条件を使って、合同な三角形を見だし、記号を使って表すことができる。
 （この時間は、合同条件を使って二つの三角形が合同であるかどうかを見いだす時間である。そこで、問題解決学習というよりは、合同条件をいかに使えるようになるかであるので、問題を解く場面で個別に指導する時間を確保する。単純分割少人数指導が難しいのであれば、TT指導を行う。合同条件を使えない生徒のつまずきを早期に発見し補充することを目的とする）

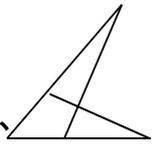
段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 7分	1 前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の合同条件について思い出す。 ・ 3辺がそれぞれ等しい。 ・ 2辺とその間の角がそれぞれ等しい。 ・ 1辺とその両端の角がそれぞれ等しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が合同条件を確認した後、再度三角形を使って合同条件を確認する。
	2 問題の提示 （p98 問1を提示する） 下の図で、合同な三角形はどれとどれか、記号を使って表しなさい また、その時に使った合同条件をいいなさい		
展開 38分	3 自力解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問1、問2の問題を解く。 ABC K L J 2辺とその間の角がそれぞれ等しい D E F W X V 1辺とその両端の角がそれぞれ等しい M N O T S U 3辺がそれぞれ等しい ・ 問3の問題を解く A O B B O C 2辺とその間の角がそれぞれ等しい A B M C D M 1辺とその両端の角がそれぞれ等しい A B D A D C 3辺がそれぞれ等しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人差が予想されるので、終わった生徒には、紙を渡して、問1の合同な三角形のうちどれか1組を作図して、それを切り取り、実際に重なり合うかどうかを確かめる。答え合わせの段階でそれをみんなに見せて重なり合うことを確認する。 ・ つまずいている生徒に対しては、あらかじめ教師が問1の三角形8つを作成しておき、重なり具合を見せながら支援する。 ・ 問2は、生徒が作成した図を基に説明する。 ・ つまずいている生徒に対しては、あらかじめ教師が問3の図形3つを作成しておき、それを使って支援する。 ・ 問3を終えた生徒には、副教材等のワークに取り組みさせる。
	4 まとめ 2つの三角形が合同であるかどうかを調べるときには、合同条件を使えばいい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の言葉でまとめさせる。
まとめ 5分	5 次時の予告		

「平行と合同」 2 合同な図形 の指導案（4時間目 / 8時間 単純分割少人数指導かTT）

目標 作図の確かめや簡単な図形の性質を合同条件を用いて証明することができる。

（この時間は、合同条件を使って二つの三角形が合同であることの証明の手順を学習する時間である。そこで、問題解決学習というよりは、証明の手順を理解させたいので、個々のつまづきを早期に発見し、個別に指導する時間を多く確保する。単純分割少人数指導が難しいのであれば、TT指導を行う。個々の実現状況を把握しつまづきにすぐに対応できるようにする）

段階	学習内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 10 分	1 前時の復習	・前時に習った問3のような問題を1問提示し、それを解く。	・個々に考える時間を1分程度与え、その後に解答する。つまづいている生徒が多いときには、再度なぜそうなるかを説明する。
	2 問題の提示	角の二等分線を作図しよう	
	3 問題の解決	・ X O Y の二等分線を作図する。	・既習事項ではあるが、角の二等分線の意味が分からない生徒もいると思われるので、それらの生徒には角の二等分線について理解させ、作図させる。 ・作図が終わった生徒には、どのような手順で書いたかをまとめさせるとともに、本当に二等分線になるかどうかを確かめるためにどのように考えればいいのかを考えさせる。
	4 課題の確認	角の二等分線を作図の手順について、その方法が正しいかどうかを確かめよう	
展 開	5 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・角の二等分線であることを確かめるのに、どの三角形とどの三角形が合同であることを示せばいいのかを考える。 ・ A O C と B O C ・二つの三角形が合同であるかどうかを示すために作図の手順から等しい角や辺について考える。 ・ A O = B O A C = B C 	<ul style="list-style-type: none"> ・角の二等分線ということから、どの角が等しくなればいいのかを考えさせ、その後どの三角形とどの三角形が合同であることを証明すればいいのかを考えさせる。 ・作図の手順を確認させながら、等しい辺や角について考える。つまづいている生徒には、個別に二等分線の作図の手順を見せながら答えを確認

展 開 30 分	6 証明の手順の理解	$OC = OC$ <ul style="list-style-type: none"> ・どの合同条件を使うか考える。 ・3辺がそれぞれ等しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・証明の手順については、教師が説明する。 	する。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を大切にしながら指導する。  <ul style="list-style-type: none"> ・証明できない生徒には、を <p>のように分割して「こことここが等しい、こことここが等しい、だから三角形の合同条件のを使ってこの三角形とこの三角形が合同となる」というように、言葉で唱えさせる。</p>
	7 適用問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> ・p100の問4を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適用問題を解いた生徒には、その問題を手順に沿って証明させる。 ・終わった生徒には、副教材等のワークに取り組ませる。
	8 小テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを行い、小テストの結果と自己評価カードからコースを選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コース選択は生徒にまかせたいが、できるだけ発展コースを多くし、基礎コースの人数を減らしたい。
ま と め 5 分	9 本時のまとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>二つの三角形が合同であるかどうかを証明するためには、等しい辺や角を3組みつけ、三角形の合同条件を使えばいい</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人にまとめさせる。
	10 次時の予告		

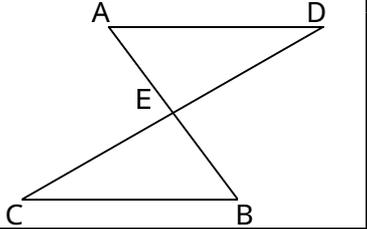
証明をかけない生徒も言葉による説明ならばできる生徒がいる。そこで、なかなか証明を記述できない生徒には、最初は言葉でいわせながら理解できてきたならば記述させるようにしたい。その際、最初は、三角形の辺や角を指さしながらこの辺とこの辺が等しい、この角とこの角が等しいというように唱えさせる。これができるようになった後、 $AB = AC$ のように記号を使って話すことができるようにさせる。

単元を通して、証明の記述ができない生徒には、書かせることよりもまず、言葉で言えるような指導を継続する。

「平行と合同」 2 合同な図形 の指導案

基礎コース（5時間目 / 8時間 習熟度別指導）

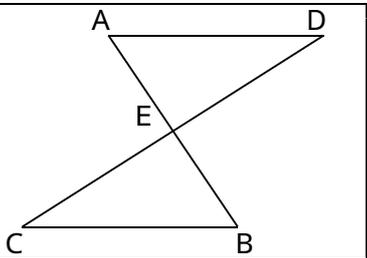
目標 仮定と結論の意味を理解するとともに証明の仕方を理解することができる。
 （証明の仕方について、前時に習っているが、仮定からどのように結論に導き出すかを教師主導で考える。教師は、いきなり証明させるのではなくスモールステップで考えさせながら証明へと導く。証明問題は、うめ問題から取り組ませる）

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 20分	1 仮定と結論についての理解	・仮定と結論について理解する。	・仮定と結論について説明する。
	2 適用問題を解く	・教科書 p101 問 1、問 2 を解く。	・この問題は、ほとんどの生徒が解けるようにしたい。だいたいの生徒が理解したことを確認したならば次に進む。
	3 問題の提示 右の図は、線分 AB と CD の交点を E として $EA = EB$ $AD \parallel CB$ となるようにかいたものである。このとき、 $ED = EC$ となることを証明してみよう		
展開 25分	4 問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・仮定と結論を確認する。 仮定：$EA = EB$ $AD \parallel CB$ 結論：$ED = EC$ ・結論を導くために、どの三角形とどの三角形が合同であることを証明すればいいのかを考える。 ・三角形が合同であることを証明するためには、いくつかの辺や角が等しければいいかを確認する。 ・3つの辺や角 ・証明を記述する前に、どことどこが等しいか、合同条件は何か等を言葉でいって確認する。 ・証明の手順を うめにしておき、うめするような形で証明させる。根拠となることがらについても うめにしておき、最初は自力解決する。 ・証明の仕方を再度確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードとなる言葉を確認しながら考えさせる。（「ならば」であるが、ここでは「このとき」という言葉） ・これは、比較的答えやすいと思うが、合同な三角形を示す場合に対応する順番が間違わないようにする。間違っている生徒がいた場合には、その生徒に個別に指導する。 ・等しい辺や角をいくつか示せばいいかを確認する。 ・まず、記述させる前に、言葉で証明させる。2～3人発表させ、最後にみんなでとなえさせる。 ・ うめができない生徒には、「こことここが等しい、こことここが等しい、だから三角形の合同条件のを使ってこの三角形とこの三角形が合同となる」というように、言葉で唱えさせてから、記述させる。 ・とりあえず うめだけは、ほとんどの生徒ができるようにさせたい。根拠となることがらについては、生徒と一緒に考えるが、教師主導で行う。
	まとめ 5分	5 本時のまとめ ・証明する場合には仮定から結論を導く ・根拠となることがらを明らかにしながら証明する	
	6 次時の予告		

「平行と合同」 2 合同な図形 の指導案

発展コース（5時間目 / 8時間 習熟度別指導）

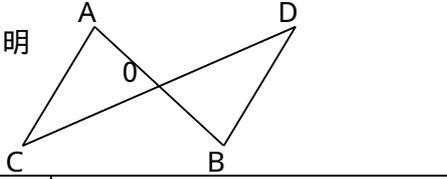
目標 仮定と結論の意味を理解するとともに証明の仕方を理解することができる。
 （証明の仕方について、既習事項から考え、自力解決を基本とする。教師は、つまづいている生徒に支援はするが、じっくり考えさせた後に支援する。問題の解決は、基本的に生徒同士の話し合いの中から解決させたい）

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 15分	1 仮定と結論についての理解	・仮定と結論について理解する。	・仮定と結論について説明する。
	2 適用問題を解く	・教科書 p101 問 1、問 2 を解く。	・この問題は、全員の生徒ができるものと思われる。多くの時間を取らないで次に進む。
展開 30分	3 問題の提示 右の図は、線分 AB と CD の交点を E として $EA = EB$ $AD \parallel CB$ となるようにかいたものである。このとき、 $ED = EC$ となる このことを証明してみよう		
			
	4 自力解決	・自力解決する。	<ul style="list-style-type: none"> ・証明とは「仮定から出発して、それまでに正しいと認められたことを根拠にしながら結論を導き出すこと」であることを確認した後に、自力解決に取り組ませる。 ・$AD \parallel CB$ を証明に使っている生徒が多くいる場合には、角や辺が等しいことを使って証明するので、$AD \parallel CB$ から分かる図形の性質について（平行線の錯角が等しいということ）確認する。 ・証明を終えた生徒には、根拠となることがらについても書かせる。
まとめ 5分	5 比較・検討	・それぞれの考えを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の解答と比べながら友だちの発表を聞かせ、自分の間違い等を一人一人に確認させる。 ・間違いが多い箇所については、教師がまとめて説明する。
	6 適用問題	・プリントの問題を解く。	・仮定、結論を式で書かせてから、証明させる。時間がなければ証明だけさせて、次の時間に解答する
まとめ 5分	7 本時のまとめ ・証明する場合には仮定から結論を導く （仮定も結論も等しい辺や角の式で表させる） ・根拠となることがらを明らかにしながら証明する		・自分の言葉でまとめさせたい。
	8 次時の予告		

「平行と合同」 2 合同な図形 の指導案

基礎コース(6時間目/8時間 習熟度別指導)

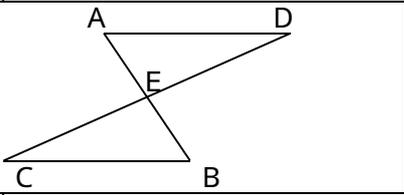
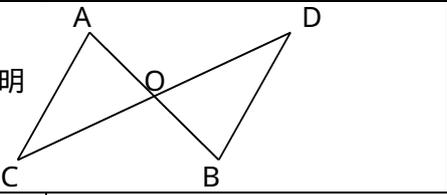
目標 証明のしくみを理解し、合同条件を用いて簡単な図形の性質を証明することができる。
 (前時に習ったことを確認しながら問題を解く最初は、うめとするが、慣れてきたら なくても解けるようにする。ある程度解ける生徒は、どんどん進ませていいが、つまづいている生徒には、個別に指導する時間を多くする。)

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 10	1 証明の手順の確認	<ul style="list-style-type: none"> 証明の手順を確認する。 仮定と結論を確認する。(辺や角を式に表す) 合同になりそうな三角形を見つける 合同になることを根拠を明らかにしながら証明する 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が、前時の問題を基に確認しながら進める。
	2 問題の提示	<p>右の図で、Oが線分AB、CDそれぞれの中点ならば $AC \parallel DB$ となります。このことを証明しなさい</p> 	
展開 35	2 問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 仮定と結論を考える。 言葉で 式で $OA = OB \quad OC = OD$ 結? 結論である $\triangle OAB = \triangle OBC$ を導くために、どの三角形とどの三角形が合同であることを証明すればいいのかを考える。 $\triangle OAC$ と $\triangle OBC$ 証明の手順を うめにしておき、うめするような形で証明させる。根拠となることがらについても うめにしておき、最初は自力解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮定と結論をまず言葉で確認し、次に式で考える。仮定は、何とか考えられると思われるが、結論については、かなり難しいものと思われる。丁寧に扱うが、ここであまり時間をかけないようにする。 合同な三角形を示す場合に対応する順番が間違わないようにする。間違っている生徒がいた場合には、その生徒に個別に指導する。 うめができない生徒には、「こことここが等しい、こことここが等しい、だから三角形の合同条件のを使ってこの三角形とこの三角形が合同となる」というように、言葉で唱えさせてから、記述させる。 とりあえず うめだけは、ほとんどの生徒ができるようにさせたい。根拠となることがらについても、最初は生徒に考えさせ、後で確認する。教師は、生徒の実現状況を確認しながら間違いや分からないところが多い所は、教師主導で確かめながら進める。
	3 適用問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 p104、問4を解く。 問4を終えた生徒は、違う問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントには うめしておく。 問4以外は、うめにしないで、手順に沿って解かせる。
まとめ	4 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 <p>平行であることを証明するためには、錯角が等しいことを示せばいい</p>	
5	5 次時の予告		

「平行と合同」 2 合同な図形 の指導案

発展コース(6時間目/8時間 習熟度別指導)

目標 証明のしくみを理解し、合同条件を用いて簡単な図形の性質を証明することができる。
 (証明は、うめでなく手順に従って記述できるようにする。教師は、つまずいている生徒には支援するが、じっくり考えさせてから支援する。この時間は、特に、結論が平行であることを証明する場合の証明の仕方について、既習事項からじっくりと考えさせたい。課題の解決場面では、生徒同士の話し合いから解決させるようにする)

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	1 問題の提示		
	<p>問題 1 右の図は、線分 AB と CD の交点を E として、 $EA = EB$、$ED = EC$ とする。このとき、 $AD = BC$ になることを証明しなさい</p> 		
	<p>問題 2 右の図で、O が線分 AB、CD それぞれの中点 ならば $AC \parallel DB$ となります。このことを証明 しなさい</p> 		
2 問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> 問題 1、問題 2 を解く。 問題 2 の結論は何が等しいと証明できればいいのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題 1 はできるものと思われるが問題 2 はつまずき生徒がいるものと思われる。どこが分からないかを確認できればいいので、問題 1 をほとんどの生徒が終えたならば、課題の設定に進む。 問題 2 の結論をどのように表すかを課題にする。 	
20	3 課題の設定	結論が平行であることを証明するような問題の証明の仕方を考えよう	
展開	4 自力解決	<ul style="list-style-type: none"> 何が等しいことを示せば証明できるかを考える。 何を示せばいいのかを確認した後、自力解決に取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行であることを証明する場合何が等しければいいのかを既習事項から考えさせる。生徒から答えを導き出したい。 うめでなく手順を、きちんと記入させる。
	5 比較・検討	証明の手順について、2人組で確認した後、全員で確かめる。	2人組で、証明の仕方があるかどうかを確認した後、全員で確かめる。
	25	6 適用問題を解く	適用問題を解く。 プリント類似問題を解く。
まとめ	7 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 平行であることを証明するためには、錯覚が等しいことを示せばいい 	生徒の言葉でまとめる。
5	5 次時の予告		

「平行と合同」 2 合同な図形 の指導案（7時間目 / 8時間 一斉指導）

目標 証明する場合、根拠としての基本性質を理解し、それをを用いて証明することができる。また、練習問題に取り組み習熟を図る。

（一斉指導であるが、プリント学習をする際には、基礎コースプリントと発展コースプリントに分けて取り組ませる。教師は、基礎コースプリントに取り組んでいる生徒への指導に重点を置く。基礎コースプリントに取り組んでいる生徒も発展コースプリントに取り組んでいる生徒も、丸付けは自分で行い、できたならば次のプリントに取り組ませる自由進度学習の形態を取る。）

段階	学習内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 証明の根拠となることからの確認	・証明の根拠となることからの確認する。	・教科書 p104、p105 に記入していることからの確認しながらプリントにまとめる。 ・根拠となることからの確認は、一斉に行う。 ・最初に渡すプリントから、基礎コースと発展コースは分けて配布する。
20	2 適用問題を解く	・教科書 p105 問5の問題を解く。	・問5の問題はプリントに記入しておく、基礎コースは うめしき、発展コースは うめでない形で証明させる。 ・解答は、教師がどちらのコースの生徒にも一斉に行う。
展 開	3 プリントに取り組む	<p>・基礎コースを選択した生徒 基礎コースプリントに取り組む。 (基礎コースプリントはNo1、No2と2枚用意し、No1が終わったならばNo2に取り組ませる。それも終えた生徒は、発展コースのプリントに取り組ませる。)</p> <p>・発展コースは選択した生徒 発展コースプリントに取り組む。 (発展コースプリントはNo1、No2と2枚用意し、No1が終わったならばNo2に取り組ませる。それも終えた生徒は、副教材のワーク等に取り組ませる。基礎コースの生徒に教えてもいい)</p>	<p>・教師は、基本的に基礎コースを選択した生徒を中心に指導するが、発展コースを選択した生徒にも質問があれば支援する。</p> <p>・答えは、黒板等に貼るか、解答を渡すかして、自己採点をさせながら自分のペースで進ませる。 (基礎コースも発展コースも)</p> <p>・うめができない生徒には、「こことここが等しい、こことここが等しい、だから三角形の合同条件のを使ってこの三角形とこの三角形が合同となる」というように、言葉で唱えさせてから、記述させる。</p> <p>・基礎コース、発展コースともに、自分のコースのプリントが終わらない場合には、次時の時間に取り組ませる。</p>
29			
ま と め 1	4 次時の予告	・次時は、コース別に分かれてプリント学習を行うことを予告する。	

「平行と合同」 2 合同な図形 の指導案

基礎コース 発展コース（8時間目 / 8時間 習熟度別指導）

- 目 標
- 基礎コース
 - 具体化した到達目標に従った問題を提示し、それに沿った問題を解きながら理解を深めることができる。
 - 発展コース
 - 具体化した到達目標の問題を確実に理解するとともに、図形の性質について証明（発展的問題）することをとおして、演繹的に推論する力を身に付ける。

1 基礎コース（第8時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリントに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎コース学習プリントを解き進める。 ・基礎コース学習プリントは、2枚用意しNo1が終わったならば、No2に取り組ませる。 ・教師は、つまずいている生徒に個別に指導するが、問題によっては、一斉に指導することも考える。 ・丸付けは自分で行う、自由進度学習の形態を取る。 ・証明の仕方をつまずいている生徒には、いきなり証明を書かせるのではなく、「こことここが等しい、こことここが等しい、だから三角形の合同条件の を使ってこの三角形とこの三角形が合同となる」というように、言葉で唱えさせてから、記述させる。そのとき、辺や角を赤色とか黒色とかで示して、生徒が答えやすいように工夫する。

2 発展コース（第6時）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 具体化した到達目標に沿った問題を記入したプリントに取り組む (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎コースプリントNo1を最初に行い、次に発展コースプリントNo1、No2に取り組む。最初は基礎コースプリントNo1と発展コースプリントNo1のプリントを配布する。 ・基礎コースプリントNo1と発展コースプリントNo1は、20分たったところで教師が解答する。 ・20分前に2枚のプリントを終えた生徒には、発展コースプリントNo2に取り組ませる。 ・基礎コースプリントNo1と発展コースプリントNo1の解答は、間違いが少ないものと考えられるので、答えだけ、教師が話して丸付けをさせる。ただし、間違いが多い場合には、説明する。
2 発展的な問題に取り組み演繹的に推論する力を身に付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・解答が終わったならば、発展コースプリントNo2のプリントを配布し取り組ませる。 <p>問題は次のような問題である。</p> <p style="text-align: center;">正三角形に2本の直線を書き入れて合同な三角形を作図し、その三角形が合同であることを証明する問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10分間は、合同であると証明できる問題、証明できない問題を一人で作成する。 ・一人一人作成した問題について、全員で確かめる。人数が多い場合は、グループで確認し合う。

最初の20分（発展コースの生徒がプリントの問題を解いている時間）は、基礎コースに2人の教師がついて個別に指導する。その後は、発展コースにいるが、生徒だけでできそうなときは、基礎コースで指導する。

3けたの数の計算を考えよう(教師アンケート集計)

所属	設問1(習熟度別指導の効果)				設問2(自己評価カードの効果)				設問3(習熟度別指導の効果)	設問4(習熟度別指導の改善点)	設問5(気付いた点)		
	ア	イ	ウ	エ	理由	ア	イ	ウ				エ	理由
A小		1			単元を通して習熟度別指導を行ったが、一斉指導で目が届かない部分にも目を向けることができ良かったと思う。		1			しっかり理解できた児童にとっては、効果があると思う。教師が児童の到達度を知るという点ではとても良かったけれど学習意欲につながったかは分からない。	学習状況を把握しやすい。	もう少し回数があった方がよかったと思う。	ぐんぐんコースの児童にとっても習熟度別指導をすることが、効果的であることを感じた。
A小	1				低位の児童にあわせた指導ができたから。	1				カードの問いの意図がつかみづらい所があったが、意欲を高める効果はあると思う。			学習カードの表現を工夫して欲しい。
A小	1				人数が少ないので、一人一人を余裕をもって指導することができた。一人一人の間違え方を把握することができた。		1			自己評価をしたものの、それで意欲が上がったようには感じられませんでした。他者評価も入れれば自己評価の効果もあるのではないかと。	習熟度別指導ということも、個々の子どもに合わせた授業がやりやすかったという意味で効果的だったと思います。また、分かれて授業を進めたことにより、必然的に少人数指導となり一人を見る時間がぐっと増えました。	低位の中のさらに低位の子たちには、2桁の筆算すらできていなさそうだった。必要に応じて別問題を設定したものの難しいものがあった。難しいことは思うが、じゅりっくコースの場合は、少しでもよいので、既習問題を解き、次に進むというのでも時と場合によって必要なことだと思う。	指導形態の工夫も大事であるが、それ以上に学級の実態に応じた指導形態という視点をもつことが大事だと思った。学級の実態をタイプに分けることもとても難しい事だと思うが、もしそれが可能となり、より適切な指導形態が徐々に見えてくようになれば、現場教師にとっては役に立つ知見になると感じた。
A小		1			学級によっては、TTが望ましい学級と習熟度別が望ましい学級があります。ですので、全ての学級で効果があるわけではないと思います。しかし、習熟度別指導が望ましい学級では、効果があったと思います。		1			本校でも自己評価カードを使っているので効果はあると思います。しかし、今回渡された「どこまで分かりましたカード」の記入はまとめの部分が難しいと思います。じゅりっくコースのまとめの学習プリントとどこまで分かりましたカードの番号をあわせてもらえば、記入しやすかったです。	下位群の児童の指導に目が行き届くこと。上位群の児童が授業中に下位群の児童を待つことが減り、演習の時間が増えたこと。	TTで授業することが望ましい学級はTTで行った方がいい。	まとめの時間で、学習プリントを使用した場合、教科書のまとめの部分は別に時間を取ればよいのかが分かりませんでした。
A小		1			担任が目が行き届く、「ぐんぐん」の子には発展問題を用意したので意欲が喚起されたこと。		1			自己評価カードを使うのはやぶさかではないが、それだけで学習意欲が引き出されたかどうかは全く不明。私自身は余り効果的でないと考えている。	今回は「じゅりっく」が少なかったため、少人数担当にしっかり見てもらって学習を進められた。	「じゅりっく」の人数が多いとき、「じゅりっく」の中でも理解レベルに差があるとき、プリントの種類(ステップ)を増やして対応する必要がある。	少人数指導は、習熟度別指導の方が指導を進めやすい。
B小	1				・個々の希望が満たされ学習意欲が更に向上した。・一斉指導では理解が困難な児童に適切なスピードで指導ができた。・上位群には競争意識を下位群には安心感をそとてどちらにも達成感を味わわせられた。		1			内容が具体性を欠いていて、自分を見つめることにつながらなかった。次への意欲付けになったのは、「分かった」という喜びであったように思う。	それぞれのコースでする学習内容の(問題)取り上げ方。(1単位時間での量、また、プリント1枚の量)「やってやる」という気にさせる適量を学んだ	・コースに分かれるまでは一斉指導なので、理解するのに時間差が大きく、45分では消化が難しいことがあった。・コース別に分かれてからは問題数が増える必要。・採点については、次のプリントの前のプリントの解答を書いておく(等しいと混雑し、いい加減な採点になる子もいる。・全て自己採点にせず(上位コース)教師によるチェック問題をポイントポイントで入れる必要があった。	・今回の指導案で日頃の自分の授業がいかにのんびりしていたかを痛感した。教師がスピードアップすることで学級全体が引き締まり、子どももしっかりスピードアップできることを実感した。・スピードアップした分、乱雑になり、小さなミスが多くなった点は指導の至らなさに大いに反省している。
B小		1			じゅりっくコースの児童のプリントの中にも2コース分ぐらいあるといいのではないかと、学力の差がじゅりっくコースの中でも大きいのができた。		1			見通しをもって児童が学習を進めることができた。	単純に人数が半分になっただけで教師の目が一人一人に届きやすい。		
B小		1			自分の学習のペースで習熟することができたよだから、半分に分けたことで、個別指導に入ることもできたから。		1			毎時間つけさせるのをこちらが忘れたので自分で振り返った回数は少なく、実際の所意欲を引き出せたのか分からないが、もし、毎時間つけさせていたならば、効果的に意欲を引き出したのではないかとと思う。	一人一人に目を向ける時間が増えた点	空き教室がない中で習熟度別指導を行うのは少し無理があると思う。	・ぐんぐん、じゅりっくの2種類のプリントがあることで、子ども達は次のプリントに取り組みとう意欲的に問題を解いていた。子どもの意欲を引き出す方法としてこれから参考していきたい。
B小		1			じゅりっくコースの子ども達の多くは2年生で繰り上がり繰り下がりが定着できていないため、一人での対応では限界があると思われました。確実に力をつけるためには、進める子はとんとん一人でプリントを進め、教師二人で定着していない子どもに対応した方が全員に力をつけることができると思う。		1			3年生の1学期段階で先を見通して学習のぞめる子は極わずかなので、自己評価カードは、その時間、その時間で「できた」「できない」を自分で評価するだけに終わってしまいました。「だから次はこれをがんばろう」という意欲につながるといえば、理解力の高い子には有効であったが、低い子ども達にはピンときていない、というのが本音です。	理解力・思考力の高い子にとっては、今回の指導方法は効果的で知的好奇心や思考・判断力が育つと思いました。	37～38人と多く、週5時間のうち2時間だけのTTで、定着度があまりいいとは言えない場合には、ぐんぐんコースの2時間目のスタイルではなく、1時間目よりレベルアップした問題プリントに挑戦していくスタイルの方がいいのではないかと思いました。その際、じゅりっくコースで力のついた子はぐんぐんコースに移らせ、じゅりっくコースの定着がもう少しという子への対応時間を確保することで全体のレベルも上がっていったと思います。	自己評価カードは、自分一人で理解して記入できるタイプではなかったため、説明して記入という流れだったので、時間をとられてしまいました。練習問題と評価が1枚の中にあっても問題でどれくらいできているかがはっきりした方が3年生には合っていると思う。(できていなくても「自分はできた」と判断する低学年の特性より)

所属	設問1(習熟度別指導の効果)					設問2(自己評価カードの効果)					設問3(習熟度別指導の効果)	設問4(習熟度別指導の改善点)	設問5(気付いた点)			
	ア	イ	ウ	エ	オ	理由	ア	イ	ウ	エ				オ	理由	
B小		1				自信がでた。できそうだと分かったという子がじっくりコースにはたくさんいた。結果的には効果があったと思う。			1			学習内容が分かりにくい表現があったように感じたので自分で進んで評価できないようだった。補足をしながら評価させていた。	じっくりコースを担当したが、子ども達が自分のベースに合わせて問題を解くことができること、新しいプリントに入りたいという意欲が高まったこと、つまずいている子にじっくり指導することができた。	・2グループの人数の配分、半分ではじっくりコースの子に指導しきれない子が出てくる。導入の段階で計算の仕方(それぞれの基本型)を確認してから始めれば良かった。プリントを早く進みたいということで競争のようになってきたところがあった。		
C小	1					少人数で行うことにより、一人一人の児童に目が行き届き、形成的な評価が可能となります。			1			自分の進捗を確認しながら学習を進めることは大切だと思う。児童が自分でチェックできるよう、学習活動に沿ったチェック項目を設定することが大切である。	達成度、作業の速さなど児童によって違うので、自分にあった内容、速さで進められることは児童の自己実現をかなえる意味で有効である。	少人数でも個々の児童には個人差はあるので、個々の児童の到達度を把握し、より個別の支援の在り方を吟味するべきであった。	事前準備が十分でなかったので意図に沿った授業にならなかったと思いますが、ご苦労様でした。	
C小		1				自分の実力に合わせてコース選択をしているので授業に対して自然と意欲がでている。			1			・との違いはどこにあるのかうまく伝えることができなかった。・カードで意欲を引き出すのは難しい。	人数が少ない分、指導・評価がスムーズに行える。子どもにとっても先生が身近になり安心感があるようだ。		いろいろ勉強させて頂きました。今回は表現・処理の部分が多かったので、問題解決場面の少人数学習も考えていきたいです。	
D小		1				普段の授業でも同じようなタイミングで行っているので無理なく意欲を損なうことなく学習が進められました。			1			毎時間しっかり記入する時間はなかなかとれませんでした。自己評価、相互評価、教師の励まし等で児童の意欲が高められました。				
D小		1				発展コースの子ども達は意欲的に問題に取り組んでいた。また、基礎コースの子どもにはゆとり時間をかけて、つまずきを明らかにしながら問題に取り組んでいた。			1			毎時間ではありませんでしたが、カードを使って自己評価することで子どもたちは意欲的に取り組もうとしたし、教える側も子どもたちの様子をしっかりと把握できた。	基礎コースを選択した児童がゆとりとつまずきを確かめながら、問題に取り組むことができた。それによって、発展コースの問題にチャレンジする子もいた。発展コースの子も多くの問題に取り組んだ。	2年生で学習した2位数の筆算を思い出し、繰り上がり繰り下がりのある計算をスムーズにやっている子が多くなった。3位数になっても、抵抗なく計算をしていたように感じる。そのために、まとめの段階で習熟度別指導をしたのは、発展コースの子にとっても		
E小	1					できる子を更にはばせようと思うから。			1			3年生にとっては難しいと感じる部分もある。	できる子を更にはばすことが可能である。	じっくりコースの中での上位の子が埋没してしまうこともあった。		
E小		1				ほとんどの場合には同様の速さ、同様のタイプの児童を指導した方が個々の学習に応じて進むことができる。今年度の児童は下位層が多すぎて下位層だけ集めたグループの指導が困難。そこで、均等に分けて指導した方が効果的であった。			1			できる部分できない部分を意識することで、学習の重点を絞るのにより、意欲も向上する。ただし、自己評価カードの記入が適切にできなかったため実態にあった形式を工夫した。			指導案により指導の流れを共通理解し担任と少人数担当の指導が円滑に進んだ。練習プリントでは特徴的な問題を少しずつ絞って取り上げていて効果的であった。前学年の内容ができない子が多く、休み時間、朝学習、放課後学習に練習させて授業を支えています。現場にはそのような実態があるということもお知らせします。	
E小		1				まとめの段階では上位の子どもと低位の子どもに結構差が出ているので、どんどん発展問題を進めるグループと細かな指導を受けるグループがあつて良かった。			1			振り返りとしては効果があったと思うが、次への意欲につながっていたか、次時に生かすことができたかどうかは疑問が残る。	一つの単元でも、二つの指導法を取り入れていたこと。		子どもたちが自分で自分の習熟度を考えてコース選びができるよう、力をつけさせたい。	
F小	1					それぞれの習熟度に合わせて進めることができたから。			1			今ここまで進んだが見通しをもつことができた。	最後の習熟の段階でもう一度、同じ自己評価カードを使うことにより、自分の力を確かめることができてい			
F小		1				計算の速さの個人差が大きいので、苦手な児童にとっては間違いに気が付き直す時間ができたから。			1			うまく活用できなかった。	基礎コースは、一問一問つまずきがないので確認しながら行うことができた。	まとめの時間だけでなく、もっと前の時間から(第3時あたりから)コース別に分かれて指導した方が、単位時間ごとにつまずきを少なくすることができたのではないかと思う。	・レディネステストを本時の前半に行つという指導案であったが、単元に入る前に個々の実態を把握しておいてから、第1時は始めから本時の内容に入つた方がよいと思った。どこまで分かりましたかカードは、項目によっては、か の2つで良かったと思う。	
F小		1				学習内容が習熟度に合っていて無理なく進めることができた。「どどんコース」では、間違え原因、間違わない方法を一人一人考えていた。			1			前時と比べることができたので、意欲付けになった。	T1では、役割分担をして有効に進めることができた。T2は主につまずきのある子の指導に当たった。	個人差が大きいので、はじめから習熟度別に付けて実態に合わせたペースで進めてもよいと思った。人数が少ない方が、児童のつづきや疑問も把握しやすい。		
F小		1				単元のはじめの段階でつまずいている子どももいるのが実態である。まとめだけ習熟度別にして、そうした子に届けられないと思う。			1			子どものアンケート結果から見ると、一応の意欲付けになっているのだから。		単元のもっと早い段階から習熟度別指導を行うべきである。		
		7	12	2	0	0			2	13	6	0	0			

調査は、五肢選択で行い、ア、イは+反応、ウ、エを-反応、オはどちらでもないこととし、ア、エを各々強い反応とした。

長さをはかろう(教師用アンケート集計)

所属	設問1(単純分割 少人数指導の効 アイウエオ)					設問2(習熟度別 指導の効果) アイウエオ					設問3(自己評価カードの効果) アイウエオ					理由	設問4(単純分割少人数指導、習熟度別指 導の効果)	設問5(単純分割少人数指導と習熟 度別指導の改善点)	設問6(感想)
A小	1					1										今回は評価内容が分かりやすく、子どもも自分の状況を理解したり、意欲をもったりすることができた。	1, 2, 5時間目とも実測する場において19人ずつにすることで、一人一人が測定でき、測定方法の理解だけでなく目盛りの正しい読み方を体感できたこと。	習熟度別指導では、能力のある子がじっくりにいたり、その反対があったりという点で個に応じた指導が十分でなかった。できれば、子どもの希望をとった後、コース変更のアドバイスができればより一層力を伸ばすことができると思った。	実際に作業のはいる授業においては少人数の方が効果があると思った。道具の数は多い方が(1クラス19人の場合、巻尺6個)いい場面もあったので、道具の数も影響することが分かりました。
A小		1					1									めあてがはっきりしていたので、学習の後の評価では、意欲をもつことができたと思う。	・一斉指導よりもゆったりと実測したり、プリントで問題を解いたりすることができた。 ・実測の仕方やつまずきのある児童に一斉指導よりもしっかりと指導することができた。	1, 2, 5時間目は内容を2つに分けたことは良かったが切り替えに時間的ロスが見られた。(説明等)時間配分をしっかりとしないといけないと思う。6時間目は、途中からじっくりをTの時間にすることが細やかな指導をすることができてよかったが、教師一人で指導することができない児童がどうしてもでしてしまう。	距離と道のりの違いをほとんどの子が理解できていたし、実体験をしたことも子どもたちは体感できた。コース分けは、子どもの意志に任せることになっているが、教師の軽い助言もしたいという感じもした。
B小		1						1							1	良い評価ができた児童にとっては自信につながりよかったと思う。	・一人一人の学習の様子をしっかり把握できる。それぞれのコースに合わせて時間を有効に使える。・全員が、実際に巻尺に触れ、活動することができた。	時間が決められていると、それに合わせて授業を進めることになるので、理解が不十分だったところを補う時間をその日のうちに確保して追いつかなければならない。単元をとおしてであれば時間配分もコース毎に考えることができるように思う。	
B小	1						1								1	なかには、カードが何を聞いているのか理解できない子どももいた。少々書きづらいうだったから。	本校では、少人数を元々行っていたが効果があると感じていたので、今単元でも同様に思った。遅い子に合わせて早い子の学力が伸びずジレンマを感じていたこともあり少人数指導に賛成である。		学習カードの見直しをした方がよいのではないかと(もっとシンプルにして子どもに分かりやすい方がいい)
B小				1					1						1	「自分はどこまでできて、どこまでできなかったか。」を把握することが学習意欲の向上につながっているかどうかは、子どもの様子を見ている限り分かりませんでした。低位の子についてはあれだけ分かりやすい項目であったのに聞かれている意味すら分かっていなかった。	私は「こつこつコース」を担当しましたが、人数が少なかったので目をかけやすかったです。ベースも子どもたちに合わせて行うことができたので、安心して進めることができました。ただ、極端に効果があったかどうかは分かりませんでした。	授業自体には特にありません。個人的には2, 5時間目に少人数指導を行う明確な意義があればやりやすいと思いました。	やはり、2, 5時間目に少人数指導を行う意義が明示されていると良かったです。自己評価が学習意欲に及ぼす影響についてですが、他者評価を取り入れたり、記述式の自己評価を取り入れたりした方がよいと思った。あの自己評価は教師が子どもを把握するものとしてはとてもよかったと思う。

所属	設問1(単純分割 少数指導の効果)					設問2(習熟度別 指導の効果)					設問3(自己評価カードの効果)					理由	設問4(単純分割少数指導、習熟度別指導の効果)	設問5(単純分割少数指導と習熟度別指導の改善点)	設問6(感想)
	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ				
B小		1					1								1	効果がある児童もいると思うが、なんとなくつけている児童もいるので、全ての児童に効果があるとは思わない。	下位群の児童も巻尺を使って長さをはかることができたので効果的だったと思う。	1km歩く授業は、少数指導では厳しいものがあると思う。T1の形で行った方が児童に目が行き届くと思う。	具体的に指導案がある授業とない授業があり、どのように進めていいのかわからない部分がありました。統一して頂けると、どのような意図で授業をするのかわかりやすい。
D小	1					1									1	自己評価するのが難しい児童もいた。	上位の子の能力をさらに伸ばすことができると思う。	上位の子の能力をさらに伸ばすことができると思う。	
D小		1					1								1		小グループでの長さを測る活動がスムーズにできたと、少数で集中力が高まった。	5時間目の活動は、動物等の長さを調べたが、なぜ前時で「km」を学習したのに、また「m」の戻ったのかわからない。ただ、子どもたちは楽しく調べ活動をする事ができた。	長さや水のかさなどの量の感覚が子どもたちにはあまり身に付いていないことを改めて感じた。1kmを実際に歩いてみる活動がよかった。
E小	1						1								1	子どもたち自身が、見通しをもって学習することができるから。	少数指導は、児童一人一人に目が行き届くので、つまづいているところを把握し、その場で指導することができるので効果的だったと思う。		一単位時間でのプリント等、内容が多くて時間オーバーすることもありました。内容の精選が必要である。
E小		1					1								1	自己評価カードを使うことで、1時間毎に振り返りをし、理解しているか確認することができた。	測定の場面では、少数指導により一人一人が測定する様子を見ることができた。グループ分けをして学習することで、測定後の指導も細かく見られた。習熟度別指導について、たいいていの子どもが単元の学習内容を理解していて、発展コースを選択していたので、基礎コースの子どものつまづきをおさえながら指導できた。発展コースの子も、特に2枚目のプリントをじっくり考えさせることができた。	2時間目の学習内容を全部やるには時間が足りない気がした。測定に時間がかかったため、最初にプリントに取り組んだグループは、測定にはいるまで多少待ち時間でできてしまった。	
	4	5	0			1	4	6	0	0	0	0	0	0	9				

記録を見やすく整理しよう(教師用アンケート集計)

所属	設問1(習熟度別指導の効果)				設問2(自己評価カードの効果)				設問3(習熟度別指導での効果)				設問4(習熟度別指導の改善点)				設問5(気付いた点)							
	ア	イ	ウ	エ	オ	理由	ア	イ	ウ	エ	オ	理由	ア	イ	ウ	エ	オ	理由	ア	イ	ウ	エ	オ	理由
A小	1					習熟度別の指導にすることで演習スピードの速い子が待つ時間が少なかったので効果があったと思う。	1					学習意欲を引き出すというよりは、自分の課題を見つけるのに役立っていたように思う。												
A小	1					習熟度別ということで、児童の実態や力に合わせた指導ができたこと。また、一人一人に目が行き届いたこと。	1					子どもたちは(理解できた子たち)意欲的に評価していたと思うが、できない子や評価そのものに対していいかげんにつけている面も見られたから。												
A小	1					内容理解の遅い子どもに対して、指導しやすく、また、子どもたちが理解したかどうかを把握しやすかった。	1					活動を振り返ることで、次時への意欲をもつことはできたと思う。												
A小	1					理解の度合いが低い児童にも、じっくりいねいに考えさせることができたから。また、よく理解できている児童が自分のペースでどんどん学習を進めることができたから。				1		ではなく、分かった度数(9.5点など)で表させるとさらに意欲が引き出せると思う。普段は振り返りカードを書くことがないので、学習の終わりにカードに記入することに違和感があったようだ。毎単元の取り組みだったら効果があったかもしれない。												
B小		1				個の学習状況を把握するのに有効であった。個々への指導時間も確保できた。	1					の評価をつけた子どもが多く、次時への学習への意欲が持続できた。の評価規準があいまいであった。												
B小	1					当たり前ではあるが、一人一人の実現状況を把握する人数が減ったこと。				1		児童によっては質問を読まず「周りの友だちが だから自分も つけよう」等の場合があり、自分自身の実現状況を見るにふさわしくなかったことがあったため。												
C小		1				自分の考えを図や身振り手振りなどで何かを伝えようとしたり、友だちの考えやヒントにさらにより方法を考えようとしたりする姿が多く見られたから。	1					自己評価をさせることは子ども自身がその時間を振り返ったり、他の時間と比べたりできるので、意欲を引き出すのに効果があると思う。また、評価項目が具体的であるほど評価しやすくと感じた。												
C小			1			基礎コースの方は、その理解に応じてゆっくり進むことができ、全体(一斉)で行うときよりも一人一人がより主体的に向かっているように見えた。コース分けの段階で、能力的には発展コースに行ってもいいような子どもが、基礎コースに残ったことは、多様な考えを引き出したり、説明する手本になったりと学習をリードすることができてよかった。				1		普段、本時とまとめという2段階の評価カードは使っていなかったのが最後の時間に全部振り返るのが難しい子もいた。項目に従って、補足し説明してやるのと分かって印をつけることができた。												
D小	1					一斉指導の際に、ほとんど発言しなかった児童が習熟度別の際には、進んで発表するなど意欲がめざましかった。進んで学ぼうとする態度が見られた。	1					本時を振り返り、次時への意欲を喚起できたから。												

図形の角のひみつを調べよう(教師用アンケート集計)

所属	設問1(単純分割少数指導)				設問2(習熟度別指導の効果)				設問3(自己評価カードの効果)				理由	設問4(単純分割少数指導の効果 改善点)	設問5(習熟度別指導の効果 改善点)	設問6(感想)	
	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ	アイウエオ					
A小	1				1					1				自己評価カードを使うことによって満足感ももったり、次も頑張ろうという意欲ももったりしたのではないかなと思う。	操作活動もあり、人数が少ないと子どものつぶやきも拾いやすく感じた。他の学校では有効かと思いましたが、環境が教室のような机と椅子ではなかったり、教室から遠いため子どもたちが落ち着かない面も見られた。	理解力の高い子どもたちなので、自力解決の後に、近(の友だちと自然に学び合う姿が見られて良かった。発展コースなので前半も早く進めて、自力解決や学び合いの時間をたっぷり確保すべきであった。発問を吟味するべきであった。	5時間目は、前半は基礎コースでのTT指導だったが、本校は、教室の隅や近くの教室ではないため、子どもたちの様子が全く分らなかった。移動にも時間がかったりと環境面で難しさを感じた。事前にもっとじっくりと教材研究をすべきであったと思う。
A小	1				1					1				多くの児童自身が効果があったと感じていることから、カードに記入することで、何が分かり何が分からなかったかを児童が分析することができ、そのデータを基にして冷静に力に応じたコースを選択する有力な手がかりとなった。	目が行き届き分らないでいる児童への支援が容易になった。黒板や教師との距離が近くなるので、集中力が増し、分らない時に分らないと言いやすくなる。つぶやきを取り上げやすく、できたかどうかを確認しながら進めることができ、他人の机を使うことへの困惑、机や椅子、教室が違うことへのとまどい、教科書類だけでなく、操作活動に必要な道具類を持ち運ぶこと。	特に、低位の児童に対して丁寧に教えたりヒントを与えたりすることができ、基礎をしっかり理解させるよい方法だと思ふ。理解の早い児童は、待つことがなく自分の力に応じてどんどんいる問題にチャレンジできるので充実感があったようだ。移動時間や物質的な面でのロスはあるが、慣れれば苦にならない程度のものであったと思う。	習熟度別指導にすることで、児童の中に差別感みたいなものを感じないだろうか心配したが、意外に冷静に自分の力を分析し、自分の力にあったコースを希望する子がほとんどであったので杞憂に終わった。指導するものが2倍になり、児童の数が半分に減ることで、目が行き届き支援をすることができた。早く30人学級が実現すればいいと思う。
B小	1				1					1				学習内容を確認し、自分の到達度と照らし合わせて満足する姿は見られたが、次への学習意欲を引き出していたことを判断することは難しかったので、	全員の児童の学習状況を把握し、対応することができた。TTの形態で行ってもできるのではないかなと思う。	じっくりコースの児童にとっては、課題がより具体的だったので、何に目を向ければ良いかがはっきりしていたこと、課題提示を自力解決の前に行った方がよいと思う。	基礎コースと発展コースの問題には、どの児童も喜んで取り組んでいた。たし算やひき算がまだに理解できない児童にとっても、支援を受ける時間が保障され、やる気ができてきた。「楽しかった」という声がとても多い学習となった。ただし、テストの結果を見るとしっかりと定着していない段階の児童もかなりいるので、今後補っていく必要がある。少数指導の形態を今後も検討していく上で、よい実践となった。
B小	1				1					1				自己評価カードの学習のめあてを頭に入れてから学習に取り組むというよりは、授業後の反省としての自己評価カードになってしまい、学習意欲を引き出すまでにはいたらなかった。	一人一人の児童に目が行き渡る。一斉指導のTTと比較したときはどうなのだろうか。	課題確認、課題解決における授業時間内での時間のかけかた。課題の確認の仕方によっては、一斉指導のTTでも授業はよかったのではないかな。	
B小	1				1					1				本時の学びを振り返るのには効果的だったと感じるが、学習意欲を引き出したかどうかは疑問が残った。	一人一人にきめ細かな指導ができた。少数であるため学び合いの共有という点では、一斉指導の方が効果的であると考えている。	習熟度に応じた手だてでや支援が一斉に行うことができ、指導する立場としてはよかった。課題に差異もたせた場合、解決方法や活動に差異をもたせなくてよいものか疑問を感じた。	指導内容やねらいによって、指導形態を工夫されている点が参考になった。
C小	1				1					1				学習意欲につながったかどうかは、はっきりとはいえないが、その時間の振り返りはできたと思う。		発展コースは、進んで発展的な問題を解きたい子どもはどんどん進んで達成感をもっていること。	
C小	1				1					1				私の活用方法が問題だったのかもしれないが、児童にカードをしっかりと意識させないでただの自己評価で終わってしまう場合もあると感じた。なので、間接的にも引き出す効果があったかは分からない。	普段の一斉指導では、挙手して発言しない児童が活発になり発言するというようなことがあり、その点では、発言の機会が増え、効果的だと思う。	発展コースの児童は、自分たちで様々な考えを出し合い、深めることができていたし、自分のペースで問題に取り組むこともできるので、意欲的に取り組む児童が多く見られ、この点で効果を感じた。	
C小	1				1					1				学習内容にかかわる評価が、授業後と5時間目の2回評価できることがとてもよい。授業後だった児童の中には、次は、全部正解するように頑張ろうと感想を述べていた子どももいた。	一人一人の発表機会が増え集中力が増す。教室内の席が半分空くので、個別指導が必要な子をあらかじめ教師の近くに座らせることができる。TTと違い、教師一人だけなので、教師が個別指導をしている間、他の児童への指示をしにくいし、授業を進めることもできない。	基礎コースは、課題の内容が焦点化され、何を考えればよいかが明確であったので、下位の子どもにとっても考えやすい。発展コースは、一つだけでなくきまりをたくさん見つけようと思ふ意欲付けを図ることができる。発展コースに入ってもいい力のある子どもにとっては、基礎コースの課題は少々物足りないもので、その他にきまりはないか考えさせたり、二十三角形ではどうか考えさせたりした。	自己評価カードの学習のめあてが具体的で、自己評価しやすかった。ただし、四角形の4つの角の大きさの和は、360度であること、三角形の3つの角の大きさの和は180度であるなどを学習前に見てしまうと子どもによっては、発見する喜びがなくなってしまうのではないかな。
D小	1				1					1				自分の学習の仕方について、客観的に知るのには、良いこと考えるから。	目が届きやすいこと 指導に当たる教師間同士の念入りの打合せを要する点	上級コースには、プリント等をどンドンやらせて習熟をはかることができる。下級コースでは、学習のけん引役になる児童が少ないため、思考の練りに深まりがかけられる点。	プリントを使うのであれば、解決に必要な目安となる時間の明記と解答例の添付、児童が使いやすいような配慮が欲しいと感じました。
D小	1				1					1				自分の学習状況を理解するのに役立つと思うが、カード形式でなくても可能である。子どもたちには意欲付けにはなったようである。	細かい作業があったので、全員ができていくか確かめるためには、効果的であった。	習熟度の高いグループは、様々な考え方を出して自力解決ができてよかったと思う。低グループには、個々に目が行き届いた。	習熟度別の時は、高い子どもは難しい問題に取り組むが、低い子どもは、そこまでいいかないため、ますます差が大きくなるような気がする。(しかたないかもしれないが)
D小	1				1					1				単純に人数が減ったということで、一人一人に目が行き届くという利点はあったと思う。単純分割のグループであれば、集団で高め合えるが、習熟度別ではあまり効果がないと思う。教師個人の投量を上げなければいけないと思う。		人数が減ったことによって目が行き届きやすくなったと思う。児童個人には、好みで選べたことがよかったと思う。単純分割であれば、集団で高め合える。習熟度別指導が能力別になってはいいかなと思う。	プリントをやっているときに、多くの子どもたちから質問がたくさん出た。質問が出るということは、良い教材とは言えないと思う。プリントに系統性が感じられませんでした。
D小	1				1					1				「悪く書いたら駄目」と思っている子どもがいるため、学習意欲につながっているとは思えない感じがした。	1-2時間目に時間をかけるよりも定着を図る方へ時間をかけた方がいい単元だと思ふ。	人数が少ないと理解に時間がかかる子どもへの手をかけやすい。習熟度合が良い子どもにはたくさん問題を解くことができ良かった。	問題プリントは、式や筆算をかけるスペースが不足しています。たくさん子どもから「どこに式を書けばいいの?」と聞かれました。別単元の方が指導効果上がる感じがすると思います。

調査は、五肢選択で行い、ア、イは+ 反応、ウ、エを- 反応、オはどちらでもないこととし、ア、エを各々強い反応とした。

方程式(教師アンケート集計)

所属	設問1(習熟度別指導の効果)					設問2(自己評価カードの効果)					設問3(習熟度別指導の効果)	設問4(習熟度別指導の改善点)	設問5(気付いた点)		
	ア	イ	ウ	エ	オ	理由	ア	イ	ウ	エ				オ	理由
A中	1					・基礎コースの方は、以前にxの問題を解けるようになった生徒がいたこと。・応用コースの方は、文章題も含めレベルの高いものを、理解力の高い生徒同士でできて刺激になったようで意欲的であった。生徒も聞きやすいと感じていた。	1					意識の低い生徒には効果がそんなにないようだ。ただ、できるできないにかかわらず、自分の分からない所が一目で分かるのでテスト対策、日々の復習の目安になることは確かだと思う。	レベル分けされているので、授業が進めやすい。一通り学んだ後の演習なので、目的がはっきりして生徒も取り組みやすい。	特になし	・計算以外でも、(習熟度別指導等を)取り入れると効果があると思われる単元でも試してみたい。・時数があと1~2時あれば、応用コースでもっと難しいものを扱えたと思う。ただ105時間であればこれ以上時間をかけるのは厳しいと思う。・評価カードを少人数指導を取り入れるタイミングが勉強になりました。
A中	1					下位の生徒にはじつと、どこを間違えたのか気付かせながら指導でき、上位の生徒には、たくさん練習させることができたから。	1					何を勉強したのか確かめさせることが、意欲の向上に欠かせないと思う。	グループ毎に問題や指導過程が違うこと。	特になし	本校は、空き教室がないので、少人数指導を行うときに困る。
B中	1					個別に教える時間を多く取れたこと。個人の定着度を見ながら(一斉より細かく)解説できたこと。基本、発展と分けたことで、解説のポイントやチェックの観点が変えられたことなどから、そう感じた。	1					次、頑張ろうという意欲はあまり感じられませんでした。しかし、前回よりできたという所から達成感を感じる事ができたようだ。	クラスの人数が半数になり、個々に目を向けやすかったこと。発展コースでは、授業で扱わない高度な問題に取り組み、できたことへの喜びを生徒たちが味わうことができたこと。基礎コースでは、目の届かない生徒へも個別に教えることができ、また、つまずきに応じて指導できたことが効果的であった。	39人学級のため、半数に分けても20人弱いまま。20人だとやはり目が届きかねる所があった。おそらく、実現は難しいが、3つのコースに分け基礎、定着、発展のように分けてできれば、より細やかな指導ができると思った。	少人数になりクラスが分かると人数が減って教えやすい反面、普段とは違った集団となるので、その集団の雰囲気作りがあったため、慣れるまで時間がかかったようだ。1時間目の半分は、落ち着いた学習に取り組みことができず。常にこのような形態の授業を行ってれば、より効果的に学習できるのではないかと思った。
	3	0	0	0	0		0	3	0	0	0				

調査は、五肢選択で行い、ア、イは+反応、ウ、エを-反応、オはどちらでもないこととし、ア、エを各々強い反応とした。

一次関数(教師アンケート集計)

所属	設問1(習熟度別指導の効果第4時~第6時、第9時、第10時)				設問2(習熟度別指導の効果 まとめの場面)				設問3(自己評価カードの効果)				設問4(習熟度別指導の効果)	設問5(習熟度別指導の改善点)			
	アイ	ウ	エ	オ理由	アイ	ウ	エ	オ理由	アイ	ウ	エ	オ理由					
A中	1				人数が少ない分、より細かな指導ができた。	1				基礎コースで特に効果があった。			1		よりきめ細かな指導ができた。生徒も質問しやすかったようだ。	生徒の希望通りにコースに分けて見たが、クラスによっては、かなり人数に偏った分け方になった。次回改善したい。	
A中		1			習熟度に分けて指導して、人数が少なくなったことで細かい指導はできたが、時間が決められていたために行事等で授業が連続しないときには、補充したいところもあった。		1			効果があったと思う。基本の問題を確認しながらできたことは、生徒にとってよかったと思う。			1		自己評価カードによって、上位の生徒は厳しく、下位の生徒はあまり評価になりがちであった。記述にはいいこともかいてあった。自分を見直すためには有効でも教師の評価と一致するものではない	単位時間内で一人の生徒に接する時間が増え、指導を丁寧にできたことはいい点だと思った。	学習プリントの中で学習課題が単位時間の中に2つ合ったプリントがあり、少し慌てた。下位の生徒には多い感じがした。
A中				1	基礎コースの子が多く、理解させるのに1人の教師では足りないと思った。				1	1に同じ			1	みんな適当に をつけていた。	少人数であると多くの生徒に目を向けることができた。	30人対数人とかの分け方はよろしくないと思う。	
B中(担当者4人で1枚のアンケートに回答した)		4			基礎コースでは、生徒は納得いくまで質問したり、仲間と教え合いをしている姿があり、学習意欲が感じられた。また、教師は、一人一人に指導する時間が確保できた。発展コースでは、次々と挑戦していきたいという意欲を引き出すことができ、自分が満足するレベルまで頑張ることができた。		4			教え合いや質問している姿を見て生徒の学習意欲を感じた。前時の内容の定着が甘い生徒が発展コースにいた。			4		自己評価カードに記入することにより、自らの学習を振り返ることができた。各項目を評価することにより、自分の苦手な箇所を把握することができた。	工夫されたプリント内容で学習しやすかった。生徒の理解度を見ながら授業を進めることができた。学習の習熟度が同じなので、あきることなく授業に集中できた。一人一人に指導する時間が確保できた。習熟度に分けたためか、分からないことを恥ずかしがらずに、挙手したり質問したりまた、教え合う姿が多く見られた。	クラス分けをしたところ、大半が基礎コースで、数名が発展コースというクラスもあった。クラス分けの仕方を工夫し、人数にかたよりがなく授業を行った方がより効果的かと思った。
C中		1			普段のTTの指導での机間指導では、その時間に重点的にみる生徒をある程度絞っています。しかし、今回行った習熟度別指導では、一斉指導に比べて人数が少なかったため、普段なかなか目が行き届かないでしまう生徒にも、よく目を配ることができた。また、生徒は人数が減ったことで、発言しやすかったり、質問しやすかったりしたようで、今まで意欲的でなかった生徒が、一生懸命頑張る姿もあった。ただし、方程式や連立方程式をはじめ、既習事項の未定着、計算力不足の生徒が比較的多い学級を対象にしたため、基礎コースの生徒が多くなってしまい、また、きめ細かい個別指導を必要とする生徒が多かったのも大変であった。		1			特に基礎コースの生徒には、問題数が多すぎた。しかし、自己評価カードをみながら、以前には理解が不十分だった内容を自覚し、それをもとにこの問題は、今回はできるようにしたい、という目標をもちながらできた生徒もあり、良かった。			1		自己評価カードに記入することで、その時間最終的に何が分かるようになればいいのか、授業の最初に分かり、それを意識して授業する生徒もいた。また、これまで意欲的に取り組めなかった生徒も、分かる努力をしようとする態度もみられた。目標をもたせるのに役に立つと思う。	工夫・留意点から、その場で考えさせたいことや、身に付けさせたい力や技能などが明確で指導する側として、指導のねらいがより明確になり指導しやすかった。また、習熟度別指導により、理解するまでに要する時間の差が一斉指導より少なくなり、発展コースの生徒にとっても基礎コースの生徒にとってもよかったと思う。	学習プリントな内容、構成の吟味が必要だと思った。学習プリントを用意しても、ありがたい面もあったが、指導者のイメージと異なっていたり、生徒の実態の即していない部分も感じられ、やはり生徒の実態を把握した上で学習プリントの方がよいと思った。
C中		1			目が行き届く。		1			自分にあった問題に取り組める。			1		一斉指導では、時間をもてあまし気味の上位の生徒にとっては、いろいろな問題に取り組むことができる。	問題が難しすぎる。プリントの構成が分かりにくい。	
C中			1		習熟度別指導を行うことにより、生徒個々に目が行き届き、つまづきの発見や基礎的事項の再指導がしやすくなった。生徒も気軽に質問ができる为好評であった。				1	まとめの場面で行った問題数は、生徒にとって多すぎた。また、問題の難易度についても急に難しくなった感があり、生徒が戸惑っていた。まとめの段階の問題は、発展コースの生徒であっても基本的な問題から始まり、時間の余るような生徒には難しい問題を与えるような作り方をした方がよかった。			1		毎時間の学習において、例題の学習から問題練習という流れの中で、生徒は学習内容が理解・確認でき満足できていたようである。そのため、自己評価においても素直に記入がなされ、不明な点が残った場合もその時間や次時に質問するようになり、意欲が高まったと思われる。しかし、まとめのテストの時点で難易度の高い問題もあり、生徒は思ったよりも実力がついていかなかったと思いに尽きたようである。	習熟度別指導により、生徒個々の理解度が確認しやすく、分からずに困っている生徒への支援が非常にしやすかった。	2コースで共通部分を多くしたり、発展的な部分についても、どちらのコースの生徒も余裕時間や家庭学習で取り組めるようにするなど、学習プリントや確認テストなどの出題についてさらに吟味が必要だと思った。
	5	4	0	0	1	1	7	1	0	1	4	2	2	0	2		

調査は、五肢選択で行い、ア、イは+反応、ウ、エを-反応、オはどちらでもないこととし、ア、エを各々強い反応とした。

平行と合同(教師アンケート集計)

所属	設問1(単純分割少人数指導の効果)					設問2(習熟度別指導の効果)					設問3(自己評価カードの効果)					単純分割少人数指導や習熟度別指導の効果	単純分割少人数指導や習熟度別指導の改善点					
	ア	イ	ウ	エ	オ	理由	ア	イ	ウ	エ	オ	理由	ア	イ	ウ			エ	オ	理由		
A中		1				人数が少ない分、より多くの声をかけることができた。		1				特に下位の生徒に効果があった。「証明問題」の流れを覚えさせるには穴埋め形式が大変効果的であった。					1		予定では、授業の最後の5分間を使って自己評価させるつもりだったが、時間的に余裕がなく、後で一気に評価させることになってしまった。	学習プリントの内容を基礎と発展で変えたこと		
A中		1				単純分割の少人数指導をすることで生徒一人一人の理解の進度は個々のばらつきが多いため、きめ細かい指導ができるので効果があると思われる。			1			基礎コースは、穴埋めのため考える手がかりができ、ヒントも個々の生徒にだすことができた。発展も証明を言葉でいわせることをすることで、証明問題に取り組む生徒が少し増えたように思われる。					1		発展コースの中には自分を厳しく評価する生徒がいたり、正確に評価している生徒もいた。	生徒のつぶやきを机間指導でたくさん拾うことができた。		
A中			1			多くの生徒を見てあげることができた。				1		穴埋めは必ずしも基礎として良いとは思えない。						1	適当に 印を付けている。	多くの生徒を見ることができる。	授業の進め方をもう少し何とか変えていった方がよい。	
	2	1	0	0	0		1	1	1	0	0		0	0	2	1	0					

調査は、五肢選択で行い、ア、イは+反応、ウ、エを-反応、オはどちらでもないこととし、ア、エを各々強い反応とした。

9 小学校国語科補充資料

「すがたをかえる大豆」展開案【第1時】

《主な学習活動》題名を基に、大豆を使った食品について知っていることを発表する。
全文を読み、初発の感想を書く。
新出漢字や言葉の練習をする。

《指導形態》 単純分割少人数

本時は、単元への導入の時間であることから、児童一人一人に学習内容への興味・関心を抱かせることが大切である。そのためには、学習内容である『大豆』に興味をもたせる必要がある。『大豆』に対する興味は、児童全員が大豆に触ったり、大豆を使った食品について知っていることを発表したり、クイズに答えたりという活動により高まると考える。

そこで、習熟の程度による少人数指導ではなく、単純に学級の人数を分割し、普段の学習集団より小さな学習集団で学習することで、一人一人の発言そして体験を伴う学習活動の時間を確保したい。少人数になることで、普段、一言二言の発言しかできなかった児童、自分の思いや考えを十分に伝えるための時間が足りなかった児童など一人一人の学習活動の時間を確保できるとともに、多様な考えの交流が可能となり、児童の実現状況を教師が今まで以上に見取りながら授業を展開できるものとする。

段階	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	実物の大豆を見て、大豆クイズに答える。	<ul style="list-style-type: none"> 全員が大豆やその他食品を見ることができるよう提示の仕方を工夫する。 大豆を見せても反応のない場合や、枝豆と答えた場合には、大豆だということを教える。 か×かを手で示すように指示する。
展開	大豆について知っていることや大豆を使った食品を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 枝豆が大豆になる 大豆から豆腐や納豆が作られる 大豆はもやしにもなる 	<ul style="list-style-type: none"> 大豆を使った食品について、児童が思いつかない場合はヒントを提示し、できるだけ子どもたちが発表できるようにする。
開	「すがたをかえる大豆」の範読を聞く。 段落番号をつける。 ・9段落に分かれている	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が岩手県出身であることを知らせ、親近感を与える。 範読の際には、一字下がりのところで、 といいながら段落番号を言う。 読み仮名を振ることができるようにゆっくりと読む。
	初発の感想をプリントに書く。 <ul style="list-style-type: none"> 初めて知ったこと 驚いたこと 勉強したいこと 	<ul style="list-style-type: none"> 初発の感想を書くのに困っている児童には、「初めて分かったことはないか」「なるほどと思ったことはないか」など、話しかけ、支援する。
	新出漢字と読替の漢字の読みを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> フラッシュカードによる漢字の確認 	<ul style="list-style-type: none"> カードを見せながら、何回か漢字を読ませる。時間がある場合は、一人ずつ読ませる。
まとめ	本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 学習ふり返しカードの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の予告を簡単にするとともに学習ふり返しカードに記入させる。記入の仕方については、簡単に説明する。

大豆

もやし

枝豆

みそ・しょうゆ、納豆

きなこ

豆腐、豆乳、生揚げ、油揚げ

に豆、いり豆、黒豆

大事なことをたしかめよう

すがたをかえる大豆

国分 牧衛

初めて知ったこと
なるほどと思ったこと
不思議に思ったこと

など

漢字カードをはる。

「すがたをかえる大豆」展開案【第2時】

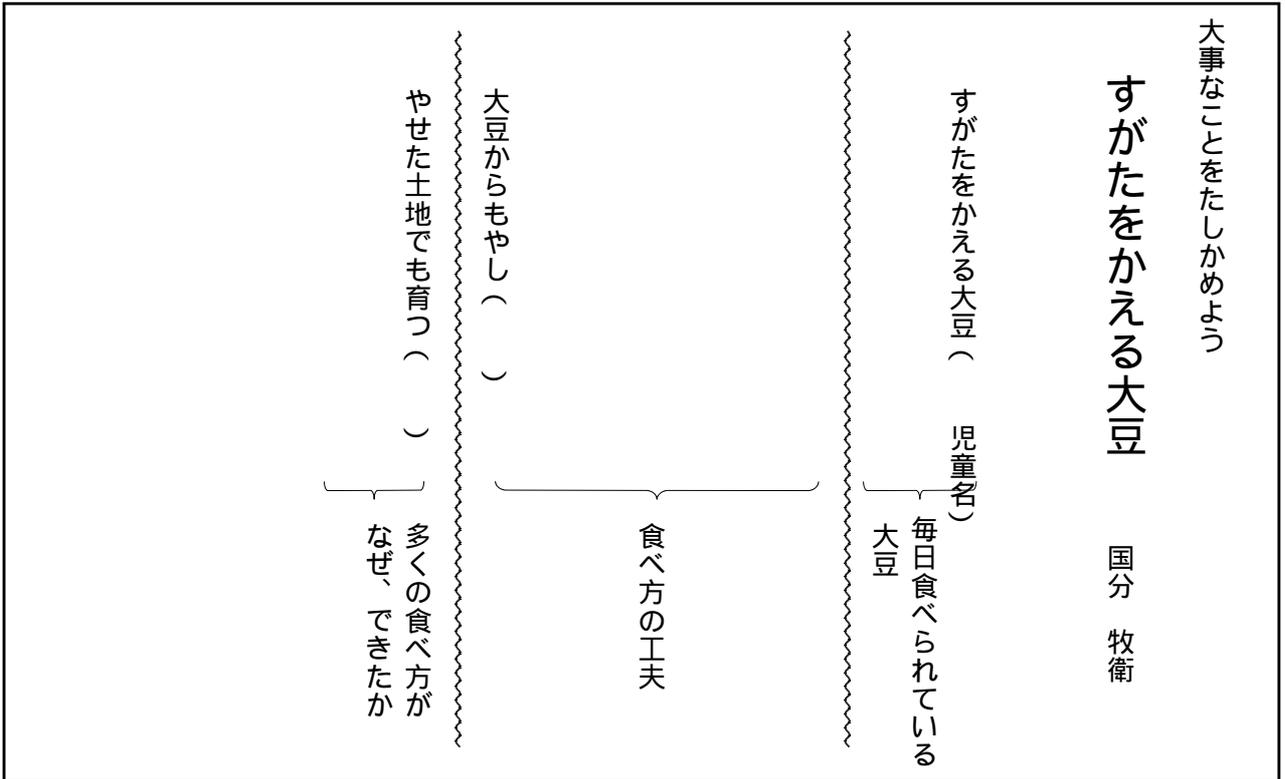
《主な学習活動》初発の感想を基に、文章が幾つのまとまりに分かれているか考える。

《指導形態》 単純分割少人数

第2時は、児童一人一人の初発の感想を位置付け、誰もが学習の主体者であることを自覚させることが大切である。そのためには、全員に初発の感想を発表させるとともに、それぞれの感想がどの段落と関係しているのか板書等で明確に示す必要がある。これは、初発の感想であっても文章とかけ離れたところで思いを巡らせるのではなく、思いの拠り所を常に文章に求め、根拠を明らかにしながら考えていくということを示すものである。このことは、論理的思考の素地を育てることにつながると考える。

そこで、少人数指導においては、一人一人の発表時間の確保、多様な考えの交流を可能にするために、単純に学級の人数を分割する単純分割少人数指導を行う。

段落	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	形式段落を確かめながら、音読をする。	・音読に時間がかかりそうなときは、丸読みさせる。
展	自分の感想は何段落と関連しているか考える。	・発表しながら、友達に考えてもらうこともできるので、そんなに時間をかけないで進める。
	感想を発表する。	・児童の感想を簡単にまとめながら、板書に位置付ける。
開	感想を基に文章を大きく3つに分けるとしたらどこで分けるか考える。 ・大豆が毎日食べられていることへの驚きと大豆についての感想。 段落と関連。 ・大豆から作られる食品に関する感想。 ～ 段落と関連 ・大豆や昔の人々の知恵のすばらしさについての感想。 段落と関連。	・ありの行列の説明文で大きく3つに分かれていたことを想起させる。 ・簡単でいいが、こことここはまとまると考えた根拠も言わせる。
まとめ	本時の学習を振り返る。 ・学習ふり返りカードの記入	・次時の予告を簡単にするとともに学習ふり返りカードに記入させる。



「すがたをかえる大豆」展開案【第3時】

《主な学習活動》「はじめ」の部分から、これから何について説明するかとらえる。

《指導形態》 一斉指導（T・T）

第3時は、「はじめ」の部分を読み取る。「はじめ」の部分は、本文が大豆の加工法を紹介した文章であることを示す大切な役割を果たしている。題名と関連付けながら、段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しをつけたりすることによって、これからの学習への目的意識や必要感をもたせることができる。

前時までは、単純分割の少人数指導を行ってきたが、グループ間の学習を交流するとともに学級全員の学習目標を一つにするために、本時は一斉指導を行う。この場合、一人一人の学習状況を見取ることが難しいが、ノート記述や発表など、一人一人の活動の際には支援をしていく。

段落	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	<p>前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> と でひとまとまりで、 から でひとまとまり、 と でひとまとまりである と は、毎日食べている大豆について書かれたまとまりで、 から は大豆の食べ方についてで、 と はいろいろな食べ方がされてきた理由についてである 	<p>T1は、授業を進行する。 T2は、机間指導を行いながら、つまづいている児童に支援する。</p>
展 開	<p>本時の学習段落を確認する。</p> <p>段落に書かれている内容を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自微音読 大豆は多くの人が毎日口にしている 米や麦と大豆の違いは、毎日食べられていると知られているかいないかである 大豆は、そのまま食べられるよりもいろいろな食品にすがたを変えていることの方が多い 	<p>自分で読み進めていくことができない児童がいる場合は、教師がそばに行って一緒に読む。</p>
開	<p>課題を確かめる。</p> <p>どうして、大豆はいろいろな食品にすがたをかえているのだろうか？</p>	
	<p>大豆がすがたをかえる理由について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大豆は、ダイズの種である。かたいので、食べにくく、消化も悪いので、いろいろな手を加えておいしく食べる工夫をしている 	<p>教科書に線を引いたところを書き写すのではなく、大事なところを抜き出し、まとめて書けるように支援する。</p>
ま と め	<p>習熟度別少人数指導のコース分け用紙に自分の希望を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習ふり返しカードの記入 	

大事なことをたしかめよう

すがたをかえる大豆

国分 牧衛

さまざまなざいりょう
肉・やさい・
米・麦・大豆
= ほとんど毎日口にして
いる。
意外と知られていない

本文 段落の拡大コピー

どうして、大豆はいろいろな食品にすがたをかえて
いるのだろうか？

大豆は、ダイズのたねです。かたいので食べにくく消
化も悪いため、いろいろ手を加えておいしく食べること
ができるようにすがたをかえているのです。

「すがたをかえる大豆」展開案【第4時】

《主な学習活動》大豆をおいしく食べる工夫について読み取る。

《指導形態》 習熟度別少人数指導

第4時第5時は、「中」の部分を読み取る。「中」の部分は、大豆をおいしく食べる5つの工夫について、大豆のすがたが変わる度合いに従って順番に述べられている。これまでの学習を基に、大豆に手を加えるときの言葉とできあがった食品を結び付けさせ、大事なことを落とさず読み取らせたり、接続語、文末表現、繰り返し語句などの表現の工夫に目を向けさせ、筆者の意図を読み取らせたりする指導が大切である。

しかしながら、児童一人一人の学習状況や能力には差がある。既習事項を生かした第4時第5時の展開においては、学習の定着状況に応じた指導が必要である。そこで、児童一人一人の意思を尊重したコース別学習すなわち習熟度別少人数指導を行う。じっくりコースは、教師とともに叙述に即し丁寧に読み進め、ぐんぐんコースは児童の一人学びを主にしながら読み進めるものである。

じっくりコース

段階	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	<p>前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大豆はたねだから、かたくてそのままでは食べにくい たねのままだと、消化がよくない 大豆は、手を加えるとやわらかくなっておいしく食べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 種であるかたい大豆は、そのままでは食べにくく、消化もよくないことを想起させる。 かたい大豆をどのようにして食べるかということが、おいしく食べる工夫の出発点になっているので、かたいということを書きで強調する。 課題は、教師の板書とともにプリントに記入させる。 課題を書いたかどうか、隣同士で確認させる。
	<p>本時の課題を確認する。</p> <p>大豆をおいしく食べるために、どんな工夫をしているのだろうか。</p>	
展 開	<p>課題を解決するために読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自微音読 大豆をおいしく食べる工夫について書かれている箇所に傍線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ～ 段落に、大豆をおいしく食べる工夫の事例が5つ挙げられていること、それぞれ違う工夫であること、事例を挙げている順番があることを概観させるために各自に微音読させる。その後、読み深めるために、1段落ずつ教師が範読する。児童には、課題解決に結びつく箇所を探して、傍線を引くように指示する。 おいしく食べる工夫は、かたい大豆をやわらかくして食べる工夫であることに気付くことができるように発問を工夫する。 段落の昔の人々の知恵に結びつくように、大豆は昔から行事の度に用いられてきた食べ物であること、日本にとっては欠かせない食べ物であったことに簡単にふれる。 筆者の表現の工夫に気付かせるために、接続語を取り上げる。が、難しい場合は、おいしく食べる工夫の事例を3つぐらい挙げてから、なぜ、炒ったり煮たりする工夫を一番目に述べたか考えさせる。 おいしく食べる工夫については、一つずつプリントに記入
	<p>大豆をおいしく食べる工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> いったり煮たりする 	

<ul style="list-style-type: none"> ・粉に挽いて食べる 	<p>させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粉にして挽くという作業をするためには、炒る作業をしなければならぬこと、大豆の味は保存されるが、形は保存されないことなどに気付かせ、2番目の事例となった理由について考えさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・大豆にふくまれる大切なえいようだけ取り出して、ちがう食品にする工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がない場合は、この段落の読み取りは、第5時に行う。時間に余裕のある場合のみ進める。 ・教科書では、違う食品の例として豆腐が挙げられているが、豆乳やゆば、厚揚げなどそのほかにも多くの食品があることを知らせる。 ・できあがった食品より、手の加え方に着目させながら、おいしく食べるためにどんな工夫をしているのか考えさせる。 ・1番目、2番目の事例とは、異なる事例であることを意識させる。
<p>まとめ</p> <p>今日の学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習ふり返りカードの記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を基に、本時の学習を振り返る。 ・次時の学習の予告をする。 ・カードに記入させる。

板書計画

大事なことをたしかめよう

すがたをかえる大豆

国分 牧衛

大豆はたねです。そのままでは、かたくて食べにくいです。消化もよくありません。

大豆をおいしく食べるために、どんな工夫をしているのだろうか。

いちばんわかりやすい工夫

その形のままいたり、にたりする

いる 豆まきを使う豆
やわらかくしてからにる に豆

次に

いってこなにひく

また きなこ

大切なえいようだけを取り出して、違う食品にする

また

すりつぶして出たしるをしぼってかためる 豆ふ

段落	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大豆はたねだから、かたくてそのままでは食べにくい たねのままだと、消化がよくない 大豆は、手を加えるとやわらかくなっておいしく食べることができる <p>本時の課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>大豆をおいしく食べるために、どんな工夫をしているのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 種であるかたい大豆は、そのままでは食べにくく、消化もよくないことを想起させる。 かたい大豆をどのようにして食べるかということが、おいしく食べる工夫の出発点になっているので、かたいということを板書で強調する。 課題は、教師の板書とともにプリントに記入させる。 課題を書いたかどうか、隣同士で確認させる。
展開	<p>課題を解決するために一人学びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読 プリントに大豆をおいしく食べる工夫をまとめる <hr/> <p>課題を解決するために学び合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> おいしく食べる工夫の1つ目は、その形のままいっぴりにたりすること 2つ目は、いってから粉に挽くこと 3つ目は、大豆に含まれる大切な栄養だけを取り出して、違う食品にすること 4つ目は、目に見えない小さな生物の力をかりて、違う食品にすること 5つ目は、取り入れる時期や育て方を工夫すること <ul style="list-style-type: none"> 炒ったり煮たりすることと、粉に挽く工夫は仲間。理由は、大豆をそのままつかっているから 3つ目と4つ目の工夫は、仲間。大豆を違う食品にするから 仲間じゃないのは、5つ目の工夫 <p>学習ふり返りカードの記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ～ 段落に、大豆をおいしく食べる工夫の事例が5つ挙げられていること、それぞれ違う工夫であること、事例を挙げている順番があることを読み取らせるために続けて音読させる。その後、プリントにより課題を解決させる。 できあがった食品について発表した場合は、板書にしていく。 1つ目の工夫、2つ目の工夫と順番を押さえながら発表できるように支援する。 プリント記入の文言は、教科書通りでなくてもよいが、大事なことを押さえてあるかどうかは机間指導しながら、確かめる。 おいしく食べる工夫の事例も並列ではないことをグループの話し合いで気づかせる。 近くに座っている児童3人ぐらいでグループを作らせる。 仲間分けの理由は、文章を基に考えるように指示する。 学習課題に対するまとめは、次時に行う。

大事なことをたしかめよう

すがたをかえる大豆

国分 牧衛

大豆はたねです。そのままでは、かたくて食べにくいです。消化もよくありません。

大豆をおいしく食べるために、どんな工夫をしているのだろうか。

その形のままいたり、にたりする

大豆をそのまま

いってこなにひく

大切なえいようだけを取り出して、違う食品にする

ちがう食品にする

目に見えない小さな生物の力をかりて、違う食品にする

とり入れる時期や育て方を工夫する

「すがたをかえる大豆」展開案【第5時】

じっくりコース

段落	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>本時の学習課題を確かめる。</p> <p>大豆をおいしく食べるために、どんな工夫をしているのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は前時の続きであることを踏まえ、課題確認は簡単に行う。
展開	<p>課題を解決するために読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・大豆にふくまれる大切なえいようだけ取り出して、ちがう食品にする工夫 ・豆腐は、柔らかくて食べやすいから、おいしく食べることができる ・プリントにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読は、丸読み、段落読み、範読と児童の実態に合わせてその場の状況で行う。 ・大豆をおいしく食べる工夫についてなかなか見つけられないときは、工夫という言葉を手がかりにすればよいことを示唆する。 ・豆腐作りの手順について読み取らせながら、栄養を取り出す作業と違う食品にする作業が文章のどの部分なのか確かめる。 ・豆腐にすれば食べやすくなることを押さえる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にする工夫 ・みそや醤油は、長い時間をかけて作られる ・プリントにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆が納豆やみそ・しょうゆになることを具体的にイメージできるように、必要に応じて絵図で示したり、詳しく読んだりする。 ・かたい大豆を柔らかくする工夫として色々考えられてきたことを取り上げる。 ・次時の昔の人々の知恵につながるように、半年から1年かけてみそやしょうゆになるということに簡単に触れておく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・とり入れる時期や育て方を工夫 ・とり入れる時期を工夫した食べ方は枝豆 ・大豆がまだわかくて柔らかいうちに取り入れて食べる ・育て方を工夫した食べ方はもやし ・プリントにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの指す内容を見つけれないときには、<u>食べ方</u>の<u>も</u>に着目させる。 ・社会科見学と結び付けながら、枝豆として食べる工夫やもやしとして食べる工夫をとらえさせる。
まとめ	<p>学習をまとめる。</p> <p>学習ふり返しカードの記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を基に、本時の学習を振り返る。 ・次時の学習の予告をする。 ・カードに記入させる。

段階	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしく食べる工夫の1つ目は、その形のままいっぴりにたりすること ・2つ目は、いってから粉に挽くこと ・3つ目は、大豆に含まれる大切な栄養だけを取り出して、違う食品にすること ・4つ目は、目に見えない小さな生物の力をかりて、違う食品にすること ・5つ目は、取り入れる時期や育て方を工夫すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆をおいしく食べる工夫についてプリントに沿って確かめさせる。
	<p>本時の課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>おいしく食べる工夫を仲間で分けよう</p> </div>	
展開	<p>課題を解決するために読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・グループによる話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで音読してから話し合うように指示する。 ・仲間分けより理由が大切なことを伝える。 ・一人一人がしっかりと意見を話すことができるように3人グループで話し合わせる。
	<p>文章を詳しく読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炒ったり煮たりすることと、粉に挽く工夫は仲間。わけは、大豆をそのままつかっているから ・段落のはじめの接続語が、次になっている。これは、同じ事の続きを書くときに使う接続語だから ・3つ目と4つ目の工夫は、仲間。大豆を違う食品にするから ・段落の接続語が「また」になっているので、おいしく食べる工夫を前とは違った事例で説明しているから ・「これらのほかに」という接続語は、前とは違うということを示すから 	<ul style="list-style-type: none"> ・～段落に、大豆をおいしく食べる工夫の事例が5つ挙げられていること、それぞれ違う工夫であること、事例を挙げている順番があることを読み取らせる。 ・接続詞の意味について考えさせることで、おいしく食べる工夫のまとまりがとらえられるように支援する。 ・炒るや煮る粉に挽くなどの用語の意味について確かめさせる。
まとめ	<p>学習をまとめる。</p> <p>学習ふり返りカードの記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を基に、本時の学習を振り返る。 ・次時の学習の予告をする。 ・カードに記入させる。

「すがたをかえる大豆」展開案【第6時】

《主な学習活動》終わり（ 、 段落）の部分を読み取るとともに、それぞれの段落の小見出しを考える。

段階	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>前時の学習を想起する。</p> <p>本時の課題を確認する。</p> <p>こんなに多くの食べ方が、考えられたのはどうしてだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大豆をおいしく食べる工夫についてプリントに沿って確かめさせる。 出てこないときは後の展開で取り扱うことも可能なので、ここであまり時間をかけない。 段落の接続詞「このように」が ~ 段落の内容をまとめていることをとらえさせる。 いろいろな工夫=たくさんの食べ方ということをとらえられない場合は、できあがった食品を言わせて、たくさんの食べ方があることを具体的に想起させる。
展開	<p>課題を解決するために読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読 大豆の味のよさに着目 大豆の栄養価に着目 育てやすさに着目 生育地域の広さに着目 昔の人々の知恵に対する筆者の感想 	<ul style="list-style-type: none"> 音読は、丸読み、段落読み、範読と児童の実態に合わせてその場の状況で行う。 大豆の味、畑の肉、やせた土地、育てやすさ等は補足説明する。 味もやそのうえなどの言葉から大豆のよいところは一つではないことに気づかせる。 大豆は、日本だけではなく世界各地で植えられていることについても補足する。 課題に対するまとめとして、教師とともに確かめながらノートに書かせる。 9段落は大豆について書かれた文というより、筆者の感想が書かれた文であることをとらえさせ、簡単に小見出しをつけることができるようにする。
開	<p>段落ごとに小見出しをつける。</p> <p>例 毎日食べられている大豆 大豆の紹介 いっぴりにたりする工夫 こなにひいて食べる工夫 栄養をとりだして違う食品にする工夫 小さな生物の力で違う食品にする工夫 取り入れの時期や育て方を変えて食べる工夫 多くの食べ方が考えられてきた理由 筆者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小見出しという言葉の意味を教える。 今まで勉強してきた中で教科書に線を引いてきた言葉に目を向けて小見出しをつけるよう、ヒントを与える。 小見出しは、児童の言葉でまとめさせる。 から 段落は、おいしく食べる工夫と重複するので時間のない場合は 、 、 段落の小見出しのみ考えさせる。
まとめ	<p>本時の学習をまとめる。</p> <p>学習ふり返しカードの記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> 板書を基に、本時の学習を振り返る。 次時の学習の予告をする。 カードに記入させる。

大事なことをたしかめよう

すがたをかえる大豆

国分 牧衛

こんなに多くの食べ方が、考えられたのはどうしてだろうか？

味がよい
たくさんおいようをふくんでいる 畑の肉
やせた土地にも強い
育てやすい

多くの土地で植えられてきた
世界各地
日本各地

小見出し

毎日食べられている大豆

大豆のしょうかい

多くの食べ方が考えられてきた理由

筆者の感想

「すがたをかえる大豆」展開案【第7時】

《主な学習活動》・小見出しを確認する。

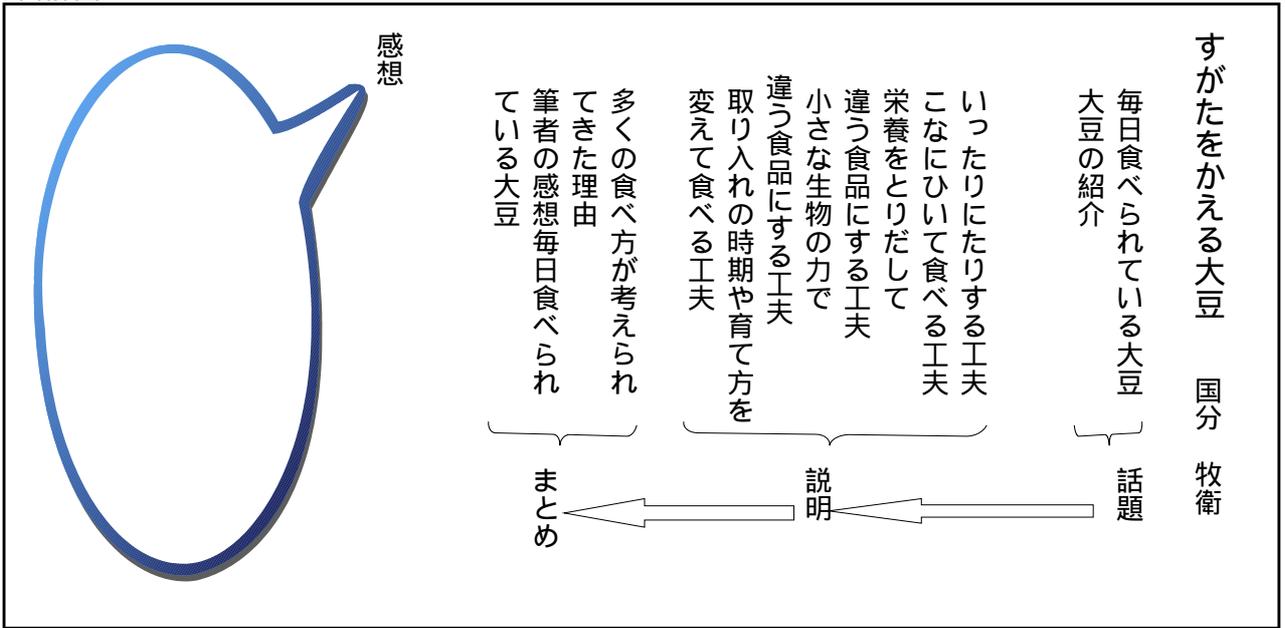
- ・「ありの行列」の文章構成と比べることをとおして、解説型の文章構成とはどんなものか感覚的にとらえる。
- ・「すがたをかえる大豆」の感想をノートに書く。
- ・感想を交流し、学習をふり返る。

《指導形態》 一斉指導（T・T）

読み取りの最後の時間であることから、本単元で押さえておきたい大事なことを全員で確認することが大切である。また、初発の感想と学習後の感想を比べ、自分の学びを実感するとともに、一人一人の学びを学級全員で共有することも必要である。
そこで、本時は、学習交流を主とした一斉（T・T）指導を行う。T1は学習の進行を主に行い、T2は個別指導を主に行う。特に文章構成の把握や感想記述の際には、一人一人の学習状況を見取り支援できるようにしたい。

段階	学習活動と予想される子どもの反応	指導上の留意点
導入	<p>本時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・小見出しをつける <p>例 毎日食べられている大豆 大豆の紹介 いっぴりにたりする工夫 こなにひいて食べる工夫 栄養をとりだして違う食品にする工夫 小さな生物の力で違う食品にする工夫 取り入れの時期や育て方を変えて食べる工夫 多くの食べ方が考えられてきた理由 筆者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・T1は、授業を進行する。 ・T2は、机間指導を行いながら、つまづいている子どもに支援する。 ・小見出しと題名の関わりについては、教師から教える。 ・前時までの学習を想起する活動なので、あまり時間をかけずに進める。
展開	<p>文章構成について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」は、話題を投げかけている ・「中」は、おいしく食べる工夫についての説明 ・「終わり」は、まとめ <p>「ありの行列」の文章構成と比べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ありの行列」は、問題があってそれに実験したことを時間を追って書いている ・「すがたをかえる大豆」は、並べて説明している <p>感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめ、中、終わりの大きな区切りで文章の構成を考えさせる。
まとめ	<p>学習をまとめる。</p> <p>学習ふり返りカードの記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を基に、本時の学習を振り返る。 ・カードに記入させる。

板書計画



コース別学習のしょうかい

月曜日、火曜日、水曜日の国語の時間は、2つのコースにわかれて学習します。自分が学習したいコースをえらんで でかこんでください。



名前

じっくりコース

先生といっしょに、1段落ごとに書かれている内容を確認しながら、じっくり学習を進めます。しつもんしたいことはどんどん聞くことができます。

文章を読んだり、課題の答えを自分一人で探したりするのは、ちょっと苦手という人におすすめのコースです。

ぐんぐんコース

文章を読んで課題の答えを自分で探したり、グループで答えを確認したりしながら学習を進めます。先生もいますから、わからないことは聞くことができます。

自分のスピードで、ぐんぐんプリントを進めたいという人におすすめのコースです。

名前

学習課題

Blank area with dashed lines for writing.

段落 いちばん分かりやすいのは、

Blank box for writing.

くふう

豆まきに使った豆

豆まきに使った豆

に豆（黒豆など）

に豆（黒豆など）

段落 次に、

Blank box for writing.

くふう きなり

段落 また、

Blank box for writing.

くふう

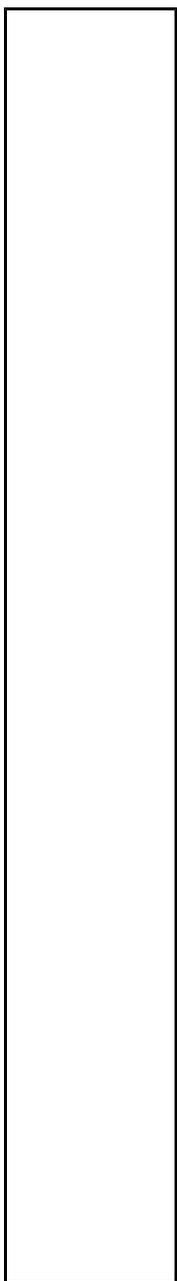
水をいっぱいすいこんだ大豆をすりつぶす

でてきた白っぽいしるに水をくわえて熱する 中身を絞り出す

ニガリを加えて固める

Blank box for writing.

段落 さくらんぼ

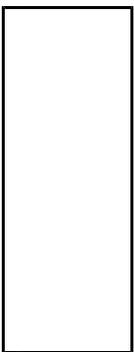


くふう

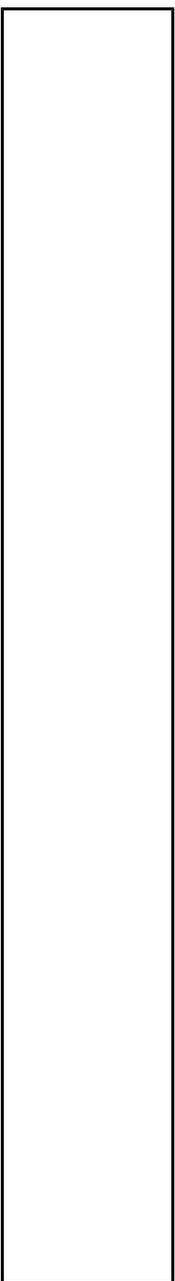
ナットウキン



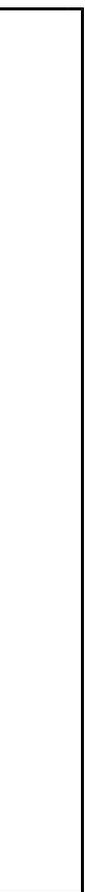
コウジカビ



段落 これらのほかに、



くふう



えだ豆



もやし

学習プリント【ぐんぐんコース】【話し合い】

話し合いの課題

名前

大豆をおいしくする工夫の仲間分けをしましょう。

段落	大豆をおいしく食べる工夫
	いったりにたりする
	いってこなにひく
	えいようだけをとり出して、ちがう食品にする
	目に見えない小さな生物の力をかりてちがう食品にする
	とり入れる時期や育て方を工夫する

仲間分けの理由

--

学習プリント【ぐんぐんコース】

学習課題

名前

Blank area with two vertical dashed lines for writing.

段落					
大豆をおいしく食べる工夫					
食品					

学習プリント

名前

それぞれの段落だんらくの小見出しを考えて書きましょう。

小見出しとは、ないみづのまとまりを題名のよつにみじかくあらわしたものです。

終わり		中					はじめ		段落
								小見出し	
		取り入れの時期や育て方をくふうした食べ方	目に見えない小さな生物の力をかりてちがう食品にするくふう	大切なえいようを取り出してちがう食品にするくふう	こなにひいて食べるくふう	いたり、にたりするくふう			

10 中学校第1学年「Unit 6 南半球からのメール」の学習指導案及び指導用資料

英語科学習指導案(略案)

(少人数指導 中学1年一①)

- 1 単元名 Unit 6 南半球からのメール (NHEC Book1)
- 2 単元の目標 自分の家族を英語で紹介しよう
- 3 本時について (第1時 pp.50-51 She likes tennis.の語尾変化(三単現のs))
 - (1) 目標 She likes tennis. のように、動詞の形に注意しながら、例にならって正しく言うことができる【知識・理解】
 - (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
新出表現の導入	3. 新出表現の導入 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Teacher: This is my son ○○○. He is 10. He likes baseball. (Do you like baseball?) He likes the Tigers very much. (I like the Giants.) He plays baseball every day. </div> 4. 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 人について紹介する言い方を覚えよう </div>	◇例のように、写真などを示しながら、教師が自分の家族(等)の紹介を英語で行う(単元の目標のモデルを最初に示し、この単元をおしてこういう事が言えるようになる)と動機付けする) ◇()内に示したように、生徒に尋ねたり自分の事を話したりすることで、既習のI, Youが主語の時との違いに気付かせる
文型練習	5. 文型練習 ・ 学習プリントを使って、likes~, plays~, wants~の表現がすらすら言えるよう練習する ・ 教師が人名と絵を指示し、生徒が英語で言う(クリス・クロスで発表させる) 6. ペア練習(ビンゴゲーム) ・ 5のプリントを使ってペアでインタビューする ・ ビンゴになったペアが発表する	◇練習の際には、拡大した絵を黒板に提示して行う ◇全員の生徒に発表を行わせる ◇時々、IやYou, Becky & Jiroのように三単現のsが付かないものも織り交ぜる □スムーズに言えないものは全体で繰り返し練習を行う ◇インタビューはDo you~?となる ◇発表の際にI like~と○○ likes~を使い分けて発表する □教師が正しく言えているかどうかチェックする。
疑似コミュニケーション活動	7. 推理ゲーム ・ プリントにある絵を見ながら、この部屋の人物がどういう人物かをペアで考え、英語で表現する ・ 報告した英語表現を、プリントに書き込む ・ 進める生徒は、さらに答えがないか考える ・ どんな答えがでたか全体で確認する	□2つ言えるようになったら、教師のところに来て、それぞれ英語で報告し、チェックを受ける(すべてのペアが報告に来るようにする) ◇生徒によっては、Why?等と切り返して尋ねる ◇挑戦問題は発展的に取り扱う
まとめ	8. 本時のまとめと次時の予告 ・ 本時の学習課題について整理する	□人を紹介するときには likes~, plays~のように、動詞の後ろにsが付くことが分かるか

英語科学習指導案(略案)

(少人数指導 中学1年一②)

1 単元名 Unit 6 南半球からのメール (NHEC Book1)

2 単元の目標 自分の家族を英語で紹介しよう

3 本時について (第2時 pp.50-51 Starting Out)

(1) 目標 人の紹介を、動詞の形に注意しながら、表現を自分で考えて英語で言うことができる

【知識・理解】

(2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う (前時のクリス・クロスの内容を取り入れてもよい)	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
前時の復習	3. 前時学習内容の復習 ・ 教科書 p50 の下の基本練習に取り組む ・ 前時の推理ゲームのプリントの表現を復習する	◇前時の学習内容を想起する ◇ピクチャーカードがあれば使用する
本文内容理解	4. 学習課題の設定 話題の人がどんな人か、絵や写真をもとに英語で話してみよう	◇単元の目標である「家族紹介」につながる内容であることを確認する
	5. 本文の概要把握 ・ ベッキーの写真(1枚目)を見せ、気付いたことを日本語で発表する(スキーマの活性化) ・ オーラルイントロダクション(またはCDを一文ずつ聞きながら内容の確認を行う) 6. 新出語句の確認 7. 読み取り ・ 重要表現を確認する(This is~, like~ very much, play~ well)	◇ペアやグループで交流させる ・ 「HAIKU」の本に注目させる ◇未習の単語は音を聞いて推測させたり、スキーマから類推させたりする ◇音節毎に発音したり空書きしたりして、文字と音の関連を意識させる ◇いずれも「家族の紹介」で使えるような表現である
音読	8. 音読 ・ 一斉練習の後、ペアで練習する時間をとる ・ すべてのペアが音読を発表する ・ 再度、練習時間をとる(暗唱も可) ・ 再チャレンジさせる	◇ペア練習では、お互いにスラスラ読めるようになるまで練習する ◇指名の際にペアで起立させ、順番に読ませる(片方だけ座ったりしない) ◇もっと上手に読みたいペアや、暗唱に挑戦するペアもチャレンジしてよい
疑似コミュニケーション活動	9. Your Turn ・ 写真を見て、ベッキーについて英語で言えることをペアで考える ・ 報告した英語表現を、ノートに書き込む ・ 進める生徒は、さらに言えないか考える ・ どんな答えがでたか全体で確認する	□2つ言えるようになったら、教師のところに来て、それぞれ英語で報告し、チェックを受ける(すべてのペアが報告に来るようにする) ◇挑戦問題は発展的に取り扱う ◇一般動詞だけとは限らない ◇動詞の語尾変化に注意を向ける
まとめ	10. 本時のまとめと次時の予告	□ベッキーについて、分かったことを正しく英語で表現できたか

英語科学習指導案(略案)

(少人数指導 中学1年一③)

- 1 単元名 Unit 6 南半球からのメール (NHEC Book1)
- 2 単元の目標 自分の家族を英語で紹介しよう
- 3 本時について (第3時 pp.52-53 doesを使った疑問文、否定文)
 - (1) 目標
 - ア doesを用いた疑問文とその応答を、例にならって正しく言うことができる【知識・理解】
 - イ doesを用いた否定文を、例にならって正しく言うことができる【知識・理解】
 - (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
新出表現の導入	3. 新出表現の導入 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Teacher: Do you like vegetables? My daughter ○○ doesn't like vegetables. She doesn't like onions. She doesn't like carrots. Question! Does she like curry and rice? Yes, she does. She loves curry and rice. </div> 4. 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 他の人について尋ねたり、～でないと紹介する言い方を覚えよう </div>	◇例のように、野菜等の絵を示しながら、食べ物好き嫌いについて、英語で紹介する ◇時々生徒に尋ねたり、自分の事を話したりすることで、既習のI, Youが主語の時との違いに気付かせる。 ◇doesやdoesn'tを用いたときの、後ろの動詞が原形になることに留意させる
文型練習	5. 文型練習 ・ 学習プリントを使って、Does~の疑問文と応答がすらすら言えるよう練習する ・ 教師が英語で質問し、生徒が英語で答える(クリス・クロスで発表させる)	◇練習の際には、拡大した絵を黒板に提示して行う(第1時と同じものでも可) ◇全員の生徒に発表を行わせる ◇時々、IやYou, Becky & Jiroのようにdoesを使わないものも織り交ぜる □スムーズに言えないものは全体で繰り返し練習を行う
疑似コミュニケーション活動	6. ペア練習(ビンゴゲーム) ・ お互いの家族についてインタビューする ・ ビンゴになったところをペアで発表する ・ 口頭発表した表現を、プリントに書き込む ・ 終了した生徒は、「家族紹介」のメモを作成する	◇あらかじめ、Please ask about my sister.のように、対象を限定してもよい ◇発表の際に She likes~と She doesn't like~を使い分けて発表する □教師が正しく言えているかどうかチェックする。 □正しく書けているか ◇単元の目標への準備
まとめ	7. 本時のまとめと次時の予告 ・ 本時の学習課題について整理する	□平叙文、否定文、疑問文と応答を正しく言うことができるか

英語科学習指導案(略案)

(少人数指導 中学1年-④)

- 1 単元名 Unit 6 南半球からのメール (NHEC Book1)
- 2 単元の目標 自分の家族を英語で紹介しよう
- 3 本時について (第4時 p.52 メールを見て)
 - (1) 目標
 - ア does を用いた疑問文とその応答を、正しく言うことができる【知識・理解】
 - イ 友達の家族について質問したいことを自分で考えて聞くことができる【表現の能力】
 - (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
前時の復習	3. 前時学習内容の復習 ・ 生徒に野菜等の好き嫌いを尋ねる ・ 他の生徒に友だちが話した好き嫌いについて質問する	◇前時の学習内容を想起する ◇後にいくにしたがって、友だちの好き嫌いについて、記憶しなければならない数が増えているか □正しく言えているか
本文内容理解	4. 学習課題の設定 友だちの家族について英語で質問してみよう 5. 本文の概要把握 ・ ベッキーから届いたメールと写真から、気付いたことを日本語で発表する(スキーマの活性化) ・ オーラルイントロダクション(またはCDを一文ずつ聞きながら内容の確認を行う) 6. 新出語句の確認 ・ have→has の形に注意 7. 読み取り ・ 俳句の世界的人気に触れる ・ 由美がなぜ「シドニーに住んでいる」と思ったか	◇単元の目標である「家族紹介」の後の質問タイムにつながる内容であることを確認する ◇ペアやグループで交流させる ・ 「葉月きて道行く人の白き息」の意味とベッキー夫妻の服装から、南半球の季節に気付かせる ・ 写真の建物が何か尋ねる ◇未習の単語は音を聞いて推測させたり、スキーマから類推させたりする ◇音節毎に発音したり空書きしたりして、文字と音の関連を意識させる
音読	8. 音読 ・ 一斉練習の後、ペアで練習する時間をとる(音読が十分できるペアは、暗唱にも挑戦する) ・ すべてのペアが発表する	◇ペア練習では、両方の役を練習する ◇指名の際に教師がどちらがどの役を音読するか指示する □スムーズに読むことができたか ◇時間があれば再チャレンジさせてもよい
機能的コミュニケーション活動	9. ミニ・家族紹介① ・ ペアで、一方が紹介する家族を決め、例文にそって3文の紹介をする ・ もう一方が質問したいことを考えて質問する ・ 質問に答えたり、情報を付け加えたりする ・ 紹介してもらった方の生徒が友達の家族について紹介する(インタビューの報告)	◇家族紹介への準備活動である ◇使うのは一般動詞だけとは限らない ◇動詞の語尾変化に注意を向ける □ペアが内容を理解し合って尋ねたり答えたりしているか ◇動詞の語尾変化や助動詞の使い方についての間違いはさりげなくフォローする
まとめ	10. 本時のまとめと次時の予告	□p.52の基本練習がスラスラできるか

英語科学習指導案(略案)

(少人数指導 中学1年一⑤)

- 1 単元名 Unit 6 南半球からのメール (NHEC Book1)
- 2 単元の目標 自分の家族を英語で紹介しよう
- 3 本時について (第5時 p.53 メールを見て)
- (1) 目標
 ア does を用いた疑問文や否定文を、正しく言うことができる【知識・理解】
 イ 友達の家族について質問したいことを自分で考えて聞くことができる【表現の能力】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
本文内容理解	3. 学習課題の設定 友だちの家族について英語で質問してみよう(2回目)	◇単元の目標である「家族紹介」の後の質問タイムにつながる内容であることを確認する
	4. 本文の概要把握 ・ 前時に学習した本文の内容をQ&Aで確認する ・ オーラルイントロダクション(またはCDを一文ずつ聞きながら内容の確認を行う) 5. 新出語句の確認 ・ teaches, uses, studies の形と発音に注意 6. 読み取り ・ 重要表現の確認(What language do they speak at home? の意味、her や they が示すのは誰か、does を用いた否定文の形に注意) 7. 文型練習 ・ p.53 の基本練習に取り組む	◇ペアやグループで交流させる ・ 「葉月きて道行く人の白き息」の意味とベッキー夫妻の服装から、南半球の季節に気付かせる ・ 写真の建物が何か尋ねる ◇音節毎に発音したり空書きしたりして、文字と音の関連を意識させる ◇(e)s の音の違いについて、ルールに気付かせてもよい □動詞の形に注意して、正しく言えるか
音読	8. 音読 ・ 一斉練習の後、ペアで練習する時間をとる(音読が十分できるペアは、暗唱にも挑戦する) ・ すべてのペアが発表する	◇ペア練習では、両方の役を練習する ◇指名の際に教師がどちらがどの役を音読するか指示する □スムーズに読むことができたか ◇時間があれば再チャレンジさせてもよい
機能的コミュニケーション活動	9. ミニ・家族紹介② ・ ペアで、一方が紹介する家族を決め、例文にそって3文の紹介をする ・ もう一方が質問したいことを考えて質問する ・ 質問に答えたり、情報を付け加えたりする ・ 紹介してもらった方の生徒が友達の家族について紹介する(インタビューの報告)	◇前回と役割を逆にして取り組む ◇使うのは一般動詞だけとは限らない ◇動詞の語尾変化に注意を向ける □ペアが内容を理解し合って尋ねたり答えたりしているか ◇動詞の語尾変化や助動詞の使い方についての間違いはさりげなくフォローする
まとめ	10. 本時のまとめと次時の予告	□p.53 の基本練習がスラスラできるか
希望調査	11. 次時の予告とコース分け希望調査 ・ 次時から2時間、コースに分かれて学習することを告げ、コース希望調査を実施する	

英語科学習指導案（略案） （少人数・習熟度別指導～基礎 中学1年－⑥－A基礎）

- 1 単元名 Unit 6 南半球からのメール (NHEC Book1)
- 2 単元の目標 自分の家族を英語で紹介しよう
- 3 本時について (第6時 まとめの練習 習熟度別基礎コース)
 - (1) 目標 主語に応じて、動詞の形や do, does の用い方に注意しながら、例にならって英文を言ったり書いたりすることができる【知識・理解】
 - (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
文法のまとめ (基本文の練習)	3. 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自己紹介と、人を紹介するときで英語の使い方の違うところに注意して、言ってみよう </div>	◇三単現の例ばかりでなく、これまでに学習した表現と比較しながらおさえさせる
	4. 基本文の音読練習 ・ 教科書の基本文を中心に、これまで自己紹介や他の人の紹介で使用した表現をプリントに抜き出し提示する ・ 語句の発音と意味を確認する ・ 全体で繰り返し音読練習を行う ・ 個別の練習時間を設ける ・ 自信がいたら教師のチェックを受ける	◇区切りの部分のスペースを広めにする ◇空書きするなど綴りと音を意識させる ◇音読は、リピート→一語ずつ→2度読み→Read and Look up→shadowingのように変化を付けながら何度も練習する □スムーズに読めるかをチェックする ◇OKの生徒には次の指示を与える
	5. 基本文の視写 ・ 基本文をノートに視写する ・ 終わったら教師のチェックを受ける	◇間違える生徒には空書きさせて指導する □正しく書けているかチェックする
	6. 基本文の日本語訳 ・ ノートに基本文の日本語訳を記入する ・ 終わったら教師のチェックを受ける (その後、各自で基本文の暗写の練習をする)	◇訳せない生徒には単語や語句の意味を確認させていく □正しく意味をとれているかチェックする ◇次時の最初に基本文の書取テストをする
まとめの練習	7. まとめの練習 ・ 自己紹介と他の人の紹介の違いのように、主語によって動詞などの形がどのように変わるか、まとめる ・ 練習問題をやってみる ・ 教科書 p.54 の1の問題をやってみる	◇be 動詞を使う例と、一般動詞を使う例を、具体的に「人物の紹介」場面で考えて分ける □動詞の形を正しく選択できるか □be 動詞と一般動詞の使い分けができるか
まとめ	8. 本時のまとめと次時の予告 ・ 本時の学習課題について整理する	◇次時の最初に、基本文の書取をする ◇次時は家族紹介をするので、紹介用の写真等と、何について紹介するかメモ(様式は教師が準備)を用意してくるよう指示する

英語科学習指導案（略案） （少人数・習熟度別指導～発展 中学1年－⑥－B発展）

- 1 単元名 Unit 6 南半球からのメール (NHEC Book1)
 - 2 単元の目標 自分の家族を英語で紹介しよう
 - 3 本時について (第6時 まとめの練習 習熟度別発展コース)
- (1) 目標 主語に応じて、動詞の形や do, does の用い方に注意しながら、例にならって英文を言ったり書いたりすることができる【知識・理解】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
文法のまとめ (基本文の練習)	3. 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自己紹介と、人を紹介するときで英語の使い方の違うところに注意して、言ってみよう </div>	◇三単現の例ばかりでなく、これまでに学習した表現と比較しながらおさえさせる
	4. 基本文の音読練習 ・ 教科書の基本文を中心に、これまで自己紹介や他の人の紹介で使用した表現をプリントに抜き出し提示する ・ 語句の発音と意味を確認する ・ 全体で繰り返し音読練習と教科書下の語句を用いた代入練習を行う ・ 暗唱できるように個別の練習時間を設ける ・ 個別の練習時間を設ける ・ 自信がいたら教師のチェックを受ける	◇区切りの部分のスペースを広めにする ◇空書きするなど綴りと音を意識させる ◇音読は、リピート→2度読み→Read and Look up → 日本文を聞いて音読 → substitution drill のように変化を付けながら何度も練習する □教師の日本語を聞いてスムーズに英文を言えるかをチェックする ◇OKの生徒には次の指示を与える
	5. 基本文の視写と日本語訳 ・ 基本文をノートに視写し、日本語訳を記入する ・ 終わったら教師のチェックを受ける ・ (その後、各自で基本文の暗写の練習をする)	◇間違える生徒には空書きさせて指導する ◇訳せない生徒には単語や語句の意味を確認させていく □正しく書けているかチェックする ◇次時の最初に基本文の書取テストをする
まとめの練習	6. まとめの練習 ・ 自己紹介と他の人の紹介の違いのように、主語によって動詞などの形がどのように変わるか、まとめる ・ 練習問題をやってみる ・ 教科書 p.54 の1の問題をやってみる ・ 同じく2の①と②をやってみる	◇be 動詞を使う例と、一般動詞を使う例を、具体的に「人物の紹介」場面で考えて分ける □動詞の形を正しく選択できるか □be 動詞と一般動詞の使い分けができるか
まとめ	7. 本時のまとめと次時の予告 ・ 本時の学習課題について整理する	◇次時の最初に、基本文の書取をする ◇次時は家族紹介をするので、紹介用の写真等と、何について紹介するかメモ(様式は教師が準備)を用意してくるよう指示する

英語科学習指導案（略案） （少人数・習熟度別指導～基礎 中学1年－⑦－A基礎）

- 1 単元名 Unit 6 南半球からのメール (NHEC Book1)
- 2 単元の目標 自分の家族を英語で紹介しよう
- 3 本時について (第7時 p.55 Listening Plus2 と「家族紹介」 習熟度別基礎コース)
- (1) 目標 ア 自分の家族について、メモを基に簡単に英語で紹介することができる【表現の能力】
 イ Listening Plus の発表内容や友達「家族紹介」の内容を聞き取って、メモを取ることができる【理解の能力】
 ウ 自分の家族について英語で伝えようと工夫して発表したり、聞き取った内容について積極的に質問や感想を述べあっている【関心・意欲・態度】

(2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 前時の基本本文の書取テストを行う	◇その場で答え合わせを行う □努力を認め、肯定的に評価する
リスニング	3. Listening Plus ・ Step 1 ケイトとトムのスピーチを聞いて内容に合うものを表から選ぶ ・ Step 2 質問を聞いて、Yes か No か選ぶ	□正しく聞き取れたか ◇メモ等を基に、英文を再生させる ◇これからの発表の聞き方の練習である
「家族の紹介」(機能的コミュニケーション活動)	3. 学習課題 (めあて) の設定と進め方の説明 自分家族の中の誰かについて、友達に英語で紹介しよう ① 紹介の内容が相手に伝わるように、ていねいに発表しよう ② 友達の発表がどんな紹介なのか、メモを取りながら聞き取る ③ さらに聞いてみたいことを英語で質問しよう ④ 聞き取ったメモや質問の答えを基に、友達の家族を今度は先生や他の仲間に自分で紹介してみよう	
	・ 学習のめあてを確認する ・ 進め方を確認する	
	4. 発表 ・ 2～3人一組になり、机を合わせて一人ずつ発表する ・ 発表を、メモを取りながら聞く	◇例文を与えるがこだわらなくてもよいと指示する ◇写真等を示しながら発表させる □自分で内容を考えて紹介しているか
	5. 質問と意見・感想の交流 ・ 1人終了ごとに、グループでどんな発表だったかを確認し合う (どんな紹介内容だったか、英語で何と言っていたか) ・ もっと知りたいことを英語で質問する ※ 4と5を繰り返す (発表1分、交流3分ぐらいの目安)	◇聞く方も一生懸命に聞かせる (聞く側が理解していないと成立しない) □生徒が何を伝えたいのかを受け止め、評価する
	6. 発表の報告 ・ 友達が紹介した家族について、本人以外の生徒が報告する ・ 自分が質問した内容や感想を付け加える	◇可能な人数なら全員に報告させたい ◇最初は日本語で報告させ、教師が「それ、英語で何と言っていた」等と聞き返して、内容だけでなく英文も意識させるようにする
まとめ	7. 本時のまとめと次時の予告 ・ 取り組みの感想を記入する ・ 家族紹介は、後日清書して提出する	◇教師から肯定的なコメントを与える ◇感想とメモは回収して、評価資料とする ◇家族紹介は「表現」の評価資料とする

英語科学習指導案（略案） （少人数・習熟度別指導～発展 中学1年－⑦－B発展）

- 1 単元名 Unit 6 南半球からのメール (NHEC Book1)
- 2 単元の目標 自分の家族を英語で紹介しよう
- 3 本時について (第7時 p.55 Listening Plus2 と「家族紹介」 習熟度別発展コース)
- (1) 目標 ア 自分の家族について、メモを基に簡単に英語で紹介することができる【表現の能力】
 イ Listening Plus の発表内容や友達の「家族紹介」の内容を聞き取って、メモを取ることができる【理解の能力】
 ウ 自分の家族について英語で伝えようと工夫して発表したり、聞き取った内容について積極的に質問や感想を述べあっている【関心・意欲・態度】

(2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォーミングアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 前時の基本本文の書取テストを行う	◇その場で答え合わせを行う □努力を認め、肯定的に評価する
リスニング	3. Listening Plus ・ Step 1 ケイトとトムのスピーチを聞いて内容に合うものを表から選ぶ ・ Step 2 質問を聞いて、Yes か No か選ぶ ・ 聞き取った内容を基に、二人を紹介する	□正しく聞き取れたか ◇メモ等を基に、英文を再生させる ◇これからの発表の聞き方の練習である
「家族の紹介」 (機能的コミュニケーション活動)	3. 学習課題（めあて）の設定と進め方の説明 自分家族の中の誰かについて、友達に英語で紹介しよう ① 紹介の内容が相手に伝わるように、ていねいに発表しよう ② 友達の発表がどんな紹介なのか、メモを取りながら聞き取ろう ③ さらに聞いてみたいことを英語で質問しよう ④ 聞き取ったメモや質問の答えを基に、友達の家族を今度は先生や他の仲間に自分で紹介してみよう	
	・ 学習のめあてを確認する ・ 進め方を確認する	
	4. 発表 ・ 2～3人で一組になり、机を合わせて一人ずつ発表する ・ 発表を、メモを取りながら聞く	◇多くなるとグループ全員が発表できない ◇あえて例文は示さずに取り組みさせる ◇必要な生徒にはパターンを示す ◇写真等を示しながら発表させる □自分で内容を考えて紹介しているか
	5. 質問と意見・感想の交流 ・ 1人終了ごとに、グループでどんな発表だったかを確認し合う（どんな紹介内容だったか、英語で何と言っていたか） ・ もっと知りたいことを英語で質問する ※ 4と5を繰り返す（発表1分、交流3分ぐらいの目安）	◇聞く方も一生懸命に聞かせる □生徒が何を伝えたいのかを受け止め、評価する
	6. 発表の報告 ・ 友達が紹介した家族について、本人以外の生徒が報告する ・ 自分が質問した内容や感想を付け加える	◇できれば英語で行いたい、日本語で行う場合も、教師が「それ、英語で何と言っていた」等と聞き返して、内容だけでなく英文も意識させるようにする
まとめ	7. 本時のまとめと次時の予告 ・ 取り組みの感想を記入する ・ 家族紹介は、後日清書して提出する	◇教師から肯定的なコメントを与える ◇感想とメモは回収して、評価資料とする ◇家族紹介は「表現」の評価資料とする

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

(自分や相手以外の)人について紹介する言い方を覚えよう

1) 下のビンゴボックスを使って、左の人たちがそれぞれどんな人か、紹介する言い方を練習しよう

<div style="text-align: center;"> I Ken Yumi My father Ms.Green Becky & Jiro </div>	<input type="checkbox"/> play <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> like <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> like <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> want <div style="text-align: center;"> () </div>
	<input type="checkbox"/> like <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> like <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> want <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> play <div style="text-align: center;"> () </div>
	<input type="checkbox"/> play <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> like <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> want <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> want <div style="text-align: center;"> () </div>
	<input type="checkbox"/> want <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> play <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> play <div style="text-align: center;"> () </div>	<input type="checkbox"/> like <div style="text-align: center;"> () </div>

- 2) 上のビンゴボックスの中から、自分にあてはまるものの□にチェックする
- 3) 隣の人に、Do you ~? とインタビューする。質問された方は、Yes, I do. か、No, I don't. と答える
- 4) 相手が Yes. と答えれば、そのボックスの () に○を記入する
※ 質問は1回ずつ、交代で行う
- 5) □のチェックと () の○を合わせてビンゴがそろったら、その列を英語で紹介しよう

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

君は名探偵？

- 1) ポールとメアリーのそれぞれの部屋にあるものから判断し、二人がどんな人か考えよう
- 2) 英語でそれぞれ2つ以上表現できるようになったら、先生に報告しにいこう
- 3) 報告できた内容を、英語で下に記入しよう（他にもないか考えよう）

部屋の様子を描いた絵

- ・サッカー選手のポスター
- ・ギター
- ・たくさんのCD
- ・ハムスター

ポールの部屋

部屋の様子を描いた絵

- ・テニスラケット
- ・ピアノ
- ・たくさんの本
- ・犬

メアリーの部屋

○Paul

○Mary

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

(自分や相手以外の)人についてたずねたり、「～でない」と紹介する言い方を覚えよう

1) 下のビンゴボックスを使って、左の人たちについてたずねる言い方とその答え方を練習しよう

似顔絵 You	<input type="checkbox"/> play 挿絵 パチンコ ()	<input type="checkbox"/> like 挿絵 ロック ()	<input type="checkbox"/> like 挿絵 買い物 ()	<input type="checkbox"/> drive 挿絵 車 ()
似顔絵 Ken	<input type="checkbox"/> like 挿絵 釣り ()	<input type="checkbox"/> like 挿絵 料理 ()	<input type="checkbox"/> play 挿絵 ゲーム ()	<input type="checkbox"/> play 挿絵 ピアノ ()
似顔絵 Yumi	<input type="checkbox"/> play 挿絵 ゴルフ ()	<input type="checkbox"/> like 挿絵 コーヒー ()	<input type="checkbox"/> use 挿絵 コンピューター ()	<input type="checkbox"/> have 挿絵 iPod ()
似顔絵 Ms.Green	<input type="checkbox"/> use 挿絵 携帯電話 ()	<input type="checkbox"/> play 挿絵 ギター ()	<input type="checkbox"/> play 挿絵 剣道 ()	<input type="checkbox"/> like 挿絵 ビール ()
似顔絵 Becky & Jiro				

- 2) 家族を一人決め、上のビンゴボックスの中からその家族にあてはまるものの□にチェックする
- 3) 隣の人に、Does your ○○○～? とインタビューする。質問された方は、Yes, he/she does. か、No, he/she doesn't. と答える
- 4) 相手が Yes. と答えれば、そのボックスの () に○を記入する
※ 質問は1回ずつ、交代で行う
- 5) □のチェックと () の○を合わせてビンゴがそろったら、その列を英語で紹介しよう

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

ミニ・家族紹介

- 1) ペアで、一方が紹介する家族を決める
- 2) 例文にそって、英語で3文程度の短い紹介をする
- 3) ペアのもう一方が、質問したいことを考えて英語で質問する（その質問に答える）
- 4) 紹介してもらった方が、後でそのペアの家族について、みんなに紹介する

例1

My father's name is Hiroshi.
He likes beer very much.
He plays pachinko.

例2

I have a sister. Her name is Eri.
She likes basketball.
She plays the piano very well.

Step 1 例にならって、の部分を入れ替える等して、自分の家族について紹介してみよう。

Step 2 友だちの「ミニ・家族紹介」を聞いて、さらに知りたいこと等を質問しよう。

質問例（の部分を入れ替える等して質問してみよう）

Does he like <u>whisky</u> ?	Does she have a favorite <u>basketball</u> player?
What's his favorite <u>beer</u> ?	Does she like <u>classical music</u> ?
Does he often play <u>pachinko</u> ?	How many <u>CDs</u> does she have?
Is he a good <u>pachinko</u> player?	What's her favorite <u>subject</u> ?

何個、質問できましたか？ 0個 1個 2個 3個以上

Step 3 友だちの紹介してくれた家族について、今度は自分がみんなに紹介しよう。

友だちの家族・紹介例（自分が質問した内容にもふれて紹介してみよう）

○○'s father's name is Hiroshi. He likes beer very much.
His favorite beer is Kirin.
He plays pachinko. He is a good pachinko player.

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

コース選択希望調査

1年 組 No. _____ 氏名 _____

この後、Unit のまとめの2時間は、みなさんの希望に応じて、2つのコースにわかれて学習します。自分が学習したいコースを選んで、○でかこんでください。

私は (Aコース ・ Bコース) での学習を希望します。

【各コースの学習内容の紹介】

Aコース

教科書の基本文をスラスラ音読できるように、ステップを確認しながら繰り返し練習します。
また、自分の家族の中から一人選び、学習した英語をヒントに簡単な家族紹介の英文づくりに取り組みます。ポイントをしばって、基礎をきっちり学習します。
下の「チェック」で、あまり自信のなかった人にオススメです。

Bコース

教科書の基本文を見ないで読んだり書いたりできるように、テンポよく練習します。
また、自分の家族の中から一人選び、家族紹介の英文づくりに挑戦します。トピックを選んで、印象深い、紹介する家族のひとつがらがるような紹介を目指し、現実の場面を想定した本物の英語を、わかりやすくていねいに学習していきます。
下の「チェック」で、だいたい理解できていた人にオススメです。半分ぐらい理解できたという人にもこちらがオススメです。迷っている人は先生に相談してみてください。

【チェック】

1) 日本語の意味になるように、正しい方を○でかこもう

- | | |
|---|---------------------|
| ① Ken (play, plays) tennis. | 健はテニスをします |
| ② Emi and Judy (like, likes) cats. | 絵美とジュディは猫が好きです |
| ③ (Do, Does) he speak English? | 彼は英語を話しますか |
| ④ I (don't, doesn't) have a bike. | 私は、自転車を持っていません |
| ⑤ Does Becky (live, lives) in Sydney? | ベッキーはシドニーに住んでいるんですか |

2) 次の英文の意味がわかりますか？ また、声に出して読めますか？

- | | | |
|--|---------|-----------|
| ⑥ Becky likes Japan. | □意味がわかる | □声に出して読める |
| ⑦ Does she write haiku? Yes, she does. | □意味がわかる | □声に出して読める |
| ⑧ Becky doesn't use English. | □意味がわかる | □声に出して読める |

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

基本文のまとめ

自己紹介 (主語が I), 自分(I)と相手(you)との対話	他の人を紹介 (主語が He, She 等)
「…は～です」という場合は、 be 動詞 (am, are または is) を使います。	
<p>① I am Yumi.</p> <p>② Are you from America?</p> <p>③ Yes, I am.</p> <p>④ No, I am not.</p> <p>⑤ I am not from America.</p>	<p>⑥ He is Ken.</p> <p>⑦ Is he from Canada?</p> <p>⑧ Yes, he is.</p> <p>⑨ No, he is not.</p> <p>⑩ He is not from Canada.</p>
「…は～する」という場合は、 一般動詞 (like, play, use 等) を使います。	
<p>⑪ I like Japan.</p> <p>⑫ Do you write haiku?</p> <p>⑬ Yes, I do.</p> <p>⑭ No, I do not.</p> <p>⑮ I do not use English.</p>	<p>⑯ Becky likes Japan.</p> <p>⑰ Does she write haiku?</p> <p>⑱ Yes, she does.</p> <p>⑲ No, she does not.</p> <p>⑳ Becky does not use English.</p>

Step 1 : 語句の意味と発音を確認しよう

Step 2 : 英文を声に出して読めるようになるよう

Step 3 : 英文を正しくノートに書き写そう

Step 4 : 英文の訳を日本語でノートに書いてみよう

Step 5 : 日本語だけを見て、英文が言えるように練習しよう

Step 6 : 日本語だけを見て、英文を声に出しながら書けるように練習しよう

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

基本文のまとめ：自己紹介と、他の人の紹介

有名人の写真	ペ・ヨンジュンの自己紹介	ペ・ヨンジュンの紹介
	I am Bea Yongjun. (My name is Bea Yongjun.) I am from Korea. I am a movie star. I speak Korean. I like Japan very much. I study Japanese.	He is Bea Yongjun. (His name is Bea Yongjun.) He is from Korea. He is a movie star. He speaks Korean. He likes Japan very much. He studies Japanese.

○ 練習問題：上の例にならって、シャラポワ選手を紹介してみよう。(に何が入るか考えよう)

有名人の写真	シャラポワ選手の自己紹介	シャラポワ選手の紹介
	I am Maria Sharapova. I am from Russia. I live in America. I play tennis very well. I like Japan very much.	She <input type="text"/> Maria Sharapova. She <input type="text"/> from Russia. She <input type="text"/> in America. She <input type="text"/> tennis very well. She <input type="text"/> Japan very much. 自分で紹介を付け加えてみよう！

※こんな表現も使えます

人物の様子を表す形容詞などを
挿絵と一緒に紹介する

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

自分の家族について、友だちに英語で紹介しよう！

- ① 紹介の内容が相手に伝わるように、ていねいに発表しよう
- ② 友だちの発表がどんな内容なのか、メモを取りながら聞き取ろう
- ③ さらに聞いてみたいことを英語で質問しよう
- ④ 聞き取ったメモや質問の答えをもとに、友だちの家族を今度は先生や他の仲間に紹介しよう

	自分の家族紹介メモ	友だちの家族①	友だちの家族②
誰？	This is ～ (写真を示しながら)		
名前	His (Her) name is ～		
職業（歳）	He (She) is ～		
どんな人	He is		
好きなこと (like) (play)	He likes		
もっと紹介			

- さらに聞きたいことを質問してみよう
- 友だちの家族について、聞き取ったメモをもとに先生や他の友だちに紹介してみよう

今回の「家族紹介」の感想

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

自分の家族について、友だちに英語で紹介しよう！

- ① 紹介の内容が相手に伝わるように、ていねいに発表しよう
- ② 友だちの発表がどんな内容なのか、メモを取りながら聞き取ろう
- ③ さらに聞いてみたいことを英語で質問しよう
- ④ 聞き取ったメモや質問の答えをもとに、友だちの家族を今度は先生や他の仲間に紹介しよう

	紹介内容メモ（誰について、どんなこと）	感想メモ
自分の家族	※写真を示しながら、This is ～とはじめよう ここでは、英文ではなく、紹介したい内容をメモ（日本語でも英語でもOK）しておこう	
友だちの家族①		
友だちの家族②		

- さらに聞きたいことを質問してみよう
- 友だちの家族について、聞き取ったメモをもとに先生や他の友だちに紹介してみよう

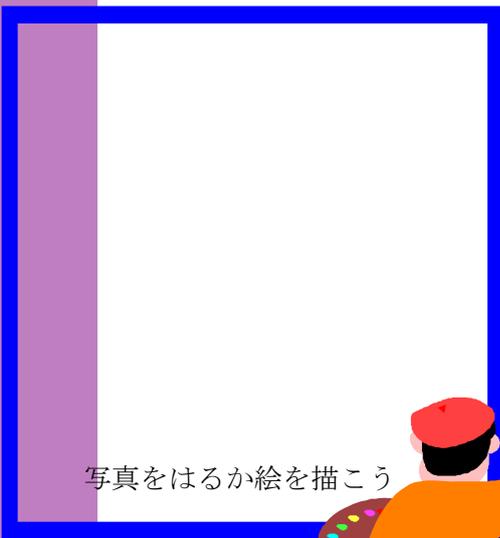
今回の「家族紹介」の感想

Try & Try

単元の目標：自分の家族を英語で紹介しよう

家族の紹介

1年 組 No. 氏名 _____



写真をはるか絵を描こう



○ 英語でうまく書けなかったこと、もっと書きたかった内容を、日本語で書こう

11 中学校第2学年「Unit 4 Homestay in the United States」の学習指導案

英語科学習指導案

(少人数指導 中学2年一①)

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第1時 p.38 Starting Out)
 - (1) 目標 have to~, has to~を用いた英文を例にならって言うことができる【知識・理解】
 - (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
新出表現の導入	3. 新出表現の導入 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Boy: Oh, no! It's eight o'clock. I'm late! <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">I can't eat breakfast.</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">I have to run to school.</div> </div> 4. 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「~しなければならない」という言い方ができるようにしよう </div>	◇例のように、その場面から、「~しなければいけない、~せざるを得ない」といった状況を設定する ◇箱で囲った少年のセリフの部分を、最初生徒に日本語で考えさせる
文型練習	5. 文型練習 ・ 学習プリントを使って、I have to~, Do you have to~?の表現がすらすら言えるよう練習する ・ 教師が質問し、生徒が英語で答える (クリス・クロスで発表させる) 6. ペア練習 (ビンゴゲーム) ・ 5のプリントを使って、ペアで練習する ・ ビンゴになったペアが発表する 7. ミキサー・アクティビティ ・ 6の活動で埋められなかった部分を、教室を立ち歩いて友だち同士質問し合う ・ そこで得た情報をみんなの前で発表する	◇練習の際には、拡大した絵を黒板に提示して行う ◇問題の難易を変えながら行う ◇全員の生徒に発表を行わせる □スムーズに言えないものは全体で繰り返し練習を行う □教師が正しく言えているかどうかチェックする。 □教師が活動の中に入ってチェックする。 ◇報告は has to~になることを説明する
疑似コミュニケーション活動	8. 推理ゲーム (発展的な活動) ・ プリントにある絵を見ながら、この部屋の人物が何をしなければいけないのかをペアで考え、英語で表現する ・ 表現した英語を、プリントに書き込む ・ 進める生徒は、さらに答えがないか考える ・ どんな答えがでたか全体で確認する	□2つ言えるようになったら、教師のところに来て、それぞれ英語で報告し、チェックを受ける (すべてのペアが報告に来るようにする) ◇生徒によっては、Why?等と切り返して尋ねる ◇この活動は発展的に取り扱う
まとめ	9. 本時のまとめと次時の予告 ・ 本時の学習課題について整理する	□have to~, has to~を含む文の意味と形が分かるか

英語科学習指導案

(少人数指導 中学2年-②)

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第2時 p.38 Starting Out)
- (1) 目標 have to~, don't have to~を用いた英文を聞いたり読んだりして意味が分かる【知識・理解】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
前時の復習と追加表現の導入	3. 前時学習内容の復習と追加表現の導入 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">Boy: Oh, no! It's eight o'clock. I'm late! I have to run to school. Mother: No, you don't have to run to school. It's Saturday.</div> 4. 理解の確認 ・ 教科書 p38 の下の練習問題 <i>Listen</i> と <i>Speak</i> に取り組む	◇前時の学習内容を想起する ◇前時の続きとして、母親の言葉を付け加えて紹介し、意味を予想させる □Listen で正しい方を選択できるか
本文内容理解	5. 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ホームステイのアドバイスでどんなことが書かれているか読んでみよう</div> 6. 本文の概要把握 ・ ホームステイの際に気を付けなければいけないと思うことを考え、日本語で発表する(スキーマの活性化) ・ オーラルイントロダクション(またはCDを一文ずつ聞きながら内容の確認を行う) 7. 新出語句の確認 8. 読み取り ・ 重要表現を確認する(have to-, don't have to-, a member of-, help with-) ・ TFテストを行う	◇ホームステイへの関心を喚起しながら課題を設定する(経験者の話、市町村や高校が行っている派遣事業の紹介等) ◇ペアやグループで交流させる ◇未習の単語は音を聞いて推測させたり、スキーマから類推させたりする ◇カタカナ英語等と比較しながら紹介する ◇音節毎に発音したり空書きしたりして、文字と音の関連を意識させる ◇You have to-でアドバイスの表現になることに留意させる □TFに正答できるか
音読	9. 音読 ・ 一斉練習の後、ペアで練習する時間をとる ・ すべてのペアが音読を発表する	◇ペア練習では、本文の二つのアドバイスをお互いに両方練習する ◇指名の際に教師がどちらがどのアドバイスを音読するか指示する
まとめ	10. プリントを使って、他のアドバイスも読んでみる 11. 本時のまとめと次時の予告	□have to~等の表現を含んだホームステイのアドバイスの内容を理解できたか

英語科学習指導案

(少人数指導 中学2年-③)

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第3時 p.39 Dialog)
- (1) 目標 ア 本文を読んで、日本とアメリカの生活様式の違いに気付く【知識・理解】
イ I will～を用いた英文を読んで、意味が分かる【知識・理解】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
本文内容理解	3. 学習課題の設定 日本とアメリカの生活様式の違いについて考えよう 4. 本文の概要把握 ・ 日本とアメリカの生活様式の違いについて、知っていることを日本語で発表する ・ オーラルイントロダクション (またはCDを一文ずつ聞きながら内容の確認を行う) 5. 読み取り ・ 重要表現を確認する make ~ bed (ベッドメイキングから類推) have to, I don't know <u>how</u> . Really? (「知らないの?」と驚いた様子←生活様式の違い) I'll show you. (「教えてあげましょう」teach との違い) ・ TFテストを行う	◇ホームステイの際に戸惑ってしまいそうな生活様式の違いを一つ例示し (トイレのドアは開けておく等) 生徒の興味を喚起する ◇ペアやグループで交流させる □本文で話題になっていることは何か ◇新出語句は多くないので、読みとりの中で扱う ◇”Make my bed?” や”Really?”と聞き返していることから、生活様式の違いを知る ◇I'll～はここでは文脈から意味を類推させるにとどめ、詳しい説明はしない □TFに正答できるか
音読	6. 音読 ・ 一斉練習の後、ペアで練習する時間をとる (音読が十分できるペアは、暗唱にも挑戦する) ・ すべてのペアが発表する(できれば前に出て発表する)	◇ペア練習では、両方の役を練習する ◇指名の際に教師がどちらがどの役を音読するか指示する ◇生活様式の違いによる驚きを表現させる
文型練習	7. 文法説明 ・ I will show you.の will の用法を確認する (「～します」と未来のことを表すこと、will の後は動詞の原形がくること) ・ 基本文を指示に従って入れ替え練習する	◇生徒から be going to～ との違いを質問された場合、「前から決めていた予定には be going to を使うが、本文の文脈では will が適切」等、必要最小限の説明を付け加える ◇ピクチャーカードがあれば利用する □スムーズに言えないものは全体で繰り返し練習を行う
まとめ	8. Your Turn ・ 問答になるよう、英文を組み合わせる ・ 英文の意味を確認する 9. 本時のまとめと次時の予告 ・ 本時の課題について整理する	◇すべて、相手の話に応じて、その場で意志決定をした未来表現である □come や be home の意味についてはヒントを与えながら、応答全体の意味が分かればよしとする □生活様式の違いに気付くことができたか

英語科学習指導案

(少人数指導 中学2年-④)

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第4時 pp.40-41 Reading for Communication)
- (1) 目標
- ア must～を用いた英文を例にならって言うことができる【知識・理解】
 - イ mustn't～を用いた英文を例にならって言うことができる【知識・理解】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
新出表現の導入①	3. 新出表現の導入① <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>Mother: It's five. It's too early. You don't have to get up now.</p> <p>It's six. You have to get up now.</p> <p>It's eight. You must get up now!</p> </div> 4. 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>「(絶対に) ～しなければならない」と強くいう言い方を覚えよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例文を使って練習する 	◇ウォームアップで生徒の普段の起床時間や通学距離、部活動の朝練習を尋ねるなどして、何時に起きなければならないかという話題にもっていく ◇have to～と全く同じではなく、ニュアンスの違いを示して、学習する必然性を感じさせる
文型練習①	5. 文型練習① ・ 学習プリント(標識)を使って、must～、の表現がすらすら言えるよう練習する ・ 教師が質問し、生徒が英語で答える(クリス・クロスで発表させる)	◇練習の際には、拡大した絵を黒板に提示して行う ◇全員の生徒に発表を行わせる □スムーズに言えないものは全体で繰り返し練習を行う
導入②	6. 新出表現の導入② ・ 禁止の道路標識を見て、You mustn't～の意味を理解する	◇don't have to～との意味の違いに注意させる
文型練習②	7. 文型練習② ・ 学習プリント(標識)を使って、must～、mustn't～の両方の表現がすらすら言えるよう練習する	◇標識によってはcanもあり得る
疑似コミュニケーション活動	8. これは何のマーク? ・ プリントにあるマークを見て、どういうことを示したマークなのかをペアで考え、英語で表現する ・ 表現した英語を、プリントに書き込む ・ 進める生徒は、他のマークについても考える ・ どんな答えがでたか全体で確認する	◇must, mustn't, can のいずれかを使う □2つ言えるようになったら、教師のところに来て、それぞれ英語で報告し、チェックを受ける(すべてのペアが報告に来るようにする) ◇挑戦問題は発展的に取り扱う
まとめ	9. 本時のまとめと次時の予告 ・ 本時の学習課題について整理する	□must～, mustn't～を含む文の意味と形が理解できているか

英語科学習指導案

(少人数指導 中学2年-⑤)

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第5時 pp.40-41 Reading for Communication)
- (1) 目標 本文を読んで、ホームステイについての相談とアドバイスを理解する【理解の能力】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
本文内容理解	3. 学習課題の設定 ホームステイの際の留意点を本文の相談内容から考えてみよう 4. 本文の概要把握 ・ オーラルイントロダクション（それぞれ、何についての悩みなのか、概要を把握する） 5. 新出語句の確認 ・ 2ページ分確認する 6. 読み取り ・ 重要表現を確認する(too much, Do I have to-?, You must-, You mustn't-, You can-)	◇本単元の目標である「日本でのホームステイの際のアドバイス」につなげるように導入する □本文で話題になっていることは何か ◇カタカナ英語等と比較しながら紹介する ◇音節毎に発音したり空書きしたりして、文字と音の関連を意識させる ◇”You must tell her.”や”You mustn't compare~.”に込められた先生の口調の力強さを味わわせる
音読	7. 音読 ・ 一斉練習の後、ペアで練習する時間をとる ・ 音読ができるようになったペアから教師のところに来て発表する	◇ペア練習では、両方の役を練習する ◇発表の際に教師がどちらがどの役を音読するか指示する ◇順番待ちが多くなならないよう、どちらか一方の相談だけ音読させる場合もある □文の意味が伝わる音読であるか
まとめ	8. Q&A ・ 音読の発表が終了したペアからQ&Aに取り組む（質問の意味を確認する→英語でどう答えるか検討する→ノートに質問の文と答えの文を書く→ペアで口頭練習する） ・ 全体の場で、Q&Aを発表する 9. 本時のまとめ ・ 本時の学習課題について整理する	◇すべてのペアの音読が終了したら、教師は各ペアをまわって答えをチェックする □質問の意味が理解できるか □正しく答えられたか □スムーズに口頭で発表できるか □二つの事例の内容を説明できるか □その事例から考えたことをシートに記入する
希望調査	10. 次時の予告とコース分け希望調査 ・ 次時から2時間、コースに分かれて学習することを告げ、コース希望調査を実施する	

英語科学習指導案 (少人数・習熟度別指導～基礎 中学2年一⑥-A)

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第6時 文法事項のまとめ 習熟度別基礎コース)
- (1) 目標 本単元で学習した表現(have to~, don't have to~, must~, mustn't~)を用いた英文を、例にならって言ったり書いたりすることができる【知識・理解】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
文法のまとめ (基本文の練習)	3. 学習課題の設定 「～しなければならない」「～しなくてもよい」「～してはいけない」の表現を使い分けられるようになるよう	◇本単元の目標である「日本でのホームステイの際のアドバイス」のために必要な表現とおさえる
	4. 基本文の音読練習 ・ 教科書の基本文をプリントに抜き出し提示する ・ 語句の発音と意味を確認する ・ 全体で繰り返し音読練習を行う ・ 個別の練習時間を設ける ・ 自信がいたら教師のチェックを受ける	◇区切りの部分のスペースを広めにする ◇空書きするなど綴りと音を意識させる ◇音読は、リピート→一語ずつ→2度読み →Read and Look up→shadowingのように変化を付けながら何度も練習する □スムーズに読めるかをチェックする ◇OKの生徒には次の指示を与える
	5. 基本文の視写 ・ 基本文をノートに視写する ・ 終わったら教師のチェックを受ける	◇間違える生徒には空書きさせて指導する □正しく書けているかチェックする
	6. 基本文の日本語訳 ・ ノートに基本文の日本語訳を記入する ・ 終わったら教師のチェックを受ける (その後、各自で基本文の暗写の練習をする)	◇訳せない生徒には単語や語句の意味を確認させていく □正しく意味をとれているかチェックする ◇次時の最初に基本文の書取テストをする
アドバイスの検討①	7. モデル文の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> You don't have to clean the school building. </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> You have to eat lunch at the cafeteria. </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> You must come to school by bus or car or bike. </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> You mustn't wear plain white T-shirts. </div> ・ 太字のところが空欄になった文を読んで、どれが入るか考える ・ 正解を記入し、意味を確認する ・ なぜ、アメリカではそうなのかを考える ・ 日本なら太字がどう変わるか考える	◇アメリカの中学校の校則等から抜粋 ◇分からない単語については、まず読み方を教え、それでも分からなければ意味を与える □太字の部分に注意して意味を正しくつかむことができるか ◇「どうして？」という意外性から、日本とアメリカの学校の違いに気付かせる □日本の実態に即して正しく言い換えることができるか
まとめ	8. 本時のまとめと次時の予告 ・ 本時の学習課題について整理する	□7の太字部分の意味が言えるか ◇次時の最初に、基本文の書取をする ◇次時はアドバイスの英文を作成する

英語科学習指導案 (少人数・習熟度別指導～発展 中学2年一⑥-B)

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第6時 文法事項のまとめ 習熟度別発展コース)
- (1) 目標 本単元で学習した表現(have to~, don't have to~, must~, mustn't~)を用いた英文を、例にならって言ったり書いたりすることができる【知識・理解】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 各校の普段の実践に即して行う	◇全員が行える活動を工夫する ◇単元の目標と関連した内容を継続して扱うことが望ましい
文法のまとめ (基本文の練習)	3. 学習課題の設定 「～しなければならない」「～しなくてもよい」「～してはいけない」の表現を使い分けられるようになるろう	◇本単元の目標である「日本でのホームステイの際のアドバイス」のために必要な表現とおさえる
	4. 基本文の暗唱練習 ・ 教科書の基本文をプリントに抜き出し提示する ・ 語句の発音と意味を確認する ・ 全体で繰り返し音読練習と教科書下の語句を用いた代入練習を行う ・ 暗唱できるように個別の練習時間を設ける ・ 自信がついたら教師のチェックを受ける	◇区切りの部分のスペースを広めにする ◇空書きするなど綴りと音を意識させる ◇音読は、リピート→2度読み→Read and Look up → 日本文を聞いて音読 → substitution drill のように変化を付けながら何度も練習する □教師の日本語を聞いてスムーズに英文を言えるかをチェックする ◇OKの生徒には次の指示を与える
	5. 基本文の視写と日本語訳 ・ 基本文をノートに視写し、日本語訳を記入する ・ 終わったら教師のチェックを受ける (その後、各自で基本文の暗写の練習をする)	◇間違える生徒には空書きさせて指導する ◇訳せない生徒には単語や語句の意味を確認させていく □正しく書けているかチェックする ◇次時の最初に基本文の書取テストをする
アドバイスの検討	7. モデル文の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> You don't have to clean the school building. </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> You have to eat lunch at the cafeteria. </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> You must come to school by bus or car or bike. </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> You mustn't wear plain white T-shirts. </div> ・ 太字のところが空欄になった文を読んで、どれが入るか考える ・ 正解を記入し、意味を確認する ・ なぜ、アメリカではそうなのかを考える ・ 日本なら太字がどう変わるか考える	◇アメリカの中学校の校則等から抜粋 ◇分からない単語については、まず読み方を教え、それでも分からなければ意味を与える □太字の部分に注意して意味を正しくつかむことができるか ◇「どうして？」という意外性から、日本とアメリカの学校の違いに気付かせる □日本の学校の様子に即して正しく言い換えることができるか
まとめ	8. 本時のまとめと次時の予告 ・ 本時の学習課題について整理する	□7の太字部分を補って英文を言えるか ◇次時の最初に、基本文の書取をする ◇次時はアドバイスの英文を作成する

英語科学習指導案 (少人数・習熟度別指導～基礎 中学2年一⑦-A)

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第7時 p.42 Your Turn 習熟度別基礎コース)
- (1) 目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生へのアドバイスの内容を考え、英語で書くことができる【表現の能力】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 前時の基本本文の書取テストを行う	◇その場で答え合わせを行う □努力を認め、肯定的に評価する
アドバイスの検討・作成 (機能的コミュニケーション活動)	3. 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日本でホームステイするアメリカ人中学生へのアドバイスの内容を考えよう Q1: I want to know the way of life in Japan and Japanese school. Show me some examples and tell me why. </div>	
	4. ブレインストーミング ・ アメリカと日本でどんな違いがあるか考える ・ 考えたことをどんどん発表する ・ みんなの発表をもとに、それぞれアドバイスしたい内容を一つ決める	◇Q1の意味は口頭で与えてもかまわない ◇教科書の Your Turn の内容も参考にする ◇”why”の部分は発展課題とし、全員には求めない
	5. モデル文の復習 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> You don't have to clean the school building. You have to eat lunch at the cafeteria. You must come to school by bus or car or bike. You mustn't wear plain white T-shirts. </div> ・ 意味を確認し、表現を参考にする	◇必ずしも、これらの表現を使わなければいけないということではない
	6. アドバイスの英作文 ・ 自分のアドバイスの内容を英文に書き表す ・ 書いたら教師のチェックを受ける ・ OKならもう一文付け加えられないか検討する	◇これまでの表現など参考になるものを示して支援する □生徒が何を伝えたいのかを受け止め、評価する
	7. アドバイスの英文の交流 ・ 次時の発表に向け、正しく、分かりやすく発表できるように練習する ・ 隣同士で発表のリハーサルを行う ・ 必要に応じて英文を分かりやすく書き直したり、説明を付け加えたり、絵や実物などの小道具を準備する	□自分で書いた英文をゆっくり、相手に伝わるように読んで(話して)いるか ◇習熟度別で分かれているので、普段のペアとは限らない ◇絵や小道具の使用を奨励する
	8. 本時のまとめと次時の予告 ・ 次時の発表の指示を行う	◇発表前までに教師の事前チェックを受けること
	まとめ	

英語科学習指導案 （少人数・習熟度別指導～発展 中学2年一⑦-B）

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第7時 p.42 Your Turn 習熟度別発展コース)
- (1) 目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生へのアドバイスの内容を考え、英語で書くことができる【表現の能力】
- (2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Warm Up ・ 前時の基本本文の書取テストを行う	◇その場で答え合わせを行う □努力を認め、肯定的に評価する
アドバイスの検討・作成（機能的コミュニケーション活動）	3. 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日本でホームステイするアメリカ人中学生へのアドバイスの内容を考えよう Q1: Japanese students don't talk to me very much. Don't they like me? I'm very sad. What can I do? Q2: I want to know the way of life in Japan and Japanese school. Show me some examples and tell me why. </div> ・ 相談の内容を把握する ・ Q1とQ2のどちらに回答するか、選択する	
	4. ブレインストーミング ・ 自分の選択した相談内容について、同じQを選んだ生徒同士数人で、意見交換する ・ みんなの話したことをヒントに、それぞれアドバイスの内容を定める	◇Q2の"why"の部分は発展課題として扱う ◇ヒントにするのであって、アドバイスの内容が全員同じにならないように気を付ける
	5. アドバイスの英作文 ・ 自分のアドバイスの内容を英文に書き表す（2文以上、3～5文を目安とする） ・ 書いたら教師のチェックを受ける	◇教科書の Your Turn や前時のモデル文の内容等、これまでの参考になる表現を示して支援する ◇ただし、必ずしもこれらの表現を使わなければいけないということではない □生徒が何を伝えたいのかを受け止め、評価する
	6. アドバイスの英文の交流 ・ 次時の発表に向け、正しく、分かりやすく発表できるように練習する ・ 隣同士で発表のリハーサルを行う ・ 必要に応じて英文を分かりやすく書き直したり、説明を付け加えたり、絵や実物などの小道具を準備する	□自分で書いた英文をゆっくり、相手に伝わるように読んで（話して）いるか ◇習熟度別で分かれているので、普段のペアとは限らない ◇絵や小道具の使用を奨励する
	7. 本時のまとめと次時の予告 ・ 次時の発表の指示を行う	◇発表前までに教師の事前チェックを受けること
まとめ		

英語科学習指導案 (少人数指導～本時は一斉指導 中学2年一⑧)

- 1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States (NHEC Book2)
- 2 単元の目標 日本でホームステイするアメリカ人中学生に、英語でアドバイスしよう
- 3 本時について (第8時 p.43 Listening Plus4 & アドバイスの発表・交流)
- (1) 目標
- ア 日本でホームステイするアメリカ人中学生へのアドバイスを、英語で発表することができる【表現の能力】
 - イ CDで流された健の発表内容や友達のアドバイスの内容を聞き取って、メモを取ることができる【理解の能力】
 - ウ 自分で考えたアドバイスの内容を英語で伝えようと工夫して発表したり、聞き取った内容について積極的に意見や感想を述べあっている【関心・意欲・態度】

(2) 展開

段階	学 習 活 動	◇指導上の留意点、□評価、等
ウォームアップ	1. あいさつ 2. Listening Plus <ul style="list-style-type: none"> ・ Step 1 健のスピーチを聞いて内容に合うものを表から選ぶ ・ Step 2 スピーチの後の質問のやりとりを聞いて、どんな質問で健がどう答えたかメモを取る 	◇時間の関係で普段のウォームアップは省略する □正しく聞き取れたか □メモを適切に取ることができたか ◇メモを基に、英文を再生させる ◇これからの発表の聞き方の練習である
アドバイスの発表 (機能的コミュニケーション活動)	3. 学習課題 (めあて) の設定と進め方の説明 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日本でホームステイするアメリカ人中学生へのアドバイスを交流しよう ① アドバイスの内容が相手に伝わるように、ていねいに発表しよう ② 友達の発表がどんなアドバイスなのか、メモを取りながら聞き取ろう ③ メモを基に、アドバイスの内容について意見や感想を交流しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のめあてを確認する ・ 進め方を確認する 	
	4. 発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前に5～6人ずつ出て、一人ずつ発表する ・ 発表を、メモを取りながら聞く 	◇ビデオで撮影しておくこと事後の評価に役立つ □自分の言葉で、しっかりとアドバイスを伝えようとしているか □アドバイスの内容が適切か
	5. 意見・感想の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1グループ終了ごとに、ペアでどんな発表だったかを確認し合う (どんなアドバイスだったか、英語で何と言っていたか) ・ 感想を交流し合う (どのアドバイスになるほどと思ったか等) ※ 4と5を繰り返す (発表2分、交流4分ぐらいの目安)	◇ペアで確認し合うことで、しっかり聞くという態勢ができる ◇できるだけ英語で再生できるとよい □メモをもとに感想・意見を交流しているか
	6. 感想発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前半終了時と、全員の発表終了時に、クラス全体で感想を交流し合う 	◇できれば英語で行いたい、日本語で行う場合も、教師が「それ、英語で何と言っていた」等と聞き返して、内容だけでなく英文も意識させるようにする
まとめ	7. 本時のまとめと次時の予告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 取組の感想を記入する 	◇教師から肯定的なコメントを与える ◇感想とメモは回収して、評価資料とする